上大利北土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ

牛頸本堂遺跡群Ⅲ

～ 第5次調査（第2冊）～

大野城市文化財調査報告書第68集

2005

大野城市教育委員会

I:大利北土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ

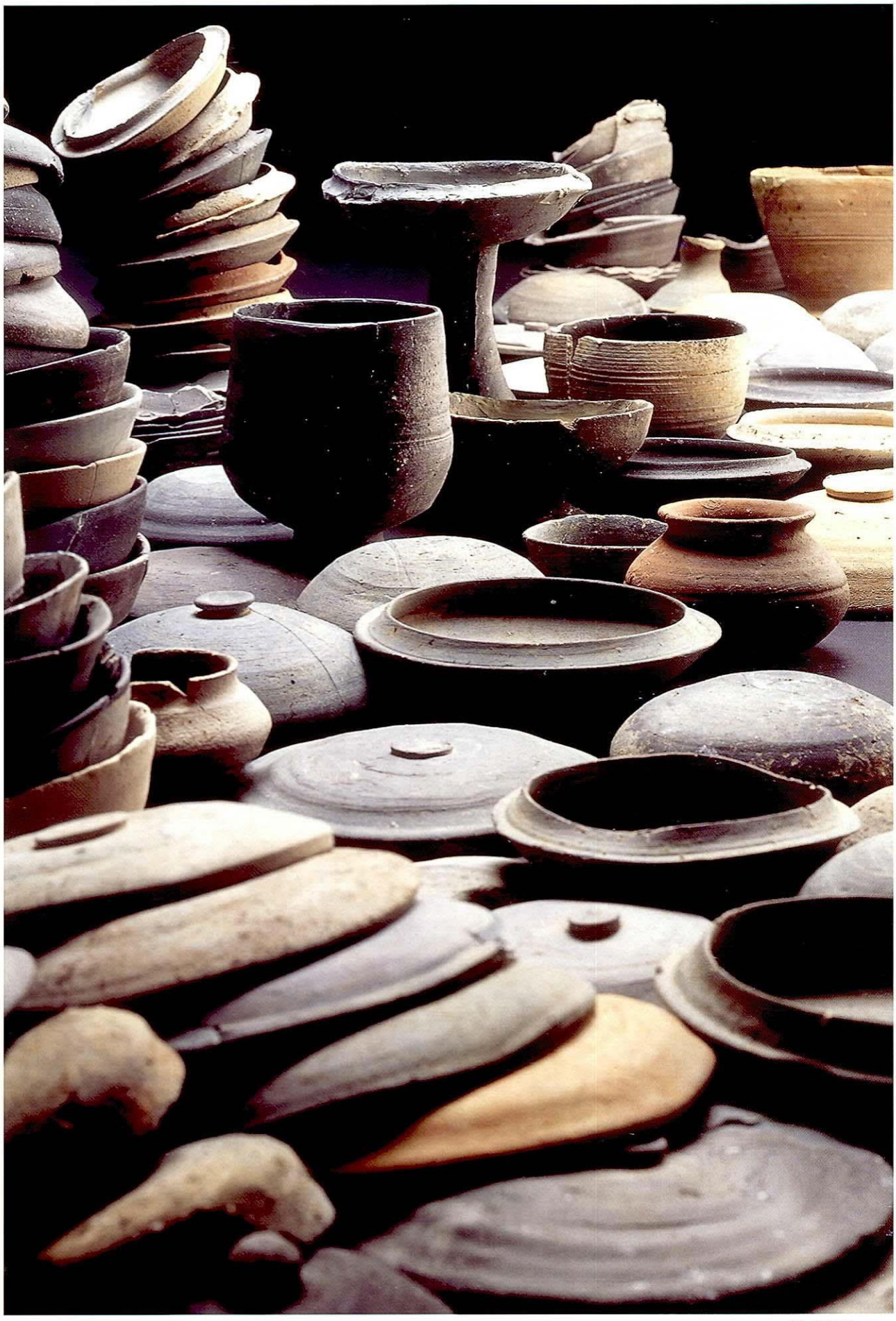
牛頸本堂遺跡群Ⅲ

～ 第5次調査（第2冊）～

大野城市文化財調査報告書第68集

2005

大野城市教育委員会



出土遺物



本堂5次　調査区全景（南東から）（H15.9.4撮影）



本堂5次　調査前全景（南東から）（H11撮影）



1～3区全景（東から）



1区全景（南から）



2区全景（北から）



1・2区間谷部石器出土状況①（北西から）



1・2区間谷部石器出土状況②（北西から）



1 号窯跡周辺全景（南東から）



1 号窯跡全景（南から）



1 号窯跡検出状況
（南から）



3・4区全景（南東から）



3・4区間谷部
谷頭縄文土器・石器調査地点（SX31）（東から）



3・4区間谷部
谷頭縄文土器・焼石出土状況（南東から）



3区6～9号窯跡検出時全景（南西から）



3区6～9号窯跡完掘時全景（南から）

6 号窯跡



完掘状況（南から）



窯体内遺物出土状況（南から）



焚口部検出状況



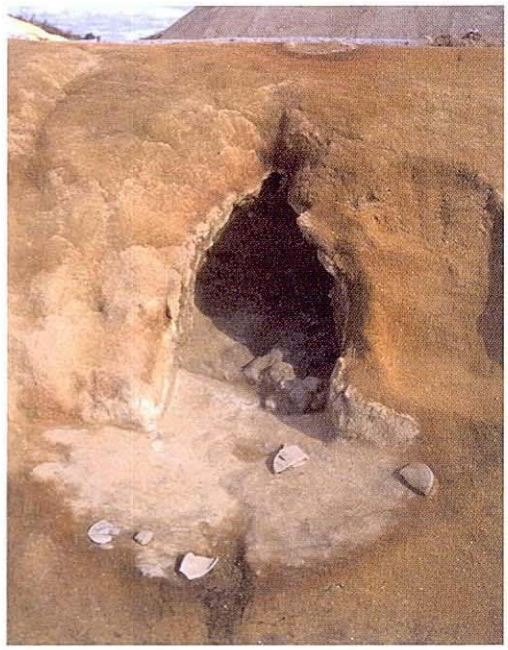
前庭部遺物出土状況（南西から）



前庭部完掘状況（南西から）



全景（南から）



焚口部検出状況（南から）



完掘状況（南から）



窯体内遺物出土状況（南西から）



前庭部遺物出土状況

前庭部右側土坑
短頸壷出土状況（東から）





前庭部右側
土坑遺物出土状況（東から）

7号窯跡



全景（南から）

8号窯跡



完掘状況（南から）



右側壁（南東から）



左側壁（南西から）

9号窯跡



全景（南から）



完掘状況（南から）



貼床・遺物出土状況（南から）



煙道部被熱状況（南から）



右側壁（西から）



左側壁（東から）

序

上大利地区では事業面積が48haにおよぶ大規模な区画整理事業が計画され、平成13年度より本格的な発掘調査を実施しております。

牛頸本堂遺跡第5次調査は、昨年報告しました『牛頸本堂遺跡群Ⅱ』に続く2冊目の報告書になります。調査では古墳時代の竪穴住居跡や奈良時代の窯跡が見つかったほか、押型文土器と呼ばれる縄文時代早期の土器や石器が出土しました。特に縄文時代の遺物はたくさん見つかり、大野城市内ではまとまった資料となりました。また窯跡はほとんど奈良時代のもので、一つの丘陵斜面に窯跡が群集する様子は、大宰府へ納めるための集中生産がおこなわれたことをうかがわせます。こうした遺構・遺物は縄文時代の暮らしや牛頸窯跡群の新たな一面を見せており、今後本書の成果が教育や研究の面におきまして、広く活用されれば幸いに存じます。

今回は遺物整理作業におきまして、大谷女子大学の全面的なご協力をいただきました。作業を指導されました中村浩教授をはじめ、学生の皆様に厚く御礼申し上げます。また、上大利北土地区画整理組合をはじめ㈱大成建設などの関係者ならびに地元の方々にご理解とご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

平成17年3月31日

大野城市教育委員会
教育長　古　賀　宮　太

例　　言

1．本書は、大野城市教育委員会が上大利北土地区画整理事業にともなって平成15年７月10日から平成16年３月31日の間に発掘調査を実施した大野城市大字上大利666－1外に所在する本堂遺跡第５次発掘調査の第２冊目の報告書にあたる。本書の内容は、先に『牛頸本堂遺跡群Ⅱ』大野城市文化財調査報告書第64集で報告された以外の遺構・遺物の記録である。なお上大利地区は牛頸窯跡群の範囲に含まれており、こうした歴史事象を踏まえたことから本書の表題を『牛頸本堂遺跡群』とした。
2．発掘調査は、大野城市上大利北土地区画整理組合の委託を受け、大野城市教育委員会が実施した。整理作業は、大野城市教育委員会が遺構と遺物の一部を実施し、残る遺物については教育委員会と大谷女子大学の間で委託契約を締結し、大学側で遺物の展開・接合・実測を実施した。
3．本書における遺構の分類番号は、ＳＰ：ピット・ＳＸ：性格不明遺構と調査段階でつけた。その後、調査が進む中でＳＸとした遺構の中で性格が明らかになるものがあったが、名称の変更による混乱を避けるため調査時の遺構分類・番号をそのまま使用している。
4．遺構写真は、石木秀啓・一瀬智が撮影し、５次調査地・区画整理地全体写真については有限会社空中写真企画に委託・撮影されたものを使用した。
5．遺物写真は、フォトハウスおか（岡紀久夫、埋蔵文化財写真研究会員）と阿南写真工房が担当した。
6．遺構実測図は石木・一瀬らが作成し、上大利地区旧地形図は㈱写測エンジニアリングに委託した。地形測量図は石木らが作成し、㈱埋蔵文化財サポートシステム福岡支店にデジタルトレースを委託した。なお、地形測量図のコンタは25㎝間隔である。
7．遺構実測図中の方位は磁北を表し、図上の座標は国土座標（第Ⅱ系）を示す。
8．遺物実測図は、大谷女子大学考古学研究室・林潤也・西堂将夫・一瀬・井上愛子・北川貴洋が作成した。
9．製図は、遺構実測図は井上、その他の遺物を渡辺美香・大谷女子大学が作成した。
10．拓本は、西堂が作成した。
11．観察表は大谷女子大学・西堂・一瀬・林・石木が作成した。
12．本書に掲載した地形図は、国土地理院発行の1／25000地形図『福岡南部』『太宰府』を使用した。
13．本書の遺物・実測図・写真はすべて大野城市教育委員会が管理・保管している。
14．本書に使用する土色名は、『新版標準土色帖』農林水産省農林水産技術会事務局監修を使用した。
15．本書は、文末に執筆者を明記し、編集は中村浩と石木がおこなった。

本　文　目　次

Ⅰ．はじめに …… 1
　1．調査に至る経緯 …… 1
　2．調査体制 …… 6
Ⅱ．調査の結果 …… 7
　1．調査概要 …… 7
　2．遺構と遺物 …… 8
　　（1）1区 …… 8
　　（2）2区 …… 19
　　（3）1・2区間谷部 …… 25
　　（4）3区 …… 25
　　（5）3・4区間谷部 …… 59
　3．小結 …… 61
　　（1）各時代の遺構と遺物 …… 61
　　（2）縄文時代 …… 61
　　（3）古墳時代 …… 64
　　（4）飛鳥時代 …… 65
　　（5）奈良時代以降 …… 65
Ⅲ．まとめ ……113
　1．遺構の変遷 ……113
　2．窯群の立地と時期的推移 ……113
　3．窯体構造について ……113
　4．6号窯跡出土須恵器について ……114
　5．瓦塔について ……116
　6．重ね焼きについて ……118
　7．蓋のつまみの貼付位置の検討について ……120
　8．ヘラ記号について ……121

巻頭図版目次

巻頭図版１　出土遺物

巻頭図版２　本堂５次　調査区全景（南東から）（H15．９．４撮影）

巻頭図版３　本堂５次　調査区全景（南東から）（H11撮影）

巻頭図版４　１～３区全景（東から）、１区全景（南から）

巻頭図版５　２区全景（北から）、１・２区間谷部石器出土状況①（北西から）、
１・２区間谷部石器出土状況②（北西から）

巻頭図版６　１号窯跡周辺全景（南東から）、１号窯跡全景（南から）、
１号窯跡検出状況（南から）

巻頭図版７　３・４区全景（南東から）、
３・４区間谷部谷頭縄文土器・石器調査地点（ＳＸ31）（東から）
３・４区間谷部谷頭縄文土器・焼石出土状況（南東から）

巻頭図版８　３区６～９号窯跡検出時全景（南西から）、
３区６～９号窯跡完堀時全景（南から）

巻頭図版９　６号窯跡　完掘状況（南から）、焚口部検出状況、窯体内遺物出土状況（南から）、
前庭部遺物出土状況（南西から）、前庭部完掘状況（南西から）

巻頭図版10　７号窯跡　全景（南から）、焚口部検出状況（南から）、完掘状況（南から）、
前庭部遺物出土状況、窯体内遺物出土状況（南西から）、
短頸壺出土状況（東から）、前庭部右側土坑遺物出土状況（東から）

巻頭図版11　８号窯跡　全景（南から）、完掘状況（南から）、右側壁（南東から）、
左側（南西から）

巻頭図版12　９号窯跡　全景（南から）、完掘状況（南から）、貼床・遺物出土状況（南から）、
煙道部被熱状況（南から）、右側壁（西から）、左側（東から）

図　版　目　次

図版第１　遺物実測図（１号窯）

図版第２　遺物実測図（１号窯ほか）

図版第３　遺物実測図（２－５号窯）

図版第４　遺物実測図（２－５号窯）

図版第５　遺物実測図（２－５号窯灰原下ほか）

図版第６　遺物実測図（２－５号窯灰原下）

図版第７　遺物実測図（２－５号窯灰原下）

図版第８　遺物実測図（２－５号窯灰原下ほか）

図版第９　遺物実測図（２－５号窯灰原下）
図版第10　遺物実測図（２－５号窯灰原下）
図版第11　遺物実測図（６号窯跡）
図版第12　遺物実測図（６号窯跡）
図版第13　遺物実測図（６号窯灰原、６－７号窯ほか）
図版第14　遺物実測図（７号窯灰原ほか）
図版第15　遺物実測図（７号窯跡）
図版第16　遺物実測図（７号窯灰原ほか）
図版第17　遺物実測図（８・９号窯）
図版第18　遺物実測図（８・９号窯、８号窯ほか）
図版第19　遺物実測図（８・９号窯跡、９号窯跡）
図版第20　遺物実測図（ＳＸ01ほか）
図版第21　遺物実測図（ＳＸ02ほか）
図版第22　遺物実測図（ＳＸ03）
図版第23　遺物実測図（ＳＸ04）
図版第24　遺物実測図（ＳＸ09）
図版第25　遺物実測図（ＳＸ19、ＳＸ20、ＳＸ22）
図版第26　遺物実測図（ＳＸ22）
図版第27　遺物実測図（ＳＸ24）
図版第28　遺物実測図（ＳＸ26、ＳＸ29、ＳＸ36）
図版第29　遺物実測図（縄文土器）
図版第30　遺物実測図（縄文土器）
図版第31　遺物実測図（縄文土器）
図版第32　遺物実測図（縄文土器）
図版第33　遺物実測図（石器土器）
図版第34　遺構写真（１号窯跡周辺全景（南から）、１号窯跡前庭部全景（北西から））
図版第35　遺構写真（１号窯跡縦断面断割（東から）、１号窯灰原Ｃ－Ｃ'面土層（北東から）、
１号窯跡原Ｅ－Ｅ'面土層（南東から）、
１号窯灰原下遺構焼土断割（南東から））
図版第36　遺構写真（ＳＸ01全景（南から）、ＳＸ01カマド横断面④土層（南から））
図版第37　遺構写真（ＳＸ02上・下全景（南西から）、ＳＸ02上遺物出土状況（南西から））
図版第38　遺構写真（ＳＸ02上全景（南西から）、ＳＸ02下全景（南西から））
図版第39　遺構写真（ＳＸ03カマド（南西から）、ＳＸ03カマドＢ－Ｂ'面土層（西から））
図版第40　遺構写真（ＳＸ04カマド（東から）、ＳＸ04カマドＪ－Ｊ'面土層（南東から））
図版第41　遺構写真（ＳＸ04－１全景（南から）、ＳＸ03・04全景（南東から））
図版第42　遺構写真（ＳＸ05全景（南西から）、ＳＸ06全景（南西から））

図版第43　遺構写真（ＳＸ07全景（西から）、ＳＸ08全景（北から））

図版第44　遺構写真（ＳＸ09全景（北東から）、ＳＸ09カマド検出状況（北から））

図版第45　遺構写真（ＳＸ09カマド支脚出土状況（南から）、ＳＸ09Ｃ''－Ｃ'面土層（北西から）、
１・２区間谷部調査風景（北から）、
ＳＸ09カマドＡ－Ａ'面土層（南東から）、ＳＸ10Ｆ－Ｆ'面土層（東から））

図版第46　遺構写真（ＳＸ11全景（北から）、ＳＸ21周辺全景（北東から））

図版第47　遺構写真（ＳＸ21全景（東から）、ＳＸ21全景（南東から））

図版第48　遺構写真（ＳＸ22周辺全景（南西から）、ＳＸ22全景（西から））

図版第49　遺構写真（ＳＸ21断割（東から）、ＳＸ22焼土検出状況（北西から）、
ＳＸ22遺物出土状況（南から）、ＳＸ22Ｃ－Ｃ'面土層（南東から））

図版第50　遺構写真（２～５号窯跡灰原検出状況（南から）、
２～５号窯跡灰原２・３区間土層（南東から）、
２～５号窯跡灰原１・２区間土層（南東から）、
６号窯跡焚口部遺物出土状況（南西から）、
６号窯Ａ－Ａ'面土層（南西から））

図版第51　遺構写真（６号窯跡煙道部縦断面土層（南東から）
６号窯跡焚口部縦断面土層（西から）、
６号窯跡Ｃ－Ｃ'面土層（南西から）、
６号窯跡灰原縦断面土層（南東から）、
６号窯跡灰原横断面土層（南西から））

図版第52　遺構写真（７号窯跡焼成部～煙道部土層（西から）、
７号窯跡Ｂ－Ｂ'面土層（南西から）、
７号窯跡焼成部縦断面土層（西から）、
７号窯跡Ｄ－Ｄ'面土層（南西から）、
７号窯跡焚口部縦断面土層（北西から）、
７号窯跡焚口部縦断面断割（南東から）、
７号窯跡灰原縦断面土層①（南東から）、
７号窯跡灰原縦断面土層②（南東から））

図版第53　遺構写真（７号窯跡灰原横断面土層（南西から）、
７号窯跡前庭部左土層（南東から）、
７号窯跡前庭部右土層（南東から））

図版第54　遺構写真（８号窯跡焼成部縦断面土層（南東から）、
８号窯跡焼成部縦断面土層（南東から）、
８号窯跡焚口部縦断面土層（南東から））

図版第55　遺構写真（８号窯跡Ｃ－Ｃ'面土層（南西から）、
８号窯跡Ｂ－Ｂ'面土層（南西から）、８号窯跡横断面土層（南西から））

図版第56　遺構写真（８号窯跡焚口部縦断面土層（南東から)、
８号窯跡灰原縦断面土層（南東から)、
８号窯跡灰原横断面土層①（南西から))
図版第57　遺構写真（８号窯跡灰原横断面土層②（南西から)、
８・９号窯跡検出状況（南西から))
図版第58　遺構写真（９号窯跡焼成部～煙道部上層（南東から）
９号窯跡焚口～焼成部土層（南西から)、
９号窯跡焚口部縦断面土層（南東から))
図版第59　遺構写真（９号窯跡横断面土層（南西から)、
９号窯跡焚口部横断面土層（南西から))
図版第60　遺構写真（ＳＸ19全景（南西から)、ＳＸ19カマド（東から))
図版第61　遺構写真（ＳＸ19Ａ－Ａ'面土層（西から)、ＳＸ20周辺全景（南西から))
図版第62　遺構写真（ＳＸ20全景（南から)、ＳＸ20カマド（南東から))
図版第63　遺構写真（ＳＸ20遺物出土状況（南西から)、ＳＸ20Ｂ－Ｂ'面土層（南東から))
図版第64　遺構写真（ＳＸ24遺物出土状況（南東から)、ＳＸ25全景（南東から))
図版第65　遺構写真（ＳＸ25遺物出土状況（南から)、ＳＸ26全景（南西から))
図版第66　遺構写真（ＳＸ26全景（南東から)、ＳＸ26Ｃ－Ｃ'面土層（南東から))
図版第67　遺構写真（ＳＸ30全景（南東から)、ＳＸ31全景（南東から))
図版第68　遺構写真（ＳＸ34全景（南から)、ＳＸ35全景（南西から))
図版第69　遺構写真（ＳＸ35土層①（南東から)、ＳＸ35土層②（南東から))
図版第70　遺構写真（ＳＸ35遺物出土状況（南東から)、ＳＸ36全景（南東から))
図版第71　遺物写真（須恵器）
図版第72　遺物写真（須恵器）
図版第73　遺物写真（須恵器）
図版第74　遺物写真（須恵器）
図版第75　遺物写真（須恵器）
図版第76　遺物写真（須恵器）
図版第77　遺物写真（須恵器）
図版第78　遺物写真（須恵器）
図版第79　遺物写真（須恵器）
図版第80　遺物写真（須恵器）
図版第81　遺物写真（須恵器）
図版第82　遺物写真（須恵器）
図版第83　遺物写真（須恵器）
図版第84　遺物写真（須恵器）
図版第85　遺物写真（須恵器・縄文土器）

図版第86　遺物写真（縄文土器）
図版第87　遺物写真（縄文土器）
図版第88　遺物写真（縄文土器）
図版第89　遺物写真（縄文土器）
図版第90　遺物写真（石器・須恵器及び置台）

挿図目次

第１図　本堂遺跡５次調査地位置図（1／5000）
第２図　上大利区画整理地周辺地形測量図（1948年米軍撮影）（1／5000）
第３図　本堂遺跡第５次調査全体図（1／400）
第４図　１号窯跡出土遺物実測図（1／4）
第５図　１号窯跡・１号窯跡下層遺構実測図（1／60）
第６図　ＳＸ01実測図（1／60）
第７図　ＳＸ03出土遺物実測図（1／3）
第８図　ＳＸ03・04実測図（1／60）
第９図　ＳＸ02・05～08実測図（1／60）
第10図　ＳＸ05・08・09出土遺物実測図（1／3）
第11図　ＳＸ09・10実測図（1／60）
第12図　ＳＸ11・12・20・21・23実測図（1／60）
第13図　ＳＸ22実測図（1／60）
第14図　１・２区間谷部上層実測図（1／60）
第15図　１・２区間谷部遺物分布図（1／80）
第16図　２～５号窯跡下方灰原土層実測図（1／60）
第17図　２～５号窯灰原出土遺物実測図（1／4）
第18図　６号窯跡実測図（1／40）
第19図　６号窯跡内遺物出土実測図（1／40）
第20図　７号窯跡実測図（1／40）
第21図　７号窯遺物実測図（1／4）
第22図　７号窯跡遺物出土状況図（1／30）
第23図　７号窯跡前庭部実測図（1／60）
第24図　７号窯跡灰原実測図（1／60）
第25図　８・９号窯跡横断土層実測図（1／60）
第26図　８・９号窯跡縦断土層実測図（1／60）
第27図　８・９号窯跡実測図（1／60）

第28図　８・９号窯出土遺物実測図（1／3）
第29図　９号窯跡実測図（1／60）
第30図　ＳＸ19・20・22・23上方表採・25・26出土遺物実測図（1／3）
第31図　ＳＸ19実測図（1／60）
第32図　ＳＸ20ベルト中遺物実測図（1／4）
第33図　ＳＸ24実測図（1／60）
第34図　ＳＸ25・26・29・30実測図（1／60）
第35図　ＳＸ35出土遺物実測図（1／4）
第36図　ＳＸ34～36実測図（1／60）
第37図　本堂Ｖ－１（２－５号窯）調査時出土重ね焼遺物実測図（1／3）
第38図　ヘラ記号拓影（1／3）

表　目　次

第１表　　九州の瓦塔出土地名表
第２表－１　重ね焼き出土状況一覧
第２表－２　器種別重ね焼き出土状況
第２表－３　重ね焼き出土地点別数量
第３表　　つまみ位置の中心からのずれ（いずれも平均値）

Ⅰ．はじめに

1．調査にいたる経緯

上大利北土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の調査は、平成12年度から試掘調査を開始し、平成13年４月より発掘調査を実施しており、平成16年度も調査を続行中である。本事業に係る「調査にいたる経緯」については『牛頸梅頭遺跡群Ⅰ　大野城市文化財調査報告書第60集』に掲載されるため、ここでは本堂遺跡５次調査にいたる経緯について記述する。

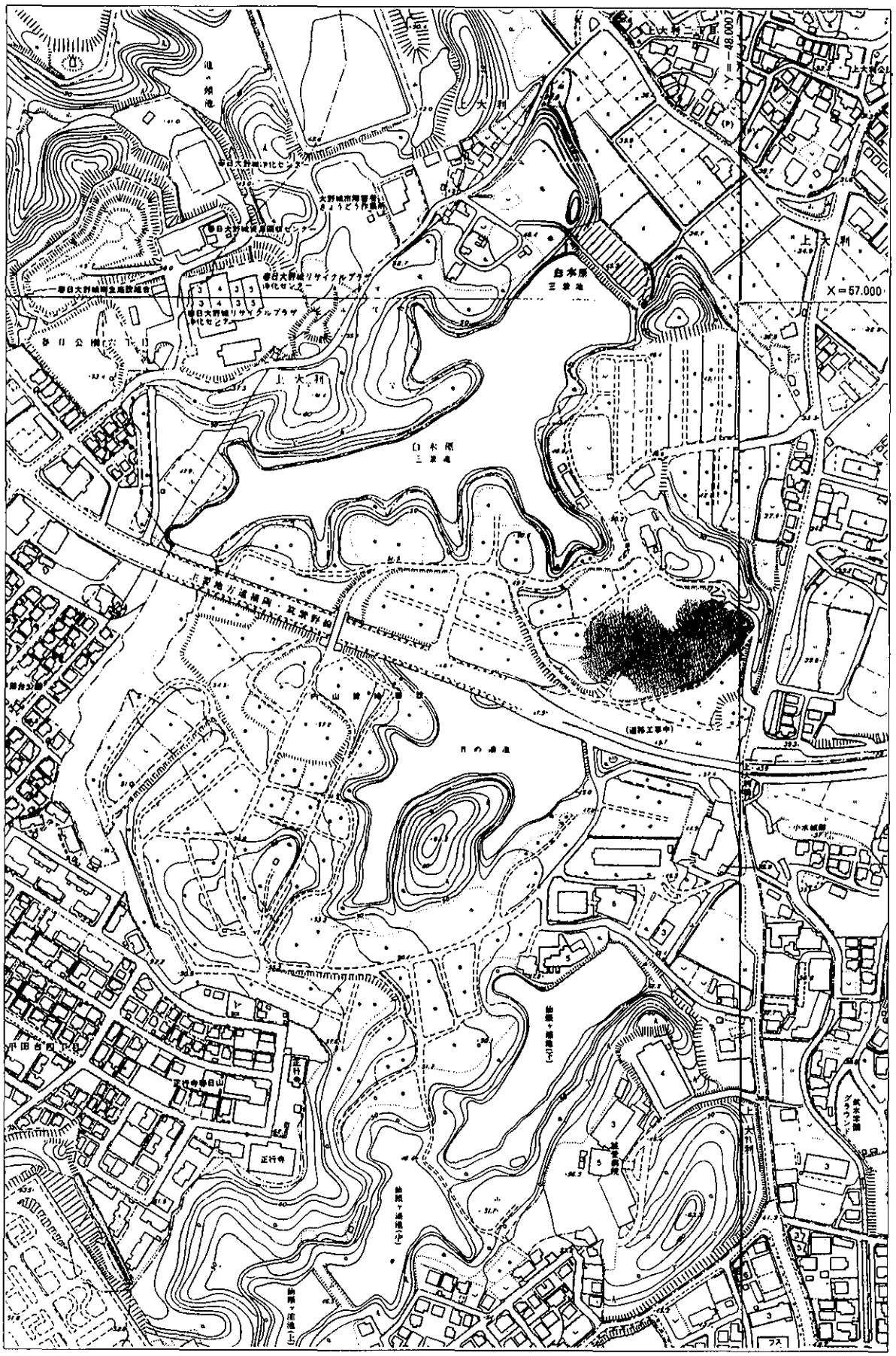
本堂遺跡５次調査地は、大野城市大字上大利666－１番地他にあたり調査面積は15000㎡である。当地は北区画整理事業地の南東部にあたり、現況では南東側に向かって下がる３段の段々畑となっていた。しかし昭和23年の地形図でみると、当地は南東側に向かって下がる丘陵が２つのびており、丘陵の間は細長い谷が入り込んでいる。このため丘陵頂部を削平し、埋められた谷が存在するものと想定し、２段目の畑に上大利区画整理地内８次試掘調査としてトレンチを配置し掘削を開始したのは平成13年11月16日のことであった。そしてその試掘を開始した日に２つの谷部と削平されているが３つの丘陵尾根線、そして窯跡の煙出口を検出し、窯跡の存在が明らかとなった。

遺構の存在が明らかになったことで、当地を全面表土剥ぎすることとなり、北側から着手していった。まず北側は内山緑地に通じる道路際から始め、道路北側に残存する丘陵の続きが検出された。丘陵は南へ向かって下がっており、東側へ開口する小さな谷へと続いていた。斜面からはおびただしい数の遺物が表土剥ぎ時に出土し、ほとんどが須恵器であった。表土剥ぎは北から順次南へ移っていったものの、搬出する土の量が尋常ではなかったためこれに苦慮した。また当地は土取り場として利用される予定であり、窯跡の調査の完了が相当かかることが想定されたことから８次試掘調査は一旦中断し、上の段に移動してここを10次試掘調査として平成14年１月７日より表土剥ぎを開始した。10次試掘調査は中断を挟みながら北西側より実施したが、他の試掘調査との関係上から重機がフルに稼動できず、断続的に掘り下げをおこなったため期間がのびてしまうこととなった。また３段目の段に関しては14次試掘調査として平成14年３月６日に実施し、南東側に谷を検出した。

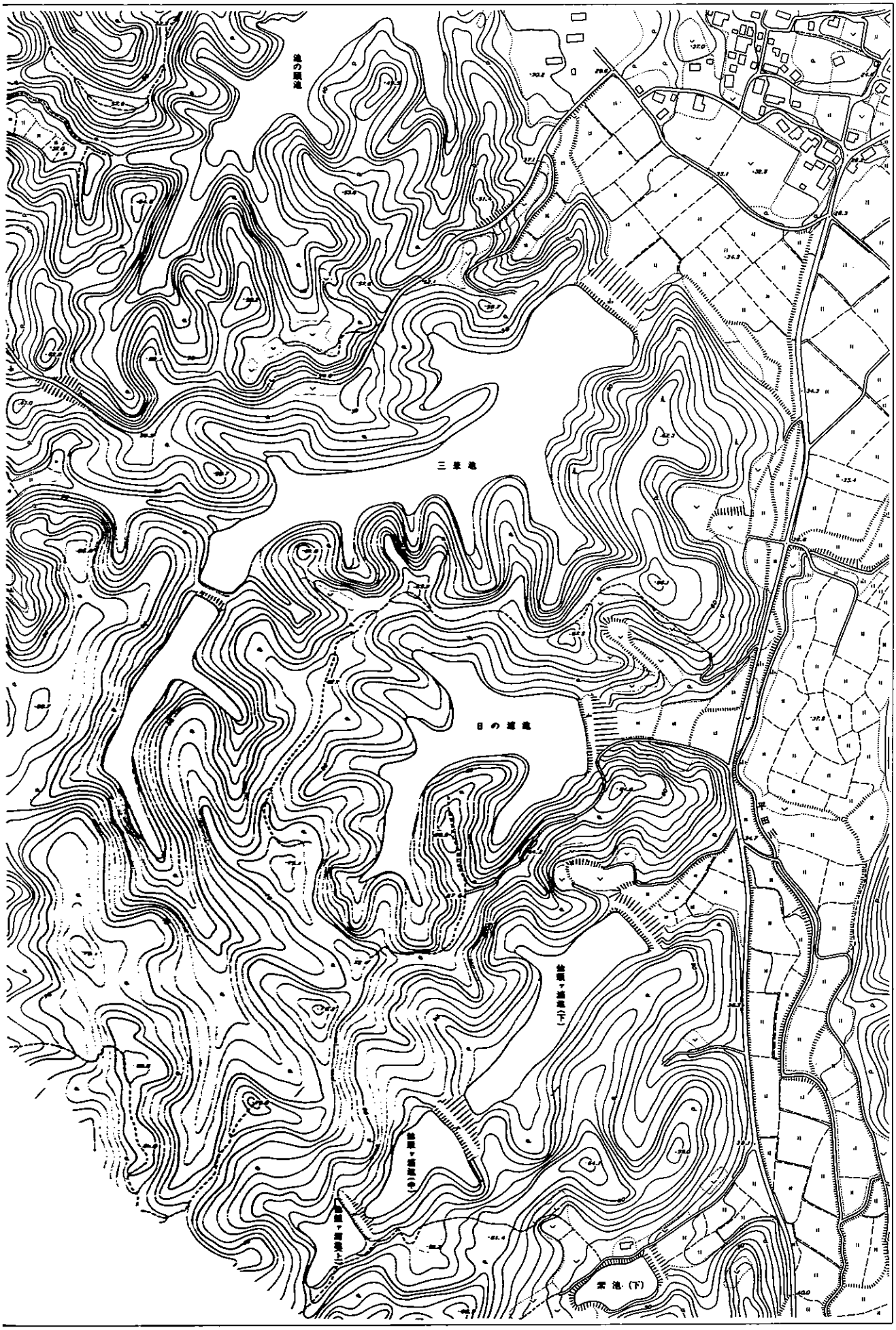
８・10次試掘調査は結果的に一つの大きな調査区として一緒に掘り下げをおこない、実際に試掘調査が終了したのは平成16年１月６日であり、着手した日から約２年３ヶ月にわたる調査であった。

以上の試掘調査の結果、東側に開口する谷が２つ検出され、北側は小さな谷、南側は大きく細長い谷であった。昭和23年の地図に見える細長い谷は、この南側の谷のことと思われる。北側の谷には窯跡１ヶ所、住居や土坑が多数確認され、南側の谷では一番上の段で窯跡５基、２番目の段で窯跡４基が確認できた。

発掘調査は他の調査の終了を待って平成15年７月10日に器材を搬入し、本格的に調査を開始した。しかし調査面積が広大であり、また他に急ぐ調査を実施する必要から本市教育委員会では対応できない状況にあったため、大谷女子大学中村浩教授に協力を打診したところ快諾いただいた。大学側の発掘調査は南側の谷で検出された窯跡のうち一番上の段で検出された４基とその下方の灰原を依頼することとなったが、この時点で灰原は表土掘り下げ中であり、同じ灰原ではあるが大学調査分と市教委調査分とに分かれる結果となってしまった。大学側の調査は９月17日まで実施し、その後



第１図　本堂遺跡５次調査地位置図（1／5000）



第２図　上大利区画整理地周辺地形測量図（1948年米軍撮影）（1／5000）

10月30日から11月１日に補足調査を実施した。調査の結果は、『牛頸本堂遺跡群Ⅱ』大野城市文化財調査報告書64集に記録されている。

市教委の調査は、平成16年３月31日まで実施した。大学側が調査した窯跡を除くすべての遺構の調査をおこなった。

調査の間、中村先生をはじめ大谷女子大学・琉球大学の学生諸氏には多大なる協力を頂いた。また、岡山理科大学鳥居雅之教授には学生諸兄とともに平成15年と平成16年９月の２回にわたり考古地磁気測定のサンプリングを実施して頂いた。心から感謝申し上げたい。最後に調査費用や工事等の関係で極めて多大な協力を頂いている北組合と㈱大成建設の関係者をはじめ、区画整理課、地元上大利区の皆様にも感謝申し上げたい。

２．調査体制

発掘調査ならびに整理作業における調査体制は以下のとおりである。

平成16年度整理作業

大野城市教育委員会	教育長	古賀宮太
	教育部長	鬼塚春光
	社会教育課長	秋吉正一
	文化財担当係長	舟山良一
	主査	徳本洋一
		石木秀啓
		緒方一幹
		丸尾博恵
	主任技師	林　潤也
		早瀬　賢
	嘱託	西堂将夫
		一瀬　智
		井上愛子
		北川貴洋

〔整理作業員〕

松岡信子　町井裕子　鬼塚穂子　白井典子　村山律子　井上理香　渡部美香　橋本悦子

大谷女子大学	教授	中村　浩

〔整理作業参加者〕

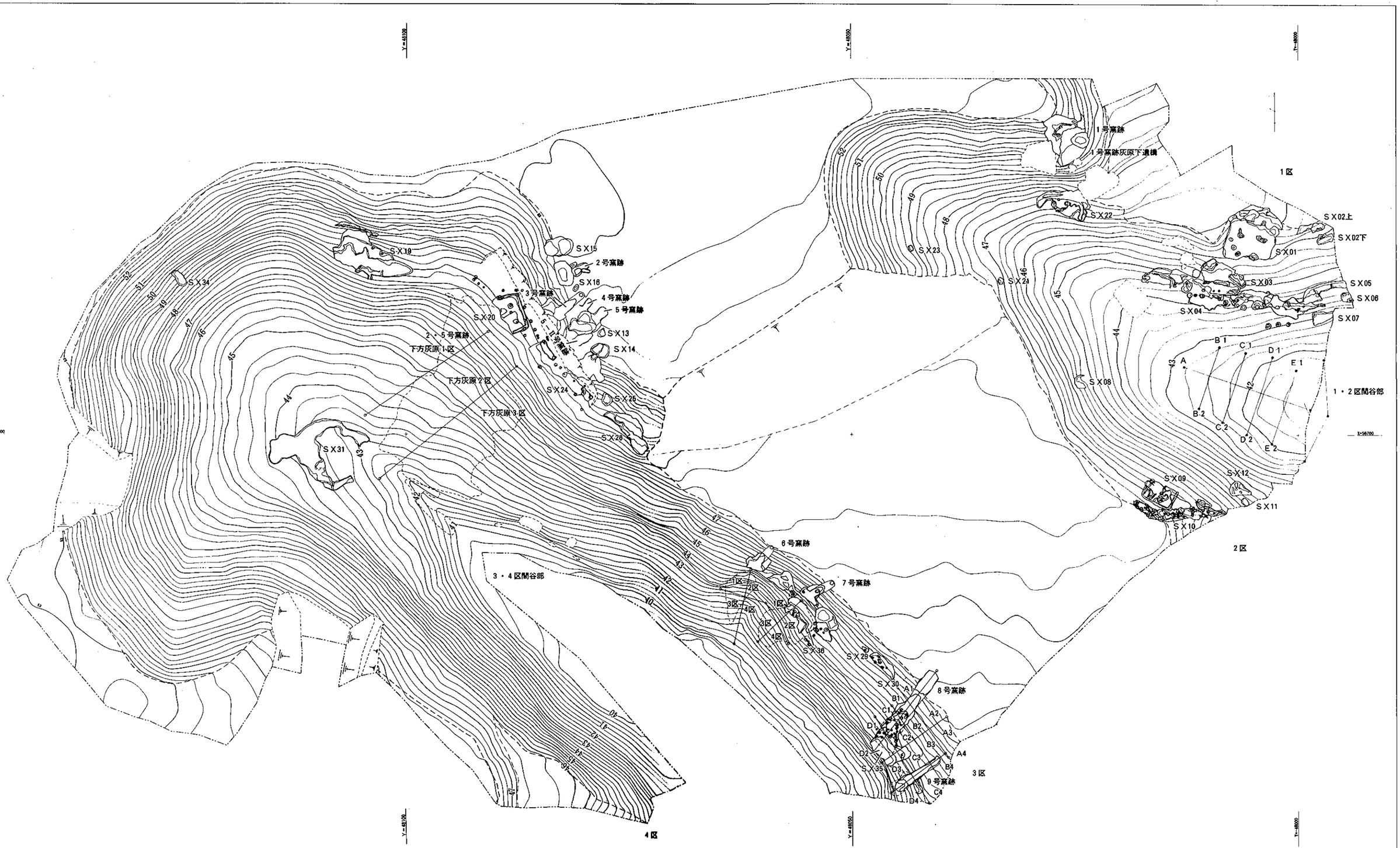
大谷女子大学生

柳光早矢香、深川拓実、堀本由佳、桃原沙恵、山田直子、尾張友子、河野恭子、杉山嘉奈美、田嵜麻美、田淵智子、中田葉子、服部恵子、細川由起子、廣瀬祐美、森重香織

大谷女子大学旧職員

西岡健、志波敏光

岡山理科大学	教授	鳥居雅之



第3図　本堂遺跡第5次調査全体図（1／400）

Ⅱ. 調査の結果

1．調査概要（第1・3図、巻頭図版3）

本堂遺跡第5次調査地は、通称5号線（県道31号線）と市道下大利・南ヶ丘線の交差点北西側に位置する。大野城市大字上大利666－1外にあたり、調査面積は約15,000㎡である。調査にいたる経緯で述べたとおり、調査地では試掘調査の結果南東方向へのびる谷部が確認された。丘陵の頂部は内山緑地による造園開発により大きく削平されており、昭和23年の旧地形図からは相当変容している。一概に比較はできないが、旧地形図にみえる最高所の標高は66.1mに対して調査地内での最高所は2～5号窯跡所在地の周辺53mと10m以上の差があり、削平により生じた平坦面の広さとともに開発の激しさを伺わせる。

確認された谷部は南北2つで、南側は旧地形図で北西方向に細長く入り込む深い谷にあたると考えられるが、北側は旧地形図上では明らかではなく、実際に検出された北側の谷部も浅い。調査はこの南北の谷に面する斜面に所在する遺構を北側から順次進めていった。その際、調査地を南北それぞれの谷部を境にして1～4区に分け、各区ごとに遺構の検出・掘削をおこなっていったが、狭い谷部をすべて表土剥ぎの上調査をおこなうことは排土のやり繰り上不可能であったため、同じ調査区内でも調査時期が異なる遺構が生じてしまった。また調査地は土取り場として予定されており、調査の終了した所から順次引渡しをおこなっていたため、全体の遺構が掘り上がった状態での写真撮影はできなかった。以下各区ごとに調査概要を述べていく。

1区は北側の谷部に面する南側斜面にあたる。東側は法面により削平され、法面下方にあたる下大利南ヶ丘線との比高差は10mほどある。調査は、ＳＸ01～07と1号窯跡・ＳＸ22を表土剥ぎの都合上、分けて実施した。遺構は斜面に立地し、検出時は不整形であり掘り下げを開始した時点では遺構の種類は判断できなかったが、完掘した結果、竪穴住居跡と考えられるもの（1号窯跡灰原下遺構・ＳＸ01・03・04・22）の他、土坑5基・ピットが確認された。

2区は北側の谷部に面する北側斜面にあたる。表土剥ぎの都合上、ＳＸ08～12とＳＸ21・23を分けて調査を実施した。検出された遺構のうち、竪穴住居跡と考えられる遺構はＳＸ09がある。ＳＸ21は焼土が確認され、一部が還元するほど被熱を受けており窯跡の残欠かと考えられたが確認するには至らなかった。また1・2区間の谷部からは剥片石器が出土した。

3区は南側の細長い谷部に面した南側斜面にあたる。窯跡9基が確認され、大谷女子大学調査の2～5号窯跡の一群と6～9号窯跡の一群に分けられる。この2つの群は所在する場所とともに窯跡の標高が異なっており、また2～5号窯跡が近接して一部重複しながら群を形成するのに対し、6～9号窯跡はほぼ等間隔に広がるという違いがあり、削平された丘陵に他の窯跡が存在した可能性は否定できないが、同じ丘陵斜面に位置しながら立地・群形成において顕著な差を認めることが出来る。窯跡の他はＳＸ19・20・24～30・32～36とピットが確認された。このうちＳＸ20・24は2～5号窯跡灰原下、ＳＸ35は8号窯跡灰原下、ＳＸ36は7号窯跡灰原下から検出された。ＳＸ19・20は竪穴住居跡と考えられ、ＳＸ29は焼土坑である。

4区は南側の谷部に面する北側斜面にあたる。表土剥ぎの結果、何らの遺構も検出されなかった。

なお、3・4区間の谷頭部は2～5号窯跡灰原を除去した所、剥片石器の出土を見たことから遺構検出をおこないSX31として掘り下げをおこなったが、明瞭な遺構ではなかった。このため周辺を掘り下げた結果、多量の押型文土器や石器等が出土した。（石木）

2．遺構と遺物

（1）1区

1号窯跡（第5図・図版第34、35）

窯体　窯跡は調査地の最も北側で検出され、丘陵の南側斜面に位置する。窯体は内山緑地事務所へいたる道路により徹底的な削平を受けており、窯体の焚口部左側壁と床面の一部が残存するのみであった。残存部は床面に還元面が残る範囲で、長軸最大1.70m、高さは前庭部と燃焼部の境で22cmである。主軸方向は右側壁を完全に失うため不明であるが、ほぼ北にとっていたと思われる。前庭部床面には、杯蓋が1点残されていた。おそらく、窯を廃棄する際の祭祀にともなうものと思われる。貼床・貼壁は認められなかった。

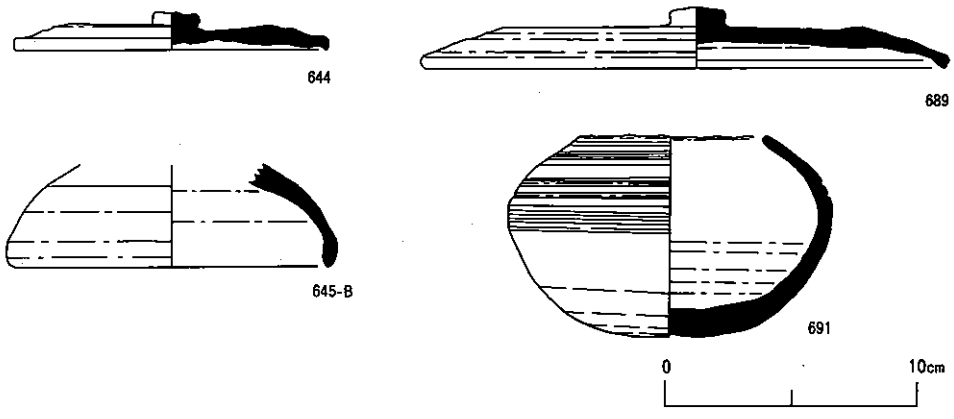
前庭部　左側壁から連続して西側に大きく広がっており、前庭部床面出土杯蓋から測ると最大幅約4.4mとなる。長軸は削平を受けていることと、後述する1号窯跡灰原下遺構が埋まった状態で前庭部が形成されていることから範囲は明確ではない。杯蓋から前庭部土坑の南端までの長さは約2.8mである。前庭部土坑は、長軸約1.8×幅約2.0mの不整楕円形プランを呈する。深さは最大51cm、内部は黒色灰層が堆積していた。

灰原　灰原は斜面上に帯状の広がりを見せ、斜面下方に大きく広がるような状況はなかったが、先述した削平により灰原が失われた可能性がある。灰層は黄色土・褐色土に覆われ、検出時より多くの須恵器が出土したが、後述するように灰原下にはⅣA期と考えられる遺構が埋没していた。1号窯跡に伴う灰層は2～5・10・13～16層であり、炭・焼土を含んでいる。（石木）

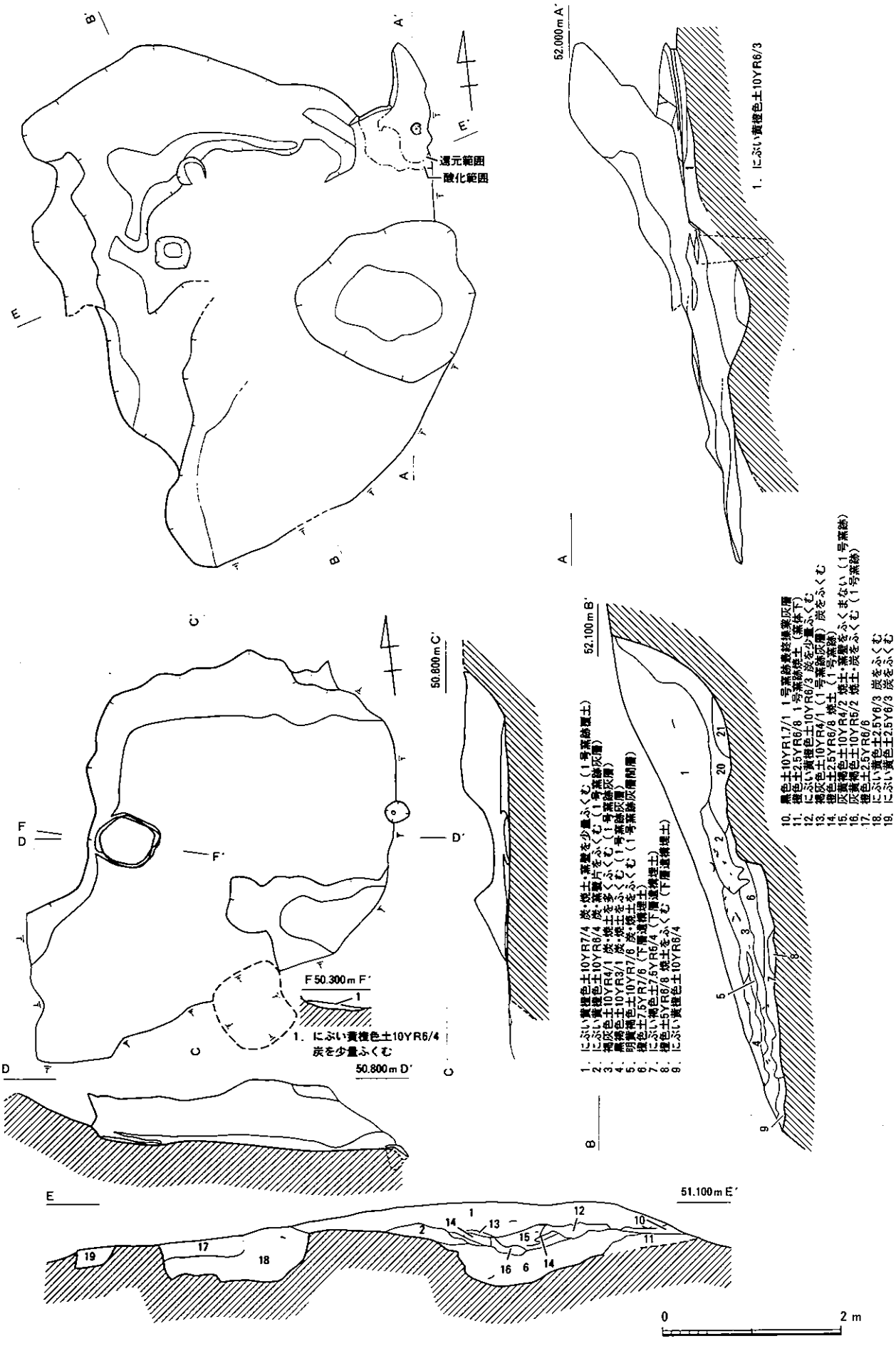
出土遺物（第4図・図版第1、2、71、72、85）

出土遺物は須恵器が中心であるが、ⅣA期のものとⅦ期のものが認められ、前者は後述する1号窯跡灰原下遺構のものと思われる。

644は杯蓋。窯体床面直上から出土した。つまみは山形に近く、端部はわずかに折り曲げられる。645A・Bは窯体内埋土からの出土。645Aは口径20cmを超える大型の蓋である。646は灰原を覆う



第4図　1号窯跡出土遺物実測図（1／3）



第5図　1号窯跡・1号窯跡下層遺構実測図（1／60）

黄色土中から出土した。短頸壺と思われるが、頸部は焼成前に切り取られている。　（石木）

1号窯跡灰原下遺構（第5図・図版第35）

1号窯跡灰原下で確認された。東・南壁を削平により失うが、北・西壁の状況から略方形プランとなると思われる。残存長は北壁で約3m以上、西壁は2.4m以上、深さは1号窯跡側の残りのよい部分で50cm、北壁から約1m程の所には西壁に接して焼土が確認された。径0.6mくらいの略円形で、厚さは6cmあったが、カマドの袖等は確認できなかった。埋土は1号窯跡灰層下で確認され、南側へ向かって薄くなっており、最も薄い所で8cmである。焼土の存在と平面プランから竪穴住居跡の可能性が高いが、柱穴・貼床は確認できなかった。また、地形的にみると南側にむかって下がる斜面上に立地しており、西壁に接する焼土がカマドであれば、後述するSX03・04・09と同じく斜面上方ではなく、左右どちらかにカマドが附設される構造となる。　（石木）

出土遺物（図版第1、2、71、72）

出土遺物には須恵器・土師器がある。明確に灰原下遺構に伴うのは、46がある。器種は蓋杯、壺、高杯、平瓶などがある。蓋杯では、古墳時代に分類されるもの（1－6，7・8）とつまみを伴う蓋（12－20）と杯Aの奈良時代の蓋杯とがある。壺（19）や平瓶（11）は前者に分類され、皿（26・27）は後者に属す。　（中村）

SX01（第6図・図版第36）

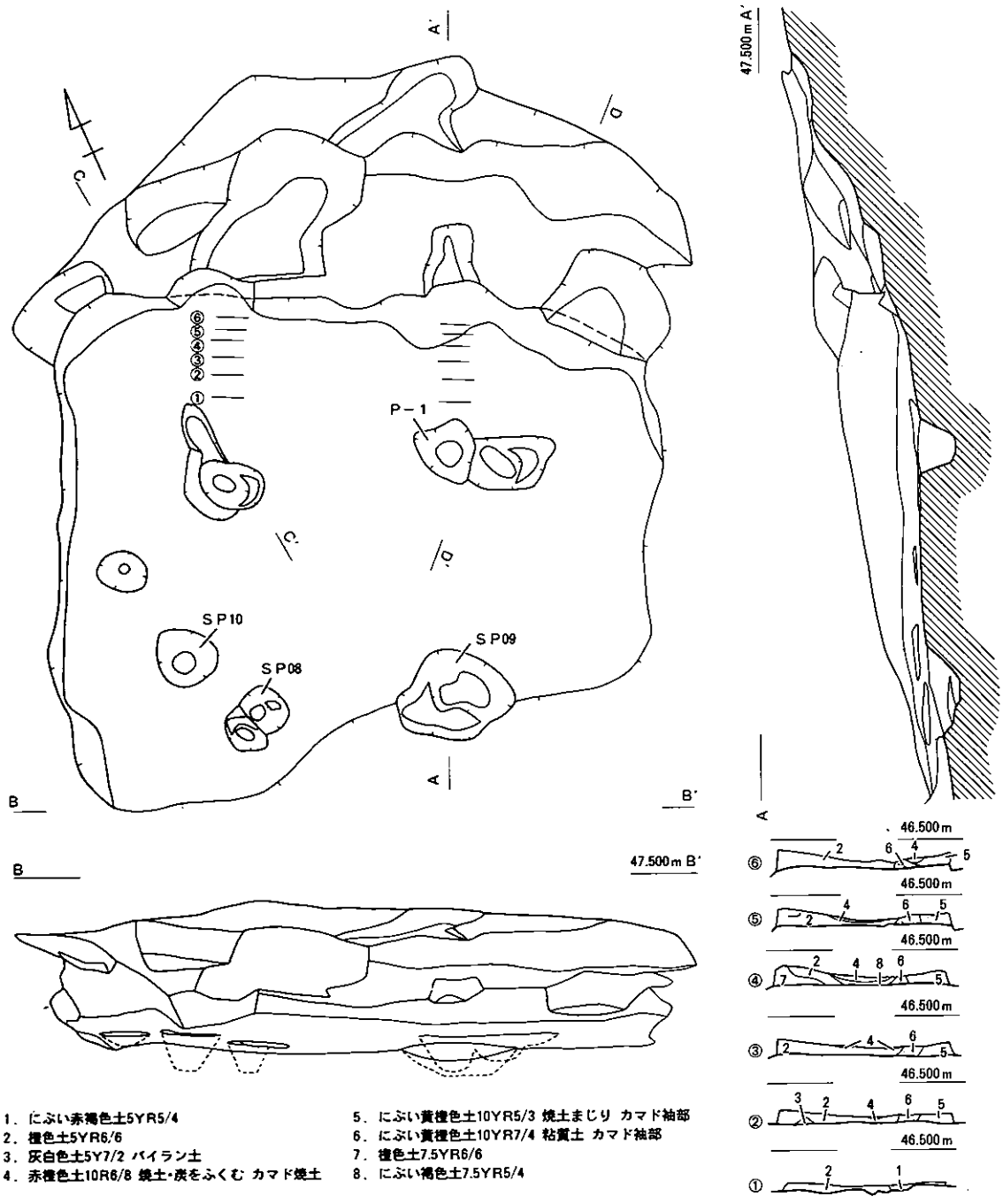
1号窯跡の南東約20mの所に位置する。表土剥ぎの際に、遺構の周辺と斜面下方から多量の遺物が出土した。南・東壁は一部削平されるが、北壁と西壁はよく残っており、北壁5.35m、西壁4.60mのほぼ正方形に近いプランをとる竪穴住居跡と考えられる。主柱穴はP－1、SP－08・09と北西側の柱穴が当たると思われ、柱間の距離はP－8・9間が1.9mで、他は2.1mほどである。北壁の上方は不整形となり、そのため北壁の掘り込みは西壁と比べてはっきりせず、最も浅い所では10cm程度である。中でも北壁の中央部あたりが最も低くなっており、あるいは住居廃絶後この部分の崩落が激しかったのであろうか。貼床は認められなかった。

北壁の中央やや西側よりでは、カマドと思われる焼土の広がりを確認した。このためカマドの袖を検出する目的で10～20cmごとに横断方向に土層実測・観察を繰り返し、カマド横断土層④でカマドの床ではないかと考えられる焼土面を確認した。またカマド横断土層の5・6層が確認され、これがカマドの東袖にあたり、土層上から2層を基盤とした上に構築されたものと考えられる。

（石木）

出土遺物（図版第20、78）

出土遺物には須恵器・土師器がある。須恵器には、蓋杯（448－456）、高杯（457・458）、椀（461）、壺（464－466）、甕（462）などがあり、その多くは破片である。なお甕の破片（462）は焼成後、再加熱された痕跡が表面に残されている。土師器には、甕（460）、甑の把手があり、須恵器と同様、細かな破片となっており、復元が困難なものが多い。なお須恵器の蓋は、天井に丸みを持ち、外面の1／2前後に回転ヘラ削り調整、内面他は回転ナデ調整を行っている。これに伴うとみら



第６図　ＳＸ01実測図（1／60）

れる杯は、短く内傾するたちあがりをもち、底部は比較的浅く丸い。外面には蓋と同様、外面の1／2前後に回転ヘラ削り調整、内面他は回転ナデ調整を行っている。蓋、杯ともに、口径に長短、さらに形状にも細部に差異が認められる。高杯は短く外反する脚の破片のみで、上部の形状は明らかではない。碗は口縁部がほぼ直立する形状をなし底部にわずかに丸みを持つ。なお外面に回転ヘラ削り調整、内面他は回転ナデ調整を行っている。（中村）

ＳＸ02上（第９図・図版第37、38）

ＳＸ01の東側７ｍに位置する。遺構検出の際、後述するＳＸ02下と合わせて斜面上に不整形な遺構プランが検出された。当初この検出プランにしたがって掘り下げをおこなっていたが、一段掘り下げた時点で等高線に平行する土坑２基に分かれることが判明したことから、斜面上方の遺構をＳＸ02上、斜面下方の遺構をＳＸ02下とした。ＳＸ02上は長軸1.51×短軸0.97ｍの土坑で、斜面上方から最も深い所で約40㎝である。床面はほぼ水平であった。土坑の西側には、長軸約1.7×短軸0.8ｍの浅く広い落ち込みが認められた。土坑の埋土について、下層は灰白色粘土を多く含んでいたが、土坑内全体に安定して堆積するような状況ではなかった。この下層上面から完形に近い須恵器が出土している。（石木）

出土遺物（図版第21、78）

出土遺物には須恵器、蓋・杯（467－471・478・478・480－482）、高杯（482）などがあり、破片が多くを占めている。蓋は天井が比較的低く丸みを持つ。外面の1／2前後に回転ヘラ削り調整、内面他は回転ナデ調整を行っている。これに伴うとみられる杯は、短く内傾するたちあがりをもち、底部は比較的浅く丸い。外面には蓋と同様、外面の1／2前後に回転ヘラ削り調整、内面他は回転ナデ調整を行っている。蓋、杯ともに、口径に長短、さらに形状にも細部に差異が認められる。高杯は、その形状の特徴から蓋杯と時期的には同じと考えてよい。（中村）

ＳＸ02下（第９図・図版第38）

ＳＸ02のすぐ下方に位置する。長軸1.94×短軸1.14ｍでおおむね隅丸方形に近いプランを呈するが、土坑の北壁は幅30㎝ほどのテラスと径45㎝ほどのピットのような掘り込みのため不整形となっている。深さは斜面上方から最も深い所で32㎝、床面はほぼ水平であった。埋土は１層のみで炭を含んでいた。（石木）

出土遺物（図版第21）

出土遺物には須恵器、蓋・杯（473・476・477・479）、壺（483・485・486）などがあり、いずれも破片である。蓋は天井が比較的高く丸みを持つ。外面の1／2前後に回転ヘラ削り調整、内面他は回転ナデ調整を行っている。これに伴うとみられる杯は、確認されていないが、おそらくは短く内傾するたちあがりをもち、底部は比較的深く丸い形状をなすものと考えられる。また出土している杯（479）は、蓋（476）とセット関係をなすものと考えられ、先の蓋（473）よりは後出段階のものであり、ＳＸ02上の遺物群と同じ範疇に属する。壺は、口縁端部で肥厚させるものである。（483・485）端部で段をなす形状の壺（486）も見られ、前二者と比較して先行する可能性もある。体部の

破片は、当該遺物群に分類してよいだろう。（中村）

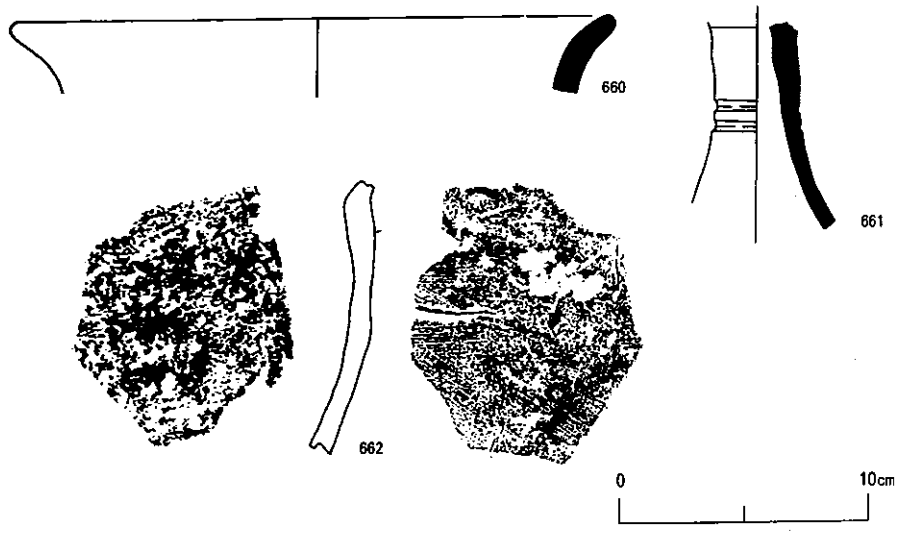
ＳＸ03（第８図・図版第39）

ＳＸ01の南西側斜面下方に位置する。遺構検出時に斜面上に広く不整形なプランを検出し、当初一連の遺構かと考えたが、埋土の違いとカマドの存在から斜面上方をＳＸ03、下方をＳＸ04とした。しかし、土層観察用のベルトを調査の不手際により実測前に除去してしまい、ＳＸ03・04の前後関係・範囲について確実なことは言えないが、ＳＸ03カマドがＳＸ04埋土上につくられていることからＳＸ04→03の可能性が高い。全体は長軸5.07×短軸3.84ｍの不整形プランであるが、カマドから連続する面とその下の平坦面の上下2段に分けられる。ＳＸ03上は西側にカマドをともなうが、床面は傾斜している。カマドは約90㎝の円形に近いプランを呈し、北壁側が還元しておりよく焼けている。カマドの床面からＳＸ03下の平坦面の比高差約60㎝ほどであった。

ＳＸ03下は平坦面をもち、北側には長さ1.8ｍ程度の壁溝と思われる溝がつく。北壁の高さは約50～60㎝で、この部分が竪穴住居跡の可能性がある。この平坦面は不整形で範囲は明らかではないが、下方には径50㎝あまりのピットが並んでおり、柱穴の可能性がある。（石木）

出土遺物（第７図・図版第22、 78、79）

出土遺物には須恵器と土師器がある。前者は、蓋・杯（488－497）、高杯（498－503）、横瓶(502)、壺（504）などがあり、いずれも破片である。後者には鉢ないしは甕が見られる。須恵器の蓋は天井が比較的高く丸みを持つ。外面の1／2以上に回転ヘラ削り調整、内面他は回転ナデ調整を行っている。これに伴うとみられる杯身は短く内傾するたちあがりをもち、底部は比較的深く丸い形状をなし、外面2／3前後に回転ヘラ削り調整を行っている。また出土している杯身は、蓋とセット関係をなすものと考えられる。なお形状から２段階のものが含まれている。高杯は、いずれも無蓋形態のものであり、脚基部は細く長くのびる。杯部外面に文様を伴うもの（503）と、伴わないもの（498－501）が見られ、大型の杯部を伴うもの（498）も見られる。また脚のみの破片（661）が見られるが、形状は503に同じである。横瓶の側面の可能性の濃い破片（502）の外面には平行叩きと回転カキ目文様が施され、内面の叩きの切れ目も確認できる。壺（504）は、中型の広口壺で、基部以下を欠損している。



第７図　ＳＸ03出土遺物実測図（1／3）

土師器は大きく外に広がる口縁部を持つもので（505, 660)、角度を変えると甕のようにもみられる。内外面の調整手法は観察できない。また体部の破片（662）には外面に刷毛目、内面にはナデ調整の痕跡が残されている。

ＳＸ04（第８図・図版第40、41）

ＳＸ03下に検出した。長さ20.41ｍにわたり斜面を帯状にのび、東側でＳＸ05と重複する。西側では長軸3.7×短軸1.7ｍにて弧状に溝が巡り、西端に径20㎝ほどの焼土が認められたことからこの部分は竪穴住居跡であった可能性があり、焼土はカマドにあたると思われる。床面は粘土等を用いて貼床を施しており、厚さは15㎝ほどである。柱穴は確認されなかった。深さは北壁の最も深い所で約40㎝、壁溝近くには須恵器高杯が倒れた状態で出土している。住居と考えた遺構より東側は不整形プランで、明確な掘り込みをともなわず、床面も平坦ではなく斜面に凹凸があるものが帯状に連続しており、遺構とも呼びがたい。埋土は地山の流れたような土で、いわゆる遺構の埋土とは異なっている。しかし埋土中には遺物を含み、こうした不整形遺構は斜面の調査の際に必ず検出されるもので、その性格・機能についてはよく分からない。

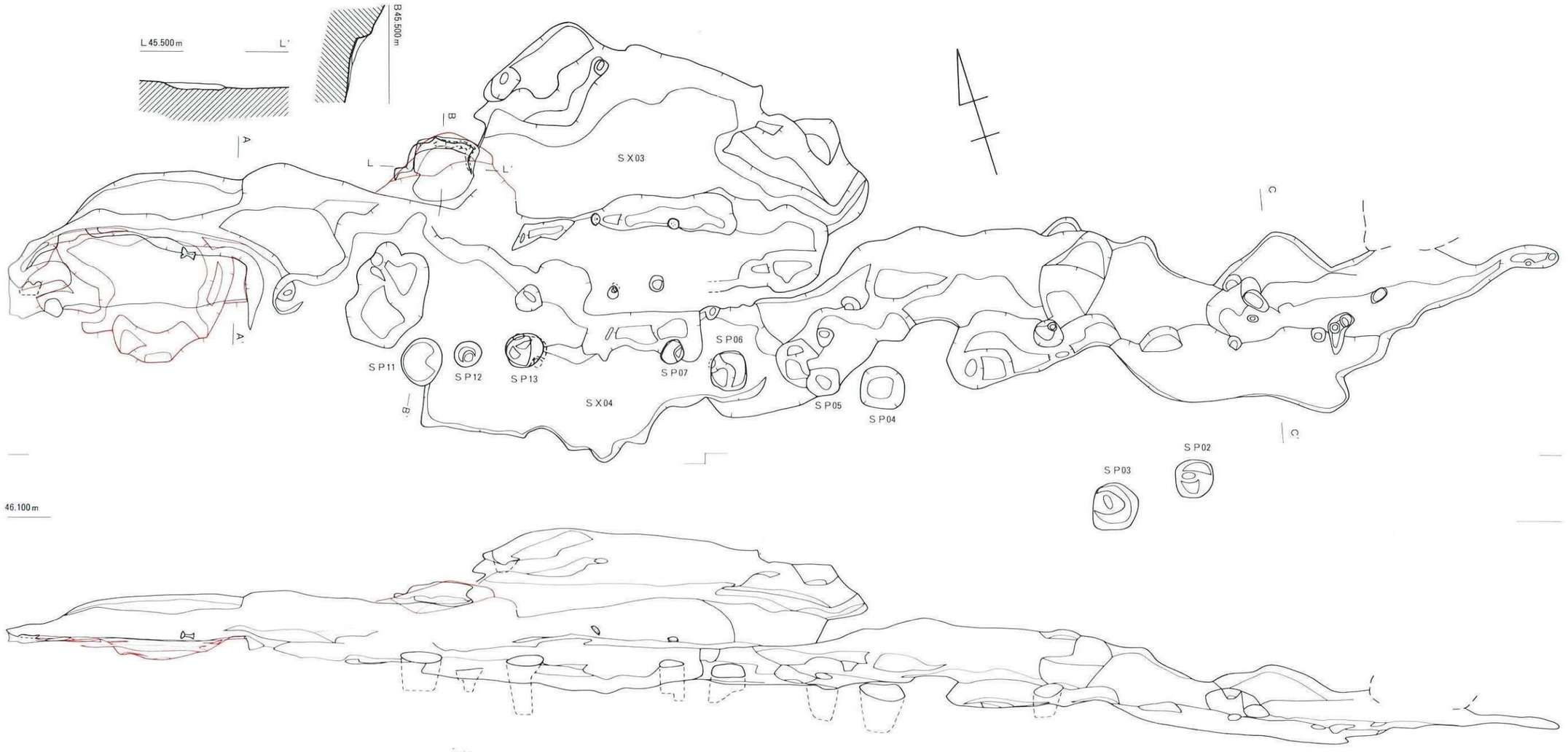
カマドは西端で検出された。平面での袖の確認が困難であったため、土層観察による検出に努めた。その結果、カマドの北側と東側の袖部と思われる土層（３・４・６～10層）を確認できた。いずれも褐色土から橙色土などの地山に近い粘質土を用いている。南側はすでに失われており、残りが悪いため確実ではないが、カマドは東側に開口すると思われ、斜面に立地する住居に対して斜面上方側にカマドを設置するＳＸ01のような類型に対し、斜面上方を向いて左右いずれかに附設される１号窯跡灰原下遺構の類型にあてはまる。（石木）

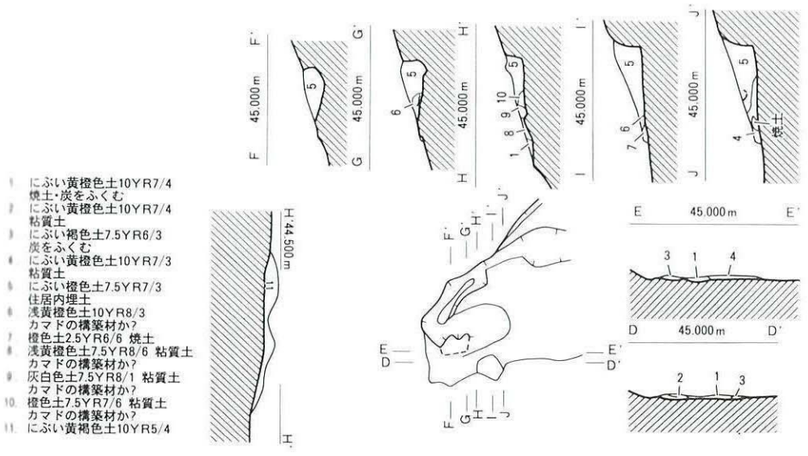
出土遺物（図版第23、79）

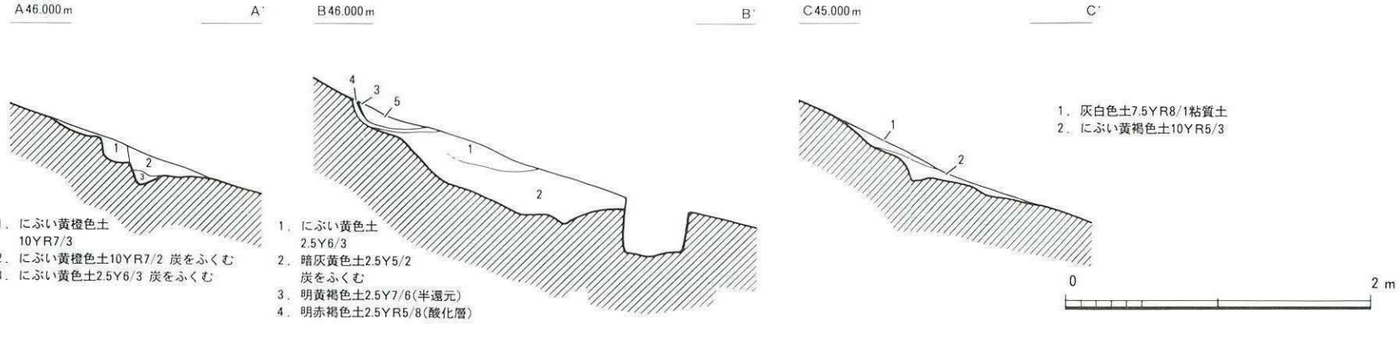
出土遺物には須恵器がある。器種には、蓋・杯（506－521)、高杯（523)、椀（522, 524)、壺(527)、摺鉢（526）などがあり、いずれも完全な形状のものではない。蓋は天井が比較的高く丸みを持つ。外面の1／2以上に回転ヘラ削り調整、内面他は回転ナデ調整を行っている。これに伴うとみられる杯身は短く内傾するたちあがりをもち、底部は比較的深く丸い形状をなし、外面2／3前後に回転ヘラ削り調整を行っている。また出土している杯身は、蓋とセット関係をなすものと考えられる。なおＳＸ03出土須恵器とは形状で近似するが、当該出土例の方がわずかに先行すると見られる。高杯は、有蓋形態のものであり、脚基部は細く長くのび、上下二段竪三方向に透かし窓を穿っている。碗あるいは鉢と見られるものは、口縁部外面中位に沈線２条をめぐらせるもので、口径の小さなもの（522・525）とやや大きいもの（524）がある。擂鉢（526）は、全体の復元が可能なもので、口縁外面中位に沈線２条をめぐらせている。壺（527）は、中型の広口壺で、体部最大径を中位に求める球体をなし、肩はなだらかで張りは見られない。外面に回転カキ目調整を施す。体部中位以下を欠損している。

ＳＸ05（第９図・図版第42）

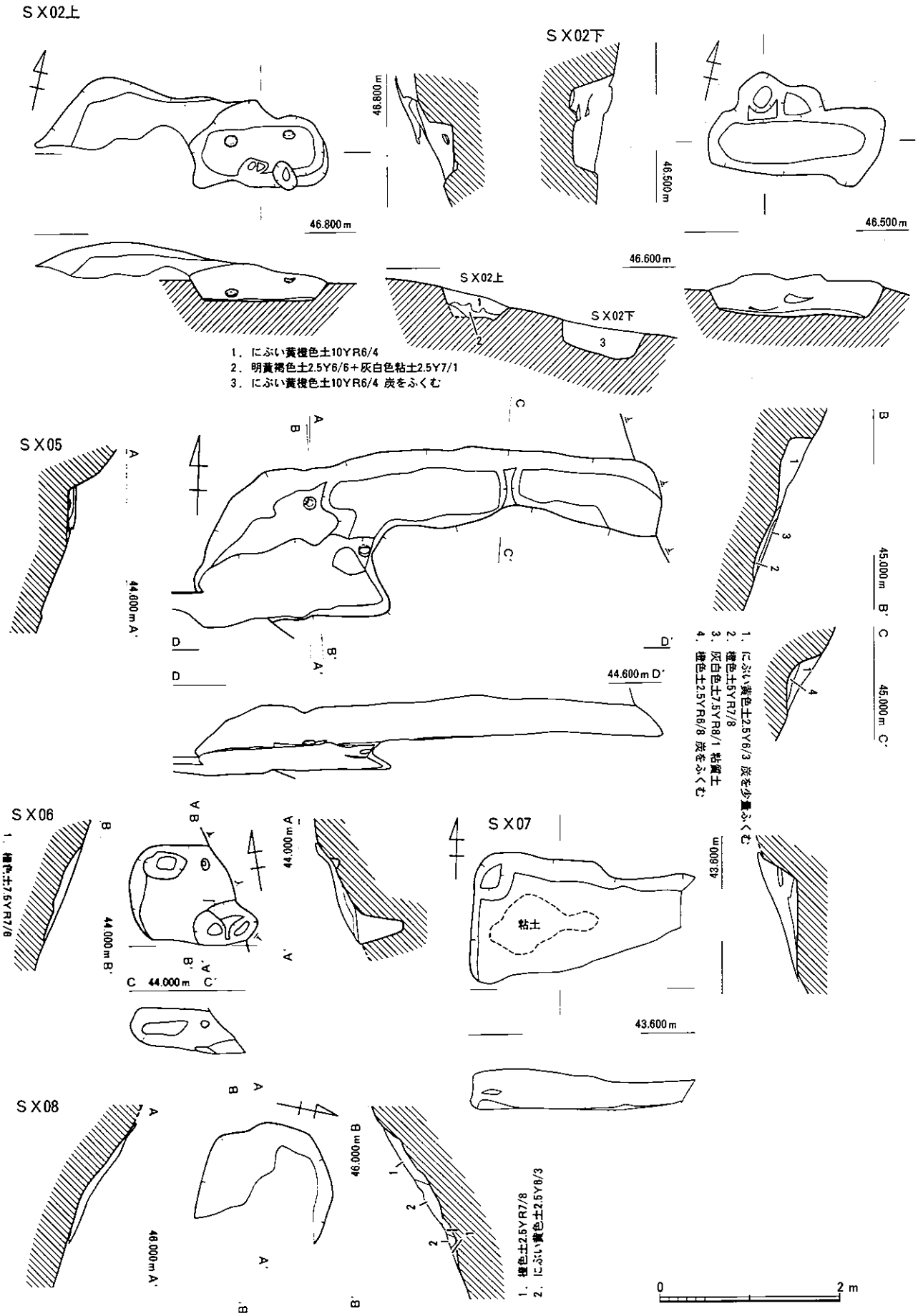
ＳＸ04の東側と接する。東側は法面により削平されており、残存する面で長軸5.2×短軸0.9ｍの







第8図　SX03・04実測図（1／60）

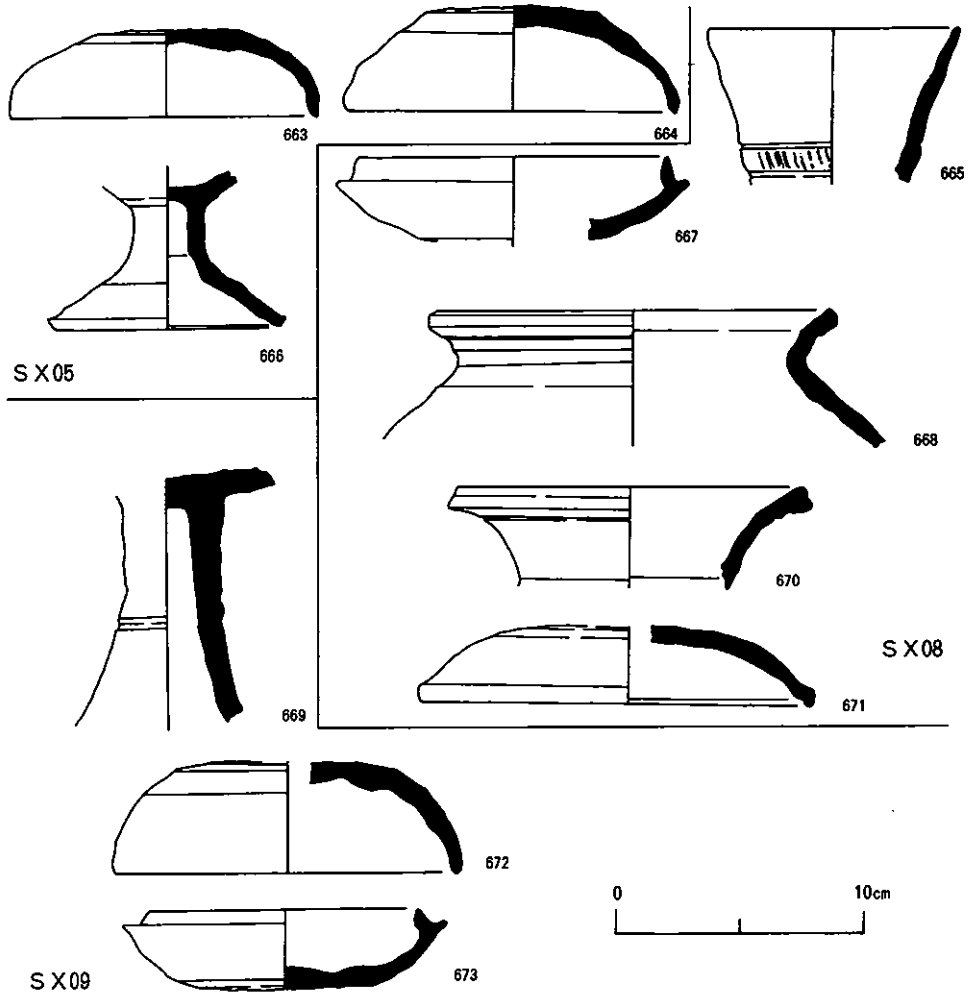


第９図　ＳＸ02・05～08実測図（1／60）

細長い平面プランを呈する。斜面をＬ字型に掘り込み、床面はほぼ水平となる。床面には須恵器杯蓋が残されていた。埋土は大きく上下２層に分けられ、下層（４層）には炭が含まれていた。貼床や柱穴は認められず、遺構の性格は不明である。（石木）

出土遺物（第10図・図版第84）

出土遺物はわずかであり、形状の推定が可能なものは須恵器の蓋杯、高杯などである。蓋杯の蓋（663, 664）は天井が比較的高く丸みを持つ。外面の1／2以上に回転ヘラ削り調整、内面他は回転ナデ調整を行っている。杯身は確認されていない。高杯（666）は短脚を伴うものであるが、杯部の形状は不明である。



第10図　ＳＸ05・08・09出土遺物実測図（1／3）

ＳＸ06（第９図・図版第42）

ＳＸ05のすぐ斜面下に位置する。東側を法面により削平されており、残存する面で長軸1.42×短軸1.1ｍの方形に近い平面プランを呈する。しかし、方形プランに見える部分は浅く掘り込みをともなうようなものではない。底面にはピットが２つ認められ、ＳＸ05にともなうものかとも考えたが、性格は不明である。（石木）

ＳＸ07（第９図・図版第43）

ＳＸ05の斜面下方に位置する。東側は現場安全上から土手として残したため未調査となったが、残存する面で北壁2.45ｍ、西壁1.44ｍの長方形プランを呈する。床面はほぼ水平に近く、北西壁際には床面上に粘土が残っていた。しかし粘土の厚さはわずか２㎝あまりで、本堂遺跡1次調査等で確認されている須恵器製作用粘土とはやや異なる土質の様であり、須恵器工房跡とするには根拠が足りない。遺構の平面プランからは、竪穴住居跡とするのが妥当かとも思われるが、柱穴・貼床・カマド等が確認されないことから、性格は不明としたい。（石木）

ＳＸ22（第13図・図版第48、49）

調査区内１区、１号窯跡南下方に広がる遺構群のうち、最も南西部の斜面上に位置する。方形プランの竪穴住居跡と考える。東西辺は約5.9ｍを測るが、斜面下方にあたる南側の大半が流出しており、全体の規模は明らかではない。北西隅と北東隅に、それぞれ深さ約８～９㎝、約18～20㎝の壁溝が認められる。床面は高低差があり、貼床は西側に最大20㎝、東側に同24㎝確認できた。また、主柱穴と思われる深さ約70～80㎝のピットを２つ検出した。中央部には２ヶ所の被熱箇所が見られ、一方は不整形で赤褐色に被熱するが、他方は約22×26㎝の楕円形で黄灰色～暗灰色を呈し、還元を受けた雰囲気をもつ。床面下は、貼床部で最大20～24㎝程掘り込まれており、下層から３つのピットを検出した。

また、床面下層検出の結果、更に下層に重複する遺構を確認した。遺構は東側及び南側が失われており、平面形は明らかではない。深さは約20～30㎝、床面は平坦で、直上から須恵器の杯蓋・杯身等が出土した。土層断面では、残存する床面から南側に水平に延びる貼床のラインを確認できるが、調査時点では認識できず、結果として床面を大きく掘削してしまった。床面下の深さは約10～40㎝、底面は高低差があった。ＳＸ22は、この下層遺構の上に貼床を構築して造成されていた。（一瀬）

出土遺物（図版第25、26、81、82）

須恵器が大量に出土しており、器種も蓋杯（570・572・576～589）、高杯（571・573・574・591）、壺（575・595・597）、鉢（596）、壺蓋（592・593）などがある。蓋杯はたちあがりを伴い、古墳時代後半に相当する段階の製品である。高杯は長脚を伴うものでスカシは見られない。また壺は、広口壺（595）がある。鉢はＳ字状に曲線を描くもの（596）と直線的に外反するもの（598）の二者があるが、時期的にはほぼ同じ範疇に分類される。（中村）

（２）２区

ＳＸ08（第９図・図版第43）

２区とした斜面のほぼ中央に位置する。検出時に遺物の出土と不整形の埋土の広がりを見たことから掘り下げをおこなった。しかし埋土は浅く、掘り込みをともなわず、掘り上げると斜面に長軸1.5×短軸1.33ｍの浅い皿状のくぼみができただけであった。埋土は地山の土が流入したようで、土層観察からもくぼみに遺物が流れ込んだような状況であった。このため遺構の性格は判然としな

第11図　ＳＸ09・10実測図（1／60）

い。

出土遺物（第10図）

出土遺物はわずかに須恵器の蓋杯の蓋（671）、杯（667）、広口壺（668）などである。前者の形状は天井は低く、わずかに丸みをもち、中央にはつまみを伴っていない。天井外面の1／2前後に回転ヘラ削り調整、内面他は回転ナデ調整を行っている。杯身は確認されていない。広口壺は外反する口縁部の端部で肥厚させ、丸く仕上げている。体部は最大径を中位に求める球体をなす。なお両者は時期的に大きな開きがあり、いずれが当該遺構に伴っていたのかの判断は困難である。

ＳＸ09（第11図・図版第44、45）

２区の東側ＳＸ08から約15ｍ南東に位置する。長軸3.64×短軸2.46ｍの方形に近いプランを呈する竪穴住居跡である。本調査地の中では最も残りのよい住居跡であり、南壁の最も深いところで約50㎝。床面には細かな凹凸があり柱穴は確認できなかったが、南壁の東側から東壁には壁溝が巡らされていた。斜面側のほぼ中央部には貼床が一部残っていたが、南壁側は地山が露出する状態であった。住居の北西側にはカマドが設置されている。

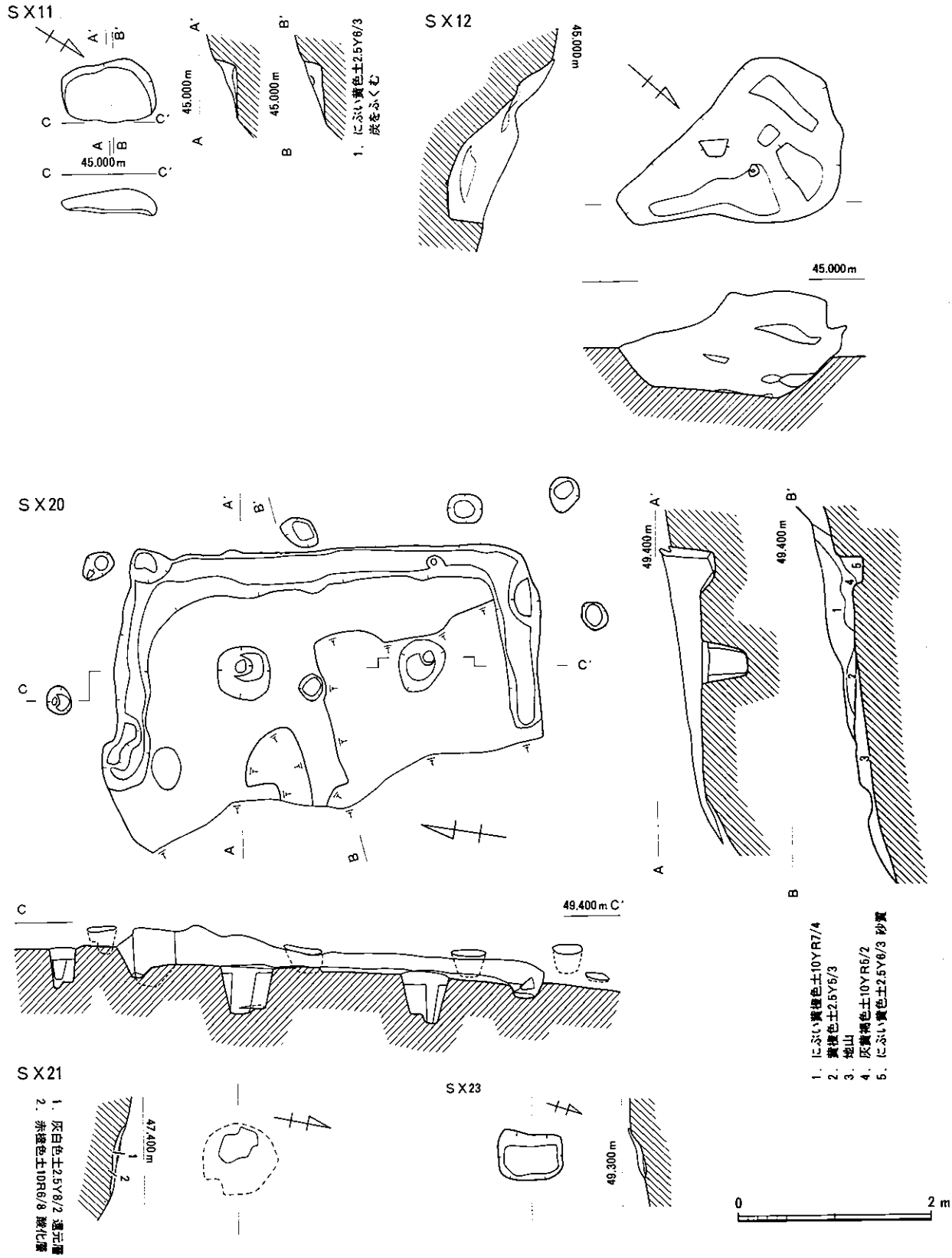
カマドは西壁を10㎝あまり掘り込み、北側・南側に50㎝・80㎝の袖がつく。袖の高さは５㎝程度であった。カマドの中央部には支脚に使用された完形の土師器甕が倒置されており、埋土には炭が多量に混じっていた。支脚の10㎝ほど東側には、径30㎝あまりの焼土が認められ、この焼土面からカマド内部の床面までは約７㎝下がっている。（石木）

出土遺物（第10図・図版第24）

出土遺物は、埋土あるいは、ベルト中からの検出品で、須恵器が大半で、比較的量も多い。須恵器には蓋杯（528－541、672・673）、高杯（545）、台付鉢（544）、短頸壺（546，547）、鉢（542）、碗（549）、広口壺（550、551）などがある。さらに特筆するべき遺物として紡錘車（548）がある。

須恵器の蓋は天井が比較的高く丸みを持つ。外面の1／2以上に回転ヘラ削り調整、内面他は回転ナデ調整を行っている。これに伴うとみられる杯身は短く内傾するたちあがりをもち、底部は比較的深く丸い形状をなし、外面2／3前後に回転ヘラ削り調整を行っている。また出土している杯身は、蓋とセット関係をなすものと考えられる。なお形状から見て二つの異なるタイプの蓋杯が認められる。両者は工人差という範疇で説明されるものではなく、おそらく微妙な時期差と見てよいだろう。高杯（545）は、短脚の無蓋の形状をなし、時期的には新しい段階の蓋杯に伴うものである。短頸壺（546，547）は、わずかに口径の差は見られるがほぼ同じ段階と見てよいだろう。とくに547はまったく欠損の見られない製品であった。鉢（542）は大きく外反する口縁部を持つもので、鉢（549）と近似する部分が多い。また台付碗（544）は、少々いびつな製品であるが、鉢、碗と共通する部分が多い。広口壺（550，551）は外反する口縁部の端部で肥厚させ、丸く仕上げている。体部は最大径を中位に求める球体をなすと見られる。両者は形状でわずかに異なるが、ほぼ同じ段階のものと見てよいだろう。

紡錘車（548）は、台円錐状の滑石製の完成品で、上下面には製作段階の調整痕跡が認められる。須恵器生産に伴う道具ではなく、生活用具と見られ、おそらく須恵器の壺などに入れられて保管さ



第12図　ＳＸ11・12・20・21・23実測図（1／60）

れていた可能性が濃いと考えられる。（中村）

ＳＸ10（第11図・図版第45）

ＳＸ09のすぐ上方にあり、ＳＸ09の背後を弧状に巡り東側斜面下方へむかって下がっている。ＳＸ09の背後あたりは既に削平されている。長軸10.6×短軸1.3ｍで、床面の形状は凹凸が激しく、小穴と小さな土坑状のものが連続しており、斜面下方へむかっては溝状になっている。ＳＸ09とは一部重複しているが、前後関係については不明である。遺構の性格について、ＳＸ09に一部平行しており、斜面上方に掘られた排水溝のようなものかとも考えられる。（石木）

ＳＸ11（第12図・図版第46）

ＳＸ10の下方に位置する。長軸0.96×短軸0.64ｍの隅丸方形に近い平面プランをとる。深さは斜面上方の最も深いところから21㎝、床面は水平である。遺構は床面が水平で人為的に掘り込まれているが、規模が小さく、性格はよく分からない。（石木）

ＳＸ12（第12図）

ＳＸ11のすぐ西隣に位置する。長軸2.45×短軸1.7ｍの略三角形状の平面プランを呈し、斜面上方から最も深いところで約1.1ｍである。掘り方は不整形であり、遺構ではない可能性もある。（石木）

ＳＸ21（第12図・図版第46、47、49）

２区の谷奥に位置し、ＳＸ22と谷を挟んでいる。ＳＸ21の斜面上方は大きく削平され水平になっている。径約80㎝の酸化焔焼成面が確認され、そのほぼ中央には灰白色の還元焔焼成面が確認された。焼成面の状況から、ＳＸ21が窯跡の残骸である可能性が考えられたが、表土剥ぎの際、遺構の周辺からＳＸ22までは全体に土が分かりづらく検出は難しかったものの、明確な窯体は検出されていない。またＳＸ21の下方では須恵器の出土があったが、明確な灰原の形成は認められなかった。したがって、窯跡であった可能性は否定できないもののその是非を確認するにはいたらなかった。（石木）

ＳＸ23（第12図）

ＳＸ21の西側約10ｍに位置する。長軸0.67×短軸0.54ｍの略長方形を呈する土坑であるが、深さは９㎝程度と非常に浅い。埋土は炭・焼土・焼土塊を多く含んでいた。周辺の地形は割と急な斜面であり、状況から住居等に付随するカマドである可能性は低く、また明確な窯体を伴わないことから窯の操業に関ることも考えにくい。したがって、遺構の性格については不明である。（石木）

出土遺物（第30図）

土坑内からの出土遺物には少量の土師器片があった。また斜面下方では蓋（682）と丸瓦（681）がある。蓋は中央につまみを伴うものであるが、細かな破片である。丸瓦は、器壁の薄いもので、

第13図　ＳＸ22実測図（1／60）

外面には須恵器の甕でみるものと同様な平行叩きが施され、内面は回転ナデ調整が行われている。神ノ前2号窯跡タイプのものである。

（3）1・2区間谷部（第14、15図）

谷部は1・2区の遺構を検出しながら、重機により掘り下げを進めていった。ここは1・2区上にあった丘陵が削平され、その土が押し込まれていると考えられたため、この盛土を除去し、下層にある遺構の検出に努めた。まず盛土を除去したところ、東側の土層セクション面で地表下約1.5mの所に草本類の腐食物を多く含む黒色土（3層）を検出し、これが丘陵削平前の表土層と考えられた。続いて炭・須恵器を多く含む層（4層）があり、須恵器の年代から1・2区における遺物の年代と著しい相違がないことから、これが1・2区における遺構形成時期に平行する谷部と考えられた。4層を除去した時点で遺構は認められなかったため、これをさらに掘り下げ、地山となる花崗岩バイラン土の検出を目指した結果、地表下約2.3mの所に非常に固い締まりのある褐色土（8層）を確認した。4層と8層間には5～7層の無遺物層を挟み、8層上面においても遺構の形成は認められなかったため、ここが地山とされる面と考え、当初はこれ以上の掘り下げをおこなわなかった。

しかし、1・2区の調査実施中に8層とした面で剥片石器を検出した。これは集積した状態であり、図中の①～④⑬～⑮の上面である。これを受けて谷部の中心を境に南北に分け、さらに東西方向は3mごとのA～E区に分け、個々にグリットを設定して掘り下げをおこなった。掘り下げは土が極めて固く、手鍬で力を入れてたたいても数cmしか下がらないような状態で困難を極めた。出土遺物があった場合はトータルステーションにより位置と標高を記録した上で取り上げてゆき、各グリットともに40～60cmほど掘り下げることができた。その結果、一部は8層とした石器・土器包含層を掘りぬくことができたが、調査期間の制約上すべて掘りぬくことはできなかった。　（石木）

出土遺物

出土遺物は石器・土器がある。いずれも8層上面から20cm以内で出土をみた。なお、遺物については、時間の制約上、本報告では取り扱えなかった。

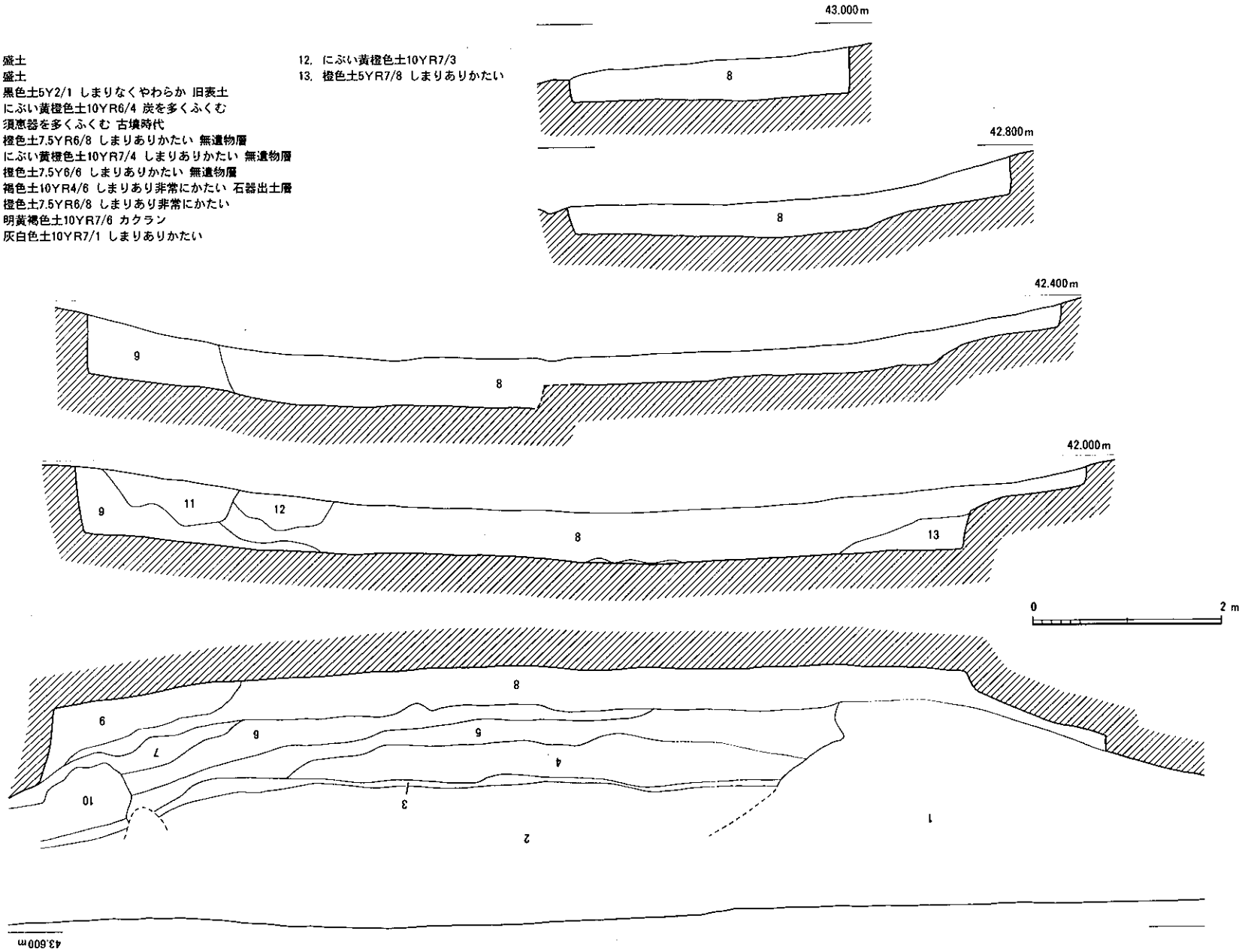
（4）3区

2～5号窯跡下方灰原（第16図・図版第50）

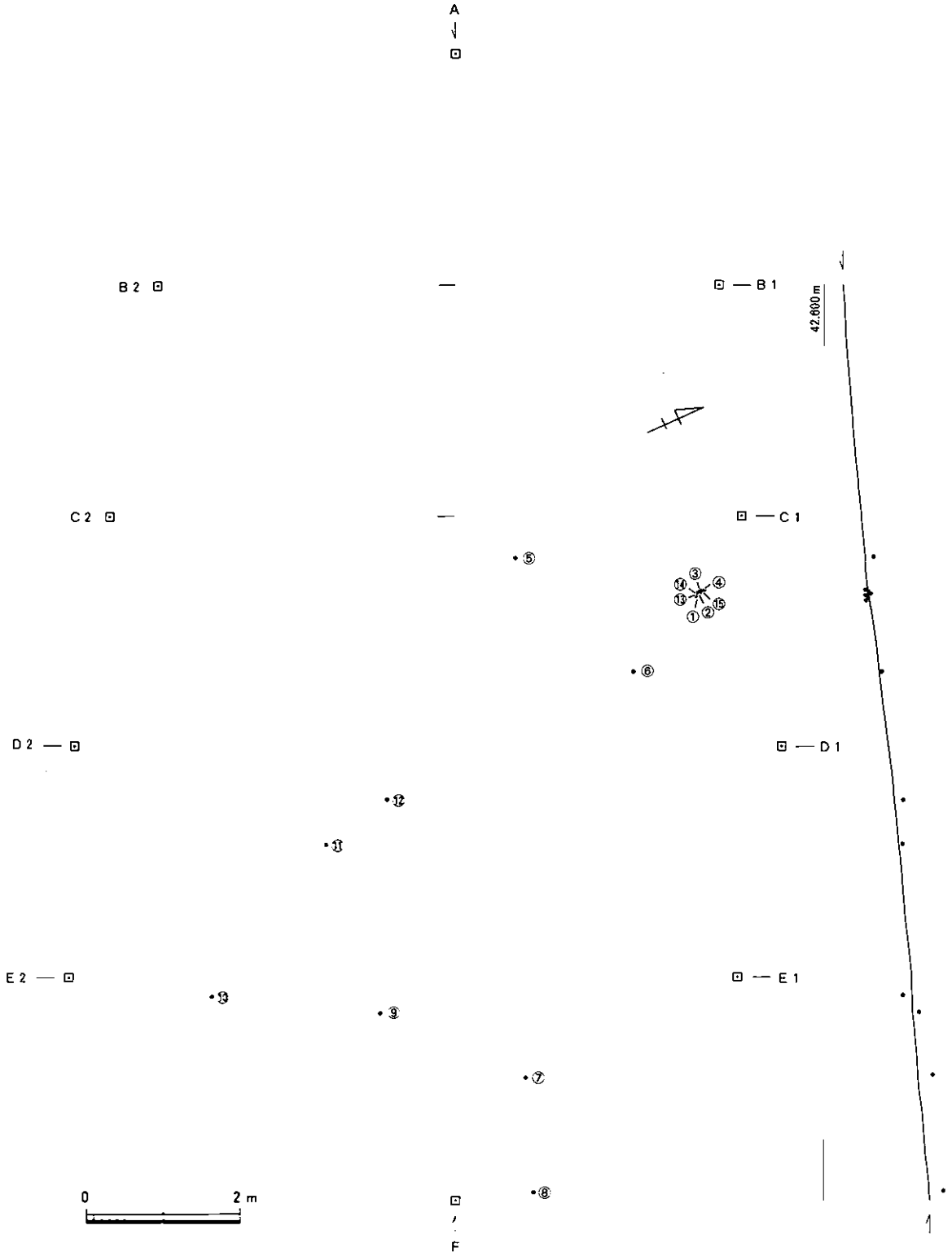
2～5号窯跡に関しては大谷女子大学により調査が実施され、窯本体の下方に広がる灰原についてもA～Iの9つのグリットを設定して各区ごとに掘り上げをおこなったのは既報のとおりである。灰原の調査は重機による表土剥ぎと並行して実施され、大学の調査ではSX20・24の位置する緩傾斜面までの調査をおこなったが、その後の表土剥ぎにより灰原はさらに下方にのびることが判明した。このため、この灰原の調査を下方灰原として市教委が実施した。

下方灰原の調査は縦断ベルトを2本設定し、西側から1～3区として斜面上方より掘り下げていった。ベルトの主軸は大学の調査に合わせるように努めたが、すでに大学調査の縦断ベルトは除去された後であったことと、重機による表土剥ぎにより下方灰原の上面は若干削りすぎたようであり、標高からすると大学・市教委調査の間で1m前後の差が生じてしまい、連続した実測図を作成する

1．盛土
2．盛土
3．黒色土5Y2/1 しまりなくやわらか 旧表土
4．にぶい黄橙色土10YR6/4 炭を多くふくむ
須恵器を多くふくむ 古墳時代
5．橙色土7.5YR6/8 しまりありかたい 無遺物層
6．にぶい黄橙色土10YR7/4 しまりありかたい 無遺物層
7．橙色土7.5Y6/6 しまりありかたい 無遺物層
8．褐色土10YR4/6 しまりあり非常にかたい 石器出土層
9．橙色土7.5YR6/8 しまりあり非常にかたい
10．明黄褐色土10YR7/6 カクラン
11．灰白色土10YR7/1 しまりありかたい
12．にぶい黄橙色土10YR7/3
13．橙色土5YR7/8 しまりありかたい



第14図　1・2区間谷部土層実測図（1／60）



第15図　1・2区間谷部遺物分布図（1／80）

ことはできなかった。

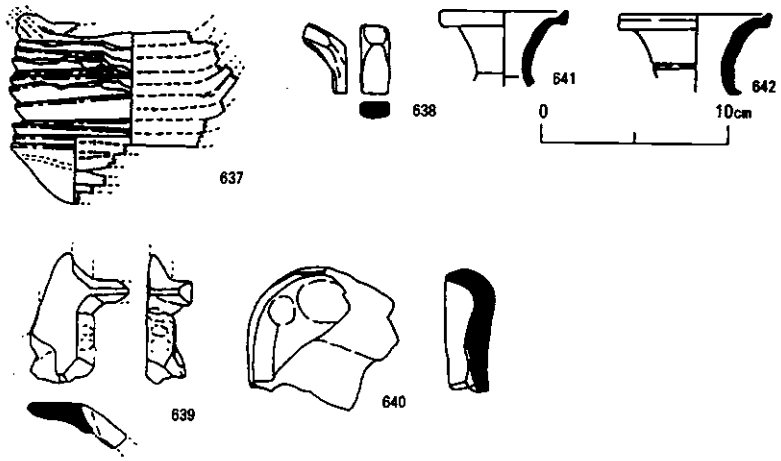
灰原は結局谷底までのびており、２～５号窯跡からすると20m以上も下方に流れていた。灰層は間層かと思われる灰白色土（２層）を挟んで上下２層が確認された。層内は分層できなかったが、厚いところでは50～60cmを測る。これらの層位と大学調査の土層との対応については、先述の理由により明らかにすることができなかった。灰層下には旧表土層（４・６層）が確認され、この層の下より後述する縄文時代の遺物が出土した。（石木）

第16図　2～5号窯跡下方灰原土層実測図（1／60）

出土遺物（第17図・図版第３～10、72～85）

出土遺物には須恵器・土師器があるが、土師器はＳＸ20・24などの遺物が混じったものと考えられる。須恵器もⅣＡ期のものとⅦ期のものに分かれ、前者はＳＸ20・24からの遺物と考えられる。

637は須恵器杯。重ね焼きの状態のまま釉着しており、15枚が確認される。638は壺類の把手か？639は瓦塔片。屋蓋の上端部の破片であり、丸瓦は断面三角の突帯貼り付けで表現する。640は小破片のため全形を知りようがないが、浅い皿状を呈し不整円形をなすことから風字硯の可能性を考えた。内面には指頭痕が認められる。



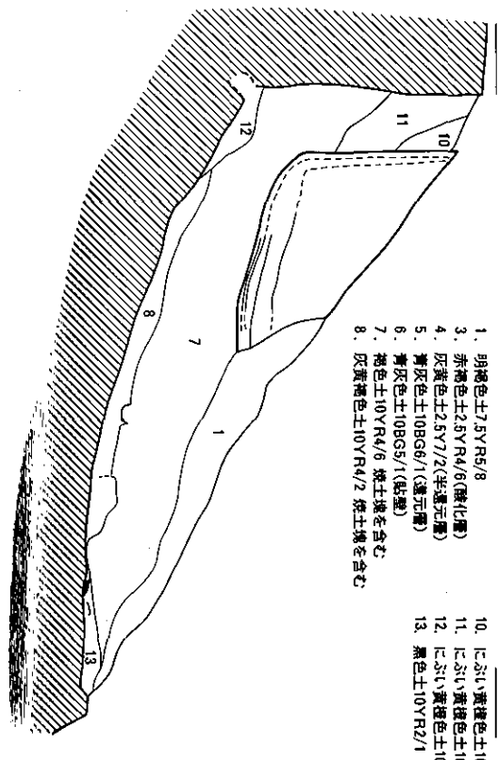
第17図　２－５号窯灰原出土遺物実測図（1／4）

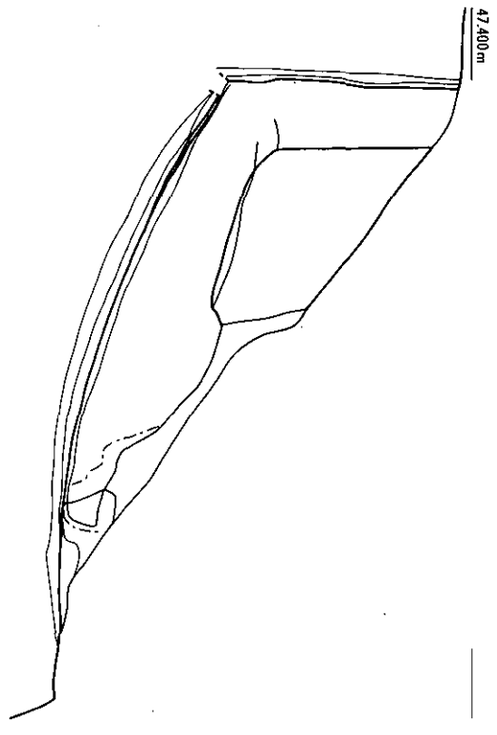
６号窯跡（第18図、図版第50、51）

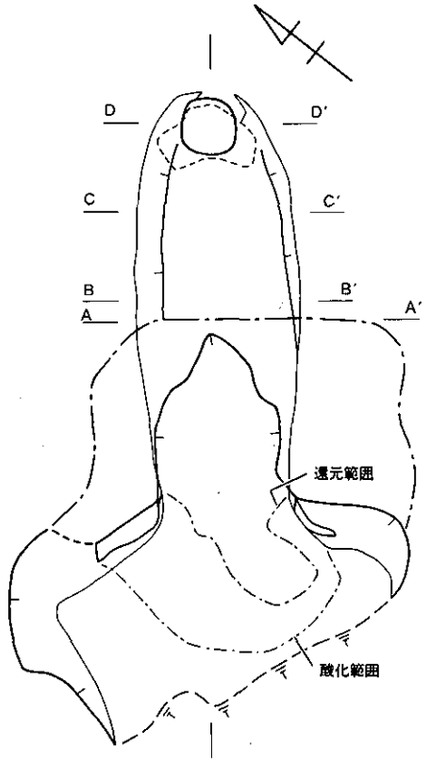
３区の中ほどにおいて検出され、２～５号窯跡の位置する所から緑地造成により一段低くなる平坦面の南西斜面に位置する。７～９号窯跡とともに間隔をおいて４基並んでおり、２～５号窯跡とは立地・群構成が異なっている。斜面上方は造成によりすでに失われており不明な部分があるが、直線斜面の斜面中部に位置すると考えられる。窯跡はちょうど排煙口まで削平が及んでいたが、その影響は小さく、排煙口が10cmほど削られた程度と考えられる。

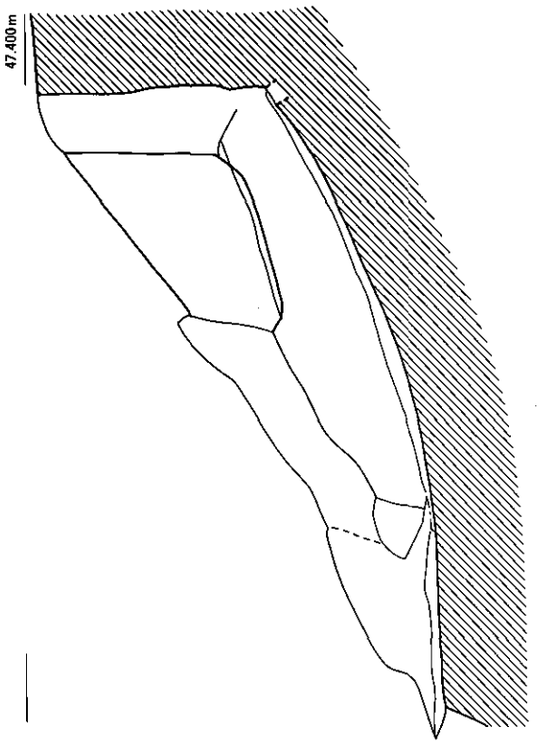
窯跡は、花崗岩を母岩とするバイラン土に掘り込まれる。遺構検出時には円形の排煙口が認められ窯跡の存在が確認できたが、灰原は僅かに認めるのみであった。検出時にはよく分からなかったが、焚口側より掘り下げていくと前庭部は極めて狭く、灰原も黒色を呈する炭・焼土等を含むいわゆる灰層がほとんど確認されず、斜面上に薄い堆積層が認められるのみであった。これは窯を作る以前、ここは円弧すべりをおこし、あまりの急傾斜のため斜面下方に流れたと考えられ、斜面下方からは遺物の出土が確認される。

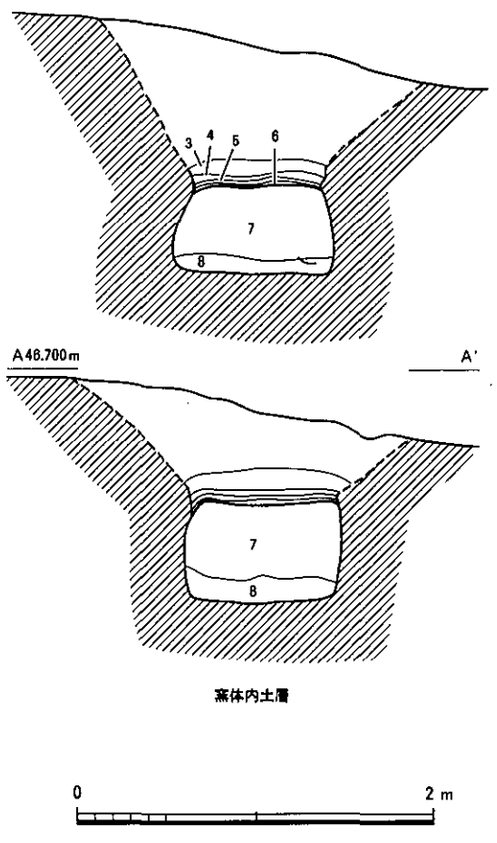
窯跡を掘り下げてゆくと、焼成部の手前側まで天井が残存しており、煙突の形状から地下式直立煙道窯と判断された。窯跡は前庭部が流失した可能性もあるが、残存長は主軸上で3.45m、主軸はＮ－51°－Ｅにとる。平面プランは焼成部中央がやや張り、焚口部がやや狭められ、奥壁は丸くなる。天井部は焚口側が失われていたが、残存部の最も高い所で54cm、煙道口下部の最も低い所で44cm。窯跡の横断面形は台形状を呈しており、上両角部の稜が煙入口まで続いていた。貼床は焼成部奥側で厚さ２cm程度認められたのに対し、貼壁は厚さ３～４cm程度で窯体内のほぼ全体に認められる。また、前庭部から焚口部・焼成部中位にかけては、須恵器・焼台が掻き集められた状態で検出された。

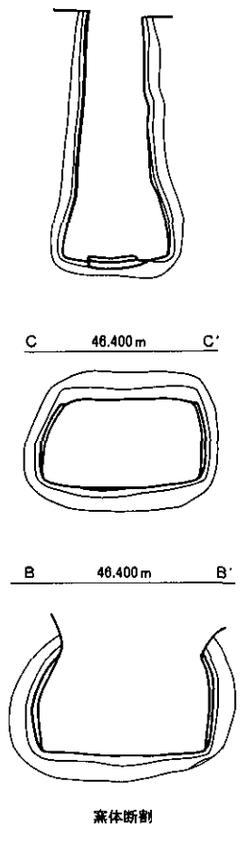


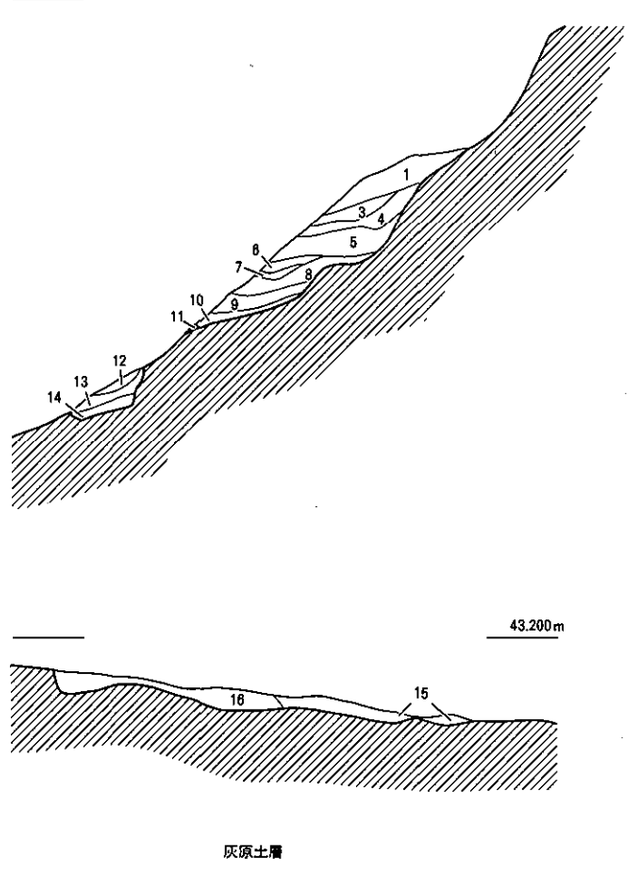












第18図　6号窯跡実測図（1／40）

焚口・燃焼部　焚口部は最も狭まる所で幅0.72m。燃焼部と焼成部の境は平面プラン・傾斜変換点からは明らかにできないが、前庭部側は焚口部の外側に還元面・酸化面が広がり、前庭部壁面も一部還元していることから燃焼部は焚口外より始まると考えられる。また窯体縦断面土層では最終操業にともなう灰層（13層）が認められた。焚口部周辺で遺物が掻き集められた状態で出土した際に前庭部側の遺物の一部が黒色土に覆われており、この層は先端が焚口部より前庭部側へ37cmのところまでしか達しないが、層中にわずかに炭を含んでいた。したがって、最終操業後に窯内と前庭部灰層を片付けた後、遺物の集積があったと判断される。焚口から前庭部床面の傾斜角度は25°を測る。

焼成部　焼成部は中央に最大幅をとり、奥壁は丸くなっている。最大幅は0.94m。焚口部から焼成部の長さは0.36m、床面傾斜角度は下半で10°、上半で35°である。床面は焚口から奥壁まで平板化しており、奥壁側の傾斜はそれほどきつくない。奥壁には部分的ではあるが貼床が認められた。貼床には粘土塊焼台の設置範囲が焼成痕跡として残されており、これから床面を掘り窪めることなく直接焼台を設置したと考えられる。また奥壁下には径約30cmほど床面が認められない部分があった。床面が認められなかった部分の土はやわらかく、これを掘り下げると地山面に達した。

排煙部　奥壁が垂直に立ち上がり、煙道口から排煙口にいたる。平面プランは円形で、煙道全体は細長い筒状を呈する。煙道口は径40cm、排煙口は径32cm。煙道口から排煙口までの高さは1.02mである。

前庭部　幅2.25m、南西側は狭いが主軸上で1.10mの方形に近いプランを呈する。床面は操業に伴う還元面・酸化面が確認され、焚口部から80cm外側の半円形の部分が酸化している。

灰原　検出時には明瞭な灰層が確認できず、範囲に関してはよく分からなかったが、長軸6.4m短軸3mのやや土の異なる部分を灰原と考えた。大半が既に流れたと考えられ全体に灰原の土は薄く、特に前庭部側は連続しない。土層は灰層と考えられる焼土・炭を含む層と流土と考えられる層が4～10cmほど互層に堆積していた。各層は水平から斜面下方に下降する堆積状況を示しており、プライマリーなものか判断できない。（石木）

遺物出土状況（第19図・図版第50）

焼成部中央から前庭部にかけて多量の遺物が出土した。須恵器・粘土塊焼台などが掻き集められた状態で確認され、すでに破損したものを集めたようで完形のものは少ない。床面上に置かれており、堆積の最も厚い所は15cmほどであるが、焼成部奥側に置かれた遺物は少ない。

出土遺物（図版第11～13、73～75）

232～271は焼成部中央から前庭部にかけての遺物で、窯内の一括資料にあたる。232～247は杯蓋。232～234はつまみがつくが、いずれも天井部外面の回転ヘラ削りは施されない。口縁端部は233はわずかに折り曲げられ、234は端部付近を強くナデている。235～247はつまみがつかない杯蓋。口径13.5cm前後のものと15cm前後のものの2者に分かれる。いずれも天井部は平坦に近く、外面の回転ヘラ削りは施されない。口縁端部は細い沈線を巡らせるか、わずかにつまみだすのみである。237・243・245などには内外面に重ね焼きの痕跡があり、杯身と交互に重ねられたものと思われる。248～252は杯身。248・249は口径12cm前後に復元できる。底部と体部の境に低い高台を巡らせ、高台



第19図　6号窯跡内遺物出土実測図（1／40）

部の整形は極めて粗雑である。250～252はいずれも体部との境よりもやや内側に断面箱形に近いやや高い高台がつけられ、高台の整形は丁寧である。253～266は杯。口径12～13cmに復元される。底部外面は回転ヘラ切り後ナデによる処理がおこなわれるが、253などのように底部がややふくらむものと、255などのように水平になり、体部と底部の境が角張るものに2種に分かれる。260には口縁部外面に重ね焼きの痕跡が認められ、2～5号窯跡灰原出土の637のように杯のみを重ねる方法で焼成されたものと考えられる。杯の全体的な形態は248・249とまったく変わらない。267・269・271は杯もしくは杯身の体部。267は口縁部下に重ね焼きの痕跡を有し、253のような杯と考えられる。269・271は口径24cm前後と大形で、269は体部下方に回転ヘラ削りを施す。268は土師器杯。底部に丸みをもち、手持ち成形と考えられる。270は須恵器甕の体部片。外面平行タタキ、内面同心円当て具の上に平行条線当て具痕が認められる。焼台もしくは別の用途に使用されたものであろう。

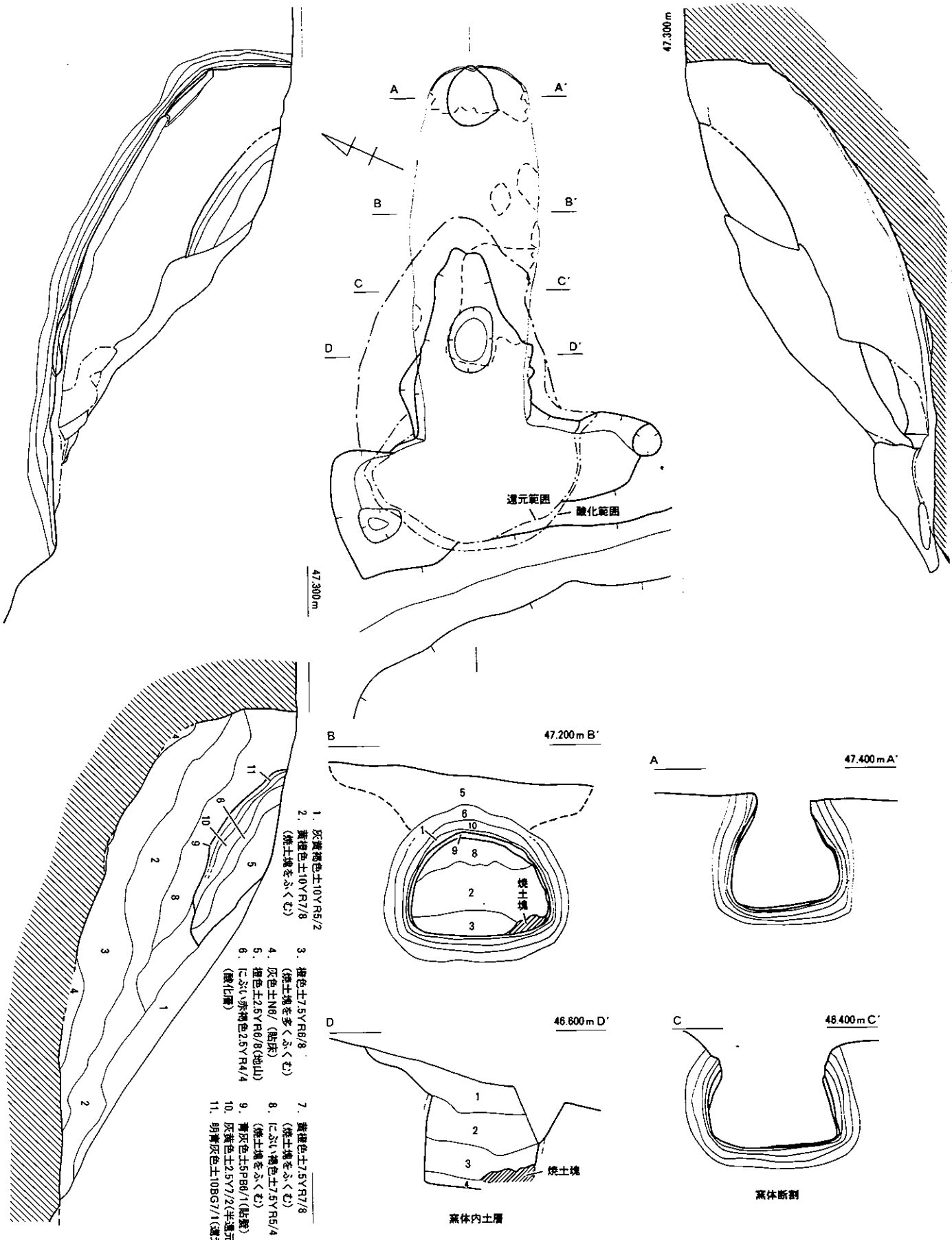
273～277は窯内からの出土遺物であるが、先述の一括資料以外のもので窯体内埋土出土のものである。273は杯身。小片であり、外面にヘラ記号を有する。274は杯蓋。天井部外面は回転ヘラ切り後若干ナデるのみで、口縁端部は全く折り曲げられない。275は短頸壺。小片である。頸部は高く、外面にはカキメが施される。277は甕。小片である。口縁端部の破片で、径の復元には難がある。272は黒色土器B類の椀。体部の小片であり、内外面ともに摩滅している。口縁部は外反し、体部は丸く仕上げられる。276は土師器椀。高台は高く外方へ開き、体部は丸く、口縁部は外反する。

（石木）

7号窯跡（第20、22～24図、図版第52、53）

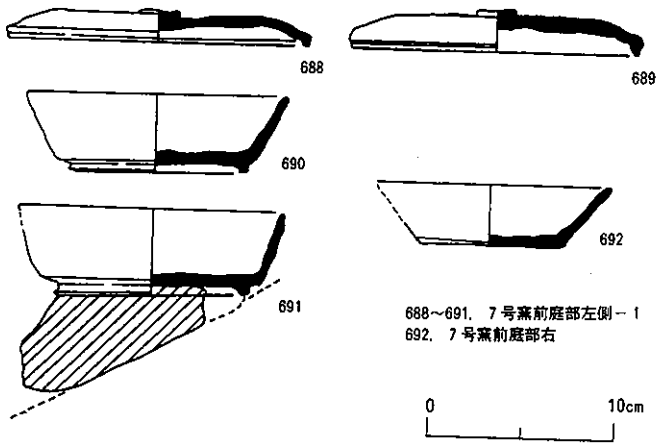
6号窯跡の南西側約7mに位置する。6～9号窯跡はほぼ等間隔で並んでいるが、焚口部の標高は6～8号窯跡がほぼ同じような位置にあり、9号窯跡がやや下がった所に位置する。窯跡の斜面上方は造成によりすでに失われており不明な部分があるが、直線斜面の斜面中部に位置すると考えられる。窯跡は煙道部が相当削平されており、斜面の傾斜から考えると50cm以上は削られていると考えられる。

窯跡は、花崗岩を母岩とするバイラン土に掘り込まれる。本調査地で試掘調査を開始して最初に存在が確認された窯跡で、円形の排煙口が認められた。焚口部周辺はやや緩傾斜となっており、窯跡の左右には土坑が確認され、これを前庭部土坑右・左として調査をおこなった。窯跡を掘り下げてゆくと、焼成部中位くらいから煙道部まで天井部が残存しており、地下式直立煙道窯であることが確認できた。残存長は主軸上で2.78m、主軸はN－65°－Eにとる。平面プランは焼成部中位に最大幅をとり、焚口がやや狭められ、奥壁は丸くなる。天井部は焚口部が失われていたが、残存部の最も高い所（煙道口下部）で95cm、低い所（焼成部中位）で76cm、窯跡の横断面形はアーチ形を呈し、縦断面形は床面と同じような角度で煙道口へいたる。貼床は窯面の所々に認められるのみであったが、床面の状況から見て一部は削られた可能性もある。貼壁は厚さ4cm単位で側壁のほぼ全面に認められた。前庭部から窯体内にかけては須恵器・焼台などが残っており、焼成部上位には粘土塊焼台が操業時のまま検出された。灰原を掘り上げると、6号窯跡灰原下から7号窯跡灰原下にかけて長軸10×短軸7mの範囲で円弧すべりの痕が確認された。



第20図　7号窯跡実測図（1／40）

焚口・燃焼部　焚口部は最も狭まる所で幅0.76m。窯体縦断面土層では最終操業にともなう灰層が認められなかったが、燃焼部と焼成部の境は床面上に検出された舟底状ピットにあたると考えられ、焚口部からの距離は0.95m。舟底状ピットは長軸0.50×短軸0.34m、深さ6cm程度と小さく、浅いものであり、貼床が8cm認められた。前庭部側は6号窯跡と同様に焚口部の外側に還元面・酸化面が広がり、前庭部壁面も一部還元していることから燃焼部は焚口外より始まると考えられる。焚口から燃焼部にかけての傾斜角度は5°を測る。



第21図　7号窯跡遺物実測図（1／4）

焼成部　焼成部は中央に最大幅をとり、奥壁は丸くなっている。最大幅は1.00m。燃焼部境から焼成部の長さは1.84m。床面傾斜角度は下半で18°、上半で54°、床面は焚口から奥壁にかけて弓なりに上がっており、奥壁側の傾斜は自力で上がるのが困難なほどである。貼床は奥壁や右側壁周辺を中心に認められたが、状況から見ると貼床は全面に貼られていたと思われ、窯内の片付けに伴い大部分が削られたものと考えられる。奥壁側に残された貼床には粘土塊焼台がそのまま残され、また粘土塊焼台の設置範囲が焼成痕跡として残されており、これから床面を掘り窪めることなく直接焼台を設置したと考えられる。

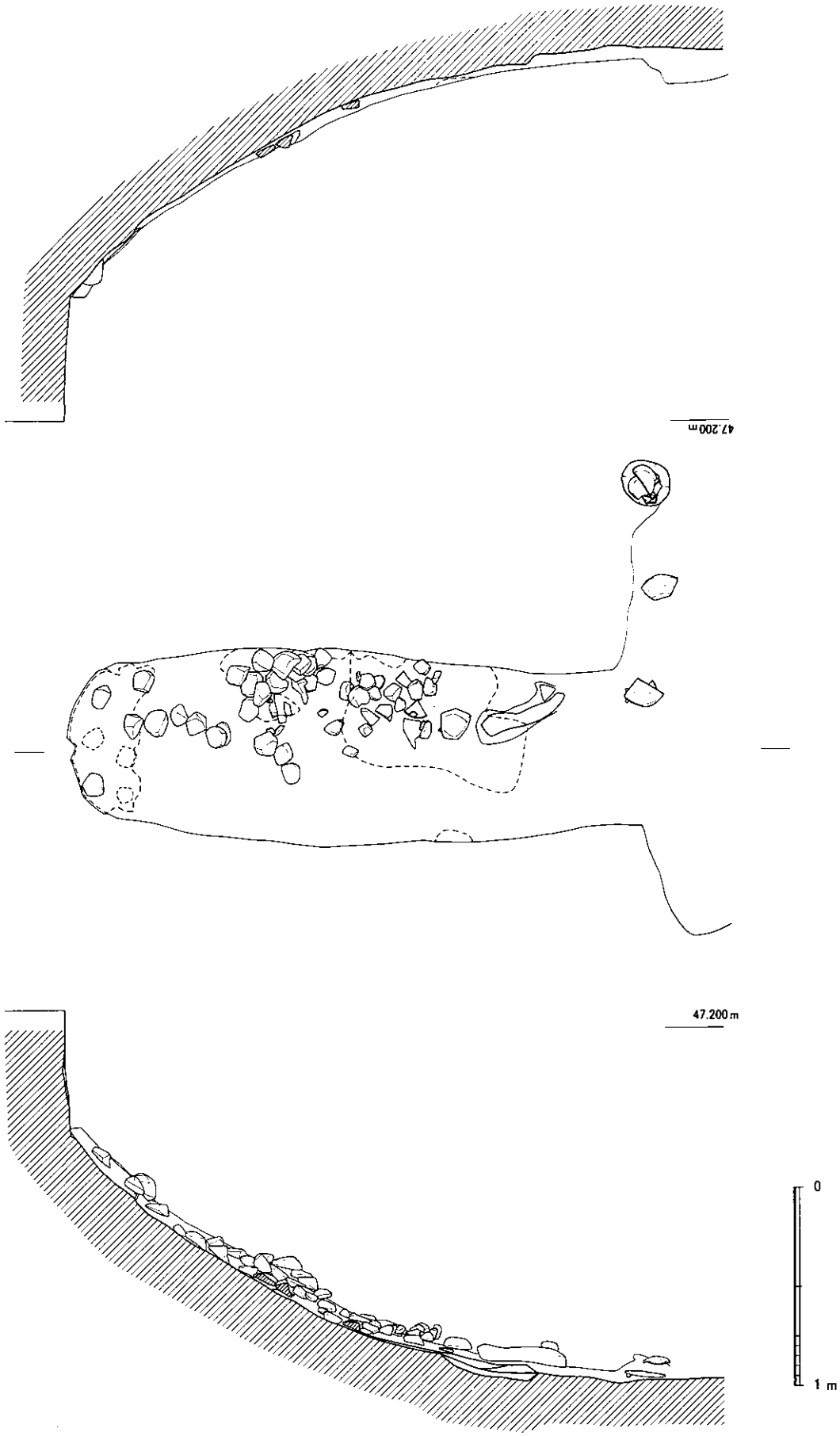
排煙部　奥壁は垂直に立ち上がり、煙道口にいたる。排煙口からは相当の削平があったと思われ、煙道口からの高さは僅か18cm残存するのみである。煙道の平面プランはほぼ円形で、長軸47×短軸36cm。

前庭部　幅2.56m、南西側は一部流失した部分があると考えられるが主軸上で0.85mの方形に近いプランを呈する。床面は操業に伴う還元面・酸化面が確認され、焚口部から77～85cm外側の半円形の部分が還元している。

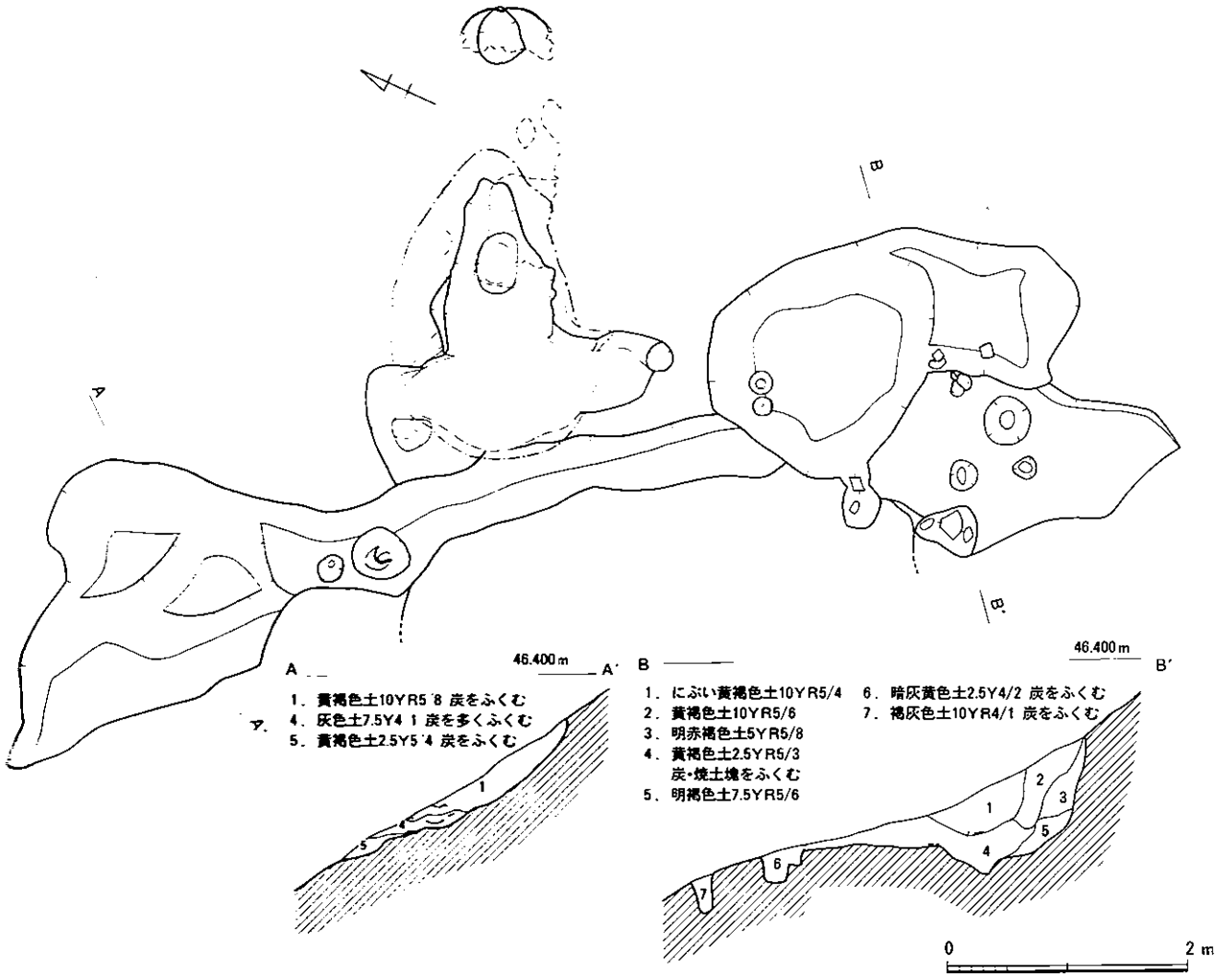
灰原　検出時に長軸約6×短軸5mの灰層の範囲が確認された。斜面下方より掘り下げをおこない地山まで検出していったため平面での確認ができなかったが、土層断面で長さ1.84mの黒色灰層（2層）の形成があり床面がほぼ水平となることからここに土坑があったものと思われる。斜面下方は円弧すべりにより岩脈が露出していた。土層は灰層が流れ2次堆積したような状況を示しており（8・9・11層）、2層周辺の堆積状況とは異なり、斜面下方まで灰層は連続しない。

前庭部土坑　焚口の左右で1基ずつ確認された。右は長軸3.17×短軸1.75m、最も深い所で斜面上より1.18mの土坑である。下層には炭・焼土塊を含んでおり、北西隅からは須恵器短頸壺・蓋が完形で出土した。蓋は外されて壺の脇に置かれており、いずれも正置されていた。土坑の底面は浅い皿状を呈する。

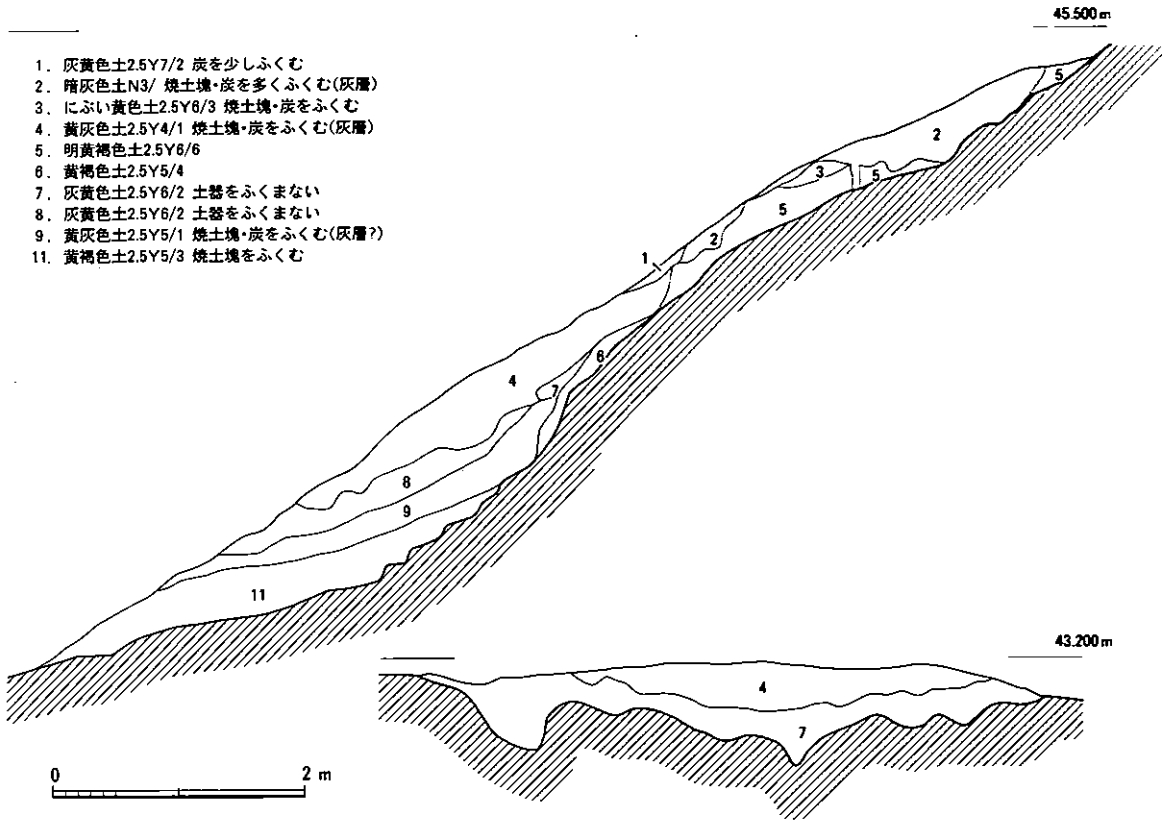
左は長軸2.94×短軸2.10mの範囲で斜面を段状に掘り込んでおり、斜面下には長軸2.5×短軸0.64



第22図　7号窯跡遺物出土状況図（1／30）



第23図　7号窯跡前庭部実測図（1／60）



第24図　7号窯跡灰原実測図（1／60）

mの平坦面がある。斜面上の高い所から平坦面までは1.45m比高差があり、斜面側にはテラスが2段あったが明確な掘方はともなわない。埋土は浅く30cm程度、下層（4・5層）は炭と土器を多く含んでいる。（石木）

遺物出土状況（第22図）

窯内からは焼台・須恵器が出土した。焼台は焼成部奥のものは原位置を保っているが、大半は左側に寄せられた状態であった。須恵器は小片で、焼台の間に落ち込んでいることから、廃窯時に雑然と片付けられたものと思われる。

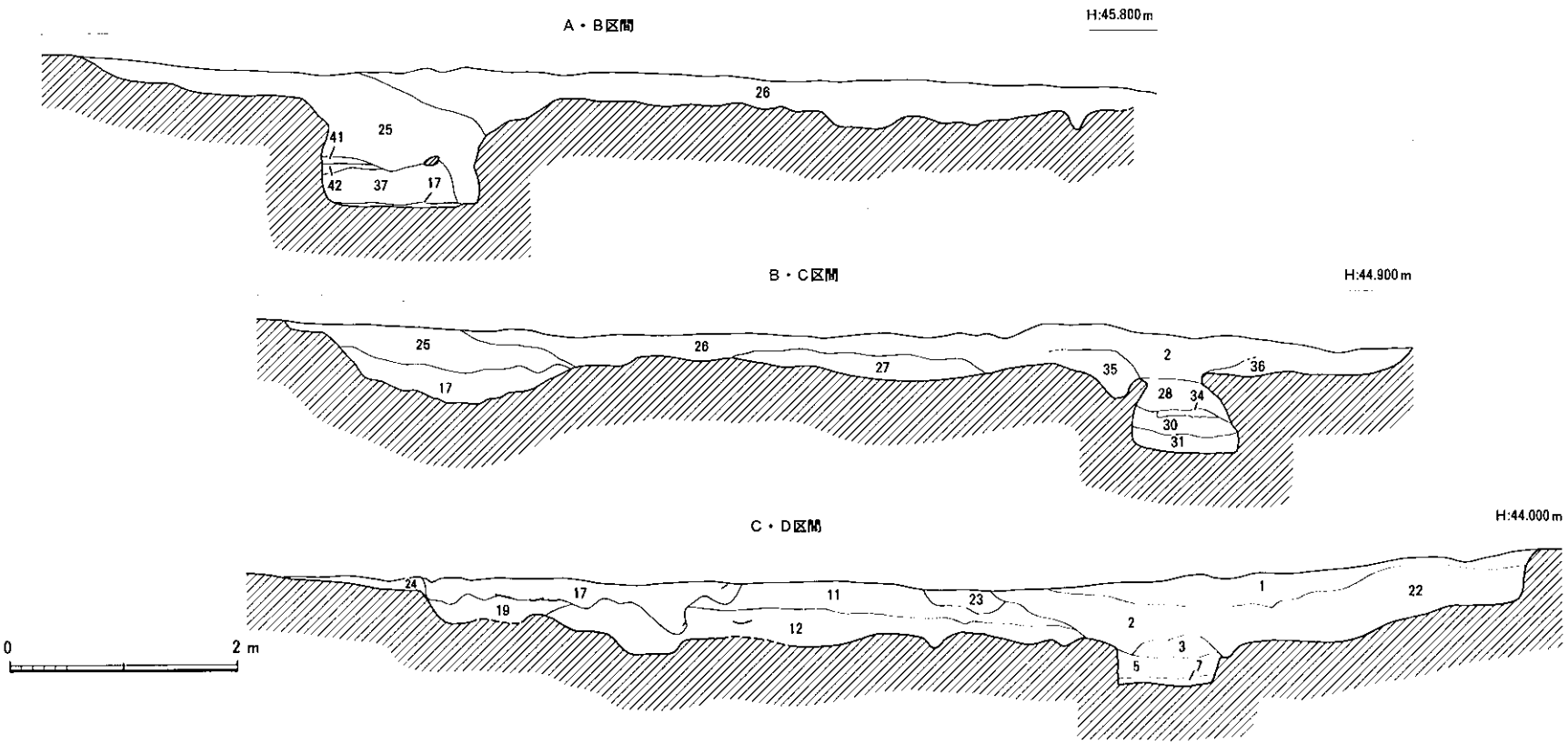
出土遺物（第21図・図版第14～16、76、77）

326～330は床面上から出土し、片付けにともない廃棄されたと判断される土器群である。326～329は杯蓋。つまみは低く小さくなり、ボタン状に近くなるが、口縁部は下方に折り曲げられており高い。天井部外面のヘラ削りは327を除いて施されない。331・332は前庭部右側のピットから出土したものである。径20cm程度のピットで、中には須恵器皿が数枚入れられていた。いずれも焼きが悪く、全体に摩滅が著しい。333は前庭部土坑右から出土。いずれも完形品である。セットになっていたと思われ、壺の頸部下には重ね焼きの痕跡が残る。蓋は高いつまみを有し、ほぼ水平な天井部から下方に折り曲げられ、口縁端部は外反する。壺は体部上半はカキメ、下半は回転ヘラ削りを施し、ハの字に開く高い高台をつけ、内端面で接地する。蓋のつまみと壺の高台には細かな剥離痕が認められ、あるいは土坑に正置される以前の使用痕であろうか？

334～347は窯体内埋土からの出土遺物。334・335・338・340・343は杯蓋。いずれも口縁端部は折り曲げられるが、天井部外面にヘラ削りが施されるのは335と338である。つまみは扁平なボタン形に近くなる。334・338・340には内外面に重ね焼きの痕跡が認められ、杯身と杯蓋を交互に重ねたようである。336～344は杯身。336・337・339・341・342は高台を有する杯身である。高台はいずれも低く箱形に近い。344はかえりのある杯身。小片である。345は高杯脚部。焼成不良。脚基部と脚部の破片で接合しないが、同一個体と考えられる。脚端部は下方に折り曲げられる。346・347は皿。346は焼成不良で器壁の風化は著しいが、底部外面は回転ヘラ削りを施し、口縁部は外方にのびた後丸くおさめられる。347も底部外面は回転ヘラ削りをほどこすが、体部はやや丸みをもち口縁端部は内傾させる。（石木）

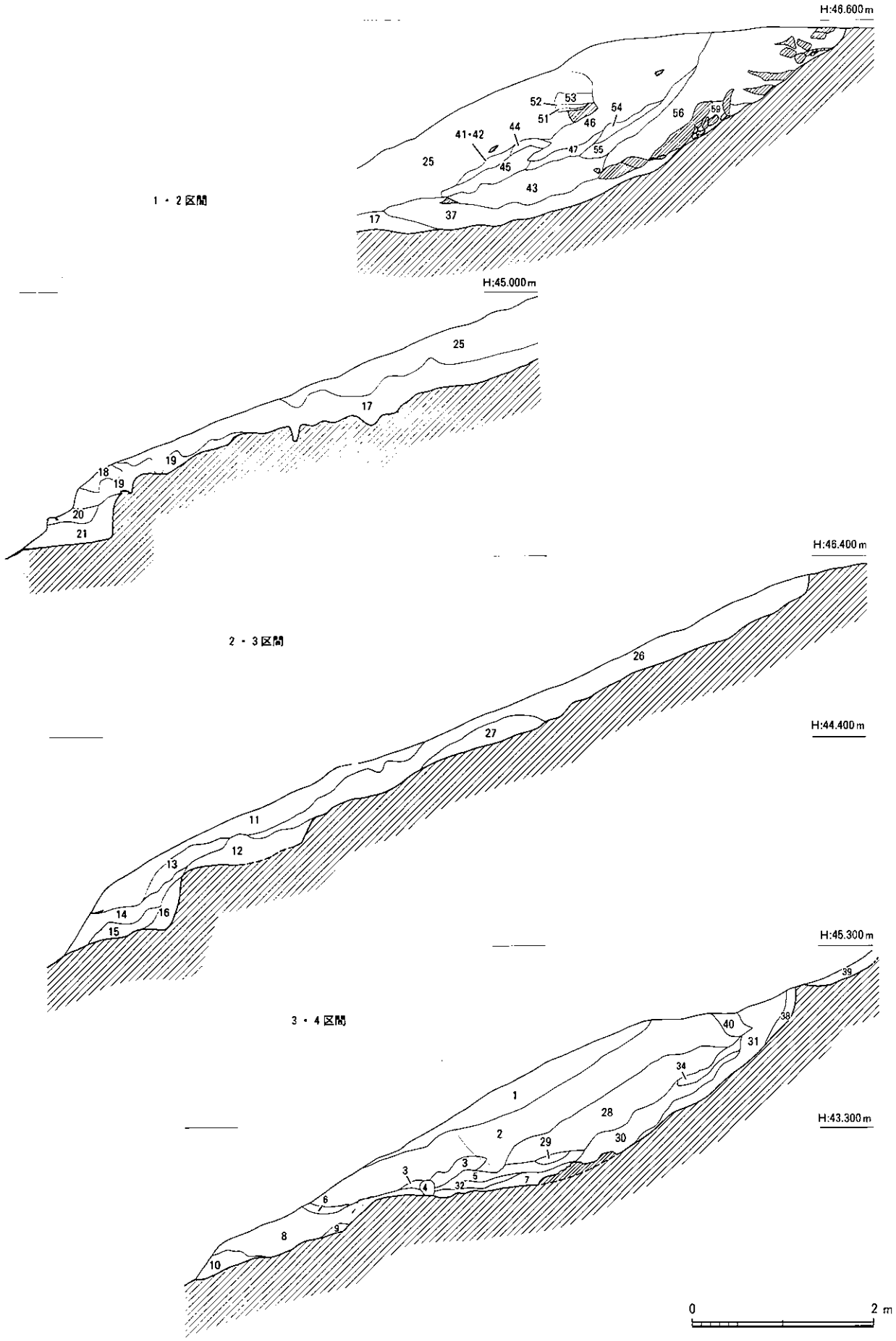
8・9号窯跡（第25、26図、図版第54～59）

調査区内3区南東部端の斜面上に2基の窯跡が確認され、谷奥側に位置する窯跡から8号窯跡、次いで9号窯跡とした。検出の時点では両窯跡の残存状況や相互の関係が不明瞭であったため、2つの窯跡と灰原を覆う範囲に、斜面に並行して縦4列（1～4区）直交して横4列（A～D区）の区画を設け、A－1～D－4の計16区画で平面的な広がりや層序の把握、遺物の取り上げに努めた。このうち1・2区間と3・4区間のベルトは、それぞれ8号窯跡・9号窯跡を縦貫しており、窯体内の縦断土層を兼ねている。各窯跡についての詳細は個別に述べた。またC・D区間の土層をみると、8号窯跡灰原灰層（11・23層）上に9号窯跡埋土（2層）が展開しており、層位的に8号窯が9号窯に先行することが確認できる。このほか8号窯跡とその斜面下方に位置するSX35について、



1. 明赤褐色土5YR5/8 しまりなくやわらかい 焼土塊・炭を含む 表土の流土
2. 黄褐色土10YR5/8 しまりあり 焼土塊・土器を少し含む 9号窯跡埋土上層
3. 橙色土7.5YR6/8 しまりあり 焼土から砦を含む 9号窯跡埋土中層
4. にぶい黄褐色土10YR5/4 しまりなくやわらかい 木根。
5. 明褐色土7.5YR5/8 焼土塊を多く含む 9号窯跡埋土下層
6. 暗灰黄色土2.5Y5/2 焼土塊・炭を少し含む
7. 黒褐色土2.5Y3/2 焼土塊・炭を多く含む 9号窯跡最終操業炭層
8. 灰黄褐色土10YR4/2 焼土塊・土器を含む 9号窯跡灰原灰層
9. 黄褐色土10YR5/6 しまりありかたい 9号窯跡前底部土坑埋土
10. 9と同じ
11. 灰黄色土2.5Y7/2 しまりあり 黒褐色土を含む 8号窯跡灰原灰層
12. にぶい黄褐色土10YR5/3 しまりあり
13. 明黄褐色土10YR6/8 しまりあり 8号窯跡灰原灰層下掘り土
14. 浅黄色土2.5Y7/3 しまりありかたい SX35埋土上層
15. 橙色土7.5YR6/8 しまりありかたい SX35埋土上層
16. 灰黄色土2.5Y6/2 しまりありかたい SX35埋土下層
17. 褐灰色土10YR4/1 焼土塊を含む 8号窯跡灰原灰層
18. 黒褐色土10YR3/1 焼土塊を含む 8号窯跡灰原灰層
19. にぶい黄橙色土10YR7/3 炭を含む 8号窯掘り土
20. 灰黄色土2.5Y7/2 しまりあり SX35埋土上層
21. にぶい黄橙色土10YR6/3 SX35埋土下層
22. 明黄褐色土10YR6/8 しまりあり 焼土・炭を含む
23. 褐灰色土10YR4/1 焼土塊を含む 8号窯跡灰原灰層
24. にぶい黄褐色土10YR6/4
25. 暗灰黄色土2.5Y5/2 しまりなし 焼土塊・土器を含む
26. 明黄褐色土10YR6/6 しまりあり
27. にぶい黄褐色土10YR5/4
28. 黄橙色土10YR7/8 しまりありかたい 焼土塊を含む
29. にぶい赤褐色土5YR4/4 しまりなし 焼土が崩れた土
30. 明黄褐色土10YR6/8 しまりなくやわらかい
焼土塊を多く含む 9号窯天井部崩落土
31. 明赤褐色土5YR5/8 しまりなくやわらかい 9号窯跡埋土下層
32. にぶい黄褐色土10YR5/3 しまりなくやわらかい
焼土塊・炭を含む 9号窯跡埋土下層
33. 暗赤褐色土2.5YR3/4 炭を含む
34. 暗赤褐色土2.5YR3/3 焼土塊を多く含む 9号窯跡天井崩落土
35. 黄褐色土10YR5/8 しまりありかたい 地山。
36. 35と同じ
37. 明赤褐色土5YR5/8 細かい窯壁片からなる
直上に8号窯天井部が崩落
38. 明褐色土7.5YR5/8 焼土塊を含む 9号窯跡埋土下層
39. 明黄褐色土10YR6/8 しまりあり
40. 明黄褐色土10YR7/6 しまりあり 焼土塊を含む
41. にぶい黄橙色土10YR7/4 しまりあり
42. にぶい黄橙色土10YR6/4 しまりなくやわらかい 焼土塊・炭を含む
43. 灰黄褐色土2.5Y7/2 しまりなし
44. にぶい黄色土2.5Y6/3
45. 褐色土7.5Y4/4 窯壁片を含む
46. 灰黄褐色土2.5Y7/2 しまりなし 焼土塊を含む
47. 浅黄色土2.5Y7/3 しまりなくやわらない
48. 青灰色土10BG5/1 しまりありかたい 8号窯跡貼壁
49. 黄灰色土2.5Y4/1 しまりありかたい 8号窯跡貼壁
50. 暗赤褐色土5YR3/2 しまりなし 炭を含む 8号窯跡貼壁
51. 灰色土10Y6/1 しまりありかたい 8号窯跡地山還元層
52. 灰黄色土2.5Y6/2 しまりありかたい 8号窯跡地山半還元層
53. 赤褐色土2.5YR4/8 しまりありかたい 8号窯跡地山酸化層
54. にぶい黄色土2.5Y6/3 しまりあり
55. 黄褐色土2.5Y5/3 しまりありかたい 地山の流土
56. 橙色土7.5YR6/8 しまりありかたい 地山の崩落土
57. 明赤褐色土2.5YR5/8 しまりあり
58. 橙色土2.5YR6/8 しまりなくやわらかい
59. 37と同じ

第25図 8・9号窯跡横断土層実測図（1／60）



第26図　8・9号窯跡縦断土層実測図（1／60）

1・2区間、2・3区間の土層観察から、SX35の埋土（14～16・20・21層）上に8号窯の掘り土(19層)、8号窯灰原灰層（11・17・18層）が堆積しており、SX35の埋没後に8号窯の構築という先後関係が確認できる。（一瀬）

8号窯跡（第27図、図版第54～57）

調査区内3区のうち、9号窯跡と共に南東部端の斜面上に位置する。地下式の窯で、奥壁・煙道は既に失われていた。残存する焚口～焼成部の窯体水平長は主軸上4.69mを測り、窯体実効長は10m弱に推定される。主軸はN－45.0°－Eにとる。平面形は、焚口・燃焼部幅約1.3m、焼成部中位に最大幅1.63mを測り、やや胴が張るプランをもつ。断面形は天井がアーチ状ではなく、全体的に台形に近い形を呈していた。天井部は、焼成部に長さ約30cm残存するほかは既に崩落し、窯体内に多量の窯壁片が堆積していた。被熱状態は燃焼部～焼成部下位の壁面・床面に確認できたが、焼成部の大半は側壁・床面が削り取られた状態で検出された。

焚口・燃焼部　燃焼部は、長さが主軸上で1.10m、幅は焚口1.30m、焼成部境1.32mとほぼ変わらず、床面傾斜度は約2°を測る。側壁は左右とも黄褐色～青灰色に被熱し、焚口と床面近くは赤変していた。床面は全体的に赤褐色に被熱し、一部に貼床の残存が確認できた。貼床は被熱面上に1枚貼られていた。

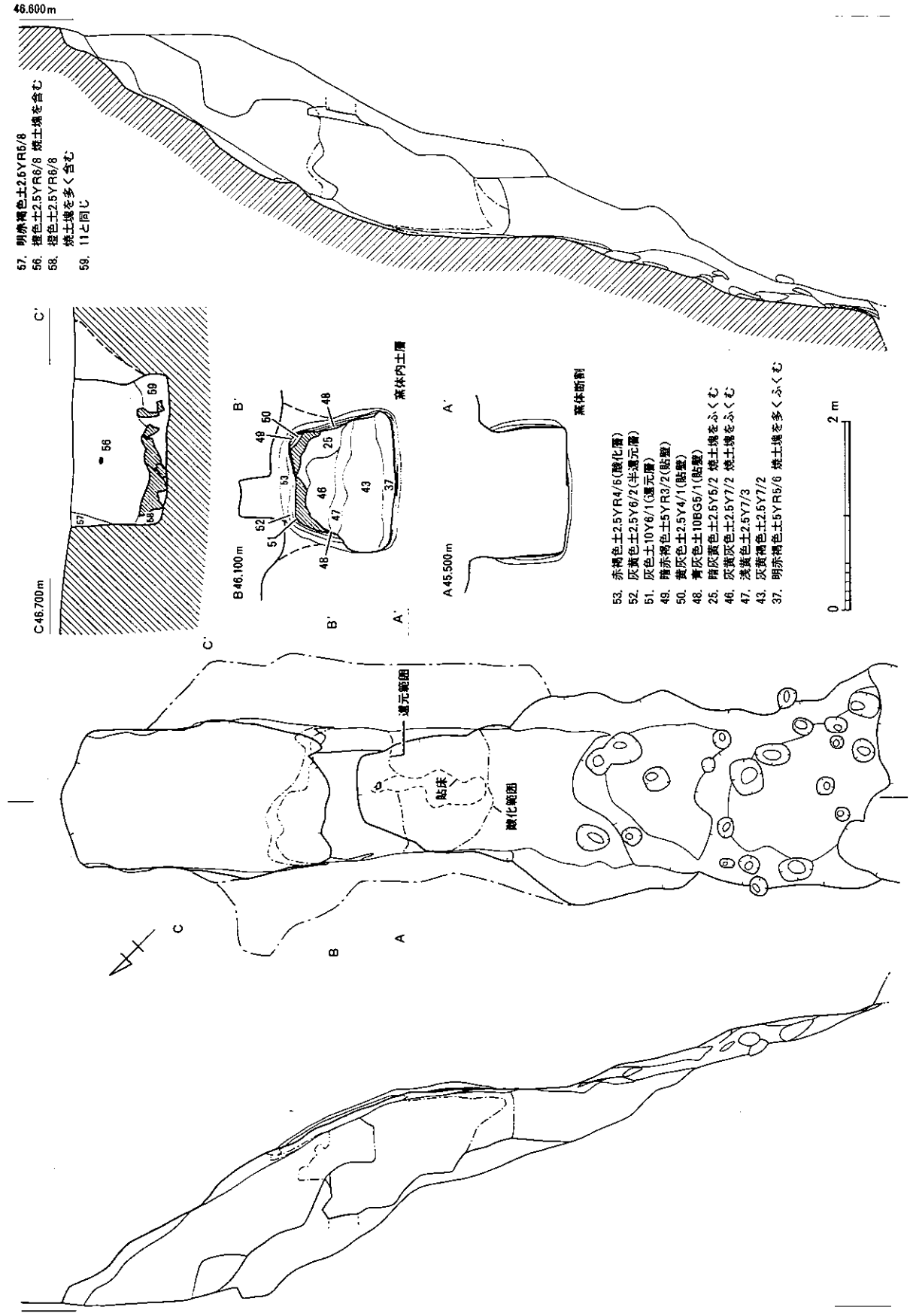
焼成部　焼成部は、長さが主軸上で3.69m、中位で最大幅1.63mを測る。床面の傾斜は、燃焼部から約20°で立ち上がった後、中位以上は平均34°で上っている。焼成部の側壁・床面は、下位に黄褐色～青灰色の被熱状態が残る以外、全て削り取られていた。一方、窯体内の堆積状況を見ると、床面直上に細かい窯壁片を含む明赤褐色土（37層）が堆積し、削られた床面を覆うように焚口・灰原へと展開している。天井部はこの37層上に崩落し、窯壁がブロック状に堆積していた。

このような残存・堆積の状況について、最終操業後に焼成部の側壁・床面を削り取り、その土を焚口・燃焼部の貼床に使用した可能性、もしくは明赤褐色土を焚口～焼成部に貼った後、奥の側壁・床面を削った可能性が考えられる。しかし、明赤褐色土が細かな窯壁片を含むことから、相対的に前者の可能性が高いと言える。そして37層の造成直後、焼成部の天井部が崩落、廃窯したと思われる。

奥壁・煙道　残存しない。

前庭部　窯の手前に長く伸びており、全体の平面形は主軸上3.90m、幅1.77～2.30mの不整形な長方形である。焚口から主軸上0.69mの平坦面が続いた後、浅い掘り込みと緩やかに傾斜する床面が2つ連続する。下端はSX35の埋土上に展開していた。平坦面の手前からSX35との境付近にかけて、径10～40cm前後、深さ3～50cm程度の小ピットを29個検出した。小ピットの配列は明瞭ではない。

灰原　灰原は焚口から斜面右下方に向けて広がり、長さ約5.9m、幅約5.7mにわたって確認された。灰層は厚さ20～40cmで、褐灰色～黒褐色土層とそれを含む灰黄色土層から成る。（一瀬）

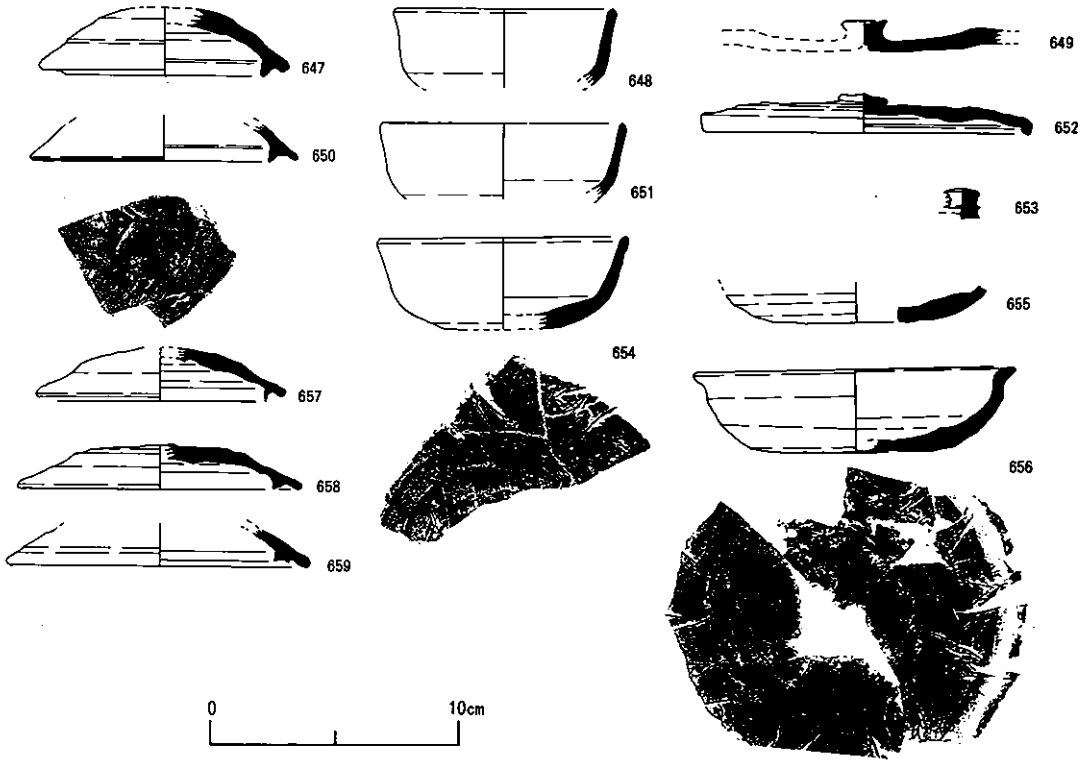


第27図　8・9号窯跡実測図（1／60）

出土遺物（第28図・図版第17・18・83）

647～656は窯体内から出土。647・649は焚口部埋土、659・652・653は埋土上層、650・651は37層、657・658・648・654は17層、656は59層、655は焚口右の壁面に貼り付く様に出土した。

647・649・650・652・657～659は杯蓋。647・650・657～659はかえりを持つ杯Gの蓋で、口径は約10～12cm。つまみは持たない（657・658）、もしくは有無が不明（647・650・659）である。647は天井部が比較的高く丸みを持ち、天井部外面にナデを施す。かえりは高く口縁端部よりも下に伸びる。650は口縁部の破片。かえりは高く口縁端部より下に伸びる。657はやや焼け歪み、径・傾きにやや難がある。天井部は比較的高く、天井部外面に工具による不定方向のナデがみられる。かえりは小さいが口縁端部より下に伸びる。658は天井部が比較的高く扁平で、天井部外面は回転ヘラ切り未調整。かえりは短く口縁端部より下には出ない。657・658は口縁部がやや屈曲することで天井部から独立した形状を呈している。659は口縁部の破片。かえりが短く退化傾向が顕著に窺える。649・652はつまみを持つ。649は天井部の破片で外面に回転ナデ、内面に不定方向のナデがみられる。つまみは中央部をやや窪ませて成形されている。652は天井部が低く扁平で、天井部外面に回転ヘラ切り後不定方向のナデが施される。口縁端部は断面三角形、つまみは中央部がわずかに盛り上がる扁平な擬宝珠型を呈する。648・651・654～656は杯身。648・651・654は杯部が比較的深く、口縁部は外上方に伸びる。654は平坦な底部を残す。655は底部の破片で、焼成が悪く摩滅が激しい。底部中央に焼成前の穿孔がみられる。656は杯部が浅く、口縁部は「S」字状を呈して端部は外方に伸びる。底部は平らで内外面とも不定方向のナデが施される。全体的に還元を受けておらず、橙色～赤褐色を帯びている。653は器種不明だが、蓋のつまみである。断面は方形に近く、中央部がわずかに盛り上がる。（一瀬）



第28図　8・9号窯跡出土遺物実測図（1／3）

9号窯跡（第29図、図版第58、59）

調査区内3区の最も南東部端、8号窯跡の南5mの斜面上に位置する。地下式直立煙道窯と考えられる。焚口～煙道の窯体残存長は主軸上3.38mを測り、主軸はN－60.0°－Eにとる。平面形は、焚口～焼成部の幅が約0.8mでほぼ変わらず細長く、煙道は狭く絞られて奥壁は丸くなる。天井部は既に崩れ落ちており、窯体内に崩落土が堆積していた。燃焼部・焼成部境の床面直上からは、須恵器杯蓋・杯身破片や焼台に使用された粘土塊が折り重なって出土した。最終操業後、床面に残る製品・焼台が掻き集められたものと考えられる。

焚口・燃焼部　燃焼部は、長さが主軸上で1.08m、幅は焚口0.82m、焼成部境0.80mとほぼ変わらず、床面傾斜度は約8°を測る。側壁は左右とも被熱して灰黄色を呈し、焚口付近のみ赤変していた。床面には焼成部下位にかけて貼床が見られ、断ち割りの結果、一次操業面の上に1枚貼られていた。また、床面直上には炭層の堆積が確認できた。

焼成部　焼成部は、長さが主軸上で2.64m、幅は中位でわずかに広がり最大幅0.86mを測る。床面の傾斜は、燃焼部から24°で立ち上がった後やや弓なりに上り、奥壁近くで47°となる。床面からは深さ約4～8cmの小さな窪みが29個検出され、概ね2～5個×7列に渡って規則的に配されている。焼台とみられる被熱した粘土塊が窪み上に遺存するものもあった。窪みの配列と焼成部の規模から推定すると、焼台の配置は5個×12列に復元できる。また、壁面・床面は灰黄色～青灰色に被熱するが、窪み部分は赤褐色を呈しており、予め窪みを穿った上に焼台となる粘土塊を貼り付け、その後火入れをしたと考えられる。床面直上の堆積土は窯壁片を多く含んでいた。

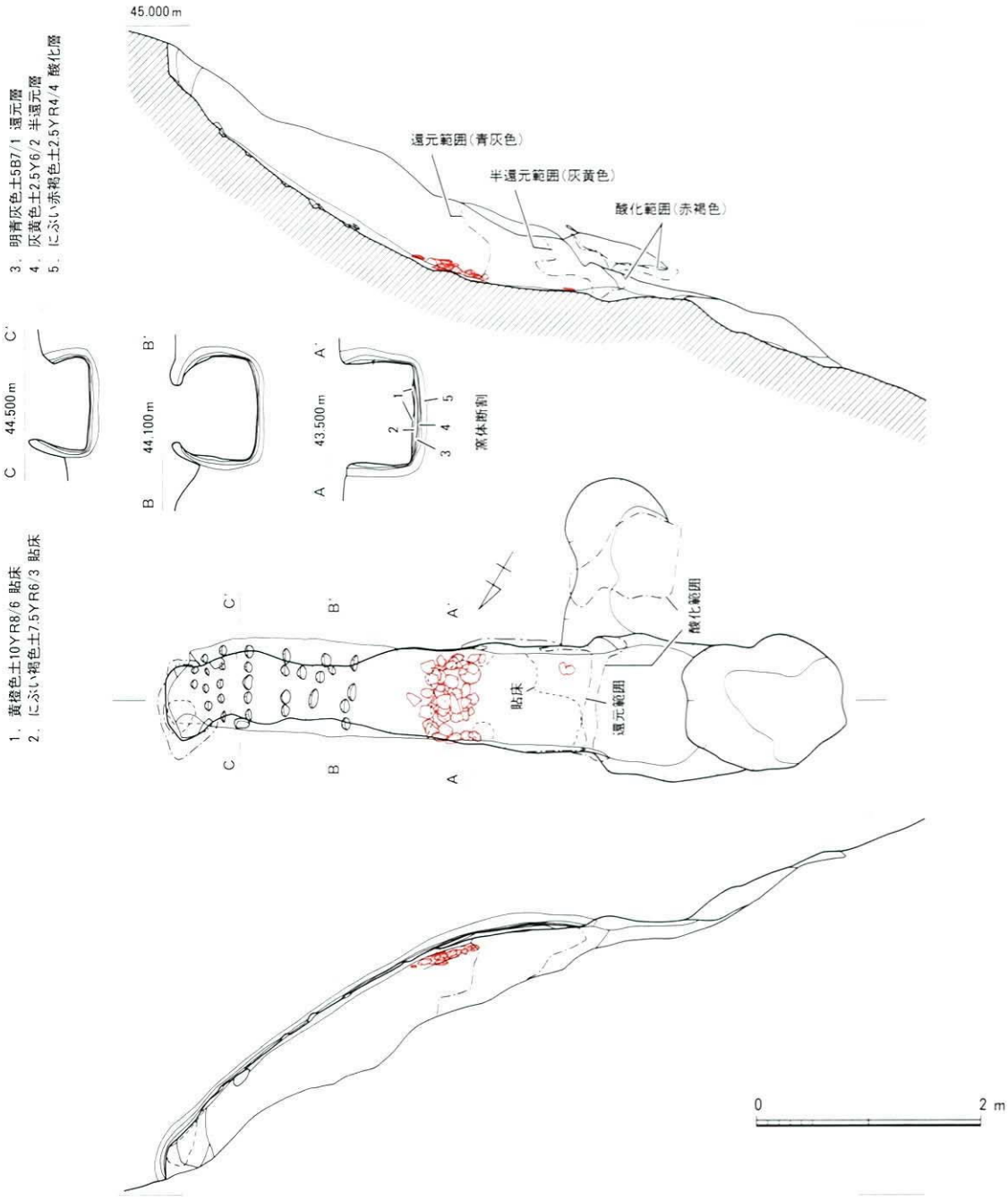
奥壁・煙道　奥壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、左の壁面には重複する2枚の貼壁が認められた。いずれも煙道を絞るために設置されたものと考えられる。このうち上に被さった1枚は窯体内の掘り下げ時に剥がれ落ち、痕跡のみを残す。貼壁の被熱状況を観察したところ、残存する貼壁の表面は周囲と同じく灰黄色～青灰色に還元するが、それを剥がした箇所は赤褐色を呈していた。一方、上に被さっていた貼壁は還元面の上に貼られており、火入れ前と後の2度にわたる補修が行われたことが分かる。煙道は奥壁上に付くと思われるが、既に上部は失われていた。

前庭部　全体の平面形は楕円形に近く、窯の手前に長く伸びる。焚口から長さ約0.9m、幅0.8～1.05mの平坦面に続いて、幅1.10～1.20m、深さ約0.3mの土坑状の掘り込みが確認できた。掘り込みの平面プランは不整形の円形で、床面傾斜度は約20°を測る。また、前庭部右側に幅約1.5m、深さ最大40cmの掘り込みが認められ、表面の一部は赤変していた。

灰原　灰原は、焚口から斜面下方に検出されたが、幅はあまり広がらず、長さは約2.3mで途絶えている。灰層は厚さ10～40cmで、焼土塊や遺物を多く含む灰黄褐色土層が認められた。　（一瀬）

出土遺物（図版第19、77、78）

415～434は窯体内、燃焼部・焼成部境の床面から出土した。415～431は杯蓋。416と418はつまみを持たないもので、口径は何れも約16cm、器高は約2.5cmと2.0cm。天井部は比較的高く丸みがあり、天井部外面は回転ヘラ切り後未調整である。口縁端部は断面三角形に成形されるが、416は丸く摩滅し、418はシャープな成形の跡が残る。418の天井部・口縁部境には工具で施された沈線状の筋が螺旋状に2・3条巡る。415・417・419～428・430はつまみを持ち、口径約14cm（420）と約15～16



第29図　9号窯跡実測図（1／60）

cm（422・424・426・428・430・415）、約17～18cm（417・419・421・423・425・427）のものに大別できる。器高は概ね3cm前後で、天井部が低く平坦な201のみ約2cmを測る。425・427はつまみを欠損する。何れも天井部外面の広い範囲に回転ヘラ削りが施されるが、417は摩滅が激しく鮮明ではない。口縁端部は断面三角形に成形され、丁寧に仕上がるもの（424・415・419・425・427）とシャープさに欠けるもの（420・422・426・430・417・423）に分けられる。但し428と421は口縁部を下方に折り曲げた後、端部が高く成形されており、他との明らかな差異が認められる。つまみは中央部が山形を呈する扁平な擬宝珠タイプが多く、概して形状を意識した丁寧な成形が看取できる。中でも420～422・424・428・430は形状・径などが近似している。それに比して419・423・426は上面が平坦に潰され、粗雑に仕上げられた感がある。また417は摩滅により成形の痕跡は窺えない。429・431は天井部が欠損しつまみの有無が不明なもの。何れも天井部外面の広い範囲に回転ヘラ削りが施され、断面三角形の口縁端部を持つ。429は天井部が低く平らで口縁端部がやや丸く仕上がる。431は天井部が比較的高く丸みを持ち、口縁端部はシャープに成形される。434は杯身。口縁部から底部の破片である。杯部は深く、口縁部は外上方に伸びる。底部は平らで、ハの字状に開くやや高い高台を持つ。底部外面は回転ヘラ切り未調整。底部内面のナデや高台接合部の回転ナデなどは丁寧に施されている。

433は貼床内の出土、長頸壺の体部破片で径・傾きにやや難がある。肩部に明瞭な屈曲点を持つ。

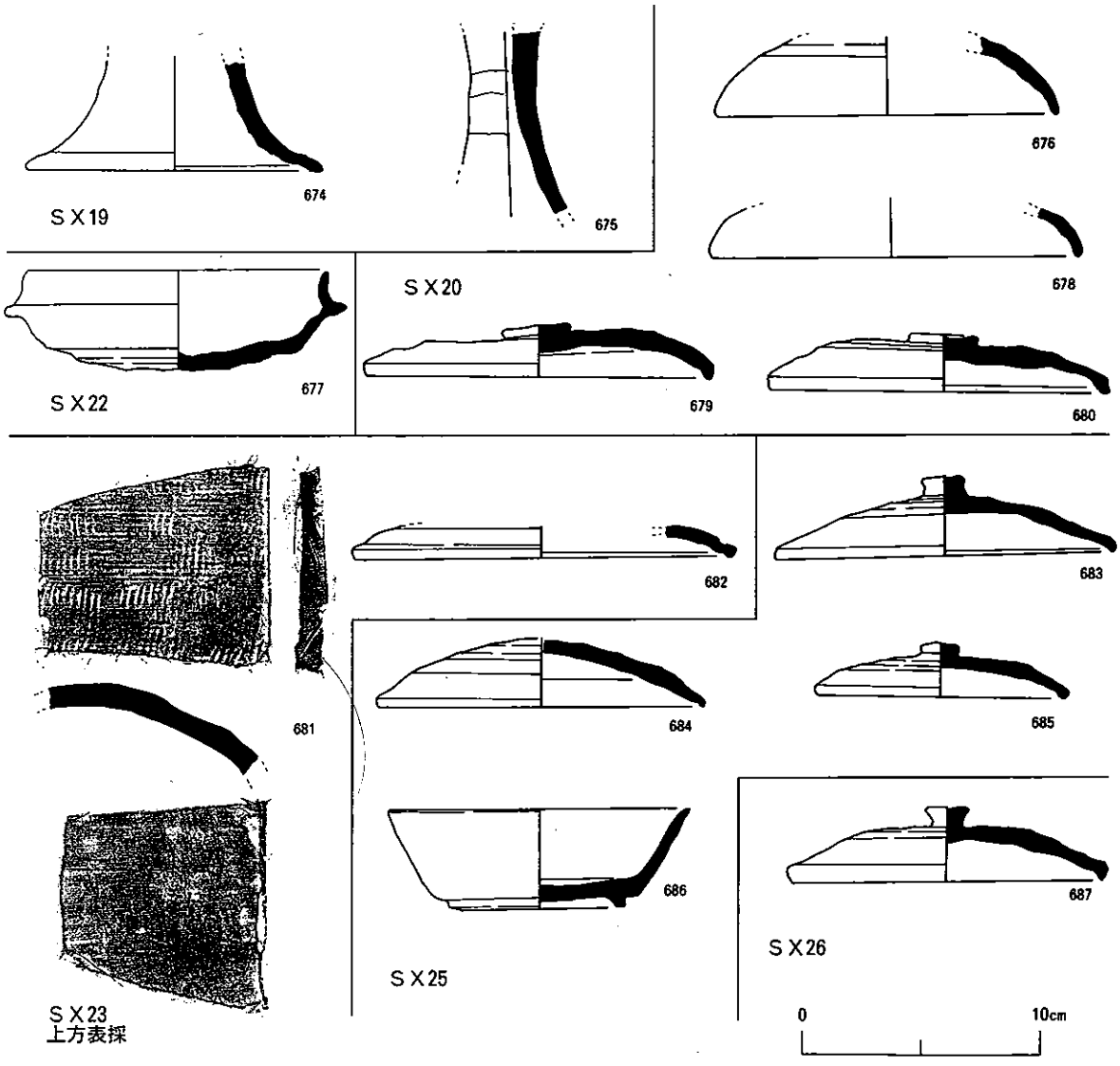
435～447は窯体内埋土から出土した。435・438・440・443は埋土下層の出土で杯蓋。何れもつまみを有し（440・443は欠損）、口径は435・438・440が約16cm、443は約17cmを測る。天井部外面の広い範囲に回転ヘラ削りがみられる。435・438は天井部が比較的高く丸みを持つが、435は口縁端部が摩滅で丸く、つまみは中央部が山形の扁平な擬宝珠型である。一方438はシャープな断面三角形の口縁端部を持ち、つまみは扁平な擬宝珠型だが中央部があまり盛り上がらない。440・443は天井部が低く平坦で、口縁部境で下方に曲がった後、更に外方に曲がり端部に至る「Z」字状のものに近い。口縁端部は何れもシャープな断面三角形、天井部外面の中央につまみの痕跡を残す。445・446は窯体内5層から出土した杯蓋。他の9号窯跡出土の杯蓋とは法量・形状とも大きく異なる。何れも口径12.0cm、器高約2.7cm、天井部につまみを有する。天井部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。口縁端部は内面に折り込み痕跡を残し、断面三角形を呈する。つまみはわずかに中央が突起するが、扁平で断面が方形に近い。全体的に成形・調整は粗雑といえる。また重ね焼き痕跡がみられるほか、446には乾燥時のヒビ割れを補修した痕跡が残る。436・439・441は杯身。436は1層・2層の出土、立ち上がりと蓋受部を持つ杯Hの身である。口縁部の小片で径は不明、傾きに難がある。立ち上がりはやや短く、内傾して内上方に伸びる。受部は外上方へ伸びる。439・441は2層・3層の出土。439は口径約13cm、器高約3.6cm。杯部は浅く、口縁部はやや「S」字状に外上方に伸びる。底部は平らで、体部との境近くに高台が付く。441は完形だがやや焼け歪み、口径約14cm、器高4.1～4.5cm。杯部は浅く、口縁部は外上方に伸びる。底部は平らで、体部境よりやや内側に低い高台を付ける。底部外面は回転ヘラ切り後未調整である。444は28層・29層から出土した椀。体部外面にカキメと2条の沈線が巡り、体部下位にはカキメの後ヨコナデが施されている。底部境～底部外面は回転ヘラ削りが施され、体・底部境に明瞭な屈曲が削り出されている。また底部内面には窯壁

層が付着する。437・442・447は7層の出土。437は高杯の杯部破片で、脚部の剥離面を残す。口径は約15cmに復元され、体部中位に沈線で作り出された2条の凸帯が巡る。442は大甕の頸部破片。焼成が悪く、内外面とも摩滅が激しい。体部接合面を残す。447は長頸壷の体部破片で、径にやや難がある。肩部に明瞭な屈曲点がみられ、体部外面にヘラ記号を持つ。（一瀬）

ＳＸ19（第30、31図・図版第60、61）

3区の谷奥部に位置する。平面プランは長軸9.28×短軸4.12ｍの不整形を呈するが、西側は北壁長4.55ｍの方形の掘り込みがあり、北西側・北東側の2隅が確認され、西壁の延長線上にはカマドが検出されたことからこの部分に竪穴住居跡があったと考えられる。床面は北半部は一部水平となるが、南半部は流失したのか凹凸が著しい。

カマドは住居の南西隅で検出された。長軸0.96×短軸0.74ｍの略円形プランの範囲に、カマドの埋土と思われる黒褐色土が堆積していたが、袖等は確認できなかった。（石木）



第30図　ＳＸ19・20・22・23上方表採・25・26出土遺物実測図（1／3）

第31図　ＳＸ19実測図（1／60）

出土遺物（第30図・図版第25、81）

出土遺物には須恵器があり杯蓋（552～554・556・559・560）、杯身（561）、高杯蓋（555・558）、高杯の脚部（557・562・675）などが見られる。蓋杯は低いたちあがりを伴うもので、蓋もこれに対応するものであり、外面の調整は1／2前後に回転ヘラ削り調整を行っている。高杯は長脚であるがスカシの有無は明らかではない。

ＳＸ20（第12図・図版第61、62、63）

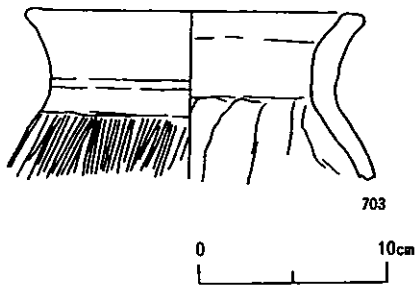
ＳＸ19より南西側へ約10ｍの所にあり、２～５号窯跡灰原を掘りきったところで検出された。周辺は斜面の中ほどにあり、ＳＸ19・20、24～26の位置する場所と合わせ、ややゆるやかな傾斜となっているが、灰原掘下げ時の不手際により削平した部分も多く、本来の遺構面はまだ高かったと考えられる。長軸4.41×短軸2.7ｍの方形を呈する竪穴住居跡である。上半部は灰原を掘り下げる際にかなり削平されており、北壁の最も深い所で42㎝である。床面は柱穴が２個確認され、柱痕径はそれぞれ10～20㎝あまり、柱穴掘形径は45～55㎝、深さは約50㎝である。柱間の距離は約2.0ｍである。周壁下には壁溝が巡らされていた。幅約40㎝で、床面からの深さは８～15㎝ほどであった。

カマドは南西隅で検出され、44×30㎝の焼土が確認されたが、周辺を精査したものの袖等は確認できなかった。

住居の周りには径30～40㎝ほどのピットが７個確認された。住居の東側～北側～西側をコの字型に囲むように配置され、東・西側は１間、北側は３間以上と考えられる。住居の北西隅はピットと切り合っているが、住居内の掘り下げ時には前後関係を認めることはできなかった。埋土は２～５号灰原を含まない。これらのピット群は住居と同時並存の可能性が高いが、現地で確認することはできなかった。（石木）

出土遺物（第30、32図・図版第25、81）

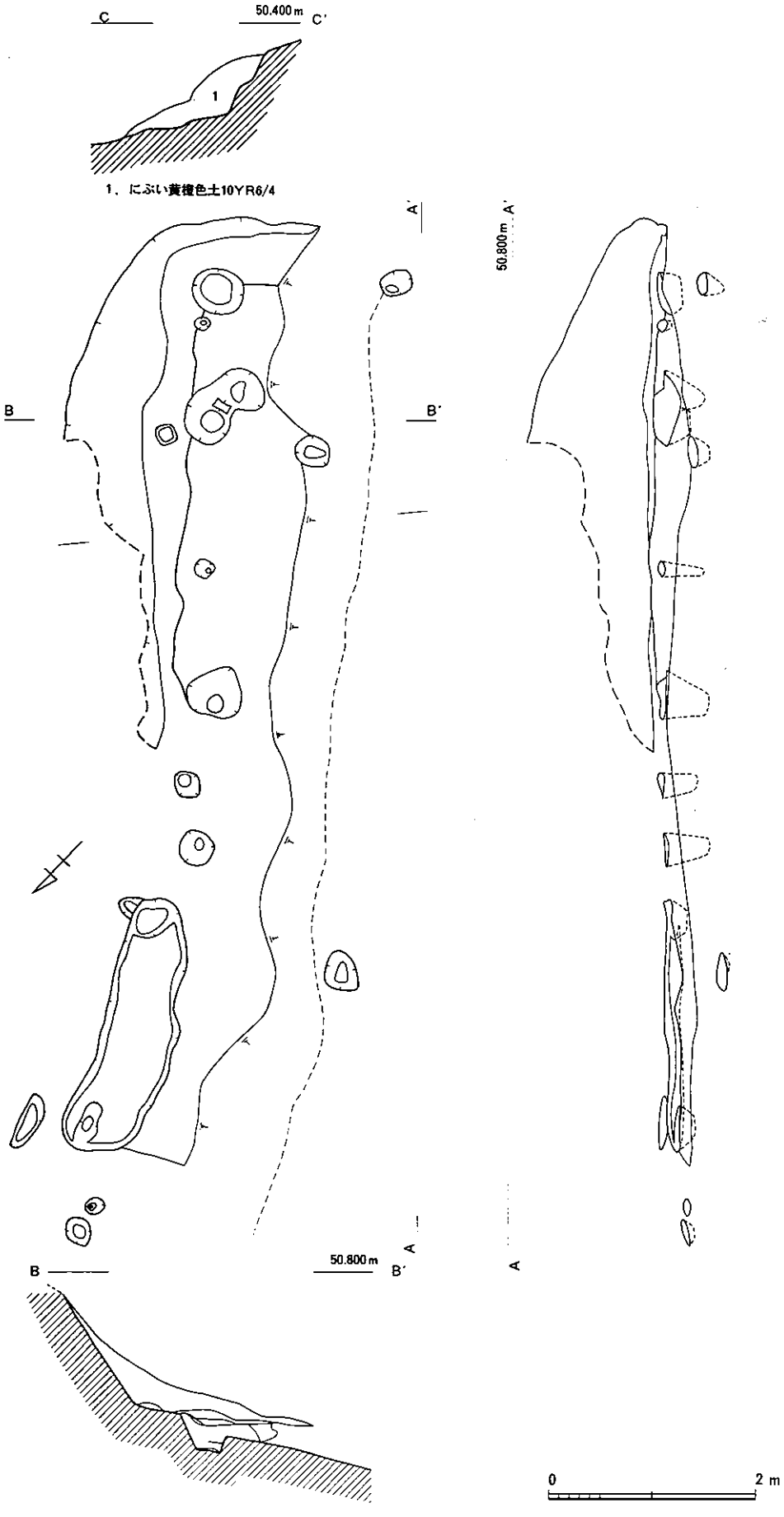
出土遺物には須恵器・土師器があり、杯蓋（563・564・569）、杯身（565・568）、椀（567）などが見られる。蓋は時期的に大きく異なるもので、古墳時代のもの（563・564・676・678）と奈良時代後半のもの（569・679・680）がある。また高杯（566）は無蓋のもので、563・564とともに古墳時代の蓋杯に伴う時期のものである。土師器（703）甕は外面に刷毛目、内面にナデ調整を行う。（中村）



第32図　ＳＸ20出土遺物実測図（1／4）

ＳＸ24（第33図・図版第64）

ＳＸ20の南西側約８ｍ、２～５号窯跡灰原下に検出された。遺構はＳＸ20と同じ斜面中腹の緩傾斜面に立地しており、灰原掘り下げ中に遺構の存在を確認した。灰原の黒色灰層下に埋土が確認された。当初は窯構築時の排土かと考えていたが、北壁の検出と埋土中から他の時期の遺物出土があったことから別の遺構と認識した。しかしこの時にはすでに北壁の西半部は大きく削られており、本来の形状を保っていないため、遺構の範囲を判断する上で大きな障害となった。遺構は長軸5.0×



第33図　ＳＸ24実測図（1／60）

短軸2.35ｍのコーナーをともない北壁を残していた東半部と、削平により北壁が失われ土坑とピットが点在する西半部とに分かれる。このうち東半部は、平坦面が極めて狭いが北壁に平行するようにピットが６つ並んでいることから、範囲は明確ではないものの何本かを主柱穴とする竪穴住居跡が存在した可能性がある。埋土は地山に近い黄橙色であったが、埋土を確認できた範囲はあまり広くはなく、灰原の黒色灰層が凹凸にＳＸ24の埋土に入り込んでいることから、ある程度斜面上方からの土の流入があったが、遺構全体が埋没する以前に窯が構築・操業されたと考えられる。貼床・カマド等は検出されなかった。（石木）

出土遺物（図版第27、83）

須恵器・土師器などがある。セクション面のすぐ東側からは土師器甕が転倒した状態で出土した。また２～５号窯の灰原が上層に堆積するため、黒色土を灰原埋土、黄橙色をＳＸ24埋土として取り上げを実施した。

600～609は黒色土出土遺物である。599・600・602・603・605・606は杯蓋。599・602は小形の杯蓋、いずれも天井部外面の回転ヘラ削りは認められない。599はつまみをもたず、天井部外面には重ね焼きの痕跡が認められる。602のつまみは非常に小さく、宝珠形に近く見えるがつまみの側縁をナデて仕上げている。603・605・606は山形に近いつまみをもつがいずれも低く、口縁部は断面三角形に近い。天井部外面の回転ヘラ削りは600・605を除いて明瞭ではない。601・604・608は杯身。601・604は高台は直立に近く、601の高台接地面には板状圧痕が認められる。608は口縁端部に細かな剥離が認められ、使用痕の可能性がある。607は杯。焼成不良であり、摩滅が著しい。609はつまみの剥がれた痕跡があり、有蓋高杯の蓋と考えられる。

600・610～615は下層黄色土出土。612は杯蓋で完形に復元されるが、焼け歪みが著しい。613～615は土師器甕であるが、615は長胴形の体部を有し、口縁部は外方へ開く。外面のハケメは上半はタテ方向に施されるが、下半は不規則になる。613は口縁部が大きく、胴部最大径が口径より小さくなり、体部の張りが少ない。615とは別タイプの土師器甕であり、同一個体と思われる614は丸い底部となる。610・611は甑の把手。（石木）

ＳＸ25（第34図・図版第64、65）

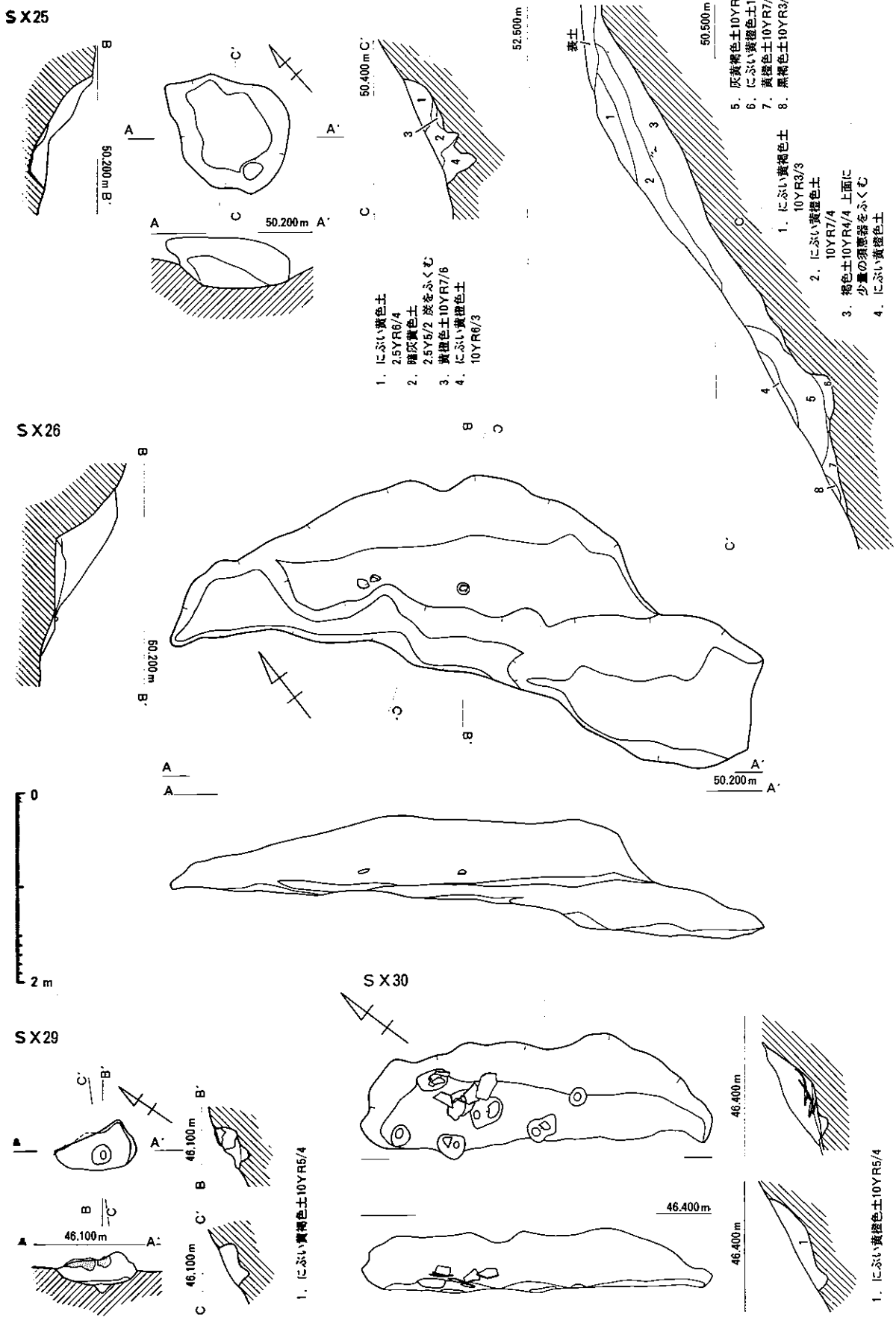
ＳＸ24の南西側２ｍに位置し、ＳＸ24・26に挟まれる。長軸1.5×短軸1.17ｍの不整形プランの土坑である。深さは最も深い所で約55㎝、土坑断面はスリバチ状を呈する。埋土は２層中に炭と遺物を含むが、全体にしまりなくやわらかであった。（石木）

出土遺物（第30図・図版第84）

出土遺物には須恵器蓋（683・684・685）、杯Ａ（686）などがある。蓋にはつまみを伴っており、杯身底部には高台を貼付する。つまみの形状には中央がくぼむもの、やや高くなっているものが見られる。

ＳＸ26（第34図・図版第65、66）

ＳＸ25の南西側２ｍに位置する。長軸6.25×短軸2.15ｍの不整形プランを呈する。床面には柱穴・



第34図　ＳＸ25・26・29・30実測図（1／60）

カマドなどは認められないが、北側には長軸4.12×短軸1.0ｍの平坦面が確認された。このことから竪穴住居跡の可能性も考えられるが、性格は不明である。遺構は表土下に形成される遺物包含層（３層）を切り込んでおり、掘り込みの深さは95㎝である。（石木）

出土遺物（図版第28、83）

出土遺物には須恵器蓋（616・617，622－626）があり、杯身（618－621）、高杯（629・630）、皿（627）、壺（628・631・632・635）などがある。このうち蓋杯616、617は、たちあがりを伴う器種で、いずれも外面には1／2に回転ヘラ削り調整を行っている。また蓋622－625にはつまみを伴っており、626にはつまみを伴っていない。皿は後者の蓋杯の時期の所産と見られる。壺は、いずれも広口壺と見られ、628・631・632体部の破片で外面には平行叩き、内面には円弧たたきが認められる。（中村）

ＳＸ27（第31図・図版第60・61）

ＳＸ19の北壁上に検出された。長さ4.93ｍ、幅0.58ｍの不整形で幅が狭い溝状を呈しており、斜面上から最も深いところは約40㎝ほどであった。位置的には竪穴住居跡の上方に位置し、斜面の急な場所に掘り込まれている。また２区ＳＸ10とは異なり斜面下方へ長くのびることはなく、溝の掘り方も不整であることから、排水としての機能は考えづらく、性格は不明である。（石木）

ＳＸ29（第34図・図版第67）

ＳＸ30の北西側約１ｍに位置する。長軸0.89×短軸0.52ｍの焼土坑であり、北東側にコーナーが認められることから、元々は長方形プランではなかったかと推定される。斜面上から最も深いところは約24㎝、床面上には径20㎝、深さ10㎝ほどのピットがある。坑内は側壁の斜面上方の一部が焼けているが、上半部が所々弱く被熱するのみで、床面は被熱が認められなかった。埋土には焼土塊が含まれていた。（石木）

出土遺物（図版第28、83）

出土遺物には須恵器蓋杯（633・634）などが見られる。蓋内面にはかえりを伴い、杯身には高台を貼付しない小型の製品である。（中村）

ＳＸ30（第34図・図版第67）

ＳＸ29の南東側約１ｍに位置し、８号窯跡前庭部に近接する。検出時には８・９号窯跡と考えた範囲と連続しており、掘り下げを開始した後、８号窯跡前庭部と分かれたため別遺構として取り上げた。長軸3.74×短軸1.1ｍの不整長楕円形プランを呈し、床面は水平であった。床面には径20～30㎝前後のピットが７個認められたが、配置・掘方・深さから柱穴とは考えにくい。（石木）

出土遺物

土坑の北側隅からは大甕片が重なった状態で出土した。外面には平行叩き内面には円弧叩きが施されている。（中村）

ＳＸ34（第36図・図版第68）

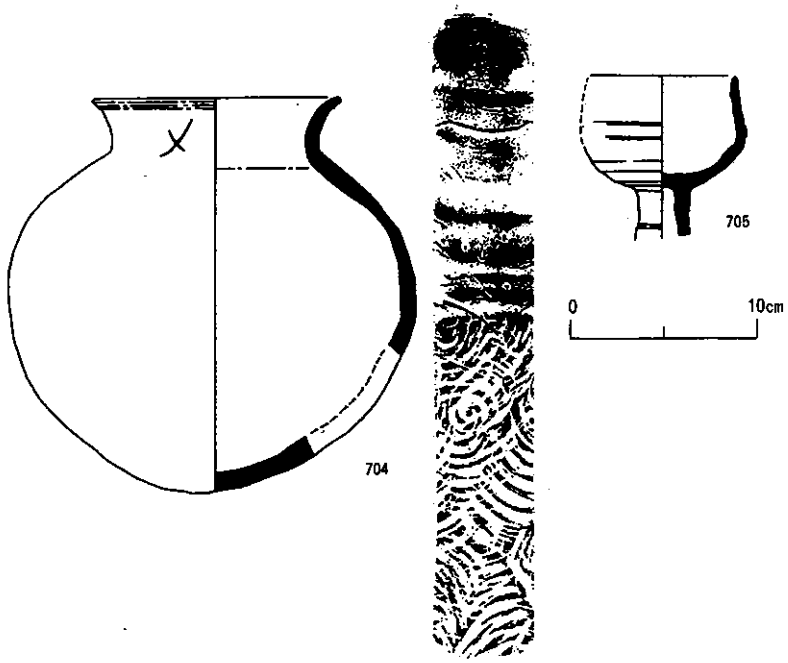
3・4区の最も谷奥に位置する。長軸2.05×短軸0.96ｍの長楕円形プランを呈する土坑である。斜面上方から最も深い所で128㎝、縦断面形はＬ字形となり、床面は水平である。検出時に遺物の出土があり、プラン確認後掘り下げていったが、奥側は埋土と地山の区別がつけづらかった。埋土は大きく上下2層に分かれ、遺物の出土は上層（1層）からが多く、下層から遺物の出土はなかった。（石木）

ＳＸ35（第36図・図版第68、69、70）

8号窯跡前庭部下に位置する。長軸3.65×短軸1.8ｍの長方形プランを呈しており、斜面上方から最も深いところで約80㎝、床面はほぼ水平である。プランより竪穴住居跡の可能性が高いが、床面に柱穴・貼床・カマド等の施設は認められなかった。また斜面上方は不整形であるが長軸約4.2×短軸約1.6ｍの範囲で掘り込まれ、特に南側は床面も水平に近い。また、まとまった遺物の出土が認められたことからこの部分も遺構の一部と考えられるが、埋土から8号窯跡前庭部にともなう可能性が高い。（石木）

出土遺物（第35図・図版第18・85）

出土遺物には須恵器広口壺などがある。ほぼ完全な形状であり、口縁部外面にヘラ記号を刻んでいる。口頸基部太く、口縁部は外反して上外方にのびる。体部最大径は、中位に求められ、底部は丸い。内面には円弧、同心円叩きを施す。705は無蓋高杯の上半部の破片である。（中村）



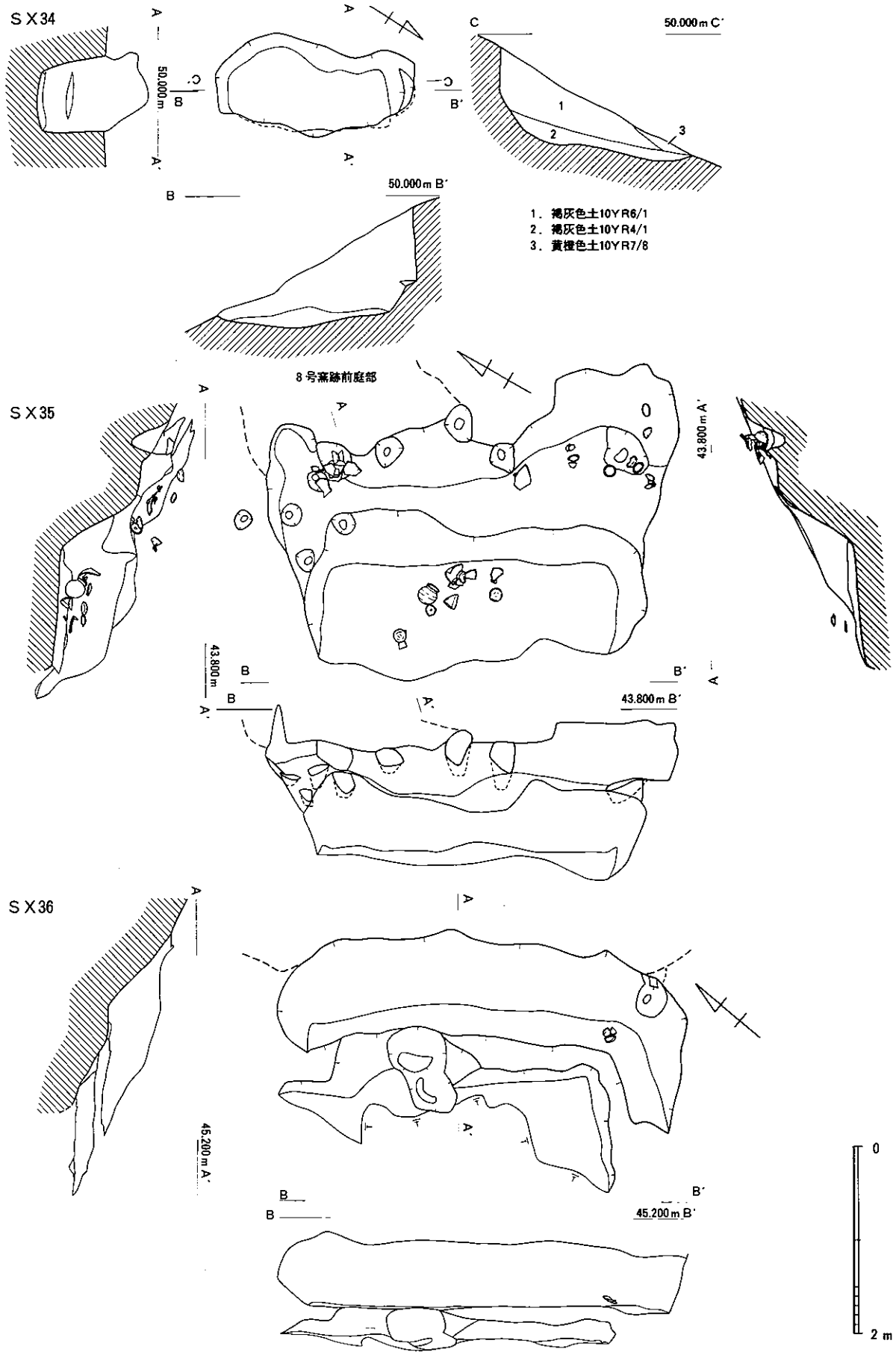
第35図　ＳＸ35出土遺物実測図（1／4）

ＳＸ36（第36図・図版第70）

7号窯跡前庭部下に位置する。灰原を掘り下げた後に確認したもので、プランを検出・掘り下げをおこなったものではない。斜面上は長軸4.35×短軸2.75ｍの略方形プランを呈するが、斜面下方は流失している。斜面上の最も深いところから約70㎝、床面は水平である。形態から竪穴住居跡の可能性が高いが、柱穴・貼床・カマド等の施設は認められなかった。（石木）

出土遺物（図版第28、83）

出土遺物には須恵器高杯蓋（636）などがある。天井中央が高く、中心部に中央が窪んだ扁平なつまみを伴う。天井外面2／3に回転ヘラ削り調整を行う。



第36図　ＳＸ34～36実測図（1／60）

（5）3・4区間谷部

2～5号窯跡灰原が谷底まで掘り上がった時、地山と考えられた所と2～5号窯跡灰原掘り下げの際に石器の出土があった。このため3・4区間谷頭において遺構検出をおこない、周溝状にプランが検出されたため調査当初はSX31として掘り下げを開始した。掘り下げの結果縄文土器・石器等が出土したが、遺構と考えた埋土と周りの土は区別がつけられず、検出された周溝状のものは遺構ではないと判断した。また周辺からも縄文土器等の出土があったことから、調査範囲を拡大して谷頭全体を掘り下げることになった。掘り下げは谷頭から順に谷の入口へ向かっておこない、SX24～26の斜面下方辺りまで実施した。その結果、谷底は樹枝状に掘り上げることができたが、遺構を検出することはできなかった。

出土遺物（図版第85～90）

谷頭から谷部の中ほどまで縄文土器・石器等が出土したが、散漫な状態であり集中して出土した個所はなかった。出土状況について個々に取り上げていないが、全体に谷頭から谷の入口へ向かって流れたような状態であった。特に谷の中ほどから出土した縄文土器は谷頭のそれと比べて摩滅が著しく、文様の判断が困るほどであった。（石木）

縄文土器（図版第29～32、85～90）

縄文土器は、約930点出土した。器面の風化が激しく、また小片・砕片が大多数を占めるため、文様等が把握できない資料も多い。把握できる資料としては、押型文土器が圧倒的に多く、それに少量の撚糸文土器、条痕文土器、無文土器を含む構成となっている。時期が明確でない61を除いては、いずれも縄文早期の範疇に含まれる土器群である。

706～710は撚糸文土器である。706は口縁部から底部近くまで残る大形の破片で、口縁部から胴部中位まではほぼ完形に復元できる。外反気味の口縁部から胴部が微かに膨らみ、そのまますぼまるように底部に至る器形で、口径は28.0cmを測る。胴部屈曲部以下では撚糸文を施し、その施文方向は、屈曲部直下では横位、それ以下では斜位となる。胴部上位から内面は比較的丁寧にナデ調整される。707～710は同一個体である。707は口縁部片で、器面の風化のため判然としないが、外面に横位の撚糸文を施している。708は口縁部直下の破片で、上半部に撚糸文を施している。709・710は、拓図ではわかりづらいが、破片上端に撚糸文の痕跡が観察される。こうしたことから、撚糸文を口縁部から胴部上位まで横位に施す文様と、口縁部まで直立気味に立ち上がる器形が復元できる。底部を欠くが、元々円筒形を呈していた可能性が高い。残存部の最大復元径は24.0cmを測り、口径もそれに大きく懸け離れないものと推定される。器面調整は外面文様帯以下は縦位の丁寧なナデ、内面は口縁部付近は横位に、それ以下は縦位に丁寧なナデ調整を行なっている。

711は無文土器である。内外面ともナデ調整を行う。712は条痕文土器である。外面は斜位に、内面は横位に条痕を施す。原体は明確でないが、二枚貝の可能性がある。

713～762・764は押型文土器である。このうち、713～721は横位に押型文を施した一群である。Ⅰ類とする。713・718・721は山形文を、714～717は楕円文を、719・720は同一個体と考えられ山形文と楕円文を併用して施している。713～716は口縁部片で、内面には短めの原体条痕とその直下に横位の押型文を施す。さらに714～716は、口唇部に原体条痕の原体で刻み目を入れる。717は帯

状施文のようにも見えるが判然としない。Ⅰ類は、714～716を除き、全体的に文様単位が細かく、器壁が薄い傾向がある。722は内面に原体条痕と横位の押型文を施し、Ⅰ類に類似するが、外面は風化のため文様が判別できない。

723～752・754は、粗大化した楕円文を斜位あるいは縦位に施した一群である。Ⅱ類とする。723・724は、口縁端部を欠くが、内面に原体条痕、その直下に横位の楕円文（723）、山形文（724）を施す。ⅡA類とする。725は器面の風化の為、外面に楕円文、内面に原体条痕の痕跡が微かに認められる程度であり、原体条痕直下の押型文の有無は不明である。

727～731は、粗大化した楕円文を斜位に施し、口縁部内面にはやや粗い原体条痕のみを施した一群である。ⅡB類とする。全て同一個体の可能性が高いが、730は別個体とも考えられる。730以外では、口縁端部下約1.5cmに、1.4～1.7cmの円形あるいは楕円形の刺突文が、2.8cm～5.3cm間隔でめぐる。刺突文は貫通せず、その部分については、内面が盛り上がっている。口縁部内面の原体条痕は、回転施文の可能性が高く、横位あるいは斜位の施文が、上下に１～３段組合わさる文様帯を作り出している。口唇部には、原体条痕と同一原体で刻み目を施している。

733～736は、粗大化した楕円文を斜位あるいは横位に施し、口縁部内面は無文となる一群である。口唇部は比較的平坦となる。ⅡC類とする。733～735は直立気味、あるいは直線的な、736はやや内湾する口縁部形態を呈するが、ⅡA類・ⅡB類のように外反する資料はない

737・738・740～742は、やや粗大な楕円文を斜位あるいは縦位に施し、口縁部内面には、横位に山形文・楕円文を施す一群である。ⅡD類とする。737・738・740の口唇部には山形文（737・740）および楕円文（738）を施している。738の口縁部直下には焼成後の穿孔が認められる。739・743・744は口縁端部を欠くため判然としないが、ⅡD類に属する可能性が高い。

732・745～762は楕円文を斜位あるいは縦位に施した胴部片である。同一個体となりそうな資料も存在するが、いずれも確証に欠け、個体数は把握できない。732には0.8×0.6cmほど楕円形の窪みが観察できるが、人為的な刺突文とは即断できず、何らかの圧痕の可能性が高い。

763～766は底部片である。763は尖底、764・765は丸底、766は平底を呈する。764に楕円文が観察できるほかは、文様は確認できない。766は他の出土縄文土器とは色調が異なり、別時期の可能性が高い。（林）

石器（図版第33、90）

剥片・砕片類を含め、約190点（715g）出土した。剥片石器の石材組成は、サヌカイトと西北九州産黒曜石で占められ、その比率は、点数で５：１、重量で４：１となり、サヌカイトが主石材であることがわかる。

767～775は石鏃である。767は長さ1.5cm程の小形の三角鏃。768は体部中央に「穴」が有るが、人為的なものではなく、石材に含まれていた気泡、あるいは不純物の痕跡と考えられる。773はいわゆる鍬形鏃。775は器厚が厚いままである点、背面に細かな剥離がない点、腹面がほとんど未調整である点から判断して、未製品の可能性が高い。石材は、769・773は西北九州産黒曜石製で、それ以外はサヌカイト製である。

776～778はスクレーパー類である。776は縦長の剥片を素材とし、頭部・尾部周辺、および右側

縁部に刃部加工を施す。西北九州産黒曜石製。777は不定形剥片を素材とし、右側縁部に刃部加工を施す。サヌカイト製。778は残核を素材としたものであろうか。サヌカイト製。779は縦長の剥片。背面に礫面を残す。サヌカイト製。780は磨石。表裏両面に、明確な使用痕が認められる。凝灰岩製。（林）

3．小結

（1）各時代の遺構と遺物

以上のように、調査地内では縄文時代早期から平安時代にかけての遺構と遺物が確認された。このほか2～5号窯跡灰原からは少量の近世陶磁器が出土しており、戦後すぐには調査地の谷部周辺は畑として利用されていたことが分かる。ここでは縄文時代から平安時代にかけての遺構と遺物について時期ごとに説明をおこなっていく。（石木）

（2）縄文時代

縄文土器の位置付け

縄文土器は、3・4区間谷部から出土している。約930点出土したが、器面の風化が著しく、また大部分が小片・砕片であることから、文様等の把握ができないものが多い。文様が確認できる土器では、押型文が大多数を占め、それ以外に少量の撚糸文・条痕文・無文土器が確認されている。先述のとおり、これらは概ね縄文早期に位置付けられることは間違いないが、ここではもう少し詳細に時期検討等を行いたい。

まず押型文土器について、編年的・系譜的位置づけについて考えてみたい。当遺跡出土の押型文土器は、外面施文方向および口縁部内面の文様から、Ⅰ類・ⅡA類・ⅡB類・ⅡC類・ⅡD類に分類した。Ⅰ類は、横方向の施文を指標としており、早水台式あるいはそれ以前に位置付けられる。特に口縁部片の713～716には、内面に原体条痕・押型文が確認され、早水台式として間違いはない。ただ、器壁が比較的薄く口縁部が直線的な713と、器壁が厚く口縁部が外反し、文様がやや粗大となる719・720とは、傾向としての時間差は想定できる。胴部片については、図化したものはいずれも器壁が薄く、文様は比較的細かい。早水台式より古く位置づけられる可能性もある。

Ⅱ類は、斜めあるいは縦方向の施文を指標としたもので、下菅生B式以降に位置付けられる。ⅡA類は、内面に原体条痕・押型文があることから、下菅生B式の範疇に含まれよう。当遺跡では、資料数・遺存状況とも恵まれているとはいえない。

ⅡB類は、内面に原体条痕のみが施され、田村式と判断して大過ないが、次の2点で特徴的な個体といえる。まず1点は、口縁部内面の原体条痕の形状である。一般的な田村式が、太く長い原体条痕を施すのに対し、当該資料は比較的細く短い原体条痕を回転施文で、上下数段にわたり施している。もう1点は、口縁部直下を巡る刺突文である。九州内で押型文土器に刺突文が付加される事例としては、筑紫野市原遺跡、大分県耶馬溪町古庄屋遺跡例などが知られるが、これらはいずれも稲荷山式あるいはそれ以前の資料であり、当資料との時間的な隔たりが大きい。遠部慎氏によってすでに指摘されているように、原遺跡などの事例は早期前葉のいわゆる「柏原式」の系譜をひく資料と考えることが妥当であろう。では、当遺跡の刺突文はどうであろうか。これに時間的・視覚的に近似する資料は、鳥取県上福万遺跡、和歌山県高山寺貝塚、京都府谷内遺跡、奈良県布留遺跡、

愛知県先刈貝塚など、中国地方以東で散見されている。これらの資料は、これのみをもって一時期を形成するのではなく、「高山寺式」に刺突文が付加される形で、通常の高山寺式に少量伴うことが知られている。高山寺式が田村式に並行し、文様・器形の属性が酷似する点を考慮すれば、上福万遺跡例などと一連の資料である可能性が極めて高い。

ⅡC類は、内面が無文の資料で、口縁部が外反しない一群であるが、明確な型式名は存在しない。ただし、粗大な楕円文という属性から判断すれば、田村式に並行する（伴出する）一群として位置付けることが妥当であろう。

ⅡD類は、内面に押型文が施される一群で、外面の楕円文はⅡB類・ⅡC類のそれより緻密な感を受ける。概ね東部九州のヤトコロ式、中西部九州の石清水式、南部九州の出水下層式に該当するが、研究者間での統一見解があるとはいえず、ここでは一応、ヤトコロ式系土器と呼んでおきたい。一般的にヤトコロ式系土器は、田村式に後続する資料群といわれているが、後藤一重氏、木崎康弘氏、水ノ江和同氏らによって、時間的位置づけや系譜に疑問が呈されている。筆者も、田村式にほとんど見られない山形文が施される点、口縁部内面に押型文が施される点、田村式よりも文様が緻密である点を勘案すれば、田村式の後続型式とするのは困難であると考えている。下菅生B式以降、熊本や鹿児島地方などで在地化したヤトコロ式系土器と、瀬戸内地域（黄島式→高山寺式）との関連で成立した田村式とが、概ね並存した可能性を指摘しておきたい。

次に撚糸文土器について検討したい。北部九州における撚糸文土器は、福岡市松木田遺跡の発見によって、押型文土器以前のその単純期の存在が知られるようになったが、押型文並行期にも散見されており、その時間的・系譜的な課題は多い。

当遺跡出土の撚糸文土器は、口縁部が外反し、底部に向かいすぼまる資料706（以下個体1）と、胴部から口縁部がほぼ直口し、円筒形に復元できる資料707～710（以下個体2）の2個体が確認されている。まず、松木田遺跡の撚糸文土器と比較してみると、個体1・2とも外面全体に施文しない点、口縁部内面に施文しない点、施文方向が横位である点が決定的に異なっており、その型式学的距離は必ずしも近いとはいえない。個体1は、その器形から押型文土器との近縁関係も想定できるが、類例がなく、その位置付けについては留保しておきたい。

個体2は、春日市原ノ口遺跡に類例がある。原ノ口遺跡例とは、器形だけでなく、横位の撚糸文の施文部位においても酷似している。当該資料の出自を検討するうえで注目されるのは、松尾尚哉氏も指摘するとおり、長崎・熊本地方で多く出土する円筒形条痕文土器の存在である。この円筒形条痕文土器とは、円筒形を呈し、貝殻刺突文・条痕文を口縁部中心に施す土器群を指し、中原式あるいは一野式と呼ばれている。中原式については、Ⅰ式～Ⅴ類までの型式変遷が示されており、これに基づけば、中原Ⅲ～Ⅳ式が施文手法・施文部位から判断して、個体2に最も近似していることがわかる。なお、北部九州においては、中原Ⅲ～Ⅳ式（一野式）はほとんど出土していないことから、土器型式圏縁辺部の不安定な状況に乗じて、貝殻条痕文が撚糸文に置換した状況が想定できよう。いずれにしても、中原Ⅲ～Ⅳ式（一野式）の段階で、北部九州において撚糸文土器が一定量存在した可能性は高く、稲荷山式～下菅生B式に並行するとされる中原Ⅲ～Ⅳ式と押型文土器との並行関係の再検討も今後の課題といえる。

遺跡からは、これまで検討した押型文土器、撚糸文土器以外に、無文土器、条痕文土器が出土している。特に条痕文土器は押型文以前にさかのぼる可能性が高いが、資料が少なく、その位置付けの検討は困難といえる。

石器石材について

縄文時代の石器は、1・2区間谷部および3・4区間谷部から出土している。1・2間谷部の出土資料は未整理のため、遺物実測図を提示できていないが、注目すべき点としてサヌカイト剥片の集積地点が確認された点が挙げられる。機会を改めて報告したい。

3・4区間谷部については、比較的まとまった量の石器が出土し、その伴出土器から大部分が縄文早期に位置づけられることは確かといえよう。本項では、剥片石器の石器石材について若干の検討を行うこととし、その前提として、他遺跡との比較を容易にするために石鏃のみを取り上げ、その利用比率を周辺遺跡と比較することとする。

まず、当遺跡からは9点の石鏃が出土しており、その内訳は黒曜石2点（22%）：サヌカイト7点（77%）となる。石鏃は9点のみの出土で、数値には不安な要素もある一方、剥片・砕片を含む剥片石器の全点数（約190点）・総重量（715g）に基づいた黒曜石：サヌカイトの比率でも、点数で1：5、重量で1：4とサヌカイトの比率が高く、本来のあり方と大過ないものと考えられる。

では、周辺の早期遺跡ではどうであろうか。なお、ここでは黒曜石とサヌカイト（報告に「安山岩」とあるものは安山岩）のみを対象とし、その占有率とともに、石鏃の総点数も合わせて示した。

福岡市松木田遺跡（撚糸文期）	黒曜石66%：サヌカイト34%（全137点）
柏原F遺跡Ⅲ層（柏原式～条痕文期）	黒曜石66%：安山岩28%（全29点）
柏原F遺跡Ⅱ層（押型文期）	黒曜石58%：安山岩42%（全105点）
大野城市釜蓋原遺跡（押型文期主体？）	黒曜石66%：サヌカイト34%（全44点）
筑紫野市原遺跡（押型文前半期主体）	黒曜石72%：サヌカイト25%（全36点）
久留米市横道遺跡（無文土器～押型文前半期主体）	黒曜石67%：サヌカイト33%（全18点）
朝倉町原の東遺跡6・7層（押型文前半期主体）	黒曜石96%：サヌカイト3%（全149点）
佐賀県鳥栖市西田遺跡（押型文後半期主体）	黒曜石56%：サヌカイト43%（全86点）

このように概観すると、当遺跡から最も距離が離れ、筑後川中流域に位置する原の東遺跡を除けば、周辺地域においては、黒曜石が60～70%を占める遺跡が一般的なあり方のようである。数値を明示できないが、当遺跡に近く、押型文期の代表的な遺跡として知られる那珂川町深原遺跡でもこの傾向を概ね示しているようである。

こうした周辺遺跡の状況と、サヌカイトが卓越する当遺跡の状況とをどう理解するか、筆者は明確な答えを持ち合わせないが、当時の多様な石材環境考えるうえでは、当遺跡のような小規模遺跡のあり方にも注目する必要があることは確かといえよう。（林）

（3）古墳時代

古墳時代の遺構としては以下の遺構がある。

1号窯跡灰原下遺構‥1号窯跡と重複しているが、下層よりⅣA期の遺物が出土している。柱穴はないが、竪穴住居跡と考えられる。

ＳＸ01‥ⅣＡ期と考えられる。カマドと主柱穴をもち、明確に竪穴住居跡と判断される。

ＳＸ02上‥ⅣＡ期と考えられる土坑である。土坑内には粘土が溜まっており、粘土貯蔵遺構と判断される。

ＳＸ02下‥ⅣＡ～ⅣＢ期と考えられる土坑である。ＳＸ02上の遺物よりやや新しい。

ＳＸ03‥ⅣＡ期と考えられる。遺構のプランは不整で、西側にカマドが存在することから竪穴住居跡であろうか？

ＳＸ04‥ⅣＡ期と考えられる。遺構は帯状に長く斜面に展開しており、西側は竪穴住居跡として利用されたと考えられるが、ＳＸ03の下方などはピットが並ぶが機能としては不明である。

ＳＸ05‥ⅣＡ期と考えられる。斜面をＬ字型に削り込んで細長い平坦面をつくり、床面上には須恵器杯蓋が正置されていたが、遺構の性格は不明である。

ＳＸ09‥ⅣＡ期と考えられる竪穴住居跡である。住居の西側にはカマドが附設され、支脚として甕が倒置されていた。

ＳＸ19‥ⅣＡ期と考えられる。西側にカマドらしき焼土が確認され、竪穴住居跡の可能性が高い。

ＳＸ20‥ⅣＡ期と考えられる竪穴住居跡である。カマドは検出されていないが、周囲に壁溝を巡らせ、壁溝の周囲にはピットがめぐっている。

ＳＸ22‥ⅣＡ期と考えられる竪穴住居跡である。

ＳＸ24‥ⅣＡ期と考えられる。削平が著しく、遺構の大半は壊れているが、おそらく竪穴住居跡であったと考えられる。

ＳＸ26‥土坑状の遺構内から、ⅣＡ期と８世紀中頃から後半の遺物が出土した。不整プランの掘り込みで、遺構の性格は不明であるが、床面近くからⅣＡ期の遺物が出土したことからこの時期の遺構と考えられる。

ＳＸ35‥ⅣＡ期と考えられる。斜面をＬ字形にカットして平坦面をつくっているが、柱穴・カマド等は検出されていない。遺構プランとしては、竪穴住居跡の可能性が高い。

ＳＸ36‥ⅣＡ期と考えられる。７号窯跡灰原に覆われ、遺構の残存状況は極めて悪いが、竪穴住居跡の可能性もある。

（４）飛鳥時代

ここでは小田編年ⅣＢ期～Ⅵ期の間を便宜的に飛鳥時代としておきたい。

８号窯跡‥８号窯跡は窯壁が削り取られ、焼成部の上半を削平されており極めて残存状況が悪かった。また遺物も少なく、窯体検出時の埋土や窯体内埋土の上層にはⅣＡ期や奈良時代の遺物を含んでおり、時期の判断に迷う。しかし、窯跡の全形を復元すると全長10ｍ近い大形の窯跡となり、こうした窯跡は奈良時代には少ないことや、窯体最下層や灰層中の出土遺物からＶ期にあたる可能性が高い。

ＳＸ29‥つまみのつかないかえりのある杯蓋から、Ｖ期に位置付けられる焼土坑である。周壁の焼けしまりは弱く、規模も小さなものである。

（５）奈良時代以降

ここでは小田編年Ⅶ期を奈良時代とし、８世紀前半、中頃、後半に分けて説明したい。

9号窯跡‥焚口部の一括遺物はかえりのある杯蓋はすでにないが、口縁端部の折り曲げは長く、つまみも大きく調整も丁寧なものが多い。杯身は杯部が深く、高くふんばりのある高台から8世紀前半に位置付けられる。

7号窯跡‥窯内の遺物は杯蓋に関しては、つまみは9号窯跡に比して退化傾向にあるが、口縁端部の折り曲げは高く、8世紀前半～中頃と考えられる。

1号窯跡‥窯体のほとんどを失っており、遺物量が少なく時期的判断に迷いがあるが、床面上に残された杯蓋から8世紀中頃から後半に位置付けられる。

2～5号窯跡‥既刊の報告書では、灰原の堆積状況などから3号・5－Ⅱ号→5号→4号→2号の順と考えられている。遺物からは3号窯跡は8世紀前半～中頃、他は8世紀後半と考えられ、ほぼ8世紀代を通じて操業がおこなわれているようである。

ＳＸ08‥遺構は斜面にへばりつくように位置し、明確な掘り込みは認められない。遺物は8世紀中ごろから後半の遺物が出土しているが、遺構の性格やこの時期の遺構かどうかは不明である。

6号窯跡‥後述するように、焚口部周辺の須恵器杯蓋・杯身は大宰府史跡18次ＳＥ400出土遺物と共通すると考えられ、6号窯跡は9世紀前半ごろに位置付けられよう。　　（石木）

牛頸本堂遺跡群第5次調査出土遺物観察表

須恵器

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
1	須恵器	杯蓋	1号窯跡　1区黄色土	①12.5　②3.7	天井は比較的高く丸く、端部に向かってなだらかに下がる。1/2に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A粗。径3㎜以下の白色粗砂を含む。B良好、C外暗青灰色5B4/1、内青灰6/1	1/10欠損
2	須恵器	杯蓋	1号窯跡　3区褐色土（上層）	①10.5　②3.8	天井は比較的高く丸く、端部に向かってなだらかに下がる。1/2に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。白色粗砂を含む。B良好、C外灰色N6/0、内灰白色N8/0	1/2欠損
3	須恵器	杯蓋	1号窯跡　4区西側　1号窯跡前庭部	①13.5　②3.5	天井は低く丸みを持つ。端部は丸い。内外面ともに回転ナデ調整。	A粗。黒色砂粒を多く含む。気泡あり。B良好。C外灰白N7/1、内灰N6/0	1/10欠損
4	須恵器	杯蓋	1号窯跡　3・4区間ベルト6・9層	①12.7　②4.4	天井は比較的丸く丸みを持つ。口縁端部は丸い。外面1/2に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A粗。B甘い。C外N7/0灰白、内7.5Y7/1灰白	1/10欠損
5	須恵器	杯蓋	1・2区間谷部上半（1号窯周辺）表土剥ぎ時	①12.6　②4.0	天井は比較的低く丸みを持つ。口縁端部は丸い。外面1/2に回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	A粗。1～2㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外青灰5B6/1、内青灰5B5/1、断	3/5欠損
6	須恵器	杯蓋	1・2区間谷部上半（1号窯周辺）表土剥ぎ時	①12.7　②3.6	天井は低く丸みを持つ。口縁端部は丸い。外面1/2に回転ヘラ削り調整、内面中央にナデ調整。他は回転ナデ調整。	Aやや粗。黒色砂粒を含む。B良好。C外5B6/1青灰、内10Y5/1杯	1/6欠損
7	須恵器	杯身	1号窯跡　3区下層	①11.0　②4.0	たちあがりは短く端部は丸い。受部は水平にのび、底部は深く丸い。外面1/3に回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	A粗。B良好。C外N4/0灰、内N4/0灰	1/10欠損
8	須恵器	杯身	1号窯1区黄色土	①12.0　②4.2	たちあがりは短く端部は丸い。受部は水平にのび、底部は深く丸い。外面1/3に回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰色7.5Y4/1、内灰色N6/0	1/2欠損
9	須恵器	高杯蓋	1号窯跡　2区黄色土	①15.4　②5.7	天井は高く丸く、端部は丸い。扁平なつまみを貼付する。外面1/2に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。白色砂粒を少量含む。B甘く軟質。C外5Y7/3浅黄、内5Y8/3浅黄	
10	須恵器	短頸壺	1号窯跡　3区下層	①6.2　②5.5	体部最大径を上位に求め、底部は丸い。中位に沈線2条をめぐらす。底部に不整方向のヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。2.0㎜の白色粗砂を多く含む。B甘く軟質。C外灰オリーブ5Y6/2、内灰白5Y7/2	
11	須恵器	平瓶	1号窯跡　4区褐色土（上層）	①6.12　②4.9	小型の平瓶の口縁部の破片。マキアゲ、ミズビキ成形。外面に自然釉。	A密。B良好C外青灰5PB7/1、内明青灰5B5/1	天井部外面にヘラ記号
12	須恵器	杯蓋	1号窯跡　4区褐色土（上層）	①14.5　②1.8	天井は低く平らに近い。扁平なつまみを貼付。外面1/2に回転ヘラ削り調整、内面にナデ調整。他回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰N5/0、内灰N4/0灰	3/4欠損
13	須恵器	杯蓋	1号窯跡　1－2区間ベルト1層	①15.5　②3.1	天井はやや高く、ほぼ平らな擬宝珠つまみを貼付する。外面2/3回転ヘラ削り調整、内面はナデ調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B甘く軟質。C外淡黄2.5Y8/4、内淡黄2.5Y8/4	一部欠損。ほぼ完形
14	須恵器	杯蓋	1号窯跡　1－3区間ベルト10層 1号窯最終灰層	①13.15 ②2.25	天井は低くわずかに丸みを持つ。扁平なつまみを貼付。外面・内面共に回転ナデ調整。	Aやや密。B良好。C外灰白N7/0、内N7/0	1/3欠損
15	須恵器	杯蓋	1号窯跡　1区黒色土	①14.9　②2.5	天井は比較的高く、丸みを持つ。扁平なつまみを貼付。外面2/3に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。2.0㎜の白色粗砂を多く含む。B甘く軟質。C外浅黄橙10YR8/4、内にぶい黄橙10YR7/4	
16	須恵器	杯蓋	1号窯跡　3区黒色土（灰層）	①14.5	天井はやや高くわずかに丸みを持つ。扁平なつまみを貼付。外面2/3はヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。1～2㎜の白色粗砂を多く含む。B良好。C外灰白5Y7/2、内灰白5Y8/2	3/4欠損

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量㎝①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
17	須恵器	杯蓋	1号窯跡　3・4区ベルト2－5層	①14.3　②1.8	天井は低く平らに近い。扁平なつまみを貼付する。外面2/3に回転ヘラ削り調整。内面にナデ調整。他回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰5Y5/1、内灰5Y5/1	3/4欠損
18	須恵器	杯蓋	1号窯跡　灰原表採	①14.8　②1.7	天井は低くわずかに丸みを持ち、扁平なつまみを貼付する。外面2/3にヘラ削り調整。他回転ナデ調整。	A密。B堅緻。C外灰N6/0、内灰白N7/0	内面に重ね焼き跡を認める
19	須恵器	杯蓋	1号窯跡　3区黒色土（下層）	①15.5　②1.3	天井は低く平らで、扁平なつまみを貼付する。外面2/3は回転ヘラ削り調整、内面は回転ナデ調整。	A密。B良好。C外オリーブ灰5GY6/1、内緑灰10GY6/1	ひずみあり。
20	須恵器	杯蓋	1号窯跡　1区黄色土	①14.6　②0.9	天井は低く平らである。つまみは剥落しているが、中心からずれている。外面2/3に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A粗。1～3㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外明オリーブ灰2.5GY7/0、内灰白5Y7/1	
21	須恵器	杯身	1号窯跡　3区黒色土（灰層）	①12.2　②4.3	口縁部は上外方へのび、底部に内側が高い高台を貼付する。底部内面にナデ調整、口縁部外面に回転ナデ調整。	Aやや粗。0.5㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外オリーブ灰2.5GY6/1、内オリーブ灰2.5GY6/1	1/2欠損
22	須恵器	杯身	1号窯跡　4区褐色土層（上層）	①14.2　②3.7	底部はやや浅く平らで、両端から内側に低い高台を貼付。底部外面のみ回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや密。B良好。C外灰白N7/0、内灰白N7/0、断：灰白N7/0	3/4欠損
23	須恵器	杯身	1号窯跡　4区灰褐色土（上層）	①14　②4	底部は比較的浅く平ら。内端面で接地する高台を貼付。底部内面から口縁部外面は回転ナデ調整を行う。	A密。B良好。C外灰白N7/0、内灰白N7/0	3/4欠損
24	須恵器	杯身	1号窯跡　3・4区間ベルト2－5層	①13.9　②4.1	口縁部は上外方へのび、底部に内側が高い高台を貼付する。底部内面にナデ調整、口縁部外面に回転ナデ調整。	Aやや粗。B甘く軟質。C外灰白2.5Y8/1、内灰白2.5Y8/1	3/5欠損
25	須恵器	杯身	1号窯跡　3区褐色土（上層）	①14.3　②3.7	口縁部は上外方へのび、底部に内側が高い高台を貼付する。底部内面にナデ調整、口縁部外面に回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外緑灰10GY5/1、内灰N6/0	4/5欠損
26	須恵器	Ⅲ	1号窯跡　3・4区間ベルト2－5層灰層	①20.0　②2.0	底部は浅く平ら。口縁部はS字状に上外方へのび、端部は丸い。底部外面は回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。B甘い。C外灰白2.5GY8/1、内灰白2.5GY8/1	
27	須恵器	Ⅲ	1号窯跡　4区褐色土層	①14.3　②1.1	底部は浅く平ら、口縁部は上解放へのび端部は丸い。底部はナデ調整、他は回転ナデ調整。	Aやや密。B良好。C外灰白N7/0、内灰白N7/0	3/5欠損
28	須恵器	杯蓋	1号窯跡周辺　表土	①10.9　②3.1	天井は低くわずかに丸みを持つ。口縁部はなだらかに下がり端部は丸い。外面2/3にヘラ削り調整。他回転ナデ調整。	A粗。砂粒を多く含む。B良好。C外灰N5/0、内灰N54/0	2/3欠損
29	須恵器	杯身	1号窯跡周辺　表土	①12.2	たちあがりは短く端部は丸い。受部は水平にのび、底部は深く丸い。外面1/2に回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰N6/0、内灰N7/0	4/5欠損
30	須恵器	杯身	1号窯跡　3区　6層	①13.5　②3.9	たちあがりは短く端部は丸い。受部は水平にのび、底部は深く丸い。外面1/2に回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	A粗。砂粒を多く含む。B良好。C外灰10Y5/1、内灰黄褐色10YR5/2	1/10欠損
31	須恵器	杯蓋	1号窯跡周辺　表土	①12.7	天井は低くわずかに丸みを持つ。口縁部はなだらかに下がり端部は丸い。外面2/3にヘラ削り調整。他回転ナデ調整。	A粗。B良好。C外緑灰10GY5/1、内灰色N5/0	3/5欠損
32	須恵器	杯身	1号窯跡　3区6層	①11.7　②4.7	たちあがりは短く端部は丸い。受部は水平にのび、底部は深く丸い。外面1/2に回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	A粗白色砂粒を含む。B良好。C外灰N6/0、内灰白色N7/0	1/5欠損
33	須恵器	杯蓋	1号窯跡　1－3区間　ベルト　12－16層　1号窯灰層	①16.2　②1.8つまみ径2.3、つまみ高0.4	天井は比較的低く丸みを持つ。天井中央に扁平なつまみを貼付。外面1/2に回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	Aやや粗。径2－4㎜の白色砂粒を含む。B良好、C外内青灰色5B6/1	4/5欠損。

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
34	須恵器	高杯蓋	1号窯跡　3区下黒色土	①11.3　②5.0	有蓋高杯の蓋である。天井は比較的高く丸い。天井中央につまみを貼付。外面1/2に回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好、C外灰色10Y6/1、内灰白色N7/0	2/3欠損
35	須恵器	台付椀	1号窯跡周辺表土	残存高5.9	高杯の脚部及び杯部の破片。	A密。B良好、C外面暗灰色N3/0、内青灰色5PB5/1	
36	須恵器	杯蓋	1号窯跡　3区下黄色土	①15.9　②2.1 つまみ径2.1 つまみ高0.5	天井は比較的低く丸みを持つ。天井中央に扁平なつまみを貼付。外面2/3に回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	Aやや粗。白色粗砂を含む。B、良好、C外灰白色N7/0、内明青灰色5PB7/1	3/4欠損
37	須恵器	杯身	1号窯跡　3区下黄色土	①15.3 残存高3.2	たちあがりがりは短く内傾し、端部は丸い。底部に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。白色粗砂を含む。B良好、C外内灰色N6/0	9/10欠損
38	須恵器	椀	1号窯跡周辺	①10.5　②6.3	小型の椀である。体部中位に沈線2条を巡らせる。回転ナデ調整。	Aやや粗。2－3㎜白色砂粒を含む。B良好、C外青灰色5PB5/1、内青灰色5PB6/1	4/5欠損
39	須恵器	杯蓋	1号窯跡　3区黒色土（灰層）	①14.8　②1.5	天井は比較的低く丸みを持つ。天井中央に扁平なつまみを貼付。外面2/3に回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	A密。B良好、C外面灰白色N7/0、内灰白色2.5Y7/1	1/5欠損
40	須恵器	杯身	2号窯前庭部最下層黄色土	①12.9　②3.8	高台を伴う杯身である。回転ナデ調整。	Aやや粗。白色砂粒を含む。B良好、C外内灰白色N8/0	1/3欠損
41	須恵器	高杯	1号窯周辺表土	①13.0　②6.5	有蓋高杯。たちあがり脚端部を欠損する。底部回転ヘラ削り調整、回転ナデ調整。	A粗。白色砂粒を含む。B良好、C外灰色N4/0、内N5/0	3/5欠損
42	須恵器	皿	1－2号窯　1－3区間ベルト12－16層（1号窯跡灰層）	①19.4　②2.2	底部は平らで、口縁部は短く外反する、端部は丸い。回転ナデ調整。	Aやや粗。白色砂粒を含む。B良好、C外灰色N5/0、内N4/0	3/4欠損
43	須恵器	高杯	1－2号窯周辺表土	①(14.2)	無蓋高杯の杯部破片。回転ナデ調整。	Aやや粗。2㎜白色砂粒を含む。B良好、C外灰白色N7/0、内灰白色N6/0	9/10欠損
44	須恵器	皿	1号窯跡　1－3区間　ベルト12－16層（1号窯跡灰層）	①20.2　②2.4	回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ。	A密。径0.5㎜以下の白色粗砂をやや多く含む。B良好C外灰色N5/0、内灰色N5/0	4/5欠損
45	須恵器	高杯	1号窯周辺表土	残存高12.6	高杯の脚の破片、外面に回転カキ目調整、回転ナデ調整。	A粗。径2－3㎜の白色砂粒を含む。B良好、C外灰色N4/0、内灰色N5/0	4/5欠損
46	土師器	甕	1号窯跡　1区最下層	①22.8 残存高12.2	土師器の甕あるいは鍋と考えられる。なお体部外面に把手の剥落痕跡が見られることから鍋の可能性もある。	A粗。径3－5㎜の白色砂粒を含む。B甘い、C外黄橙色10YR8/6、内明黄褐色10YR7/6	4/5欠損
47	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下2区　黄色土	①13.4　②3.9	外面回転ヘラ削り調整、回転ナデ調整。	Aやや粗。径0.5㎜以下の白色粗砂を含む。B良好。C外暗オリーブ灰色、2.5GY4/1、内明青灰色5PB7/1	外面にヘラ記号あり。
48	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下2区下　表面採集	①11.4　②3.5	外面回転ヘラ削り調整、ヘラ切り調整、他は回転ナデ。	Aやや粗。白色粗砂を少量含む。B良好。C外青灰色5PB6/1、内青灰色5PB6/1	1/3欠損
49	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下3区　黒色土	①13.6　②3.4	外面回転ヘラ切り調整、内面他は回転ナデ調整。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好C外青灰色5PB6/1、内青灰色5PB6/1	ひずみ多し
50	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下3区　青灰色土層	①12.5　②3.6	外面回転ヘラ削り後ナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径0.5㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好C外灰色N5/0、内青灰色5PB6/1	1/5欠損

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
51	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下3区　黒色土	①13.3　②3.8	外面へラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。ざらっとした感あり。B良好、C外青灰色5P B5/1、内青灰色5P B6/1	欠損部分多し
52	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下3区　黒色土	①13.9　②4.0	外面回転へラ切り調整、他は回転ナデ調整。	A密。径2.0㎜前後の白色粗砂を少量含む。B良好、C外灰色N4/0、内灰白色N7/0	2/3欠損
53	須恵器	杯身	2－5号窯跡　灰原下2区下　表面採集	①12.3　②4.7	底部外面回転へラ切り調整、他は回転ナデ調整。	A密。B不良。C外にぶい橙色7.5ＹＲ7/4、内にぶい黄橙色10ＹＲ7/4	
54	須恵器	杯身	2－5号窯跡　灰原下3区	①11.6　②4.4	外面回転へラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A粗。径2.0－3㎜の白色・灰色粗砂を多く含む。B良好。C外灰白色N8/0、内灰色N6/0	3/5欠損
55	須恵器	杯身	2－5号窯跡　灰原下3区　黒色土	①10.9　②4.0	外面回転へラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。径7.0㎜前後の白色砂礫を含む。B良好。C外青灰色5P B6/1、内明青灰色5P B7/1	へラ記号あり。
56	須恵器	杯身	2－5号窯跡　灰原下3区　黒色土	①11.2　②3.3	外面上半部及び内面に回転ナデ調整、外面下半部へラ削り調整。	A粗。0.5㎜の白色粗砂を少量含む。B良好。C外青灰色5PB5/1、内明青灰色5P B5/1	へラ記号あり。
57	須恵器	杯身	2－5号窯跡　灰原下3区　黒色土	①12.0　②3.6	外面下部回転へラ切り調整、他は回転ナデ調整。	A密。径2－3㎜前後の白色粗砂を少量含む。B不良。C外青色5P B5/1、内暗青色5P B4/1	へラ記号あり。
58	須恵器	杯身	2－5号窯跡　灰原下2区　黒色土	①(12.7) ②3.8	底部外面1/2へラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A粗。B良好。C外青灰色5P B7/1、内青灰色5P B5/1	3/4欠損
59	須恵器	杯身	2－5号窯跡　灰原下3区　青色土	①11.9　②4.1	底部1/2回転へラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C外灰白色N7/0、内灰白色N7/0	
60	須恵器	高杯	2－5号窯跡　灰原下3区下ノ下黒色土	②（3.7）	外面3/2回転へラ削り調整、他は回転ナデ調整。三方スカシ、高杯の脚茎部前後の破片。	Aやや粗。径0.5㎜以下の白色粗砂を少量含む。B甘い。C外明青灰色5P B7/1、内明青灰色5P B7/1	
61	須恵器	高杯	2－5号窯跡　灰原下3区　黒色土	②（5.2）	短脚高杯の基部周辺の破片。	Aやや粗。白色粗砂を少量含む。B良好。C外灰色10Y6/1、内灰白色N7/0	
62	土師器	甑把手	2－5号窯跡　灰原下2区下　黒色土	②（6.0）	甑の把手部分。手づくね成形、ナデ調整。	Aやや粗。白色粗砂を含む。B甘い。C外浅黄橙色10Y R8/4、内浅黄橙色10Y R8/4、	外面に重ね焼き痕あり。
63	須恵器	高杯	2－5号窯跡　灰原下3区　暗青灰色土	②（8.9）	高杯の脚部の破片、回転ナデ調整。	Aやや粗。白色粗砂を含む。B甘く軟質。C外灰白色7.57/1、内灰白色7.57/1	
64	須恵器	高杯蓋	2－5号窯跡　灰原下2区下　黄色土	①15.6　②5.8 ③3.5　④0.7	有蓋高杯の蓋、天井中央につまみ貼付、外面1/2に回転へラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。径1.0㎜以下の白色粗砂を多量含む。B良好。C外灰色N7/0、内灰色N7/0	
65	須恵器	甕	2－5号窯跡　灰原下1－3区下層	①12.4 ②21.3	外面平行叩き、内面円弧叩き、回転ナデ調整ほか。	A密、B良好。C外灰白色N7/0、内灰白色N7/0	
66	須恵器	甕	2－5号窯跡　灰原下2区下　黒色土	①15.8 ②（4.1）	口縁部の破片。両面回転ナデ調整。	Aやや粗。白色粗砂を含む。B良好。C外明青灰色5P B7/1、内明青灰色5P B7/1	
67	須恵器	甕	2－5号窯跡　灰原下　黄褐色色土	①19.4 ②（4.8）	口縁部の破片。両面回転ナデ調整。	A密。B良好、C外灰色N4/0、内灰色N6/0	

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
68	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下ベルト1－2区間、3層	①14.25 ②3.0 つまみ径2.1 つまみ高0.8	天井部外面2/1回転ヘラ削り調整、天井部外面2/1から内面にかけて回転ナデ調整、天井部内面2/3にはナデ調整。	A緻密。径0.5㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C外灰色10Y6/1、内灰白－灰7.5Y 7/1－6/1	
69	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下ベルト1－2区間　4層	①14.3　②2.3 つまみ径2.0 つまみ高06	外面回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A粗。径1.0㎜前後の白色粗砂を含む。B不良。C外灰白色2.58/1、内10YR7/4	
70	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下2区　黒色土層	①16.0 ②2.88	天井は丸みを持つ、外面回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰白色10Y6/1、内灰色N6	3/4欠損
71	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下2区　黒色土層	①(14.7) ②2.9 つまみ高0.5	天井は丸みを持つ、外面回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C灰白色N6、内灰白色N6	3/4欠損
72	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下ベルト1－2区間　2－3層	①13.9　②1.1	天井は扁平で平ら。外面回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整、中央につまみ貼付。	A密。径0.5㎜の白色粗砂を含む。B良好。C外灰白N7/1～明青灰5PB7/0、内灰白N6/0	
73	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下2区　黒色土層	①16.7　②3.2 つまみ径2.3 つまみ高1.25	天井は丸みを持つ、外面回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。細かい白色粗砂を含む。B甘く軟質。C外灰白色5Y7/1、内灰黄色7.5Y7/1	3/5欠損欠損
74	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下2区　黒色土	①14.5　②2.4 つまみ径2.3 つまみ高0.6	天井は丸みを持つ、外面回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A粗。径2.0㎜以下の白色粗砂を多く含む。B良好。C外黄灰色2.5Y6/1、内灰色10Y6/1	2/4欠損
75	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下2区　黒色土	①14.0　②2.8 つまみ径2.1 つまみ高0.8	外面一部回転ヘラ削り調整、内面3/4不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰色N6/0、内青灰色5PB6/1	3/4欠損
76	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下ベルト2区間　2－3層	①14.5　②1.6 つまみ径20 つまみ高0.6	天井は丸みを持つ、外面回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰色5Y6/1、内灰白色N7/0	1/9欠損
77	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下ベルト1－2区間4層	①13.5　②2.6 つまみ径1.8 つまみ高0.7	天井は丸みを持つ、外面回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A粗。径1－3㎜の白色粗砂を含む。B良好。C外灰色7.5Y6/1、内黄灰色2.5Y6/1	3/5欠損
78	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下ベルト1－2区間4層	①13.5　②2.6 つまみ径1.8 つまみ高0.7	天井は丸みを持つ、外面回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A粗。径1－3㎜の白色粗砂を含む。B良好。C外青灰色5PB6/1、内青灰色5PB6/1	
79	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下ベルト1－2区間4層	①16.25 ②2.0 つまみ径2.0 つまみ高0.5	天井は丸みを持つ、外面回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A粗。径1－2㎜の白色粗砂を含む。B良好。C外灰白色N7、内灰色7.5Y6/1	1/2欠損
80	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下2区　黒色土	①13.7　②2.7 つまみ径2.1 つまみ高0.7	天井は丸みを持つ、外面回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰白色N6/0、内灰白色N6/0	2/3欠損
81	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下2区　黒色土	①13.5　②20 つまみ径2.2 つまみ高0.4	天井は丸みを持つ、外面回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外青灰色5PB6/1内青白色5PB6/1	3/4欠損
82	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下2区　黒色土	①14.7　②1.9 つまみ径1.9 つまみ高0.7	天井は丸みを持つ、外面回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。Bやや甘い。C外内明青灰色5PB7/1	
83	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下2区　黒色土	①15.7　②2.0 つまみ径2.2 つまみ高0.5	天井は丸みを持つ、外面回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰色N6/0、内青灰色5PB6/1	2/5欠損
84	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下2区　黒色土層	①12.1　②1.8 つまみ径2.0 つまみ高0.4	天井は比較的低く、中央につまみを貼付。外面4/5に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰色N6/0、内灰N6/0	1/2欠損

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
85	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下2区　黒色土	①15.4　②1.7 つまみ径2.5 つまみ高0.5	天井は低くほぼ扁平で平である。回転ヘラ削り調整、回転ナデ調整。	Aやや密。B良好。C外灰7.5Y6/1、内灰白N7/0	1/2欠損
86	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下2区　黒色土	①14.8　②1.7 つまみ径1.9 つまみ高0.5	天井は低くほぼ扁平で平である。回転ヘラ削り調整、回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰色10Y5/1、内灰5Y5/1	3/4欠損
87	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下2区　黒色土	①14.4　②2.0	天井は低くほぼ扁平で平である。回転ヘラ削り調整、回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰白N6/0、内灰白N7/0	2/3欠損
88	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下2区　黒色土	①15.5　②2.2 つまみ径2.2 つまみ高0.5	天井は低くほぼ扁平で平である。回転ヘラ削り調整、回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰7.5Y6/1、内灰7.5Y5/1	3/4欠損
89	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下2区　黒色土	①13.7　②2.9 つまみ径2.2 つまみ高0.6	天井は比較的高く丸みを持つ。天井部外面2/3に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外内灰N6/0	4/5欠損
90	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下2区　黒色土	①14.5　②1.4 つまみ径2.7 つまみ高0.3	天井は低くほぼ扁平で平である。回転ヘラ削り調整、回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外青灰5PB6/1、内青灰5PB5/1	3/4欠損
91	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下2区　黒色土	①15.3　②1.2 つまみ径2.2 つまみ高0.6	天井は低く平らである。外面2/3回転ヘラ削り調整、内面他は回転ナデ。	Aやや粗。径2㎜前後の白色粗砂を含む。B良好。C外内灰白色N7/0	1/4欠損
92	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下2区　黒色土	①14.5　②1.7 つまみ径2.7 つまみ高0.5	天井は低く平らである。外面2/3回転ヘラ削り調整、内面他は回転ナデ調整。	Aやや粗。白色砂粒を大量に含む。B良好。C外灰白色N5/0、内N6/0	
93	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下3区　黒色土	①13.7　②2.8 つまみ径2.3 つまみ高0.3	天井は比較的高く丸みを持つ。天井部外面2/3に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。1－2㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外灰白色N7/0、内灰白7.5Y7/1	3/5欠損
94	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下3区	①13.7　②3.1 つまみ径2.1 つまみ高0.5	天井は比較的高く丸みを持つ。天井部外面2/3に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A密、B良好、C外内灰色N6/0	3/5欠損
95	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下2・3区間ベルト3層	①14.0　②2.8 つまみ径3.0 つまみ高0.5	天井は比較的高く丸みを持つ。天井部外面2/3に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A密、B良好。C外灰色5Y6/1、内灰色7.5Y5/1	1/2欠損
96	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下3区　黒色土	①14.1 ②2.35 つまみ径2.8 つまみ高0.3	天井は比較的高く丸みを持つ。天井部外面2/3に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。1㎜前後の白色砂粒を含む。B良好。C外オリーブ灰色2.5GY5/1、内灰N6/0	3/5欠損
97	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下3区　黒色土	①14.0　②2.3 つまみ径3.3 つまみ高0.3	天井は比較的高く丸みを持つ。天井部外面2/3に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A粗。1－2㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外灰褐色5YR5/2、内灰褐色5YR6/2	3/5欠損
98	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下2区　黒色土	①12.5　②1.6 つまみ径1.8 つまみ高0.5	天井は低くほぼ扁平で平である。回転ヘラ削り調整、回転ナデ調整調整	Aやや粗。Bやや良好。C外灰5Y6/1、内灰5Y6/1	3/4欠損
99	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下2－3区間ベルト3層	①11.2　②3.4 つまみ径1.8 つまみ高0.6	天井は比較的高く丸みを持つ。天井部外面2/3に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A粗1～2㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外灰色5Y6/1、内灰7.5Y5/1	3/5欠損。ひずみ多し。
100	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下2区　黒色土	①13.5　②2.1 つまみ径2.1 つまみ高0.7	天井は低くほぼ扁平で平である。回転ヘラ削り調整、回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外内灰色7.5Y6/1、	4/5欠損
101	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下3区　黒色土	①12.8　②1.7 つまみ径2.4 つまみ高0.3	天井は比較的高く丸みを持つ。天井部外面2/3に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。1～3㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外内灰7.5YR7/1	

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
102	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下3区　黒色土	①14.8　②3.6 つまみ径2.2 つまみ高0.8	外面1/2回転ヘラ削り、内面は磨滅して調整不明、つまみ貼付。	Aやや粗。1～2㎜の白色砂粒を少量含む、B良好。C外灰白5Y7/1、内灰5Y6/1	1/2欠損
103	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下2－3区間ベルト3層	①14.2　②2.3 つまみ径3.2 つまみ高0.3	底部外面回転ヘラ切り後ナデ調整、内面不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。白色砂粒を少量含む。B良好。C外灰白N6/0、内灰5Y6/1	1/3欠損
104	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下2区　黒色土	①14.6　②2.5 つまみ径2.5 つまみ高0.6	外面回転ヘラ切り後ナデ調整、内面回転ナデ後不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。白色砂粒を少量含む。B良好。C外内灰白5Y6/1	3/4欠損
105	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下2区　黒色土	①14.1 ②2.6 つまみ径2.1 つまみ高1.0	外面1/2回転ヘラ切り後回転ナデ調整、他は回転ナデ調整。	A粗。B良好。C外灰白2.5Y7/1、内灰7.5Y6/1	4/5欠損
106	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下2区　黒色土	①13.8　②2.4 つまみ径2.0 つまみ高0.7	天井は比較的高く丸みを持つ。天井部外面2/3に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。1～2㎜の白色砂粒を少量含む。B良好。C外灰オリーブ5Y6/2、内灰5Y6/1	4/5欠損
107	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下3区　黒色土	①14.5　②1.8 つまみ径2.4 つまみ高0.5	天井は比較的高く丸みを持つ。天井部外面2/3に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。1～2㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外灰5Y5/1、内灰白色N7/0	1/4欠損
108	須恵器	杯蓋	1号窯跡　3区　黒色土	①14.6　②1.3 つまみ径2.7 つまみ高0.5	天井は低くほぼ扁平で平である。回転ヘラ削り調整、回転ナデ調整。	Aやや粗。1～2㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外灰白色7.5Y7/1、内灰白色5Y8/1	1/3欠損
109	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下2区　黒色土	①12.3　②2.3 つまみ径2.0 つまみ高0.5	天井は比較的高く丸みを持つ。天井部外面2/3に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。1～2㎜の白色砂粒を少量含む。B良好。C外灰白色N7/0、内灰色7.5Y6/1	2/3欠損
110	須恵器	杯蓋	2－5号窯　灰原下	①14.4　②1.4 つまみ径2.7 つまみ高0.3	天井は低くほぼ扁平である。回転ヘラ削り調整、回転ナデ調整。	A密。1～2㎜の白色砂粒を少量含む。B良好。C外内灰色N6/0	2/5欠損、ひずみ多し
111	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下3区　黒色土	①14.2　②1.3 つまみ径2.1 つまみ高0.3	天井は低くほぼ扁平である。回転ヘラ削り調整、回転ナデ調整。	Aやや粗。1～2㎜の白色砂粒を少量含む。B良好。C外灰色N6/0、内青灰色5PB6/1	1/3欠損
112	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下3区　黒色土	①18.7　②2.3 つまみ径1.9 つまみ高0.6	天井は比較的高く丸みを持つ。天井部外面2/3に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。1～2㎜の白色砂粒を少量含む。B甘く軟質。C外内灰白色2.5Y8/1	3/4欠損
113	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下3区　黒色土	①14.3　②0.9 つまみ径2.1 つまみ高0.3	天井は低くほぼ扁平である。回転ヘラ削り調整、回転ナデ調整。	Aやや粗。白色砂粒を含む。B良好。C外灰色N5/0、内灰色N6/0	3/4欠損
114	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下3区　黒色土	①13.6　②1.0 つまみ径1.5 つまみ高0.2	天井は低くほぼ扁平である。回転ヘラ削り調整、回転ナデ調整。	Aやや粗。ざらっとした感あり。B良好。C外青灰色5PB5/1、内青灰色5PB6/1	3/5欠損、ひずみ多し。
115	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下3区　黒色土	①20.3　②1.5 つまみ径2.4 つまみ高0.3	天井は比較的高く丸みを持つ。天井部外面2/3に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A粗。B良好。C外灰白色N7/0、内灰白色5Y7/1	3/5欠損
116	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下3区　黒色土	①14.9　②2.5 つまみ径2.2 つまみ高0.3	天井は低くほぼ扁平である。回転ヘラ削り調整、回転ナデ調整。	Aやや粗。.B甘く軟質。C外灰白色2.57/0、内灰白色5Y8/1	3/5欠損
117	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡　灰原下3区　黒色土	①13.4　②2.2 つまみ径2.7 つまみ高0.5	天井は比較的高く丸みを持つ。天井部外面2/3に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰色5Y6/1、内灰白色2.5Y7/1	
118	須恵器	蓋	2－5号窯跡　灰原下3区　黒色土	①14.5　②2.4 つまみ径2.2 つまみ高0.6	天井は比較的高く丸みを持つ。天井部外面2/3に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A密。白色砂粒を含む。B良好。C外灰色N6/1、内灰色7.5Y6/1	3/5欠損

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
119	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下2区黒色土	①9.9　②3.1	底部は深く平らで、口縁部はなだらかに上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	A密。白色砂粒を含む。B良好。C外内灰色5/5Y1	3/4欠損
120	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下2区黒色土	①9.6　②3.6	底部は深く平らで、口縁部はなだらかに上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰色N5/0、内灰色N6/0	4/5欠損
121	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下2区黒色土	①9.5　②3.8	底部は深く平らで、口縁部はなだらかに上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	A粗。白色砂粒を含む。B甘く軟質。C外内明青灰5PB7/1	1/5欠損
122	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下2区黒色土	①11.0　②3.4	底部は深く平らで、口縁部はなだらかに上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	Aやや粗。1㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外内灰色N5/0	1/2欠損
123	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下2区黒色土	①10.3　②2.3	底部は深く平らで、口縁部はなだらかに上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰色7.5Y4/1、内灰色N6/0	3/5欠損
124	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下2区黒色土	①12.0　②4.0	底部は比較的深く平らで、口縁部はなだらかに上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰白色7.5Y7/1、内灰白色N7/0	4/5欠損
125	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下2区黒色土	①12.3　②7.5	底部は深く平らで、口縁部はなだらかに上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰白色7.5Y7/1、内灰白色N8/0	
126	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下2区黒色土	①11.6　②3.2	底部は比較的深く平らで、口縁部はなだらかに上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	Aやや密。B良好。C外灰色5Y5/1、内灰色5Y　6/1	1/2欠損
127	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下2区黒色土	①11.7　②3.3	底部は比較的深く平らで、口縁部はなだらかに上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰色5Y6/1、内灰白色N7/0	1/3欠損
128	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下2区黒色土	①13.4　②4.2	底部は深く平らで、口縁部はなだらかに上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰白N6/0、内灰白色N7/0	3/5欠損
129	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下2区黒色土	①13.5　②4.0	底部は深く平らで、口縁部はS字状に上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	A粗。2㎜前後の白色砂粒を含む。B良好。C外灰7.5Y6/1、内灰色N6/0	2/3欠損
130	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下2区黒色土	①11.9　②4.1	底部は深く平らで、口縁部はS字状に上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外内灰白N6/0	4/5欠損
131	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下1区黒色土	①12.5　②4.0	底部は深く平らで、口縁部はなだらかに上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	Aやや粗。白色砂粒を含む。B良好。C外灰白N6/0、内灰白色N6/0	1/2欠損
132	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下2区黒色土	①14.5　②4.2	底部は浅く平らで、高台は内端部で接地する。底部外面に回転ヘラ削り調整、底部内面にナデ調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B甘くやや軟質。C外内灰白5Y6/1	2/3欠損
133	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下2区黒色土	①12.9　②3.9	底部は比較的深く平らで、口縁部はなだらかに上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	Aやや粗。2㎜前後の白色砂粒を含む。B良好。C外内灰色N6/0	3/4欠損
134	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下2区黒色土	①13.9　②3.6	底部は比較的深く平らで、口縁部はなだらかに上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	A粗。1－3㎜の白色砂粒を多量に含む。B良好。C外灰白5Y5/1、内灰白5Y6/1	1/2欠損
135	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下2区黒色土	①12.1　②3.8	底部は比較的深く平らで、口縁部はなだらかに上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰色N6/0、内青灰色5PB5/1	1/3欠損

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量㎝①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
136	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下2区黒色土	①13.3　②4.1	底部は深く平らで、口縁部は内彎して上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	Aやや粗。白色砂粒を含む。B良好。C外灰白色N7/0、内明青灰色5PB7/1	1/2欠損
137	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下2区黒色土	①13.2　②3.6	底部は比較的深く平らで、口縁部はなだらかに上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	Aやや粗。1－2㎜前後の白色砂粒を含む。B良好。C外明青灰色5PB7/1、内灰色7.5Y6/1	3/4欠損
138	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下2区黒色土	①15.1　②3.9	底部は深く平らで、口縁部はS字状に上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外内灰白色N7/0	2/3欠損
139	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下2区黒色土	①12.7　②3.8	底部は深く平らで、口縁部は内彎して上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰色N6/0、内青灰色5PB6/1	4/5欠損
140	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下2区黒色土	①12.5　②3.9	底部は深く平らで、口縁部は内彎して上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外明青灰色5PB7/1、内灰色5Y6/1	4/3欠損
141	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下2区黒色土	①14.0　②4.3	底部は深く平らで、口縁部はS字状に上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	Aやや粗。2㎜の白色砂粒を含む。B甘く軟質。C外にぶい黄橙色10YR7/4、内灰黄褐色10YR6/2	
142	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下2区黒色土	①13.9　②4.0	底部は深く平らで、口縁部は内彎して上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	Aやや粗。白色砂粒を含む。B良好。C外内灰色7.5YR7/1	1/5欠損
143	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下2区黒色土	①10.0　②4.5	底部は深く平らで、口縁部は内彎して上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外黄灰色2.5Y5/1、内灰黄色2.5Y6/2	4/5欠損
144	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下2区黒色土	①14.4　②4.8	底部は深く平らで、口縁部はS字状に上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外内灰色N7/0	2/3欠損
145	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下2区黒色土	①14.9　②3.9	底部は深く平らで、口縁部は内彎して上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外内灰色7.5Y6/1	4/5欠損
146	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下2区黒色土	①15.2　②5.1	底部は深く平らで、口縁部は内彎して上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外内灰色N6/0	4/5欠損
147	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下ベルト1－2区間3層	①14.2　②3.7	底部は深く平らで、口縁部はS字状に上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外内灰色N6/0	2/3欠損
148	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下3区黒色土	①11.5　②4.0	底部は比較的深く平らで、口縁部はなだらかに上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰色7.5Y6/1、内灰色5Y6/1	1/2欠損
149	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下3区黒色土	①11.1　②4.0	底部は比較的深く平らで、口縁部はなだらかに上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	Aやや粗。1－3㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外灰色10Y6/1、内灰色7.6Y6/1	1/2欠損
150	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下3区黒色土	①12.0　②4.2	底部は比較的深く平らで、口縁部はなだらかに上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰白色N7/、内明オリーブ灰色2.5GY7/1	1/2欠損
151	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下3区	①12.5　②4.7	底部は比較的深く平らで、口縁部はなだらかに上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰白色N7/0、内灰色N6/0	1/2欠損、ひずみあり
152	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下2区黒色土	①3.6　②3.6	底部は比較的深く平らで、口縁部はなだらかに上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰色N5/0、内灰白色N7/0	3/4欠損

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
153	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下3区黒色土	①11.5　②3.5	底部は深く平らで、口縁部はS字状に上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰色N6/0、内灰色5Y5/1	1/2欠損
154	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下3区黒色土	①12.3　②4.4	底部は比較的深く平らで、口縁部はなだらかに上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	A粗。B良好。C外内明青灰色N6/0	1/3欠損
155	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下3区黒色土	①13.3　②3.8	底部は深く平らで、口縁部はS字状に上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	A粗。B良好。C外内灰色N5/0	3/4欠損
156	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下ベルト1－2区間3層	①13.9　②4.5	底部は比較的深く平らで、口縁部はなだらかに上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	A密。B甘く軟質。C外灰白色N8/0、内灰白色N7/1	3/5欠損
157	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下ベルト1－2区間3層	①12.6　②4.3	底部は深く平らで、口縁部はS字状に上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	A粗。2－3㎜の砂粒を含む。B良好。C外内灰色N6/0	1/3欠損
158	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下3区黒色土	①12.9　②4.6	底部は比較的深く平らで、口縁部はなだらかに上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外内灰白色N7/0	2/5欠損
159	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下3区黒色土	①13.1　②3.4	底部は深く平らで、口縁部はS字状に上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外内灰色5Y6/1	3/5欠損
160	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下3区黒色土	①12.5　②3.8	底部は深く平らで、口縁部は内彎して上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	Aやや粗。B甘い。C外灰白色2.5Y7/1、内黄灰色2.5Y6/1	2/5欠損
161	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下3区下黒色土	①13.8　②3.6	底部は深く平らで、口縁部はS字状に上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。底部に圧痕。	Aやや粗。B良好。C外内灰色N6/0、内灰色5Y6/1	3/4欠損
162	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下3区黒色土	①13.8　②4.3	底部は深く平らで、口縁部は内彎して上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外内灰色N6/0	4/5欠損
163	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下3区	①12.5　②3.8	底部は深く平らで、口縁部はS字状に上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外明青灰色5PB7/1、内青灰色5PB7/1	5/6欠損
164	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下3区黒色土	①14.6　②3.7	底部は浅く平らで、口縁部はなだらかに上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	Aやや粗。B甘く軟質。C外淡黄色2.5Y8/4、内にぶい黄橙灰色10YR7/3	4/5欠損
165	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下3区黒色土	①13.9　②3.5	底部は深く平らで、口縁部はS字状に上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	Aやや粗。B甘く軟質。C外内淡黄色2.5Y8/3	4/5欠損
166	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下3区黒色土	①12.9　②4.1	底部は深く平らで、口縁部は内彎して上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	Aやや粗。細かい白色砂粒。B良好。C外暗灰色N3/0、内青灰色5PB6/1	ひずみ多し。
167	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下3区黒色土	①15.0　②4.7	底部は比較的深く平らで、口縁部はなだらかに上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰色7.5Y5/1、内灰白色N7/0	4/5欠損
168	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下3区黒色土	①15.3　②4.2	底部は比較的深く平らで、口縁部はなだらかに上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰色7.5Y5/1、内灰色5Y6/1	3/5欠損
169	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下3区黒色土	①14.6　②4.1	底部は深く平らで、口縁部はS字状に上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	Aやや粗。2－3㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外明紫灰色5P7/1、内明青灰色5PB7/1	3/5欠損

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
170	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下3区下黒色土	①15.7　②3.7	底部は浅く平らで、口縁部はなだらかに上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰色7.5Y6/1、内灰白色5Y7/1	5/6欠損
171	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下3区黒色土	①15.8　②4.3	底部は深く平らで、口縁部はS字状に上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	A密。B良好。C外内明青灰色5PB7/1	5/6欠損
172	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下3区	①17.0　②7.0	底部は深く平らで、口縁部は内彎して上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	A密。B良好。C外10Y6/1、内灰色5Y6/1	4/5欠損、ひずみ亀裂あり。
173	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下3区黒色土	①18.0　②3.0	底部は浅く平らで、口縁部はなだらかに上外方にのび端部は丸い。底部に高台。回転ナデ調整。	A密。B甘く軟質。C外灰白色10YR7/1、内灰白色10YR8/1	4/5欠損
174	須恵器	杯	2－5号窯跡灰原下2区黒色土層	①13.1　②3.2	底部は比較的浅くほぼ平ら。底部外面は回転ヘラ削り調整、内面から外面にかけて回転ナデ調整。	Aやや密。B良好。C外明青灰5PB7/1、内明青灰5PB7/1	1/5欠損、2点接合。
175	須恵器	杯	2－5号窯跡灰原下2区黒色土層	①13.0　②3.4	底部は比較的浅くわずかに丸みを持つ。底部外面は回転ヘラ削り調整、底部内面はナデ調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰7.5Y6/1、内灰7.5Y6/1	3/5欠損
176	須恵器	杯	2－5号窯跡灰原下2区黒色土層	①14.4　②3.7	底部は比較的浅くわずかに丸みを持つ。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整	Aやや粗。ザラっとした感あり。B良好。C外灰N6/0、内灰N6/0	5/6欠損
177	須恵器	杯	2－5号窯跡灰原下2区黒色土層	①14.0　②4.0	底部は比較的深くわずかに丸みを持つ。底部外面は回転ヘラ削り調整。底部内面はナデ調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。0.5㎜の白色砂粒を少量含む。B良好。C外明青灰5PB7/1、内明青灰5PB7/1	3/4欠損
178	須恵器	杯	2－5号窯跡灰原下3区下青灰色土	①13.4　②3.2	底部は比較的浅くほぼ平ら。底部外面は回転ヘラ削り調整、内面から外面にかけて回転ナデ調整。	Aやや粗。0.5㎜の白色砂粒を少量含む。B良好。C外灰白7.5Y7/1、内灰白10Y7/1	3/4欠損
179	須恵器	杯	2－5号窯跡灰原下3区黒色土層	①15.0　②3.9	底部は比較的深くわずかに丸みを持つ。内面から外面にかけて回転ナデ調整。	Aやや粗。2～3㎜の白色砂粒を少量含む。B良好。C外明青灰5PB7/1、内青灰5PB6/1	5/6欠損
180	須恵器	杯	2－5号窯跡灰原下3区黒色土層	①15.2　②3.3	底部は比較的浅くほぼ平ら。底部内面はナデ調整、他回転ナデ調整。底部外面にスダレ状刻文あり。	Aやや粗。B良好。C外灰5Y5/1、内青灰5PB6/1	4/5欠損
181	須恵器	杯	2－5号窯跡灰原下3区下暗黄灰色土	①13.6　②4.1	底部は比較的深く、ほぼ平である。底部外面に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。Bやや甘い。C外灰白N7/0、内灰白2.5Y8/1	3/4欠損
182	須恵器	杯	2－5号窯跡灰原下3区黄褐色土層	①13.8　②3.5	底部は比較的浅くほぼ平である。底部外面は回転ヘラ削り調整。他回転ナデ調整。	Aやや密。B良好。C外青灰5PB6/1、内青灰5PB6/1	3/4欠損
183	須恵器	杯身	2－5号窯跡灰原下1－2区間ベルト4層	①14.0　②3.5	底部は比較的浅く、ほぼ平である。底部外面は回転ナデ調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外青灰5PB6/1、内明青灰5PB7/1	2/3欠損
184	須恵器	杯	2－5号窯跡灰原下3区黒色土層	①12.7　②3.8	底部は比較的深くわずかに丸みを持つ。底部内面ナデ調整、ほか、回転ナデ調整。	Aやや粗。Bやや甘い。C外灰白5Y7/1、内灰黄2.5Y6/2	1/3欠損
185	須恵器	杯	2－5号窯跡灰原下ベルト1－2間3層	①15.9　②3.3	底部は比較的浅くわずかに丸みを持つ。底部外面は回転ヘラ削り調整、底部内面はナデ調整、他回転ナデ調整。	Aやや密。B良好。C外青灰5PB6/1、内青灰5PB6/1	4/5欠損
186	須恵器	皿	2－5号窯跡灰原下2区黒色土層	①15.3　②1.8	底部は浅くほぼ平らである。口縁部は短く外反し、端部は丸い。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰白5Y7/1、内灰5Y6/1	4/5欠損

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
187	須恵器	皿	6号窯跡堆積土	①13.7　②1.8	底部は浅くほぼ平らである。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A密。B良好。C外内灰7.5Y6/1	2/3欠損
188	須恵器	皿	6号窯跡堆積土	①18.5　②2.5	底部は浅くほぼ平らである。口縁部は短く外反し、端部は丸い。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A密。B良好。C外内明青灰5P B7/1	9/10欠損
189	須恵器	皿	2－5号窯跡灰原下3区黒色土層	①19.0　②2.6	底部は浅くほぼ平らである。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや密。B良好。C外灰白N7/0、内灰N5/0	4/5欠損
190	須恵器	皿	2－5号窯跡灰原下3区黒色土層	①20.0　②2.0	底部は浅くほぼ平らである。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。スダレ状圧痕あり。	Aやや粗。B甘い。C外明オリーブ灰2.4G Y7/1、内明オリーブ灰2.5G Y7/1	9/10欠損
191	須恵器	皿	2－5号窯跡灰原下2区黒色土層	①19.0　②2.1	底部は浅くほぼ平らである。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A粗。2～3㎜の白色砂粒を少量含む。B良好。C外灰7.5Y6/1、内灰7.5Y6/1	4/5欠損
192	須恵器	皿	2－5号窯跡灰原下3区黒色土層	①18.0　②2.3	底部は浅く平らである。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰N7/0、内灰N6/0	9/10欠損
193	須恵器	皿	2－5号窯跡灰原下2区黒色土層	①20.2　②2.4	底部に丸みを持つ。底部外面は回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰白2.5Y7/1、内黄灰2.5Y6/1	2/3欠損
194	須恵器	皿	2－5号窯跡灰原下2区黒色土層	①18.4　②2.9	底部に丸みを持つ。底部外面は回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや密。B良好。C外灰5Y6/1、内灰5Y6/1	2/3欠損
195	須恵器	皿	2－5号窯跡灰原下ベルト1～2区間2～3層	①15.4　②1.6	底部は浅くほぼ平らである。口縁部は短く外反し、端部は丸い。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外内灰色N6/0	6/7欠損
196	須恵器	皿	2－5号窯跡灰原下ベルト1～2区間3層	①14.0　②1.8	底部は浅くほぼ平らである。口縁部は短く外反し、端部は丸い。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A粗。2㎜の白色砂粒を多量に含む。B良好。C外内明青灰5P B7/1	4/5欠損
197	須恵器	皿	2－5号窯跡灰原下2区黒色土層	①16.2　②1.7	底部は浅くほぼ平らである。口縁部は短く外反し、端部は丸い。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰色N5/0、内灰N6/0	5/6欠損
198	須恵器	皿	2－5号窯跡灰原下ベルト1－2区間4層	①14.8　②2.5	底部に丸みを持つ。底部外面は回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A緻密。1㎜の白色砂粒を少量に含む。B良好堅緻。C外内灰白色N7/0	1/2欠損
199	須恵器	皿	2－5号窯跡灰原下3区黒色土層	①15.5　②2.3	底部は浅くほぼ平らである。口縁部は比較的長く外反し、端部は丸い。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B甘く軟質。C外灰白色5Y8/2、内灰白5Y8/2	
200	須恵器	皿	2－5号窯跡灰原下ベルト1－2区間4層	①14.5　②2.3	底部に丸みを持つ。底部外面は回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰N6/0、内灰N7/0	3/5欠損
201	須恵器	皿	2－5号窯跡灰原下3区東側青色土層	①14.3　②2.6	底部に丸みを持つ。底部外面は回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A密。B良好。堅緻、1㎜の白色砂粒を少量含む。C外灰白N7/1、内明青灰7/1	1/2欠損
202	須恵器	皿	2－5号窯跡灰原下2区下黒色土層	①16.0　②1.9	底部にわずかに丸みを持つ。底部外面は回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。B甘く軟質。C外灰白色N7/0、内灰白色7.5Y8/1	6/7欠損
203	須恵器	皿	2－5号窯跡灰原下2区黒色土層	①14.1　②1.7	底部は浅くほぼ平らである。口縁部は比較的短く外反し、端部は丸い。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰白色N7/0、内灰白色7.5Y8/1	6/7欠損

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
204	須恵器	皿	2－5号窯跡灰原下3区黒色土層	①15.9　②1.8	底部は浅くほぼ平らである。口縁部は比較的長く外反し、端部は丸い。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A密。B良好。C外オリーブ灰色2.5GY6/1、内灰色10Y5/1	5/6欠損
205	須恵器	皿	2－5号窯跡灰原下3区黒色土層	①16.0　②2.8	底部に丸みを持つ。底部外面は回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A密。0.5㎜の白色砂粒を少量含む。B良好。C外内灰色N6/0	3/5欠損
206	須恵器	皿	2－5号窯跡灰原下2区黒色土層	①19.2　②2.4	底部は浅くほぼ平らである。口縁部は短く外反し、端部は丸い。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B甘く軟質。C外灰白2.5Y8/1、内灰白8/1	
207	須恵器	皿	2－5号窯跡灰原下2区黒色土層	①17.6　②2.5	底部に丸みを持つ。底部外面は回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A粗。1㎜の白色砂粒を多量に含む。B良好。C外内灰色N6/	3/4欠損
208	須恵器	皿	2－5号窯跡灰原下2区黒色土層	①21.3　②2.3	底部は浅くほぼ平らである。口縁部は短く外反し、端部は丸い。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A粗。白色砂粒を多量に含む。B良好。C外内明青灰色5PB7/1	6/7欠損
209	須恵器	皿	2－5号窯跡灰原下2区黒色土層	①17.8　②2.3	底部は浅くほぼ平らである。口縁部は短く外反し、端部は丸い。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。白色砂粒を多量に含む。B良好。C外内灰色N6/0	5/6欠損
210	須恵器	皿	2－5号窯跡灰原下ベルト1～2区間	①20.2　②2.2	底部は浅くほぼ平らである。口縁部はS字状に短く外反し、端部は丸い。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰白色N7/0、内灰色N6/0	5/6欠損
211	須恵器	皿	2－5号窯跡灰原下3区黒色土層	①20.0　②2.8	底部は浅く平らである。口縁部は短く外反し、端部は丸い。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。2㎜前後。B良好。C外灰色10Y6/1、内灰色5Y5/1	4/5欠損
212	須恵器	皿	2－5号窯跡灰原下2区黒色土層	①22.9　②2.9	底部は浅く平らである。口縁部は短く外反し、端部は丸い。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B甘く軟質。C外灰白色5Y7/1、内灰白色7.5YN5/1	5/6欠損
213	須恵器	皿	2－5号窯跡灰原下1区黒色土層	①26.1　②2.0	底部は浅く平らである。口縁部は短く外反し、端部は丸い。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。Bやや甘い。C外内灰白色5Y7/1、内灰色N6/0	3/4欠損
214	須恵器	皿	2－5号窯跡灰原下2区黒色土層	①20.7　②2.5	底部は浅くほぼ平らである。口縁部はS字状に短く外反し、端部は丸い。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A粗。白色砂粒を大量に含む。B良好。C外灰N6/0、内灰オリーブ5Y5/3	5/6欠損
215	須恵器	皿	2－5号窯跡灰原下3区黒色土層	①31.1　②2.5	底部は浅く平らである。口縁部は短く外反し、端部は丸い。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰色N6/0、内灰色N5Y6/1	3/4欠損
216	須恵器	皿	2－5号窯跡灰原下3区黒色土層	①22.5　②2.4	底部は浅く平らである。口縁部は短く外反し、端部は丸い。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A粗。1～2㎜大量。B良好。C外内灰色5Y6/1	3/4欠損
217	須恵器	蓋	2－5号窯跡灰原下3区黒色土層	①12.5　②2.1	天井は比較的高く丸みを持つ。天井にはつまみを伴わない。天井部1/2に回転ヘラ削り、他は回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰色N5/、内灰色7.5Y5/1	一部欠損
218	須恵器	鉢	2－5号窯跡灰原下3区黒色土層	①33.9　②8.5	鉄鉢形土器で、底部を欠損。外面にヘラ磨き状ヘラ削りを行う。他は回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰白色5Y5/1～4/1、内灰白色N8/0～7/0	4/5欠損
219	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡灰原下2～3間ベルト3層	①11.7　②1.4	天井は比較的低くわずかに丸みを持つ。天井にはつまみを伴わない。天井部2/3に回転ヘラ削り、他は回転ナデ調整。	A密。B良好。C外内灰色N6/0	1/5欠損
220	須恵器	杯蓋	2－5号窯跡灰原下2区黒色土層		天井は比較的低く平らに近い。天井にはつまみを伴わない。天井部1/2に回転ヘラ削り、他は回転ナデ調整。	A密。B良好。C外内灰色N6/0	2/3欠損

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
221	須恵器	瓶	2－5号窯灰原下3区黄褐色土層	①6.4　②4.0	瓶の口縁部の破片。	A密。B良好。C外明青灰色5PB7/1、内明青灰色5PB7/1	2/3欠損
222	須恵器	短頸壺	2－5号窯灰原下2区黒色土層　青灰色土内	①5.9　②12.2　④14.6	口頸部は細く、外して伸び、端部で外方に曲げられる。体部は最大径を上位に求める球体。回転ヘラ削り、回転ナデ調整	A密。B良好。C外灰色7.5Y5/1、内灰白色N6/	1/2欠損
223	須恵器	杯蓋	2－5号窯灰原下2区黒色土層	①13.2　②1.1	天井は比較的低く平らに近い。天井にはつまみを伴わない。天井部2/3に回転ヘラ削り、他は回転ナデ調整。	A密。B良好。C外青灰色5PB5/1、内暗青灰色5PB4/1	3/5欠損
224	須恵器	壺	2－5号窯灰原下2区黒色土層	①8.1　②10.1	長頸壺の体部。把手を伴う双耳壺。	A密。B良好。C外明青灰色5PB7/1、内灰色N4/0	
225	須恵器	蓋	2－5号窯灰原下3区黄褐色土層	①10.7　②2.0	壺の蓋で、天井中央が欠損。	Aやや密。B良好。C外内灰色N6/0	2/3欠損
226	須恵器	短頸壺	2－5号窯灰原下2・3区間6層	①8.1　②9.0	短頸壺の上半部。口頸部は基部太く短く直立し、端部は丸い。体部中位に沈線2条、回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰オリーブ色7.5Y4/2、内明青灰色5PB7/1	1/2欠損
227	須恵器	短頸壺	2－5号窯灰原下3区黒色土層	①11.5　②2.2	短頸壺の上半部。口頸部は基部太く短く直立し、端部は丸い。体部中位に沈線2条、回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰色7.5Y5/1　内灰白～灰色N7/0～6/0	口縁部のみ一部、大半欠損。
228	須恵器	鉢	2－5号窯灰原下3区黒色土層	①18.3　②7.4	大きく口縁部は内彎する鉢である。底部を欠損。	Aやや密。B甘い。C外灰白色5Y8/1、内灰白色5Y7/1	
229	須恵器	短頸壺	2－5号窯灰原下1区黄色土層	①14.5　②3.1	短頸壺の上半部。口頸部は基部太く短く直立し、端部は丸い。体部中位に沈線2条、回転ナデ調整。	Aやや粗。B甘い。C外、内灰白色N7/0	4/5欠損
230	須恵器	壺	2－5号窯灰原下2～3間ベルト3層	①22.4　②11.6	壺の底部、高台を貼付する。回転ヘラ削り、回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外内灰色N5/0	5/6欠損
231	須恵器	壺	2－5号窯灰原下3区黒色土層	①18.8　②5.2	壺の底部、高台を貼付する。回転ヘラ削り、回転ナデ調整。	A粗。B良好。C外灰色N4/0、内灰色7.5Y6/1～5/1	4/5欠損
232	須恵器	杯蓋	6号窯跡　窯体内94	つまみ径2.25 つまみ高0.8	外面ヘラ切り調整、回転ナデ調整、内面ナデ調整？	A精良。径2.0㎜以下の白色粗砂を若干含む。B良好。C明オリーブ灰色5GY7/1灰白色N7/～灰色N6/	歪みが大きい
233	須恵器	杯蓋	6号窯跡　窯体内33	①(15.6) ②1.2 つまみ径2.0 つまみ高0.65	外面2/3回転ヘラ切り後ナデ調整、内外面とも回転ナデ調整。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C外灰色N6/～N5/、内灰白色N7/～灰色N6/	
234	須恵器	杯蓋	6号窯跡　窯体内113	①(13.6) ②1.85 つまみ径2.1 つまみ高0.9	外面ナデ調整、内面1/2不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A粗。径3.0㎜以下の白色砂礫を多く含む。他に細かい黒色粒子を少量含む。Bやや不良。C灰色N6/～灰白色10YR8/2	歪みが大きい
235	須恵器	杯蓋	6号窯跡　窯体内99、 〃　〃　102・103下層、 〃　〃　1区左上層、 〃　〃　焚口部左上層、 〃　〃　焚口部土器群検出時、 〃　〃　焚口左側埋土	①13.4　②2.15	外面2/3回転ヘラ切り後ナデ調整、内面1/2不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A精良。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。Bやや不良。C外灰色N6/、内灰白色N7/	
236	須恵器	杯蓋	6号窯跡　窯体内7、70、91	①13.4　②1.2	外面1/2回転ヘラ切り後ナデ調整、内面回転ナデ調整。	A精良。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C外灰色N4/、内灰色N6/	外面に重ね焼き痕あり。
237	須恵器	杯蓋	6号窯跡　窯体内68、74、89、 〃　〃　1区右1層	①15.6　②1.45	外面1/2回転ヘラ切り後ナデ調整、他は回転ナデ調整。	A精良。径2.0㎜以下の白色粗砂や黒色粒子を少量含む。Bやや不良。C内外面灰白色N7/	内外面重ね焼き痕あり

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
238	須恵器	杯蓋	6号窯跡　窯体内73、77、87	①13.5　②1.2	内面回転ナデ調整。	A精良。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C内外面灰色N5/	外面全体がクレーター状に弾ける。内外面重ね焼き痕あり。
239	須恵器	杯蓋	6号窯跡　窯体内54、79	①13.75 ②1.4	外面4/7回転ヘラ切り後ナデ調整、他は回転ナデ調整。	A精良。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C灰色N5/～明緑灰色7.5GY8/1	天井部外面に板状圧痕あり。
240	須恵器	杯蓋	6号窯跡　窯体内44、47、65、88	①(15.8) ②1.15	外面2/3回転ヘラ切り、内面2/3不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A精良。径4.0㎜以下の白色砂礫を少量含む。B良好。C灰色N6/～オリーブ灰色2.5GY5/1	
241	須恵器	杯蓋	6号窯跡　窯体内95、60 〃　〃　1区左上層 〃　〃　焚口部土器検出時	①14.9～15.2 ②1.65	外面2/3回転ヘラ切り後ナデ調整、内面3/5不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A精良。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C灰色N6/～N5/	天井部外面に板状圧痕？
242	須恵器	杯蓋	6号窯跡　窯体内27、42、43、90	①15.2　②1.5	外面1/2回転ヘラ切り、内面不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径3.0㎜以下の白色砂礫を少量含む。B良好。C外青灰色5B5/1～暗青灰色5PB4/1、内青灰色5B6/1～暗青灰色5P3/1	天井部外面にヘラ記号。
243	須恵器	杯蓋	6号窯跡　窯体内30、31、17	①16.4　②2.0	外面2/3回転ヘラ切り、他は回転ナデ調整。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。Bやや不良。C(重ね焼きの焼けムラ)口縁部内外面暗灰色N3/、体部内外面灰白色5Y7/1	
244	須恵器	杯蓋	6号窯跡　窯体内40、86	①15.2 ②2.05	外面1/2回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ調整。	A精良。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C灰色N6/～暗オリーブ灰色2.5GY4/1	内外面重ね焼き痕あり。
245	須恵器	杯蓋	6号窯跡　窯体内18、28、72	①16.8 ②2.15	外面2/3回転ヘラ切り後ナデ調整、内面3/4不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。Bやや不良。C内外面灰白色5Y7/1	
246	須恵器	杯蓋	6号窯跡　窯体内1、2、 〃　〃　土器・焼台集積土内、 〃　〃　焼成最下層	①16.85 ②2.0	全面磨滅して調整不明。	A精良。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B不良。C橙色7.5YR7/6～褐灰色7.5YR4/1	
247	須恵器	杯蓋	6号窯跡　窯体内53、78、 〃　〃　1区右1層	①(15.2)②1.8	外面2/3回転ヘラ切り、内面1/2不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C外暗灰色N3/～オリーブ灰色2.5GY6/1、内灰色N4/～オリーブ灰色2.5GY6/1	
248	須恵器	杯身	6号窯跡　窯体内67、120～128下層、 〃　〃　102・103下層、 〃　〃　焚口右側、 〃　〃　焚口左上層	①(11.9) ②4.9 高台径7.7	外面ヘラ切り後ナデ調整、内面不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C灰白色N7/	底部外面に板状圧痕あり。
249	須恵器	杯身	6号窯跡　窯体内37、120～128下層、 〃　〃　焚口左側、 〃　〃　焚口左側埋土、 〃　〃　土器・焼台堆積土中	①13.0 ②4.65 高台径7.2	底部外面ナデ調整、底部内面ナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C灰色N6/	底部外面や高台接地面に板状圧痕あり。
250	須恵器	杯身	6号窯跡　窯体内93	③10.3 高台径9.3	底部外面回転ヘラ切り、底部内面ナデ調整、他は回転ナデ調整。	A精良。径1.0㎜以下の白色粗砂を若干含む。Bやや不良。C灰白色10YR7/1～褐灰色10YR6/1	
251	須恵器	杯身	6号窯跡　窯体内35、 〃　〃　1区左上層、 〃　〃　埋土	③(13.0) 高台径(11.4)	全面磨滅して調整不明。 高台ナデ付け。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B不良。C体部外面～内灰白色N7/～灰色N6/、底部外面浅黄橙色7.5YR8/4。	
252	須恵器	杯身	6号窯跡　窯体内51、85	高台径10.0	底部外面回転ヘラ切り、他は回転ナデ調整。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂や黒色粒子を少量含む。B良好C外灰白色N7/、内灰色N6/	
253	須恵器	杯	6号窯跡　窯体内21、3、52、82、 〃　〃　1区右2層	①12.45 ②3.9 ③8.3	体部内外面回転ナデ調整、底部外面回転ヘラ切り後ナデ調整、内面調整不明。	A密。径3.0㎜以下の白色砂礫を少量含む。B不良C内外面浅黄橙色7.5YR8/6	
254	須恵器	杯	6号窯跡　窯体内13、25、112下層、117 〃　〃　120～128下層、 〃　〃　1区右2層、 〃　〃　焚口部土器群検出時	①12.7～13.3 ②4.0　③7.5	底部内外面不定方向のナデ、他は回転ナデ調整。	A密。径6.0㎜以下の白色砂礫を少量含む。B良好C灰色N6/、暗緑灰色10GY3/1	

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
255	須恵器	杯	6号窯跡　窯跡体内24、98、120～128下層、 〃　〃　焚口部土器群検出時	①(12.2) ②3.6 ③7.2	底部外面回転ヘラ切り後ナデ調整、底部内面ナデ調整、他は回転ナデ調整。	A精良。径1.0㎜以下の白色粗砂や黒色粒子を少量含む。B良好C灰色N5/	底部外面に板状圧痕あり。
256	須恵器	杯	6号窯跡　窯跡体内20、128、 〃　〃　土器・焼台集積土中、 〃　〃　焚口部土器群検出時	①13.05 ②4.1 ③7.6	全面磨滅して調整不明。	A精良。径3.0㎜以下の白色砂礫をやや多く含む。他に細かい黒色粒子を少量含む。Bやや不良C内外面黄橙色7.5YR7/8～灰白色7.5YR8/2	
257	須恵器	杯	6号窯跡　窯跡体内102・103下層、 〃　〃　120～128下層	①12.4　②3.5 ③7.0	底部外面回転ヘラ切り、底部内面ナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂や黒色粒子を少量含む。B良好C灰色N6/～N5/	
258	須恵器	杯	6号窯跡　窯跡体内112下層、 〃　〃　102・103下層、 〃　〃　焚口部土器群検出時	①12.4 ②3.6 ③7.1	底部外面ヘラ切り後ナデ。内面ナデ調整。他は回転ナデ調整。	A密。径5.0㎜以下の白色砂礫を少量含む。B良好C外灰色N6/～灰白色N7/、内灰色N5/	底部外面に板状圧痕あり。
259	須恵器	杯	6号窯跡　窯跡体内22、23、34、 〃　〃　土器・焼台集積土中	①13.0 ②3.9 ③7.8	底部外面回転ヘラ切り、底部内面ナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径4.0㎜以下の白色砂礫や黒色粒子を少量含む。B不良C内外灰白色10YR8/1～8/2	重ね焼き痕あり。
260	須恵器	杯	6号窯跡　窯跡体内108、14、 〃　〃　1区右2層、 〃　〃　焼成部最下層	①12.85 ②3.85 ③7.15	底部外面回転ヘラ切り、内面ナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B不良C内外面灰白色10YR8/1～8/2	重ね焼き痕あり。
261	須恵器	杯	6号窯跡　窯跡体内129、112下層、 〃　〃　120～128下層	①12.7 ②3.65 ③7.4	底部外面回転ヘラ切り後ナデ調整、底部内面ナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂や黒色粒子を少量含む。B良好C灰色N6/～灰白色N7/	底部外面に板状圧痕あり。
262	須恵器	杯	6号窯跡　窯跡体内36、 〃　〃　最終操業面上、 〃　〃　1区右2層	①(13.3) ②4.1 ③7.6	底部外面に回転ヘラ切り痕、他は調整不明。	A密。径3.0㎜以下の白色砂礫を少量含む。B不良C灰白色10YR8/1～8/2	
263	須恵器	杯	6号窯跡　窯跡体内焚口部土器群検出時、 〃　〃　焚口左側、 〃　〃　102・103下層	①(12.4) ②3.5 ③7.3	底部外面にヘラ切り後ナデ調整、底部内面ナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好C(重ね焼きの焼けムラ)口縁部外面灰白色N7/、残り全体灰色N6/～N5/	
264	須恵器	杯	6号窯跡　窯跡体内119、21、107、108下層、 〃　〃　115、116、120～128下層 〃　〃　焚口上層、	①12.9 ②3.65 ③7.65	底部外面回転ヘラ切り後ナデ調整、底部内面ナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径3.0㎜以下の白色砂礫や黒色粒子を少量含む。B良好C内外灰色N4/～N6/	底部外面に板状圧痕か？
265	須恵器	杯	6号窯跡　窯跡体内107、 〃　〃　前庭部最下層、 〃　〃　焚口土器群検出時、 〃　〃　土器・焼台集積土中、 〃　〃　1区右2層	①(15.2) ②3.4 ③(9.0)	底部外面回転ヘラ切り、底部内面回転ナデ調整後不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂や黒色粒子を少量含む。B良好C外灰色N6/～5Y6/1、内青灰色5B6/1～灰白色5Y7/1	
266	須恵器	杯	6号窯跡　窯跡体内19、2	①(13.5) ②3.85 ③7.6	底部外面は回転ヘラ切り。他調整不明。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂や黒色粒子を少量含む。B不良C内外面灰白色10YR8/1	内外面に重ね焼き痕あり。
267	須恵器	杯？	6号窯跡　窯跡体内112下層	①(12.0) ②3.15	残存部回転ナデ調整。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好C灰色N6/	
268	土師器	杯	6号窯跡　窯跡体内92	①15.4　②4.3	底部内面は磨滅して調整不明、他はヨコナデ。調整	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。Bやや不良C浅黄橙色7.5YR8/6(一部、褐灰色7.5YR5/1部分あり)	
269	須恵器	椀？	6号窯跡　窯跡体内118、 〃　〃　焚口部土器群検出時	①(23.8)	外面体部下半回転ヘラ削り、他は回転ナデ調整。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好C灰白色N7/～灰色N6/	
270	須恵器	甕	6号窯跡　窯跡体内105		外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕後平行文当て具痕	A密。径4.0㎜以下の白色砂礫を少量含む。B良好。C外灰色N4/～暗灰色N3/、内灰色N6/	
271	須恵器	杯？	6号窯跡　窯跡体内焚口部土器群検出時、 〃　窯跡体内120～128下層、 124	①(24.0)	内外面回転ナデ調整。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C(重ね焼きの焼けムラ)口縁部内外面灰白色N7/、残り全体緑灰色7.5GY5/1	

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
272	黒色土器B類	椀	6号窯跡　窯跡体内2区右7層	①(16.0)	全面磨滅して調整不明。一部内面にミガキあり。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂や黒色粒子を少量含む。B良好C黒褐色10YR3/1	
273	須恵器	杯身	6号窯跡　窯跡体内2区左8層		外面1/2回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C外灰色7.5Y5/1、内灰色N6/	受部の直下にヘラ記号。
274	須恵器	杯蓋	6号窯跡　窯跡体内2区右7層	①(14.0) ②0.8	外面1/2回転ヘラ切り後ナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C内外面灰色N6/	
275	須恵器	短頸壺	6号窯跡　窯跡体内2区右7層、 〃　〃　1区右1層	①8.0	体部上位にカキメ、他は回転ナデ調整。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂をやや多く含む。B良好。C胴部外面灰白色N7/、残り全体N5/	
276	土師器	椀	6号窯跡　窯跡体内左7層、 〃　〃　右7層、 〃　〃　1区右2層、 〃　〃　1区、 1号窯跡　埋土	①(14.4) ②6.1 高台径8.1	体部外面ナデ調整、他は回転ナデ調整、内面調整不明。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C外浅黄橙色10YR8/4～黄橙色10YR8/6、内灰白色10YR8/2～褐灰色10YR4/1	
277	須恵器	甕	6号窯跡　窯跡体内1区右1層		内外面回転ナデ調整。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C外暗灰色N3/～灰白色7.5Y7/1、内灰白色10Y7/1	
278	須恵器	杯蓋	6・7号窯下灰原	①14.8　②2.0 つまみ径2.4 つまみ高0.3	天井は低く平らに近い。天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰10Y6/1、内灰白N7/0、断灰白7.5Y7/1	ひずみ多し。ろくろ右回転。
279	須恵器	杯蓋	6号窯灰原1区褐色土	①15.5　②2.6 つまみ径2.0 つまみ高0.6	天井はやや高くわずかに丸みを持つ。中央につまみを貼付。天井外面に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ。	A密。1～3㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外灰白N8/0、内灰白N7/0、断灰白7.5Y7/1	1/3欠損。
280	須恵器	杯蓋	6号窯灰原表採	①13.2　②3.1 つまみ径1.7 つまみ高0.6	天井はやや高く丸い。中央につまみを貼付。天井外面に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ。	A密。0.5～5㎜の白色砂粒を少量含む。B良好。C外灰白N7/0、内灰N6/0、断灰白N8/0	1/2欠損。
281	須恵器	杯蓋	6号窯灰原下谷部堆積土	①16.7　②2.1 つまみ径2.7 つまみ高0.5	天井は低く平らに近い。天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。ザラっとした感あり。Bやや甘い。C外灰白7.5Y7/1、内灰白10Y8/1、断灰白7.5Y7/1	
282	須恵器	杯蓋	6号窯灰原表採	①17.0　②1.2	天井は低く平らに近い。天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ調整。つまみ欠損。	Aやや粗。B甘い。C外灰白7.5Y7/1、内灰白7.5Y7/1、断灰白7.5Y8/1	4/5欠損。
283	須恵器	杯蓋	6号窯灰原1区褐色土	①16.7　②1.9 つまみ径1.9 つまみ高0.5	天井はやや高くわずかに丸みを持つ。中央につまみを貼付。天井外面に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ。	Aやや粗。Bやや甘い。C外灰白N8/0、内灰白N8/0、断灰白N8/0	3/4欠損。
284	須恵器	杯蓋	6号窯灰原1区黒色土	つまみ径2.4 つまみ高0.7	つまみのみの残存。	Aやや粗。B良好。C外灰白N7/0、内灰白N7/0、断灰白N7/0	4/5欠損。
285	須恵器	杯蓋	6号窯灰原2区上層褐色土	①11.9　②0.8 つまみ径2.2 つまみ高0.6	天井はやや高くわずかに丸みを持つ。中央につまみを貼付。天井外面に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ。	Aやや粗。B良好。C外灰白N7/0、内灰白N7/0、断灰白7.5Y7/1	3/5欠損。
286	須恵器	杯蓋	6号窯堆積土	①14.0　②2.8	天井はやや高く丸い。中央につまみを貼付。天井外面に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ。	Aやや粗。白色砂粒を含む。B良好。C外灰白N7/0、内灰白N7/0、断N7/0	1/2欠損。
287	須恵器	壺	6号窯灰原2区上層褐色土	④10.1	壺の体部の破片。両面に回転ナデ調整。	A粗。B良好。C外灰10Y5/1、内青灰5B6/1、断青灰5B6/1	4/5欠損。
288	須恵器	杯身	6号窯下谷部堆積土	①11.3　②3.8	底部は深く、両端に幅のある高台を貼付。口縁部はなだらかに外反し、端部は丸い。底部に回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	A密。B良好。C外灰白7.5Y7/1、内灰白N7/0、断灰白N7/0	1/3欠損。

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
289	須恵器	杯身	6号窯跡谷部堆積土	①12.1　②4.2	底部は深く、両端に幅のある高台を貼付。口縁部はなだらかに外反し、端部は丸い。底部に回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	Aやや粗。ザラっとした感あり。B甘く軟質。C外灰白5Y7/1、内灰白2.5Y7/1、断灰白5Y7/1	
290	須恵器	杯身	6号窯跡灰原1－2区間縦断ベルト6－8層	①16.9　②5.6	杯口縁部の破片。	A密。B良好。C外明青灰5P B7/1、内灰N6/0、断青灰5P B6/1	9/10欠損。
291	須恵器	皿	6号窯跡灰原1－2区間縦ベルト6－8層	①13.5　②1.7	底部は浅く平ら、口縁部は外反して上方に伸び、端部は丸い.底部外面回転ヘラ削り。	A粗。1～4㎜の白色砂粒を含む。B軟質。C外灰白N7/0、内灰白N7/0、断灰白N7/0	3/4欠損。
292	須恵器	皿	6号窯跡灰原褐色土	①16.8　②2.4	底部は浅く平ら、口縁部は外反して上方に伸び、端部は丸い。底部大半欠損。	Aやや粗。2㎜前後の白色砂粒を含む。B甘い。C外灰白N8/0、内灰白N8/0、断灰白N8/0	9/10欠損。
293	須恵器	杯身	6号窯跡3－2区間縦ベルト6－8層	②3.4　③12.5	杯底部の破片。	Aやや粗。1～2㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外灰N6/0、内青灰5P B6/1、断青灰5P B6/1	3/4欠損。
294	須恵器	皿	6号窯跡下谷部堆積土	①18.7　②2.3	底部は浅く平ら、口縁部は外反して上方に伸び、端部は丸い。底部外面回転ヘラ削り。	Aやや粗。B甘く軟質。C外灰白5Y8/2、内灰白2.5Y8/1、断灰白5Y8/1	3/5欠損。
295	須恵器	杯	6号窯跡灰原1－2区間縦ベルト5層	①19.4　②7.3	底部は深く、両端に幅のある高台を貼付。口縁部はなだらかに外反し、端部は丸い。底部に回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	A密。B良好。C外灰N6/0、内灰白～灰N7/0～6/0、断灰N5/0	4/5欠損。
296	須恵器	皿	6号窯跡灰原1区黒色土	①18.8　②2.2	底部は浅く平ら、口縁部は外反して上方に伸び、端部は丸い。底部外面回転ヘラ削り。	A密。B甘い。C外灰白7.5Y8/1、内灰白7.5Y8/1、断灰白7.5Y8/1	4/5欠損。
297	須恵器	甕	6号窯跡谷部堆積土	①13.1　②4.3	口頸部は太く、外反して伸び、端部で段をなす。体部は上位で欠損。	Aやや粗。B甘い。C外にぶい黄橙10YR7/2、内にぶい黄橙10YR7/2、断にぶい黄橙10YR7/2	
298	須恵器	平瓶	6号窯跡下谷部堆積土	①8.3　②4.5	平瓶口縁部の破片。	A粗。B良好。C外灰白7.5Y7/1、内灰5Y6/1、断灰白7.5Y7/1	4/5欠損。
299	須恵器	杯蓋	6－7号窯跡下灰原	①14.2　②4.0	天井は比較的高く丸みを持つ。天井部1/2に回転ヘラ削り、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。3㎜前後の白色砂粒を含む。B良好。C外灰N4/0、内灰白N7/0、断灰白N7/0	
300	須恵器	大甕	6号窯跡下谷部堆積土	①34.7　②4.7	甕（壺）の口縁部の破片。外面にヘラ描き斜線文。	A密。B良好。C外灰5Y5/1、内灰7.5Y6/1、断灰白7.5Y7/1	9/10欠損。
301	須恵器	杯蓋	7号窯跡灰原2区黄色土	①14.0　②2.8 つまみ径1.9 つまみ高0.5	天井は比較的高く、端部は丸い。中央の高いつまみを貼付する。外面2/3に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B甘く軟質。C外灰白5Y8/2、内淡黄2.5Y8/3、断灰白5Y8/2	ごく一部欠損。
302	須恵器	杯蓋	7号窯跡前庭部右2	①15.0　②2.2 つまみ径2.4 つまみ高0.3	天井は比較的高く、端部付近で曲げられる。外面1/2に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。白色砂粒を含む。B良好。C外灰N6/0、内オリーブ灰2.5GY6/1	
303	須恵器	杯蓋	7号窯跡灰原2区黒色土	①14.7　②2.5 つまみ径2.2 つまみ高0.7	天井は比較的高く、端部は丸い。高いつまみを貼付する。外面1/2に回転ヘラ削り調整。他回転ナデ調整。	Aやや粗。白色砂粒を含む。B良好。C外灰N4/0、内灰N4/0、断灰N5/0	3/5欠損。
304	須恵器	杯蓋	7号窯跡灰原3区黒色土	①15.4　②3.0 つまみ径2.6 つまみ高0.5	天井は比較的高く扁平なつまみを貼付する。外面1/2に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B甘く軟質。C外灰白7.5Y7/1、内灰白2.5Y8/1、断灰白2.5Y8/1	2/3欠損。
305	須恵器	杯蓋	7号窯跡灰原4区黒色土	①14.9　②2.2 つまみ径2.7 つまみ高0.5	天井は比較的高く、扁平で中央の高いつまみを貼付する。外面1/2に回転ヘラ削り調整。内面1/2にナデ調整。他回転ナデ調整。	Aやや粗。1～3㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外灰白10Y7/1、内灰白7.5Y7/1、断灰白10Y7/1	1/4欠損。

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
306	須恵器	杯蓋	7号窯跡前庭部右2	①16.7　②3.7 つまみ径2.3 つまみ高0.7	天井は比較的高く、高いつまみを貼付する。外面1/2に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B甘く軟質。C外灰白5Y7/1、内灰白5Y8/1、断灰白5Y8/1	1/2欠損。
307	須恵器	杯蓋	7号窯跡灰原2区黒色土	①14.4　②2.0 つまみ径2.9 つまみ高0.8	天井は比較的低く、中央の高いつまみを貼付する。外面2/3に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰白10Y7/1、内灰白N8/0～7/0、断灰N6/0	3/4欠損。
308	須恵器	杯蓋	7号窯跡灰原2区黒色土	①15.3　②1.6 つまみ径2.3 つまみ高0.4	天井は比較的低く、低いつまみを貼付する。外面1/2に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。2～5㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外灰10Y6/1、内灰7.5Y6/1、断灰10Y6/1	2/3欠損。
309	須恵器	杯蓋	7号窯跡灰原2区黒色土	①14.6　②2.2 つまみ径2.3 つまみ高0.6	天井は比較的低く、高いつまみを貼付する。外面2/3に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A粗。2～3㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外青灰5PB6/1、内灰N6/0、断青灰5PB6/1	3/5欠損。
310	須恵器	杯蓋	7号窯跡灰原2－4区内ベルト4層	①14.1　②2.3 つまみ径2.2 つまみ高0.4	天井は比較的高く、端部は丸い。外面1/2に回転ヘラ削り調整、内面1/2にナデ調整、他回転ナデ調整。	A粗。1～4㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外青灰5PB6/1、内灰10Y6/1、断青灰5PB5/1	1/4欠損。
311	須恵器	杯蓋	7号窯跡灰原2区黒色土	①17.6　②3.5 つまみ径2.5 つまみ高0.8	天井は比較的高く、中央の高いつまみを貼付する。外面2/3に回転ヘラ削り調整、内面2/3にナデ調整、他回転ナデ調整。	A粗。白色砂粒・黒色砂粒を多く含む。B甘く軟質。C外灰白2.5Y8/1、内灰白N8/0、断灰白10Y7/1	3/5欠損。
312	須恵器	杯蓋	7号窯跡灰原1区黒色土（灰層）	①14.1　②2.7 つまみ径2.4 つまみ高0.3	天井は比較的高く、扁平なつまみを貼付する。外面1/2に回転ヘラ削り調整。他回転ナデ調整。	Aやや粗。B甘く軟質。C外2.5Y8/1、内灰白2.5Y8/1、断灰白10Y8/1	1/2欠損。
313	須恵器	杯蓋	7号窯跡灰原4区黒色土	①14.5　②1.0 つまみ径2.3 つまみ高0.4	天井は低く、扁平で中央の高いつまみを貼付する。外面2/3に回転ヘラ削り調整、内面1/2にナデ調整、他回転ナデ調整。	Aやや密。B良好。C外灰7.5Y6/1、内灰白7.5Y7/1、断灰白5Y7/1	4/5欠損。
314	須恵器	杯蓋	7号窯跡前庭部	①15.5　②1.0 つまみ径2.1 つまみ高0.2	天井は低く、扁平で中央の高いつまみを貼付する。外面2/3に回転ヘラ削り調整、内面1/2にナデ調整、他回転ナデ調整。	A密。B甘い。C外灰白7.5Y7/1、内灰白5Y8/2	1/2欠損。
315	須恵器	杯蓋	7号窯跡灰原2区黒色土	①14.2　②1.7 つまみ径2.6 つまみ高0.5	天井は比較的低く、扁平なつまみを貼付する。外面1/2に回転ヘラ削り調整、内面3/4にナデ調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外；明青灰～青灰5PB7/1～6/1、内青灰10BG6/1、断明青灰～青灰5PB7/1～6/1	1/2欠損。
316	須恵器	杯身	7号窯跡灰原2区黒色土	①13.0　②3.9	比較的浅く、高台は両端で接地する。底部外面を回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A粗。2㎜前後の白色砂粒を多く含む。Bやや甘い。C外灰白N7/0、内灰白N7/0、断10Y7/1	3/5欠損。
317	須恵器	杯身	7号窯跡灰原1区黒色土（灰層）	①13.0　②4.0	比較的浅く、底部は平ら。高台は内端部で接地する。底部外面を回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A粗。2～3㎜の砂粒を多く含む。B甘い。C外灰白2.5YR8/1、内灰白2.5YR8/1、断灰白2.5YR8/1	2/4欠損。
318	須恵器	杯	7号窯跡前庭部左ベルト1.2.3層	①12.3　②3.6	比較的浅く、底部はほぼ平ら。底部外面にヘラ切り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。1～6㎜の白色砂粒を含む。B堅緻良好。C外灰～灰白N6/0～7/0、内灰N6/0、断明青灰5PB7/1	1/2欠損。
319	須恵器	杯身	7号窯跡前庭部右ベルト4層	①13.7　②3.7	浅く、底部はほぼ平ら。高台は両端で接地する。底部外面に回転ヘラ削り調整、底部内面にナデ調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。2㎜前後の白色砂粒を含む。B良好。C外明青灰5PB7/1、内青灰5PB6/1、断灰N6/0	1/5欠損。
320	須恵器	皿	7号窯跡前庭部右出土遺物④	①15.0　②2.4	比較的浅く底部は丸い。底部外面に回転ヘラ削り調整、底部内面にナデ調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。2～5㎜の白色砂粒を少し含む。B良好。C外灰白N7/0、内灰白N7/0、断明オリーブ灰2.5Y7/1	1/4欠損。
321	須恵器	杯身	7号窯跡前庭部右ベルト4層	①14.4　②4.2	比較的浅く底部は平ら。高台は内端部で接地する。底部外面は回転ヘラ削り調整、底部内面はナデ調整、他回転ナデ調整。	A密。B甘く軟質。C外灰白5Y8/2、内灰白7.5Y8/1、断灰白7.5Y8/1	1/4欠損。
322	須恵器	焼台	7号窯跡灰原4区黄色土下層		蓋を転用した置き台。つまみは剥落している。	Aやや粗。2～4㎜の白色砂粒を含む。Bやや甘い。C外灰白N7/0、内灰白N7/0、断灰白N8/0	

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A粘土　B焼成　C色調	備考
323	須恵器	杯身	7号窯跡灰原1区黒色土（灰層）	①9.8　②3.9	比較的深く立ち上がりは長く内傾する。底部外面に回転ヘラ削り調整、内面の一部にナデ調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。1～3㎜の白色砂粒を多く含む。B良好。C外灰N6/0、内灰N6/0	ヘラ記号あり。
324	須恵器	杯蓋	7号窯跡灰原1区黄色土	①14.7　②3.1	天井は比較的低く端部は丸い。全面回転ナデ調整。	Aやや粗。わずかに白色砂粒を含む。Bやや粗。C外灰N5/0、内灰N5/0、断灰白N7/0	2/3欠損。
325	須恵器	杯蓋	7号窯跡灰原2区黒色土	①10.7　②1.2	天井は比較的低く、つまみはない。外面2/3に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰N6/0、内灰N6/0、断青灰5PB5/1	1/2欠損。
326	須恵器	杯蓋	7号窯跡　窯跡体内焚口～1区左、 〃　窯跡体内№2	①14.6 ②2.95 つまみ径2.6 つまみ高0.4	外面ナデ調整、内面1/2不整方向のナデ調整。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C外オリーブ黒色10Y3/1～灰色10Y6/1、内灰オリーブ色5Y6/2～オリーブ黒色10Y3/1	外面に重ね焼き痕あり。
327	須恵器	杯蓋	7号窯跡　窯跡体内№6、№7、 〃　〃　1区右3層、 〃　〃　焚口側貼床、 〃　〃　焚口側最下層	①15.2　②2.1 つまみ径2.2 つまみ高0.5	外面3/4回転ヘラ削り調整、内面不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C外灰色10Y5/1、内灰色10Y6/1～オリーブ黒色10Y3/1	
328	須恵器	杯蓋	7号窯跡　窯跡体内床面№5、 〃　〃　焚口～1区左	①(14.6) ②2.8 つまみ径2.55 つまみ高0.3	外面回転ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C外暗緑灰色7.5GY4/1～緑黒色7.5GY2/1、内緑黒色5G2/1	
329	須恵器	杯蓋	7号窯跡　窯跡体内№2	①(17.7)	外面回転ヘラ削り後ナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C外灰色10Y5/1～灰白色10Y7/1、内灰白色10Y8/1～灰色10Y6/1	内外面に重ね焼き痕あり。
330	須恵器	高杯	7号窯跡　窯跡体内№1、 〃　〃　焚口部上層、 〃　〃　焚口部1区左、 〃　〃　焚口部床面直上	①28.0　②3.2	杯部外面ヘラ削り調整、内面3/4不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B不良。C外灰白色5Y7/2、内10Y6/1	
331	須恵器	皿	7号窯跡　前庭部右側皿集積①、 〃　窯跡体内焚口部上層	①(18.0) ②2.8 ③13.8	底部外面回転ヘラ切り、他は回転ナデ調整。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B不良。C外淡黄色2.5Y8/3～黄灰色2.5Y6/1、内灰白色2.5Y8/1	
332	須恵器	皿	7号窯跡　前庭部右集積①、 〃　〃　右皿集積②	①(18.2) ②2.2 ③13.4	底部外面回転ヘラ切り、他は回転ナデ調整。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B不良。C灰白色5Y8/1～8/2(外面の一部は灰色5Y5/1)	
333A	須恵器	短頸壺蓋	7号窯跡　前庭右出土遺物②	①14.9　②3.8 つまみ径2.4 つまみ高1.2	外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ調整。	A精良。径2.0㎜以下の白色・灰色粗砂を若干含む。B良好。C外灰色N5/、内灰白色N7/	159とセット
333B	須恵器	短頸壺	7号窯跡　前庭右出土遺物①	①11.1 ②15.9 ④20.3 高台径11.2	体部外面上半カキメ調整、下半回転ヘラ削り調整、底部外面ナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径3.0㎜以下の白色砂礫を少量含む。B良好。C(重ね焼きの焼けムラ)口縁部外面～内灰白色7.5YR7/1～明褐灰色7.5YR7/2、残り全体灰色N6/	158とセット
334	須恵器	杯蓋	7号窯跡　窯跡体内焚口～1区左	①13.2 ②1.55	外面2/3回転ヘラ削り調整後ナデ調整。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C外青灰色5PB5/1～黒色N2/、内灰オリーブ色5Y6/2～暗灰色N3/	内外面に重ね焼き痕あり。
335	須恵器	杯蓋	7号窯跡　窯跡体内焚口～1区左	①(13.8) ②2.8 つまみ径2.5 つまみ高0.5	外面3/4回転ヘラ削り調整、内面回転ナデ後不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B不良。C外灰白色5Y7/2～灰色5Y6/1、内灰白色5Y7/2	
336	須恵器	杯身	7号窯跡　窯跡体内焚口部上層	①(12.8)	体部内外面回転ナデ調整。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C外灰白色10Y8/1、内灰白色7.5Y5/1	
337	須恵器	杯身	7号窯跡　窯跡体内焚口部上層	①(12.9) ②4.1 高台径(8.4)	内外面調整不明。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B不良。C外灰白色5Y8/2～灰色5Y6/1、内灰黄色2.5Y7/2～黄灰色2.5Y6/1	
338	須恵器	杯蓋	7号窯跡　窯跡体内焚口部上層	①(15.0) ②2.2 つまみ径2.0 つまみ高0.6	外面3/4回転ヘラ削り調整、内面回転ナデ後不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C内外面灰色7.5Y6/1	口縁部外面に重ね焼き痕あり。

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
339	須恵器	杯身	7号窯跡　窯跡体内焚口～1区左	①(13.7) ②3.9 高台径9.25	底部外面回転ヘラ切り後ナデ調整、底部内面ナデ調整。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C外黒色N2/～灰色7.5Y6/1、内灰色N4/	
340	須恵器	杯蓋	7号窯跡　窯跡体内焚口～1区左	①14.8 ②2.25	外面3/4回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C外オリーブ黒色10Y3/1～灰色10Y6/1、内黒色10Y2/1～灰オリーブ色5Y6/2	外面に重ね焼き痕あり。
341	須恵器	杯身	7号窯跡　窯跡体内焚口～1区左	①12.5　②3.1 高台径9.5	底部外面回転ヘラ切り後ナデ調整、底部内面不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C外灰色10Y5/1、内灰色10Y6/1	
342	須恵器	杯身	7号窯跡　窯跡体内焚口～1区左、 〃　〃　上層	①(13.0) ②4.1 高台径(9.6)	底部外面回転ヘラ切り後ナデ調整、底部内面不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C外灰色10Y5/1～褐灰色5YR4/1、内灰色5Y5/1	
343	須恵器	杯蓋	7号窯跡　断割A区縦断、 〃　窯跡体内焚口部床面直上、 〃　〃　焚口側貼床内	①(15.4) ②0.8	外面1/2回転ヘラ削り調整、内面回転ナデ調整後不定方向のナデ調整。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C外緑灰色5G5/1～黒色10Y2/1、内灰色N4/～暗灰色N3/	外面に重ね焼き痕あり。
344	須恵器	杯身	7号窯跡　窯跡体内焚口～1区左、 〃　〃　焚口上層	①11.8 受部径(14.0)	残存部回転ナデ調整。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C外灰色7.5Y5/1、内灰色N6/	受部に重ね焼き痕あり。
345	須恵器	高杯	7号窯跡　窯跡体内2区右3層、 〃　窯跡体内№8、№10、№13	脚端径15.1	残存部回転ナデ調整。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B不良。C外灰白色5Y8/1、内灰白色5Y8/2	
346	須恵器	皿	7号窯跡　窯跡体内焚口部上層、 〃　前庭右側皿集積	①(17.8) ②2.2 ③(14.2)	全面磨滅して調整不明。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B不良。C外灰白色2.5Y8/2～灰色5Y5/1、内灰白色2.5Y8/2～8/1	
347	須恵器	皿	7号窯跡　窯跡体内焚口～1区左	①(25.0) ②2.6 ③(16.0)	底部外面回転ヘラ削り調整、底部内面不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。Bやや不良。C灰白色7.5Y7/2～浅黄色7.5Y7/3	
348	須恵器	杯蓋	7号窯跡前庭部ベルト1層	①14.4　②2.0 つまみ径2.0 つまみ高0.4	天井は比較的低く、擬宝珠様のつまみを貼付する。外面2/3に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B甘く軟質。C外灰白2.5Y8/2、内灰白5Y8/1	1/4欠損
349	須恵器	杯蓋	7号窯跡灰原3－4区内縦ベルト3層	①15.3　②1.9 つまみ径15.3 つまみ高1.9	天井は比較的低く、擬宝珠様のつまみを貼付する。外面端部近くまで回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。2㎜前後の白色砂粒を含む。B良好。C外灰N5/0、内灰N5/0	1/2欠損
350	須恵器	杯蓋	7号窯跡灰原1－2区間縦ベルト3－5層	①13.8　②2.9 つまみ径1.9 つまみ高2.9	天井は高く1/2のあたりで端部に向かって下りる。外面1/2に回転ヘラ削り調整。他回転ナデ調整。	Aやや粗。1～2㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外灰白N7/0、内灰白N7/0、断灰白N7/0	3/4欠損
351	須恵器	杯蓋	7号窯跡前庭部右－1	①15.8　②2.2 つまみ径2.2 つまみ高0.4	天井は比較的低く、扁平なつまみを貼付する。外面1/2に回転ヘラ削り調整、内面にナデ調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B甘く軟質。C外灰白2.5Y8/1、内灰白N8/0	2/3欠損
352	須恵器	杯蓋	7号窯跡灰原2区黒色土層（下層）	①15.4　②1.9 つまみ径2.7 つまみ高0.3	天井は比較的低く扁平なつまみを貼付する。外面2/3に回転ヘラ削り調整。他回転ナデ調整。	Aやや粗。B甘く軟質。C外灰白5Y7/1、内灰白5Y7/1	5/6欠損
353	須恵器	杯蓋	7号窯跡前庭部右	①15.9　②2.3 つまみ径2.6 つまみ高0.6	天井は比較的低く、中央の窪んだつまみを貼付する。外面1/2に回転ナデ調整、他回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰N6/0、内灰N6/0	3/4欠損
354	須恵器	杯蓋	7号窯跡前庭部右ベルト1－3層	①15.1　②2.7	短頸壺（甕壺）の蓋の破片。上面に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。2㎜前後の白色砂粒を含む。B良好。C外灰白N7/0、内青灰5PB6/1	5/6欠損
355	須恵器	杯身	7号窯跡前庭部右	①12.3　②4.0	底部は比較的深い。底部外面は回転ヘラ削り調整、内面はナデ調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。2㎜前後の白色砂粒を含む。B良好。C明青灰5PB7/1、内明青灰5PB7/1	3/5欠損

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
356	須恵器	杯身	7号窯跡灰原1－2区内縦ベルト6層	①12.9　②4.0	底部は比較的深く、口縁部は丸みを持っている、底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外青灰5PB6/1、内青灰5PB6/1	2/3欠損、3点接合
357	須恵器	杯身	7号窯跡灰原2区黄色土	①14.2　②3.5	底部は浅く、高台は外端部で接地する。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A粗。ザラっとした感あり。白色砂粒を多く含む。B甘く軟質。C外灰白7.5Y8/1、内灰白7.5Y8/1	2/5欠損
358	須恵器	皿	7号窯跡前庭部右ベルト1－3層	①21.9　②2.5	底部は浅く平らである。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。2～3㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外灰N6/0、内灰N6/0	3/5欠損
359	須恵器	皿	7号窯跡灰原3－4区内縦ベルト9層	①15.7　②2.6	底部は比較的深くほぼ平である。底部外面に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰N6/0、内灰N6/0	4/5欠損
360	須恵器	皿	7号窯跡灰原1－2区縦ベルト2層黒色土層	①20.7　②2.3	底部は比較的浅くほぼ平である。底部外面は回転ヘラ削り調整、ほか回転ナデ調整。	Aやや粗。Bやや甘い。C外灰白7.5Y7/1、内灰白7.5Y7/1	4/5欠損
361	須恵器	杯身	7号窯跡灰原3－4区内縦ベルト9層	①15.0　②3.7	底部は比較的浅く、口縁部は直線的に上外方にのびる。高台に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰N6/0、内灰白N7/0	5/6欠損
362	須恵器	皿	7号窯跡灰原3－4区内縦ベルト9層	①23.0　②2.0	底部は浅く、全体的に丸みを持つ。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A粗。B良好。C外青灰5PB6/1、内青灰5PB5/1	1/7欠損
363	須恵器	杯身	7号窯跡灰原3区黒色土	①14.2　②3.5	底部は比較的浅く、口縁部はS字状をなす。底部外面に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外明青灰5PB7/1、内灰N6/0	3/4欠損
364	須恵器	高杯	7号窯跡前庭部右－1	①26.9　②2.3	高杯の杯部。杯部は扁平で両端を曲げ、口縁端部は内傾する平面をなす。上面に回転ナデ調整。底部には回転ヘラ削り調整	Aやや粗。B良好。C外明青灰5PB7/1、内青灰5PB6/1	6/7欠損
365	須恵器	杯身	7号窯跡灰原2区黒色土（灰層）	①16.9　②4.4	底部は比較的深く、高台は内端部で接地する。底部外面に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A蜜。B良好。C外灰白N7/0、内灰白N7/0	5/6欠損
366	須恵器	鉢	7号窯跡灰原3－4区間縦ベルト9層	①23.9　②5.8	鉢の口縁部。大きく開く口縁部は端部で内傾する面をなす。上位で欠損。回転ナデ調整。	Aやや粗。B甘く軟質。C外灰白7.5Y8/1、内灰白7.5Y8/1	5/6欠損
367	須恵器	杯身	7号窯跡灰原1－2区間縦ベルト間2層	①18.4　②3.8	底部は比較的浅く、高台は内端部で接地する。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A蜜。B甘く軟質。C外灰白10Y8/1、内灰白7.5Y8/1	3/4欠損
368	須恵器	鉢	7号窯跡前庭部右－2	①20.3　②8.1	鉄鉢型土器。底部を欠損。外面をヘラ磨き調整。他回転ナデ調整。	Aやや粗。2㎜前後の白色砂粒を含む。B良好。C外青灰5PB5/1、内青灰5PB5/1	4/5欠損
369	須恵器	杯身	7号窯跡前庭部右－1	①18.7　②5.6	底部は比較的深く、口縁部はS字状をなす。底部外面は回転ヘラ削り調整、内面はナデ調整、他回転ナデ調整。	A蜜。B良好。C外灰白N7/0、内灰白N7/0	3/5欠損
370	須恵器	杯蓋	6・7号窯跡下灰原	①8.6　②3.1	天井は比較的高い。外面上部にヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A粗。2～3㎜の白色砂粒を含む。B甘く軟質。C外灰黄2.5Y6/2、内黄灰2.5Y5/1	1/2欠損 杯身の可能性あり。
371	須恵器	杯蓋	8・9号窯跡B－3区灰原	①13.1　②4.4	外面上部2/3に回転ヘラ削り調整。他回転ナデ調整。	Aやや粗。白色砂粒を含む。B良好。C外灰N6/0、内灰白N灰白	1/4欠損。外面にヘラ記号「#」あり。
372	須恵器	杯蓋	8・9号窯跡A－3区上層	①13.8　②4.1	天井端部はわずかにS字状をなす。外面上部2/3に回転ヘラ削り調整、内面1/3にナデ調整、他回転ナデ調整。	A蜜。B甘い。C外灰白5Y8/2、内灰白5Y8/2	9点接合

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径 ②器高③底径 ④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
373	須恵器	杯身	8・9号窯跡B－3区	①13.1　②2.5	外面下部1/5に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外青灰5PB6/1、内青灰5PB6/1	
374	須恵器	杯身	8・9号窯跡D－3区	①12.4　②2.7	外面下部1/4に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰N4/0、内灰N5/0	
375	須恵器	杯身	8・9号窯跡B－3区	①11.4　②3.5	外面下部1/2に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。白色砂粒を含む。B良好。C外灰白7.5Y7/1、内青灰5PB6/1	2/3欠損。2点接合。
376	須恵器	杯身	8・9号窯跡C－2区上層	①11.7　②2.4	全体に回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰白7.5Y7/1、内青灰5PB6/1	細片
377	須恵器	杯身	8・9号窯跡C－3区埋土	①11.9　②2.4	外面1/4に回転ヘラ削り調整。他回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰N5/0、内灰10Y5/1	5/6欠損
378	須恵器	杯身	8・9号窯跡D－3区	①12.0　②2.2	外面下部1/5に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。白色砂粒を含む。B良好。C外灰白N7/0、内灰N6/0	5/6欠損
379	須恵器	杯身	8・9号窯跡C－3区埋土層	①11.3　②4.2	外面にヘラ記号「×」あり。外面下部1/2に回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	A粗。白色砂粒を含む。Bやや甘い。C外にぶい赤褐5YR5/3、内にぶい橙5YR6/4	1/7欠損
380	須恵器	杯蓋	8・9号窯跡D－3区	①12.3　②1.6	全体に回転ナデ調整。	Aやや粗。白色砂粒を含む。B良好。C外灰N6/0、内灰10Y5/1	細片
381	須恵器	杯蓋	8・9号窯跡D－4区黒色土（9号窯跡灰原灰層中）	①13.5　②3.2	天井は高く、中央の高いつまみを貼付。外面上部1/2に回転ヘラ削り、内面2/3にナデ調整、他回転ナデ調整。	A粗。2～5㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外10Y5/1、内灰10Y4/1	3/4欠損
382	須恵器	高杯	8・9号窯跡C－2区上層	①7.2　②9.1	高杯の脚部。中位に沈線2条あり。全体に回転ナデ調整。	Aやや粗。白色砂粒を含む。B良好。C外灰白N7/0、内オリーブ灰2.5GY5/1	2/4欠損
383	須恵器	杯身	8・9号窯跡C－3区埋土層	①14.0　②6.3	中位に沈線2条あり。外面下部1/3に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。白色砂粒を含む。B良好。C外灰N6/0、内灰N6/0	4/5欠損
384	須恵器	杯蓋	8・9号窯跡D－3区上層	①16.0　②2.9	天井は比較的高く、中央の高いつまみを貼付する。外面1/2に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A密。0.5～2㎜の白色砂粒を含む。B甘く軟質。C外灰白7.5Y8/1、内灰白7.5Y8/1	2/5欠損
385	須恵器	高杯	8・9号窯跡C－2区上層	①8.8　②2.4	高杯の脚部下位。端部は内傾する。全体に回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰10Y5/1、内灰5Y6/1	4/5欠損
386	須恵器	杯身	8・9号窯跡C－2区上層	①11.1	杯身の口縁部および体部、底部を欠損。回転カキ目、回転ナデ調整	A密。Bやや甘い。C外灰白5Y7/1、内灰利休N7/0	5/6欠損
387	須恵器	蓋	8・9号窯跡D－4区黒色土（9号窯跡灰原灰層中）	①14.9 ②15.0	蓋の口縁部。内外面に自然釉。	Aやや粗。B良好。C外灰N4/0、内灰白N7/0	
388	須恵器	杯身	8・9号窯跡C－3区埋土上層	①8.6　②3.1	かえりを伴う蓋とセットとなる杯身。回転ヘラ切り、回転ナデ調整。	A粗。B甘く軟質2-3㎜白色砂粒を含む。C外灰黄色2.5Y6/2、内黄灰色2.5Y5/1	細片
389	須恵器	杯身	8・9号窯跡C－3区埋土上層	－－	杯身の口縁部および体部、底部を欠損。回転ナデ調整	A粗。B甘く軟質2－3㎜白色砂粒を含む。C外灰黄色2.5Y6/2、内黄灰色2.5Y5/1	細片

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
390	土師器	甕	8・9号窯跡C－3区埋土	①14.3　②4.1	甕の口縁部。ナデ調整	Aやや粗。B甘く軟質。C外にぶい赤褐5YR5/4、内にぶい橙7.5YR7/4	破片
391	須恵器	盤	8・9号窯跡C－2区上層	①13.9　②2.2	比較的浅く、口縁部は直線的に上外方にのびる。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。1～2㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外青灰5PB6/1、内赤灰5R5/1	細片
392	須恵器	甕	8・9号窯跡C－2区上層	①8.8	甕あるいは壺の体部破片。外面平行叩き、内面円弧叩き。	Aやや粗。白色砂粒を含む。B良好。C外灰白N7/0、内暗灰N3/0	細片
393	須恵器	盤？	8・9号窯跡C－2区上層	①15.8	高杯の杯部の破片。回転ヘラ削り、回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰N6/0、内青灰5PB6/1	細片
394	須恵器	甕	8・9号窯跡C－2区上層	残存高4.6	甕あるいは壺の底部破片。外面平行叩き、内面円弧叩き。	Aやや粗。B良好。C外灰7.5Y5/1、内オリーブ灰2.5GY6/1	細片
395	須恵器	甕	8・9号窯跡C－2区上層	残存高9.8	甕あるいは壺の体部破片。外面平行叩き、内面円弧叩き。	Aやや粗3－5㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外灰10Y5/1、内灰N6/1	細片
396	須恵器	杯蓋	8・9号窯跡C－D間横断ベルトD－2区17層	①13.9　②2.2	天井は比較的高く丸みを持つ。口縁部はなだらかに下がり、端部は丸い。回転ヘラ削り、回転ナデ調整。ヘラ記号。	A密。B良好。C外内灰N5/0	3/4欠損
397	須恵器	杯蓋	8・9号窯跡D－2区上層、8号窯周辺	①13.5　②3.9	天井は比較的高く丸みを持つ。口縁部はなだらかに下がり、端部は丸い。回転ヘラ削り、回転ナデ調整。	Aやや粗、白色砂粒を含む。B良好。C外内灰N5/0	4/5欠損
398	須恵器	杯蓋	8・9号窯跡D－1区最下層、SX35上	①14.1　②4.2	天井は比較的高く丸みを持つ。口縁部はなだらかに下がり、端部は丸い。回転ヘラ削り、回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰N5/0、内5PB5/1	3/4欠損
399	須恵器	杯身	8・9号窯跡A－3区上層	①11.2　②3.8	たちあがりは短く内傾し、底部は比較的深く丸い。底部1/2に回転ヘラ削り、他は回転ナデ調整。ヘラ記号	A密。B良好。C外灰5Y6/1、内灰黄2.5Y7/2	1/5欠損
400	須恵器	杯身	8・9号窯跡D－1区最下層、SX35上	①13.0　②3.9	たちあがりは短く内傾し、底部は比較的深く丸い。底部1/2に回転ヘラ削り、他は回転ナデ調整。	A粗2－5㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外黒2.5GY2/1、内灰N6/0	4/5欠損
401	須恵器	杯蓋	8・9号窯跡C－D間ベルト18層（9号窯灰層）	①9.8　②2.0	天井は比較的高く丸みを持つ。内面に帰りを伴う。回転ヘラ削り、回転ナデ調整。	Aやや粗5㎜の白色砂粒を含む。B甘い。C外内灰7.5Y6/1	4/5欠損
402	須恵器	甕	8・9号窯跡D－1区上層	①20.0 残存高5.8	口縁部の破片。内外面回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰N6/0、内灰N5/0	9/10欠損
403	須恵器	杯蓋	8・9号窯跡A－2区上層、窯体検出時	①11.7 残存高2.4	天井は比較的高く丸みを持つ。内面に帰りを伴う。回転ヘラ削り、回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外内灰7.5Y6/1	9/10欠損
404	須恵器	高杯	8・9号窯跡D1－2間ベルト19層	①12.3 残存高3.2	無蓋高杯の杯部の破片。	Aやや粗、白色砂粒を含む。B良好。C外内暗灰N3/0	5/6欠損
405	須恵器	甕	8・9号窯跡D－2区黒色土層、8号窯灰原	①22.3 残存高5.3	口縁部の破片。外面にヘラ描き斜め文様。	A密。B良好。C外内灰N5/0	9/10欠損
406	須恵器	甕	8・9号窯跡D1－2間ベルト2層SX35下層	①14.7 残存高3.4	口縁部の破片。	Aやや粗。Bやや甘い。C外灰黄褐色10Y5/2、内橙7.5YR7/6	4/5欠損

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
407	土師器	甕	8・9号窯跡D1－2間ベルト19層	①21.4 残存高6.0	口縁部は短く外反し、端部は丸い。器壁は比較的薄い。	A粗、白色砂粒を含む。B甘い。C外内にぶい黄橙10YR7/4	破片
408	土師器	甕	8・9号窯跡D1－2間ベルト21層 SX35下層	①13.6 残存高2.8	口縁部は短く外反し、端部は丸い。器壁は薄い。外面一部に刷毛目調整。	Aやや粗。B甘い。C外にぶい橙7.5YR Y6/4、内灰黄褐10YR4/2	細片
409	土師器	甕	8・9号窯跡D1－2間ベルト21層 SX35下層	①22.9 残存高11.2	口縁部は短く外反し、端部は丸い。器壁は厚い。外面刷毛目、内面ナデ調整。	A粗3㎜前後の白色砂粒を大量に含む。B甘い。C外内にぶい黄橙10YR7/4	破片
410	土師器	甑	8・9号窯跡D3上層	－－	甑または鍋の把手。手づくね。	A粗2－5㎜前後の白色砂粒を含む。B甘い。C外内にぶい黄橙10YR7/4	破片
411	須恵器	甑	8・9号窯跡D3上層	－－	甑または鍋の把手。手づくね。	A粗2－5㎜前後の白色砂粒を含む。B甘い。C外内にぶい黄橙10YR7/4	破片
412	土師器	甕	8・9号窯跡D1－2間ベルト21層 SX35下層	－－	土師器壺底部の破片。内面ナデ調整。	A粗2－5㎜前後の白色砂粒を含む。B甘い。C外内にぶい黄橙10YR7/4	破片
413	須恵器	甕	8・9号窯跡B2区黒色土層（8号窯跡灰層）	－－	甕または壺の体部の破片。外面平行叩き、内面円弧叩き。	A粗、白色砂粒を含む。Bやや甘い。C外灰白7.5Y8/1、内灰白N7/0	細片
414	須恵器	甕	8号窯跡2区黒色土層（8号窯跡灰層）	－－	甕または壺の体部の破片。外面平行叩き、内面円弧叩き。	Aやや粗1－3㎜前後の白色砂粒を含む。B良好。C外青灰5PB5/1、内青灰5PB6/1	細片
415	須恵器	杯蓋	9号窯跡　焚口No.14	①(16.4) ②3.2 つまみ径2.9 つまみ高0.7	外面回転ヘラ切り後ナデ調整、内面4/5回転ナデ後不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B不良C灰白色5Y7/1～8/2	
416	須恵器	杯蓋	9号窯跡　焚口No.9	①16.0 ②2.55	外面回転ヘラ切り、内面2/3不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。径2.0㎜以下の白色粗砂をやや多く含む。B不良C灰白色5Y8/1～黄色2.5Y8/6	
417	須恵器	杯蓋	8・9号窯跡　C-4区　9号窯跡焚口部床面直上	①(16.5) ②3.25 つまみ径2.6 つまみ高0.4	全面磨滅して調整不明。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B不良。C外灰白色10YR8/2、内にぶい黄橙色10YR7/4	
418	須恵器	杯蓋	9号窯跡　焚口No.1、 〃　最終床面遺物群、 8・9号窯跡　C-4区、 〃　C・D間ベルト7層	①15.8　②2.0	外面回転ヘラ切り後ナデ調整、内面不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整、つまみ貼付。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。Bやや不良。C灰白色5Y7/1～明青灰色5PB7/1	天井部外面にヘラ記号。口縁部外面に2～3条のらせん状沈線が巡る。
419	須恵器	杯蓋	8・9号窯跡　C-4区　9号窯跡焚口No.4下、 〃　〃　〃　焚口部5層	①(17.4) ②3.45 つまみ径3.0 つまみ高0.65	外面1/2回転ヘラ削り調整、内面2/3不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C外緑灰色10GY5/1、内灰色N6/～暗緑灰色10GY3/1	
420	須恵器	杯蓋	9号窯跡　焚口No.18	①(13.8) つまみ径2.75 つまみ高0.9	外面1/2回転ヘラ削り調整、内面3/5不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整、つまみ貼付。	A粗。径2.0㎜以下の白色粗砂を多く含む。B良好。C外灰色N6/、内青灰色5PB6/1	
421	須恵器	杯蓋	9号窯跡　焚口No.11、 〃　最終床面直上遺物群、 8・9号窯跡　D-3・4間ベルト1・2層	①16.9　②3.4 つまみ径2.9 つまみ高0.9	外面一部回転ヘラ削り調整、内面3/4不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。径1.0㎜以下の白色粗砂や黒色粒子をやや多く含む。Bやや不良。C灰白色7.5Y8/1～灰色7.5Y6/1	
422	須恵器	杯蓋	9号窯跡　焚口No.2	①(15.2) ②2.9 つまみ径2.7 つまみ高1.0	外面2/3回転ヘラ削り調整、内面2/3不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A粗。径2.0㎜以下の白色粗砂を多く含む。B良好。C(重ね焼きの焼きムラ)外面重ね焼き部分：灰色N6/、灰白色N7/、外面残り部分：灰色N6/～青灰色5B6/1、内面端部：青灰色5B5/1、内面残り部分：青灰色5B6/1～灰色N4/	
423	須恵器	杯蓋	8・9号窯跡　C-4区　9号窯跡焚口部床面直上	①(17.0) ②1.95 つまみ径2.8 つまみ高0.5	外面2/3回転ヘラ削り調整、内面1/2不定方向のナデ調整。	A精良。径1.0㎜以下の白色粗砂を若干含む。Bやや不良。C外灰黄褐色10YR6/2、内灰色N6/	

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
424	須恵器	杯蓋	9号窯跡　焚口No.5	①(15.4) ②3.1 つまみ径3.2 つまみ高0.95	外面3/5回転ヘラ削り調整、内面3/5不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整、つまみ貼付。	A密。径0.5mm以下の白色粗砂や黒色粒子を少量含む。B良好。C外灰色N7/～青灰色5PB6/1、内灰白色5Y7/1～青灰色5PB6/1、つまみ灰色N6/	
425	須恵器	杯蓋	9号窯跡　焚口No.6、No.4下、No16、No.17	①(17.6)	外面5/9回転ヘラ削り調整、内面3/4不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整、つまみ痕跡あり。	A密。径3.0mm以下の白色砂礫を少量含む。Bやや不良。C内外面灰白色5Y7/1～灰黄色2.5Y6/2	
426	須恵器	杯蓋	9号窯跡　焚口No.13、 〃　最終床面直上遺物群、 〃　焚口部5層、 〃　床面直上	①15.5　②2.6 つまみ径2.8 つまみ高0.8	外面2/3回転ヘラ削り調整、内面1/2不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A粗。径2.0mm以下の白色粗砂を多く含む。B良好。C褐灰色5YR5/1～暗青灰色5PB4/1	
427	須恵器	杯蓋	9号窯跡　焚口No.3、No.4	①(17.8)	外面2/3回転ヘラ削り調整、内面3/5不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整、つまみ痕跡あり。	A密。径1.0mm以下の白色粗砂や黒色粒子を少量含む。B不良。C外灰白色5Y7/1～7.5Y7/1、内灰白色5Y7/2～灰色N4/	
428	須恵器	杯蓋	9号窯跡　焚口No.16	①(15.6) ②3.1 つまみ径2.5 つまみ高0.7	外面2/3回転ヘラ削り調整、内面2/3不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整、つまみ貼付。	A粗。径2.0mm以下の白色粗砂や黒色粒子を多く含む。B良好。C外灰色N5/、内青灰色5PB5/1～暗青灰色5PB4/1	
429	須恵器	杯蓋	9号窯跡　焚口No.2	①(16.2)	外面1/2回転ヘラ削り調整、内面3/5不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径0.5mm以下の白色粗砂を多く含む。B良好。C外青灰色5B6/1、内青灰色5PB6/1	
430	須恵器	杯蓋	9号窯跡　焚口No.8	①(16.1) ②2.6 つまみ径2.95 つまみ高1.0	外面1/2回転ヘラ削り調整、内面3/5不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整、つまみ貼付。	Aやや粗。径1.0mm以下の白色粗砂や黒色粒子を少量含む。B良好。C外灰白色N7/～灰色N5/、内灰白色N7/～灰色N6/	
431	須恵器	杯蓋	9号窯跡　焚口No.19、 〃　最終床面遺物群	①(17.2)	外面1/2回転ヘラ削り調整、内面1/2不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径5.0mm以下の白色粗砂を少量、黒色粒子をやや多く含む。B不良。C外灰白色5Y8/1～7/1、内灰白色5Y8/1～8/2	
433	須恵器	長頸壺	9号窯跡　窯跡体内B区左貼床2層	④(23.9)	残存部のうち、胴部外面下半回転ヘラ削り調整、上半～内面回転ナデ調整。	A密。細かい黒色粒子を含む。Bやや不良。C外灰白色5Y7/1～灰色5Y6/1、内灰白色5Y7/2、降灰部灰黄色2.5Y7/2～6/2	胴部外面に灰かぶり。
434	須恵器	杯身	9号窯跡　焚口No.7、 〃　最終床面遺物群	①(14.0) ②5.9 高台径(9.4)	底部外面回転ヘラ切り調整、底部内面不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径0.5mm以下の粗砂を少量含む。Bやや不良。C内灰白色N8/～灰色N6/、体部外面明オリーブ灰色2.5GY7/1、高台内灰白色N6/～灰色N5/	底部内外面粘土紐巻上げ痕あり。体部外面にシボリ痕？
435	須恵器	杯蓋	8・9号窯跡　D-4区下層(焚口部の一部焚口含む)	①(16.1) ②3.1 つまみ径3.0 つまみ高0.95	外面3/4回転ヘラ削り調整、内面は磨滅して調整不明。	A密。径3.0mm以下の白色砂礫をやや多く含む。B不良。C外褐灰色10YR5/1～にぶい黄橙色10YR7/2、内灰白色10YR7/1	
436	須恵器	杯身	8・9号窯跡　C-3・4間ベルト1・2層		内外面回転ナデ調整。	A密。径2.0mm以下の白色粗砂を若干含む。B良好。C褐灰色10YR4/1	
437	須恵器	高杯	8・9号窯跡　D-3・4区間ベルト7層(9号窯跡焚口灰層) 8・9号窯跡　C・D列間横断ベルト(D-4区)2・3層	①(14.9)	内外面回転ナデ調整。	A密。径3.0mm以下の白色砂礫を少量含む。B不良。C外にぶい黄橙色10YR7/2、内オリーブ灰色5GY6/1	
438	須恵器	杯蓋	8・9号窯跡　D-4区下層(焚口部の一部焚口含む)	①15.9　②2.8 つまみ径3.05 つまみ高0.7	外面2/3回転ヘラ削り調整、内面不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径2.0mm以下の白色粗砂を少量含む。Bやや不良。C外明青灰色5B7/1、褐灰色10YR4/1、内オリーブ灰色2.5GY5/1	
439	須恵器	杯身	8・9号窯跡　C・D列間横断ベルト(D-4区)2・3層	①(13.2) ②3.55 高台径(9.0)	底部外面ナデ調整、底部内面不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径1.0mm以下の白色粗砂を若干含む。Bやや不良。C外灰白色N7/～灰色N5/、内明緑灰色7.5GY7/1	
440	須恵器	杯蓋	8・9号窯跡　D-4区下層(焚口部の一部焚口含む)	①(16.0)	外面2/3回転ヘラ削り調整、内面不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径2.0mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C(重ね焼きの焼けムラ)口縁部内外面明青灰色5B7/1、残り全体青灰色5B5/1	外面の中心につまみ貼付の痕跡あり。
441	須恵器	杯身	8・9号窯跡　C-4区　9号窯跡焚口埋土2・3層	①14.0～14.5 ②4.1～4.5 高台径9.8	底部外面回転ヘラ切り後ナデ調整、底部内面不定方向のナデ調整。	A密。径2.0mm以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C体部外面明緑灰色7.5GY8/1～緑黒色10GY2/1、底部外面青灰色5B6/1、内：灰色N5/	

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
442	須恵器	大甕	8・9号窯跡　D-3･4区間ベルト7層(9号窯跡焚口灰層)		全面磨滅して調整不明。	Aやや粗。径3.0㎜以下の白色砂礫をやや多く含む。B不良。C灰白色10YR7/1	
443	須恵器	杯蓋	8・9号窯跡　D-4区下層(焚口部の一部焚口含む)	①16.7	外面3/4回転ヘラ削り調整、内面回転ナデ後不定方向のナデ調整。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C(重ね焼きの焼けムラ)口縁端部：暗緑灰色10GY3/1、外暗緑灰色10G4/1、内緑灰色10GY5/1	内外面重ね焼き痕あり
444	須恵器	椀	8・9号窯跡　C-3･4間ベルト28･29層、 〃　C-4区窯跡体内上層	①(10.0) ②5.25 ③6.7	底部外面～体部下半後カキメ調整、他は回転ナデ調整。	A精良。砂粒をほとんど含まない。B良好。C灰白色10YR7/1～褐灰色10YR6/1、緑黒色10GY2/1	底部外面にヘラ記号あり。
445	須恵器	杯蓋	8・9号窯跡　C-4区　9号窯跡焚口部5層	①12.0　②2.6 つまみ径1.6 つまみ高0.5	外面1/2回転ヘラ切り後ナデ調整、内面回転ナデ調整。	A精良。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C内外面灰色N6/	外面重ね焼き痕あり
446	須恵器	杯蓋	8・9号窯跡　C-4区　9号窯跡焚口部5層	①12.0 ②2.75 つまみ径1.5 つまみ高0.45	外面1/2回転ヘラ切り後ナデ調整、1/2回転ナデ後ナデ調整、他は回転ナデ、つまみ貼付。	A精良。径2.0㎜以下の白色粗砂を若干含む。B良好。C内外面緑灰色10G5/1～暗緑灰色10G3/1	乾燥時のヒビ割れの補修痕あり。内外面に重ね焼き痕あり。
447	須恵器	長頸壺胴部	8・9号窯跡　C-3･4間ベルト7･32層	④(20.0)	体部外面回転ヘラ削り調整、胴部内面回転ナデ調整。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C灰色N5/	胴部の屈曲部直下にヘラ記号あり。
448	須恵器	杯蓋	SX01-1	①12.7 残存高3.1	天井は比較的低く丸い。天井外面に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。B甘く軟質。C外淡黄2.5Y7/3、内灰白7.5Y7/1	4/5欠損
449	須恵器	杯蓋	SX01-1	①14.7 残存高3.5	天井は比較的低く丸い。天井外面に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。B甘く軟質。C外灰N5/0、内灰N5/0、断灰N5/0	1/2欠損
450	須恵器	杯蓋	SX01-1	①13.4　②3.6	天井は比較的低く端部は丸い。外面1/2に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。白色砂粒を含む。Bやや甘い。C外オリーブ灰2.5GY6/1、内明オリーブ灰2.5GY6/1	
451	須恵器	杯蓋	SX01　カマド2号	①13.1　②3.9	天井は比較的高く丸みを持つ。天井外面に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰黄褐10YR6/2、内オリーブ灰2.5GY6/1	2/3欠損
452	須恵器	杯蓋	SX01-1	①12.8　②3.3	天井は比較的低く丸い。天井外面に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。2～3㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外暗灰N3/0、内灰N6/0、	1/2欠損、ヘラ記号
453	須恵器	杯蓋	SX01カマド埋土中	①14.0 残存高3.1	天井は比較的低く丸い。	Aやや粗。B良好。C外赤灰2.5YR6/1、内明オリーブ灰2.5GY7/1	6/7欠損
454	須恵器	杯蓋	SX01-1	①13.3 残存高3.2	天井は比較的低く丸い。	A密。B良好。C外灰N5/0、内青灰5PB6/1	7/8欠損
455	須恵器	杯身	SX01-1	①11.4 残存高3.7	たちあがりは短く内傾する。底部は比較的浅い。底部外面は回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。白色砂粒を含む。B良好。C外灰白5Y7/1、内明紫灰5RP7/1	3/5欠損
456	須恵器	杯身	SX01-1	①12.4 残存高2.4	たちあがりは短く内傾する。底部は比較的浅い。底部外面は回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外にぶい褐7.5YR6/3、内にぶい橙7.5YR6/4	5/6欠損
457	須恵器	高杯	SX01-1カマド埋土中	①8.1 残存高2.9	高杯の脚部の破片。	A密。B良好。C外灰10Y7/1、内灰N5/0	5/6欠損。内面にヘラ記号
458	須恵器	高杯	SX01	①8.6 残存高2.6	高杯の脚部の破片。	A密。B良好。C外灰N6/0、内灰10Y5/1	細片

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径 ②器高③底径 ④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
459	土師器	把手	SX01-1	－－	土師器甕あるいは鍋の把手。	A粗。2～5㎜の白色砂粒を含む。B甘く軟質。C外橙7.5YR6/6、内橙7.5YR7/6	細片
460	土師器	甕	SX01-1	－－	土師器甕（壺）の体部の破片。外面に刷毛目。	A粗、白色砂粒を含む。B甘く軟質。C外黒褐10YR3/2、内橙7.5YR7/6	細片
461	須恵器	椀	SX01カマド埋土中	①9.3 残存高5.9	底部は比較的浅く、口縁部は直線的に上外方にのびる。底部に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗、白色砂粒を含む。B良好。C外内暗緑灰10GY4/1	3/5欠損
462	須恵器	甕	SX01-1	－－	甕<壺>体部の破片。外面には平行叩き、内面には円弧叩き。	Aやや粗。3㎜前後の白色砂粒を含む。B良好。C外灰N5/0、内灰N6/0	
463	土師器	甕	SX01-1	①26.1 残存高1.8	土師器甕(壺）の口縁部の破片。	A粗。B甘く軟質。C外黄灰2.5Y5/1、内橙7.5YR7/6	細片
464	須恵器	甕	SX01-3	－－	甕<壺>体部の破片。外面には平行叩き、内面には円弧叩き。	A密。B良好。C外灰N4/0、内灰N5/0	細片
465	須恵器	甕	SX01-1	－－	甕<壺>体部の破片。外面には平行叩き、内面には円弧叩き。	A密。B良好。C外浅黄2.5Y7/3、内灰白N7/0	細片
466	須恵器	甕	SX01-1	－－	甕<壺>体部の破片。外面には平行叩き、内面には円弧叩き。	Aやや粗、白色砂粒を大量に含む。B良好。C外灰黄2.5Y7/2、内灰白N7/0	細片
467	須恵器	杯蓋	ＳX02上－1	①13.9　②3.0	天井は比較的低く丸い。天井外面に回転ヘラ削り、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。2㎜前後の白色砂粒を含む。B良好。C外暗灰N4/0、内灰白N7/0	2/3欠損
468	須恵器	杯蓋	ＳX02上　№1	①13.9 ②13.2	天井は比較的低く丸い。天井外面に回転ヘラ削り、他は回転ナデ調整。	A粗。3㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外灰N5/0、内青灰5PB6/1、断灰～暗灰N4/0～N3/0	ヘラ記号「ハ」あり。
469	須恵器	杯蓋	ＳX02上　ベルト内	①13.3　②3.5	天井は比較的低く丸い。天井外面に回転ヘラ削り、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。2～3㎜の白色砂粒を含む。B甘い。C外灰5Y6/1、内灰白10Y7/1	1/2欠損
470	須恵器	杯蓋	ＳX02上	①11.8　②3.8	天井は比較的高く丸い。天井外面2/3に回転ヘラ削り、他は回転ナデ調整。	A緻密。B良好。C外灰N4/0、内灰白N7/0	1/2欠損。ヘラ記号「－」あり。
471	須恵器	杯蓋	ＳX02上－0	①14.1　②3.9	天井は比較的低く丸い。天井外面1/2に回転ヘラ削り、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。2㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外灰N6/0、内灰10Y6/1	3/5欠損
472	須恵器	杯蓋	SX02	①13.0　②3.8	天井は比較的低く丸い。天井外面2/3に回転ヘラ削り、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。2～1㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外灰N4/0、内灰N4/0	1/2欠損
473	須恵器	杯蓋	SX02下ベルト内	①14.0　②5.4	天井は比較的高く丸い。天井外面1/2に回転ヘラ削り、他は回転ナデ調整。	A緻密。B良好。C外オリーブ黒5GY2/1、内灰N5/0	1/2欠損。ヘラ記号あり。4点接合。
474	須恵器	杯蓋	SX02上　№2	①14.8　②3.8	天井は比較的低く丸い。天井外面2/3に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A緻密。B良好。C外灰N6/0、内灰白N8/0	2/5欠損。ヘラ記号あり。
475	須恵器	杯蓋	SX08	①14.2　②3.4	天井は比較的低く丸い。天井外面2/3に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。細かな白色砂粒を含む。B良好。C外灰N6/0、内灰白N7/0	4/5欠損

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
476	須恵器	杯蓋	SX02下－2	①11.2　②2.3	天井は低く丸い。天井外面1/2に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A緻密。B良好。C外灰白5Y7/2、内灰白5Y8/2	2/3欠損
477	須恵器	杯蓋	SX02下－2	①13.4　②2.7	天井は比較的低く丸い。天井外面1/2に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A緻密。Bやや甘い。C外灰白5Y7/1、内灰白5Y7/1	6/7欠損
478	須恵器	杯身	SX02上－1	①11.4　②4.5	たちあがりは短く内傾する。底部は比較的深い。底部外面は1/2に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。1㎜前後の白色砂粒を含む。B良好。C外青灰5PB6/1、内青灰5B6/1	1/2欠損。6点接合。ヘラ記号あり。
479	須恵器	杯身	SX02下－2	①9.9　②2.9	たちあがりは短く内傾し、底部は比較的浅く丸みを持つ。外面に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A緻密。B良好。C外灰7.5Y6/1、内灰白5Y7/1	2/3欠損
480	須恵器	杯身	SX02上	①12.1　②3.5	たちあがりは短く内傾し、底部は比較的浅く丸みを持つ。外面に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。1～2㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外暗赤灰10R4/1、内赤灰10R5/1、断灰赤10R5/2	4/5欠損
481	須恵器	杯身	SX02上－1	①9.4　②2.6	たちあがりは短く内傾し、底部は比較的浅く丸みを持つ。外面に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A緻密。B良好。C外灰白N8/0、内灰白N7/0、断灰白7Y8/1	9/10欠損
482	須恵器	高杯	SX02上－0	①11.9　②4.4	有蓋高杯の杯部の破片。たちあがりは短く内傾し、端部は丸い。底部は浅く丸みを持つ。底部に回転ヘラ削り調整。	Aやや粗。B軟質。C外浅黄5Y7/3、内灰白5Y8/2	3/5欠損
483	須恵器	甕	SX02下ベルト中	①14.6　②3.7	口頸は基部太く、外反して上外方にのび、端部で肥厚させ、丸く仕上げる。体部以下は欠損。	A緻密。B良好。C外灰N6/0、内灰N6/0	破片
484	須恵器	甕	SX02上－1	－－	甕<叩>体部の破片。外面には平行叩き、内面には円弧叩き。	Aやや粗。B良好。C外赤灰2.5YR5/1、内灰N6/0	破片
485	須恵器	甕	SX02下－2	①15.1　②2.5	口頸は基部太く、短く外反して上外方にのび、端部で肥厚させ、丸く仕上げる。体部以下は欠損。	A緻密。B甘い。C外淡黄5Y8/3、内淡黄5Y8/3	破片
486	須恵器	甕	SX02下－2	①20.4　②3.2	口頸は短く外反して上外方にのび、端部で肥厚させる。口頸中位以下は欠損。	A緻密。B堅緻。C外黄灰2.5Y3/1、内黄灰2.5Y6/1	破片
487	須恵器	甕	SX02上－1	－－	甕<叩>体部の破片。外面には平行叩き、内面には円弧叩き。	Aやや粗。B良好。C外黄灰2.5Y6/1、内灰N5/0	破片
488	須恵器	杯蓋	SX03上－3	①13.4　②4.0	天井は比較的高く丸い。天井外面2/3に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。Bやや甘い。C外灰10Y6/1、内明オリーブ灰2.5GY7/1	1/3欠損ヘラ記号
489	須恵器	杯身	SX03下－3	①10.8　②4.2	たちあがりは短く内傾して内上方にのび端部は丸い。底部は比較的深く丸みを持つ。底部外面2/33に回転ヘラ削り調整。	A粗。2㎜前後の白色砂粒を大量に含む。B良好。C外内灰白N8/0	ごく一部欠損。ひずみ、ヘラ記号。
490	須恵器	杯身	SX03下－3　No1	①11.8　②4.2	たちあがりは短く内傾して内上方にのび端部は丸い。底部は比較的深く丸みを持つ。底部外面2/3に回転ヘラ削り調整。黒斑落	Aやや粗。2－3㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外内灰白N7/0	杯部のみ残存。
491	須恵器	杯蓋	SX03上－3	①14.2　②4.0	天井は比較的高く丸い。天井外面2/3に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A粗。1－2㎜前後の白色砂粒を含む。B甘い。C外内淡黄5Y8/3	1/2欠損
492	須恵器	杯蓋	SX03上－2	①12.9　②3.6	天井は比較的高く丸い。天井外面1/2に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A密。B良好。C外内明青灰5PB7/1	4/5欠損

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
493	須恵器	杯身	ＳＸ03上－３	①11.0　②4	たちあがりは短く内傾して内上方にのび端部は丸い。底部は比較的浅く丸みを持つ。底部外面２/３に回転ヘラ削り調整。	Aやや粗。２－５㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外明青灰5Ｐ B7/1、内青灰5Ｐ B6/1	１/５欠損、自然釉
494	須恵器	杯身	ＳＸ03上２－３間ベルト中	①11.0　②3.4	たちあがりは短く内傾して内上方にのび端部は丸い。底部は比較的浅く丸みを持つ。底部外面１/２に回転ヘラ削り調整。	A粗。白色砂粒を含む。B良好。C外灰白N7/0、内灰N7/0	２/５欠損、ひずみ
496	須恵器	杯身	ＳＸ03－１	①12.6　②4.1	たちあがりは短く内傾して内上方にのび端部は丸い。底部は比較的深く丸みを持つ。底部外面２/３に回転ヘラ削り調整。	Aやや粗。２㎜前後の白色砂粒を含む。B良好。C外明オリーブ灰、内にぶい橙7.5Y6/3	３/５欠損。ヘラ記号「×」あり。
497	須恵器	杯身	ＳＸ03上－３	①11.4　②4.4	たちあがりは短く内傾して内上方にのび端部は丸い。底部は比較的深く丸みを持つ。底部外面１/２に回転ヘラ削り調整。	A粗。３～５㎜前後の白色砂粒を含む。B良好。C外灰白5Y7/1、内明青灰5Ｐ B7/1	２/３欠損。
498	須恵器	高杯	ＳＸ03下－２	①21.5　②8.6	大型の無蓋高杯の杯部である。脚は欠損。口縁部外面中位に沈線２条。底部に回転ヘラ削り調整。	A粗。１～３㎜の白色砂粒を多く含む。B良好。C外オリーブ灰5GY6/1、内灰N6/0	１/２欠損。ひずみあり。10点接合。
499	須恵器	高杯	ＳＸ03上－３	①14.3　②5.1	無蓋高杯の杯部である。脚は欠損。口縁部外面中位に沈線１条。底部に回転ヘラ削り調整。	Aやや粗。２㎜前後の白色砂粒を含む。Bやや甘い。C外灰白N7/0、内灰白N7/0	
500	須恵器	高杯蓋	ＳＸ03上－３	①12.6　②4.0	高杯の蓋。つまみ欠損、回転ヘラ削り、回転ナデ調整。	Aやや粗。２㎜前後の白色砂粒を含む。B良好。C外オリーブ灰2.5GY6/1、内明オリーブ灰2.5GY7/1	１/２欠損
502	須恵器	横瓶	ＳＸ03－１	－－	提瓶の側面の破片か？平行たたきの後回転カキ目、内面は円弧叩き。	A緻密。B堅緻良好。C外灰白7.5Y8/1、内灰N6/0	
503	須恵器	高杯	ＳＸ03下－２	①15.7　②8.5	無蓋高杯の杯部である。脚は中位で欠損。口縁部外面中位に沈線１条、ヘラ描き斜線文様。底部に回転ヘラ削り調整。	Aやや粗。白色砂粒を含む。B良好。C外灰白N7/0、内オリーブ灰2GY5/1	１/３欠損。脚１/２欠損。
504	須恵器	横瓶	ＳＸ03上－３	①12.8　②6.5	口縁部は大きく外彎して上外方にのび、端部は段をなす。体部中位以下を欠損。	Aやや粗。白色砂粒を含む。B良好。C外青灰5B6/1、内青灰5B5/1	３/５欠損
505	土師器	鉢	ＳＸ03－２検出時	－－	口縁部は大きく外彎して上外方にS字状にのび、端部は丸い。体部中位以下を欠損。	A粗。２～３㎜の白色・褐色砂流を多く含む。B甘く軟質。C外淡黄2.5Y8/3、内にぶい黄橙10YR7/4	４/５欠損。４点接合。
506	須恵器	杯蓋	ＳＸ04－２	①13.4　②3.4	天井は比較的低く丸く、なだらかに下がる。端部は丸い。外面２/３に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰5Y6/1、内灰白N7/0	１/３欠損
507	須恵器	杯蓋	ＳＸ04－１	①14.0　②3.7	天井は比較的低く丸く、なだらかに下がる。端部は丸い。外面２/３に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A緻密。B良好。C外灰白7.5Y7/1、内灰白7.5Y7/1	４/５欠損
508	須恵器	杯蓋	ＳＸ04－１	①14.2　②3.7	天井は比較的低く丸く、なだらかに下がる。端部は丸い。外面２/３に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。２～３㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外灰7.5Y6/1、内明青灰5Ｐ B7/1	４/５欠損
509	須恵器	杯蓋	ＳＸ04－２	①11.9　②3.6	天井は比較的低く丸く、なだらかに下がる。端部は丸い。外面２/３に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外にぶい褐7.5YR6/3、内にぶい黄橙10YR7/2	１/３欠損。ヘラ記号「///」あり。
510	須恵器	杯蓋	ＳＸ04－２	①11.9　②4.5	天井は比較的低く丸く、なだらかに下がる。端部は丸い。外面２/３に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A粗。B甘く軟質。C外灰白7.5Y7/1、内灰白7.5Y7/1	１/２欠損
511	須恵器	杯蓋	ＳＸ04－２検出時	①13.5　②3.7	天井は比較的低く丸く、なだらかに下がる。端部は丸い。外面２/３に回転ヘラ削り調整、内面中央ナデ調整。他は回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰褐7.5YR5/2、内灰赤2.5YR5/2	３/４欠損

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
512	須恵器	杯蓋	ＳＸ04－1	①13.1　②4.4	天井は比較的低く丸く、なだらかに下がる。端部は丸い。外面2/3に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A粗。1～3㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外灰N5/0、内灰N6/0	3/4欠損
513	須恵器	杯蓋	ＳＸ４－５検出時	①12.7　②4.0	天井は比較的低く丸く中位で欠損。端部は丸い。外面1/2に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A緻密。B良好。C外灰白～灰N7/0～N6/0、内灰白N7/0	3/5欠損
514	須恵器	杯蓋	ＳＸ04－2	①13.6　②3.9	天井は比較的低く丸く、なだらかに下がる。端部は丸い。外面1/2に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰N6/0、内青灰5PB5/1	2/3欠損
515	須恵器	杯蓋	ＳＸ04－2	①14.2　②3.8	天井は比較的低く丸く、なだらかに下がる。端部は丸い。外面1/2に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。B甘い。C外灰白7.5Y7/1、内灰白N7/0	2/3欠損。2点接合。
516	須恵器	杯蓋	ＳＸ04－2	①13.2　②4.1	天井は比較的低く丸く、なだらかに下がる。端部は丸い。外面2/3に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。2～3㎜の白色砂粒を含む。外灰N5/0、内青灰5PB5/1	3/4欠損
517	須恵器	杯蓋	ＳＸ04－2	①12.9　②3.0	天井は比較的低く丸く中位で欠損。端部は丸い。外面1/3に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外青灰5PB5/1、内青灰5PB5/1	2/3欠損。ヘラ記号「×」あり。
518	須恵器	杯身	ＳＸ04－2	①11.8　②3.8	たちあがりは短く内傾し、端部は丸い。底部は比較的浅く、外面1/2に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。Bやや甘い。C外灰白5Y7/1、内灰5Y6/1	3/4欠損
519	須恵器	杯身	ＳＸ04－2	①10.8　②3.6	たちあがりは短く内傾し、端部は丸い。底部は比較的浅く、外面1/2に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。白色砂粒を含む。B甘く軟質。C外灰白N7/0、内灰白7.5Y8/2	1/2欠損。亀裂あり。
520	須恵器	杯身	ＳＸ08	①10.9　②3.4	たちあがりは短く内傾し、端部は丸い。底部は大半欠損。外面1/2に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。1㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外灰10Y6/1、内灰N6/0	4/5欠損
521	須恵器	杯身	ＳＸ04－3	①11.5　②3.8	たちあがりは短く内傾し、端部は丸い。底部は比較的浅く丸い。外面1/2に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A緻密。白色砂粒を含む。B良好。C外明青灰5PB7/1、内明青灰5PB7/1	1/2欠損。自然釉付着あり。
522	須恵器	高杯	ＳＸ04－2	①9.8　②4.1	底部は深く丸みを持つ。口縁部は内彎して伸び、端部は丸い。中位に沈線2条。底部を欠損。	Aやや粗。4㎜の白色砂粒を含む。B甘く軟質。C外灰10Y5/1、内灰N4/0	
523	須恵器	高杯	ＳＸ04　No.1	①12.9　②16.2	有蓋長脚二段高杯。たちあがりは短く内傾し、端部は丸い。底部に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整、脚に二段3方向の窓。	A粗。2～5㎜の白色砂粒を多く含む。B良好。C外灰白N6/0、内灰白N6/0	1/2弱欠損。2点接合。
524	須恵器	椀	ＳＸ04－2	①12.0　②5.0	底部は深く丸みを持つ。口縁部は内彎して伸び、端部は丸い。中位に沈線2条。底部に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A粗。1～7㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外明青灰5PB7/1、内暗オリーブ灰N4/1	3/5欠損。5点接合。
525	須恵器	壺	ＳＸ04－2	①10.6　②5.3	口頸部は基部太く外反してのび、端部で段をなす。	A緻密。B良好。C外灰N5/0、内灰N6/0	4/5欠損。自然釉。
526	須恵器	すり鉢	ＳＸ04－2	①12.7 ②12.0	底部は円盤状、口縁部は内彎して上方に伸び、端部は平面をなす。口縁中位に沈線2条。	Aやや粗。2～5㎜の白色砂粒を含む。Bやや甘い。C外にぶい黄橙2.5Y6/3、内にぶい黄橙10YR6/3	1/3欠損
527	須恵器	甕	ＳＸ04－2	①13.3　②9.3	口頸部は基部太く外反してのび、端部で段をなす。体部最大系は中位に求められ球体をなす。体部外面回転カキ目他は回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰7.5Y6/1、内青灰5B6/1	自然釉。
528	須恵器	杯蓋	ＳＸ09　1層	①12.5　②3.9	天井は比較的高くなだらかに口縁部に下がる。外面1/2に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。白色・黒色砂粒を含む。B良好。C外灰N6/0、内灰N6/0	1/5欠損。ヘラ記号「///」あり。わずかにゆがみ。

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
529	須恵器	杯蓋	ＳＸ09－１	①14.4　②4.1	天井は比較的高く、端部付近でわずかに曲げられる。外面１/２に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Ａやや粗。２㎜の白色砂粒を含む。Ｂ良好。Ｃ外灰Ｎ4/0、内灰Ｎ5/0	3/4欠損。ヘラ記号「/」あり。
530	須恵器	杯蓋	ＳＸ09－１　埋土中	①12.6　②4.0	天井は比較的低く、端部で下方に曲げられる。外面１/２に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Ａ緻密。Ｂ良好。Ｃ外明青灰5Ｐ Ｂ7/1、内青灰5Ｐ Ｂ6/1	4/5欠損
531	須恵器	杯蓋	ＳＸ09－１　埋土中	①13.8　②2.3	比較的低く丸い。天井部外面に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Ａやや粗。Ｂ良好。Ｃ外灰7.5Y6/1、内灰白5Y7/1	2/3欠損。ヘラ記号「－」あり。
532	須恵器	杯蓋	ＳＸ09－１　埋土中	①13.9　②3.7	天井は比較的低く、端部は丸い。外面２/３に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Ａ粗。１～３㎜の白色砂粒を含む。Ｂ良好。Ｃ外暗灰Ｎ3/0、内灰Ｎ4/0	3/4欠損
533	須恵器	杯蓋	ＳＸ09－１　埋土中	①13.6　②3.1	天井は低く、端部は丸い。外面２/３回転ヘラ削り調整。他回転ナデ調整。	Ａやや粗。Ｂ良好。Ｃ外灰Ｎ6/0、内灰白～灰Ｎ7/0～Ｎ6/0	3/4欠損
534	須恵器	杯蓋	SX09ベルト３層	①12.8　②4.3	天井は比較的高くなだらかに口縁部に下がる。外面２/３に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Ａ粗。２㎜前後の白色砂粒を含む。Ｂ良好。Ｃ外明青灰5PB7/1、内灰Ｎ6/0	3/5欠損。ヘラ記号「＋」あり。
535	須恵器	杯蓋	SX09－２　灰層中	①10.9　②3.3	天井は比較的高く端部付近でわずかに曲げられる。天井１/２に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Ａ粗。２～５㎜の白色砂粒を含む。Ｂ良好。Ｃ外青灰5PB6/1、内明青灰5PB7/1	1/2欠損
536	須恵器	杯蓋	SX09－１　埋土中	①12.8　②3.3	天井は低く、端部付近で下方に曲げられる。外面１/２に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Ａ粗。３～５㎜の白色砂粒を含む。Ｂ良好。Ｃ外灰赤10R5/2、内青灰5PB5/1	3/5欠損
537	須恵器	杯身	SX09－１　埋土中	①12.8　②3.7	比較的浅く、たちあがりはわずかに内傾する。底部１/２に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Ａ粗。２～５㎜の白色砂粒を含む。Ｂ良好。Ｃ外灰5Y6/1、内灰白Ｎ7/0	3/4欠損
538	須恵器	杯身	SX09－２　埋土中	①11.6　②3.4	比較的浅く、たちあがりは短く内傾する。底部１/２に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Ａやや粗。２㎜前後の白色砂粒を含む。Ｂ良好。一部甘く軟質。Ｃ外灰白7.5Y7/1、内灰白7.5Y8/2	口縁部１/３は軟質。ヘラ記号「×」。
539	須恵器	杯身	SX09－１　埋土中	①12.4　②4.3	底部は比較的深く、たちあがりは内傾する。底部１/２に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Ａやや粗。２～３㎜の白色砂粒を含む。Ｂ良好。Ｃ外灰Ｎ6/0、内灰白Ｎ7/0	4/5欠損
540	須恵器	杯身	SX09－１　埋土中	①11.0　②4.2	底部は比較的深く、たちあがりは短く内傾する。底部１/２に回転ナデ調整、内面１/２にナデ調整、他回転ナデ調整。	Ａやや粗。１～５㎜の白色砂粒を含む。Ｂ良好。Ｃ外灰Ｎ5/0、内灰Ｎ6/0	1/2欠損
541	須恵器	杯身	SX09－１　埋土中	①10.7　②2.8	底部は浅く、たちあがりは短く内傾する。底部２/３に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Ａ粗。２～４㎜の白色砂粒を含む。Ｂ良好。Ｃ外オリーブ灰2.5GY5/1、内緑灰7.5GY6/1	2/3欠損。２点接合。
542	須恵器	椀	SX09－２　埋土中	①12.3　②5.6	中位に沈線２条を認める。底部は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。内面に自然釉を認める。	Ａ緻密。Ｂ堅緻良好。Ｃ外暗灰Ｎ3/0、内淡黄5Y8/3	1/2欠損。ひずみあり。
543	須恵器	杯身	SX09－１　埋土中	①14.1　②3.0	底部は浅く、たちあがりは短く内傾する。底部２/３に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Ａやや粗。白色砂粒を含む。Ｂ良好。Ｃ外灰白5Y8/1、内青灰5PB6/1	
544	須恵器	台付椀	SX09－１　埋土中	①9.4　②13.5	鉢部は深く、内傾する口縁部は上方にのび端部は丸い。脚は基部太く外彎して下がる。外面中位に沈線２条、底部に回転ヘラ削り。	Ａ粗。白色砂粒を多く含む。Ｂ良好。Ｃ外明青灰5PB7/1、内灰Ｎ6/0	1/4欠損。ヘラ記号「///」あり。
545	須恵器	高杯	SX09－２　埋土中	①12.0　②6.8	杯部の口縁部はなだらかに外上方にのび端部は丸い。脚はきぼ太く、外彎して下がる。底部内面ナデ、外面回転ヘラ削り。	Ａ粗。２㎜前後の白色砂粒を含む。Ｂ良好。Ｃ外灰Ｎ5/0、内灰Ｎ4/0	1/4欠損。ひずみあり。６点欠損。

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
546	須恵器	短頸壺	SX09　ベルト３層	①7.0　②5.4	口頸部は基部太く、短く直立してのびる。体部中位以下回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰白～灰N7/0～6/0、内灰白N7/0	1/4欠損。ヘラ記号「　」あり。
547	須恵器	短頸壺	SX09　埋土中	①6.9　②6.9	口頸部は基部太く、短く外反してのびる。体部中位以下回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	Aやや粗。白色砂粒を多く含む。B良好、一部甘い。C外にぶい橙5YR6/3、内にぶい橙2.5YR6/3	
548	滑石	紡錘車	SX09－１　埋土中	①3.5－5.4 ②1.9	滑石製の紡錘車である。円錐台形をなす。両面に削りの痕跡を認める。	A粗。３㎜前後の白色砂粒を含む。B良好。C外明青灰5PB7/1、内暗灰N3/0	ひずみ多し。
549	須恵器	椀	SX09　埋土中	①12.2 ②7.6	底部は深く丸みを持つ。口縁部は内彎気味に上方に伸び端部は丸い。体部中位に２条筒の沈線２列、底部に回転ヘラ削り。	Aやや粗。B良好。C外明緑灰7.5GY7/1、内明オリーブ灰5GY7/1	
550	須恵器	甕	SX09－２　埋土中	①12.2　②9.2	口頸部は基部太く外反し、端部で肥厚させ、口縁端部は丸く仕上げる。体部最大系は中位であろう。上位で欠損。	Aやや粗。白色砂粒を含む。B良好。C外灰N3/0、内灰N5/0	ヘラ記号「∧」あり。
551	須恵器	甕	SX09－２　埋土中	①16.9　②5.6	口頸部は基部太く外反し、端部で肥厚させ、口縁端部は丸く仕上げる。体部最大系は中位であろう。上位で欠損。	Aやや粗。３～４㎜の白色砂粒を多く含む。B良好。C外灰N5/0、内暗灰N3/0	
552	須恵器	杯蓋	SX19－１	①13.8　②3.9	天井は比較的高く端部は丸い。天井外面に回転ヘラ削り、他は回転ナデ調整。	A粗。２～３㎜の白色砂粒を多量に含む。B良好。C外灰N6/0、内灰N6/0	1/5欠損
553	須恵器	杯蓋	SX19-2	①12.9　②3.3	天井は比較的高く端部は丸い。天井外面に回転ヘラ削り、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。砂粒を多量に含む。B良好。C外灰白N7/0、内灰白N8/0	2/5欠損
554	須恵器	杯蓋	SX19-1	①12.4　②3.9	天井は比較的高く端部は丸い。天井外面に回転ヘラ削り、他は回転ナデ調整。	A粗。２～２㎜の白色砂粒を多量に含む。B良好。C外暗灰N3/0、内灰N5/0	1/3欠損
555	須恵器	高杯蓋	SX19-2	②残存高3.6 つまみ径3.1 つまみ高0.6	天井部中央に扁平なつまみ。天井部外面回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	Aやや粗。２㎜前後の白色砂粒を含む。B良好。C外灰N6/0、内灰N6/0	1/2欠損
556	須恵器	杯蓋	SX19-2	①16.3 ②残存高3.4	天井は比較的高く端部は丸い。天井部の大半は欠損。	Aやや粗。B良好。C外オリーブ灰2.5GY6/1、内灰N6/0	
557	須恵器	高杯	SX19-2	②残存高6.5	中位に沈線をめぐらす。回転ヘラ削り調整。	Aやや粗。B甘く軟質。C外にぶい橙7.5YR7/4、内にぶい橙7.5YR7/4	
558	須恵器	高杯蓋	SX19-2	①14.5 ②5.4 つまみ径3.2、 つまみ高0.6	天井は高く丸い。外面中央に扁平なつまみ。天井外面１/２に回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	A粗。白色砂粒を多量に含む。B良好。C外灰白N7/0、内灰白N7/0	1/2欠損
559	須恵器	杯蓋	SX19-2	①14.6 ②残存高3.7	天井は比較的高く端部は丸い。天井部の大半は欠損。	A緻密。B良好。C外緑灰10GY5/1、内灰N6/0	4/5欠損
560	須恵器	杯蓋	SX19-2	①16.4 ②残存高2.0	蓋の細片。端部は丸い。端部付近まで回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A粗。B良好。C外灰N6/0、内灰N6/0	
561	須恵器	杯身	SX19-2	①13.0 ②残存高2.2	たちあがりをともなう杯身あるいは高杯の破片。	A緻密。B良好。C外灰N6/0、内青灰5PB6/1	
562	須恵器	高杯	SX19-1埋土	②残存高11.8	長脚高杯の付部から脚部の破片。付底部回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。くさり鉄多し。B甘く軟質。C外橙7.5YR7/6、内橙7.5YR7/6	2/3欠損

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
563	須恵器	杯蓋	SX20ベルト中5層	①12.3　②3.0	天井は比較的低く端部は丸い。天井外面に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰N5/0、内灰N6/0	2/5欠損。4点接合
564	須恵器	杯蓋	SX20ベルト内5層中	①13.5　②2.8	天井は比較的低く端部は丸い。天井外面に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A緻密。B良好。C外青灰5B6/1、内灰N6/0	5点接合。
565	須恵器	杯身	SX20ベルト内5層中	①10.5　②4.1	たちあがりは短く内傾し端部は丸い。底部は深く丸みを持つ。底部は1/3回転ヘラ削り他は回転ナデ調整。	A緻密。B良好。C外灰5Y6/1、内明青灰5PB7/1	2/3欠損
566	須恵器	高杯	SX20ベルト内5層中	①12.9 ②残存高9.1	無蓋の高杯。杯部は内湾して上方に伸び端部はまるい。中位外面に車線紋をめぐらせる。脚は比較的深く円柱状にさがる。	Aやや粗。2㎜前後の白色砂粒を含む。B良好。C外灰10Y5/1、内灰7.5Y4/1	1/2欠損
567	須恵器	杯身	SX20ベルト中5層遺物集中点	①11.2　②4.8	底部は深く丸みを持つ。口縁部は上外方にのび、端部は丸い。口縁外面中位に沈線をめぐらす。底部外面に回転ヘラ削り。	Aやや粗。2～3㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外暗オリーブ灰2.5GY4/1、内青灰5PB6/1	3点接合
568	須恵器	杯身	SX20　5層	①10.7　②3.8	たちあがりは短く内傾し端部は丸い。底部は深く丸みを持つ。底部は1/2回転ヘラ削り。他は回転ナデ調整。	A緻密。B良好。C外灰白N7/0、内灰白N7/0	2点接合。4/5欠損
569	須恵器	杯蓋	SX20内黒色土（2－5号窯灰原）	①18.7 ②残存高2.3	天井は比較的高くなだらかに下り端部は丸く肥厚させる。天井部外面回転ヘラ削り他は回転ナデ調整。中位は欠損。	A粗。砂粒を多量に含む。B良好。C外灰7.5Y6/1、内灰白7.5Y7/1	4/5欠損
570	須恵器	壺蓋	SX22－3	①13.0 ②残存高3.2	天井は比較的高く中位は欠損。天井部内面にはかえりをともなう。内外面回転ナデ調整。	A緻密。B良好。C外灰N4/0、内灰N4/0	3/5欠損
571	須恵器	高杯	SX22周辺表採	①12.3 ②残存高4.6	無蓋の高杯の付部。口縁部は内湾して上方に伸び端部はまるい。低位部は回転ヘラ削り、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。白色砂粒を多量に含む。B良好。C外灰N4/0、内灰N5/0	脚剥落。
572	須恵器	蓋	SX22　N0.5	①11.4　②4.1	たちあがりは短く内傾し端部は丸い。底部は深く丸みを持つ。底部は1/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。1～3㎜の白色砂粒を多量に含む。B甘い。C外灰褐7.5YR5/2、内にぶい橙5YR6/3	1/9欠損
573	須恵器	高杯	SX22－1	②残存高9.0	高杯の脚部の破片。端部は丸い。端部付近まで回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A粗。白色砂粒を多量に含む。B甘く軟質。C外明黄褐10YR7/6、内明黄褐10YR7/6	杯身全体、脚部1/2欠損
574	須恵器	高杯	SX22－3	②残存高11.2	高杯の脚部中位の沈線をめぐらす。	A緻密。B良好。C外灰N4/0、内灰N4/0	1/2欠損
575	須恵器	壺	SX22　No1	①12.3 ②残存高5.0	口頸部は外湾し、端部は段をなす。内外面回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外明青灰5PB7/1、内灰白N7/0	3/5欠損
576	須恵器	杯蓋	SX22　No12	①13.0　②4.1	天井部は丸みを持ち、なだらかに口縁端部に下がる。全体に回転ナデ調整。	A緻密。1㎜の砂粒を少量含む。B良好。C外浅黄5Y7/3、内浅黄5Y7/3	
577	須恵器	杯蓋	SX22－3	①12.3　②3.9	天井部はなだらかに口縁端部に下がる。外面1/2に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A緻密。B良好。C外灰N6/0、内青灰5PB6/1	3/5欠損
578	須恵器	杯蓋	SX22－3	①12.3　②4.1	天井は比較的低い。外面1/2に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A粗。2～3㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外灰オリーブ7.5Y6/2、内灰10Y6/1	3/5欠損。ロクロ右回転。
579	須恵器	杯蓋	SX22－2区	①12.9　②3.7	天井は比較的高い。外面2/3に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。1～2㎜の白色砂粒を含む。B堅緻。C外灰10Y5/1、内灰10Y6/1	1/2弱欠損。ヘラ記号「×」あり。10点接合。

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
580	須恵器	杯蓋	SX22－3	①12.8　②4.0	口縁端部でわずかに外反する。外面1/2に回転ナデ調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。2㎜前後の白色砂粒を含む。B良好。C外灰N6/0、内灰N6/0	1/3弱欠損。5点接合。ロクロ右回転。
581	須恵器	杯蓋	SX22	①13.6　②4.1	天井は比較的低い。外面1/2に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A緻密。B甘く軟質。C外灰白7.5Y8/2、内灰白7.5Y8/1	14点接合。ヘラ記号「//」あり。
582	須恵器	杯蓋	SX22－3	①14.9　②5.2	天井は比較的高い。外面1/3に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A粗。2～3㎜の白色砂粒を含む。B甘く軟質。C外灰7.5Y6/1、内灰白7.5Y7/1	4/5欠損
583	須恵器	杯身	SX22　№7	①12.4　②4.4	たちあがりは短く内傾し、端部は丸い。底部は比較的深く丸い。底部外面2/3以上に回転ヘラ削り調整。	A粗。2㎜前後の白色砂粒を含む。B甘く軟質。C外淡黄5Y8/4、内黄5Y8/6	27点接合。ヘラ記号「＼」あり。
584	須恵器	杯身	SX22－3	①12.2　②4.2	たちあがりは短く内傾し、端部は丸い。底部は比較的深く丸い。底部外面2/3以上に回転ヘラ削り調整。	Aやや粗。2～3㎜の白色砂粒を多量に含む。B良好。C外青灰5PB6/1、内青灰5PB5/1	3/5欠損
585	須恵器	杯身	SX22　№11	①13.3　②3.6	たちあがりは短く内傾し、端部は丸い。底部は比較的浅く丸い。底部外面1/2以上に回転ヘラ削り調整。	A緻密。1～3㎜の白色砂粒を少量含む。B良好。C外オリーブ灰2.5Y5/1、内灰白7.5Y7/1	ゆがみあり
586	須恵器	杯身	SX22－3	①11.5　②3.7	たちあがりは短く内傾し、端部は丸い。底部は比較的深く丸い。底部外面1/2以上に回転ヘラ削り調整。	A粗。2～3㎜の白色砂粒を多く含む。B良好。C外灰10Y5/1、内灰10Y5/1	3/5欠損
587	須恵器	杯身	SX22－3	①11.2　②3.9	たちあがりは短く内傾し、端部は丸い。底部は比較的深く丸い。底部外面2/3以上に回転ヘラ削り調整。	A緻密。B良好。C外灰N6/0、内灰N6/0	1/5欠損。2点接合。
588	須恵器	杯身	SX22　№13	①11.4　②3.4	たちあがりは短く内傾し、端部は丸い。底部は比較的浅く丸い。底部外面2/3以上に回転ヘラ削り調整。	A緻密。1～5㎜の白色砂粒を少量含む。B良好。C外灰5Y6/1、内浅黄5Y7/3	
589	須恵器	杯身	SX22－3	①11.6　②3.8	たちあがりは短く内傾し、端部は丸い。底部は比較的深く丸い。底部外面1/2以上に回転ヘラ削り調整。	A緻密。B良好。C外灰10Y5/1、内褐灰7.5Y5/1	3/4欠損
590	須恵器	高杯	SX22　周辺表採	①12.1　②4.1	有蓋高杯。たちあがりは短く内傾し、端部は丸い。底部2/3に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。2㎜前後の白色砂粒を含む。B良好。C外青灰5P6/1、内灰白N7/0	脚部欠損
591	須恵器	高杯	SX22　周辺表採	残存高9.5	高杯の脚部。中位に沈線2条を認める。端部はわずかに内傾する。全体に回転ナデ調整。	A粗。白色砂粒を多く含む。B良好。C外暗灰N3/0、内暗灰N3/0	杯部欠損
592	須恵器	蓋	SX22－3	①5.4　②3.5	壺の蓋。天井は比較的高く中央に宝珠つまみ。内面にかえりあり。外面2/3に回転ヘラ削り調整。他回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外オリーブ灰2.5GY5/1、内灰N5/0	天井部外面に自然釉。
593	須恵器	蓋	SX22－1	①7.4　②2.2	天井は比較的浅く、なだらかに口縁部に下がり、端部は丸い。外面2/3に回転ヘラ削り調整。他回転ナデ調整。	Aやや粗。1～2㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外灰白5Y7/1、内灰白N7/0	
594	須恵器	高杯	SX22　№2	①11.7　②3.0	有蓋高杯の蓋。たちあがり部分を欠損。	Aやや粗。B甘く軟質。C外にぶい橙7.5YR6/4、内灰黄褐10YR5/2	脚部欠損
595	須恵器	壺	SX22－3	①7.0　④16.6	壺の体部。外面中位にカキ目調整あり。外面下位に回転ヘラ削り調整。他回転ナデ調整。	A緻密。B良好。C外灰10Y5/1、内灰白7.5Y7/1	破片
596	須恵器	鉢	SX22－3	①24.5	口縁部は内彎して上方にのびた後、さらに外方に大きく曲げる。体部中位以下に回転カキ目、他は回転ナデ調整。	A緻密。B良好。C外オリーブ灰2.5GY6/1、内オリーブ灰2.5GY6/1	4/5欠損

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
597	須恵器	壺	SX22　周辺表採	①13.3	外面下位に平行叩き。	Aやや粗。白色砂粒を含む。B良好。C外青灰5PB6/1、内灰N5/0	4/5欠損
598	須恵器	鉢	SX22　周辺表採	①32.4　②5.8	大きく外反する口縁部を持つ。体部上位以下を欠損。	Aやや粗。B甘く軟質。C外にぶい橙7.5YR7/4、内浅黄橙10YR8/4	4/5欠損。2点接合。
599	須恵器	杯蓋	SX24　下層黄色土	①(12.6) ②2.1	外面3/4回転ヘラ切り、他は回転ナデ調整。	A密。黒色粒子を多く含む。B良好。C外明青灰色5PB7/1～青灰色5PB6/1、内明青灰色5PB7/1	内外面に重ね焼き痕あり。
600	須恵器	杯蓋	SX24　下層黄色土	①(12.6) ②2.1	外面3/4回転ヘラ切り、他は回転ナデ調整。	A密。黒色粒子を多く含む。B良好。C外明青灰色5PB7/1～青灰色5PB6/1、内明青灰色5PB7/1	内外面に重ね焼き痕あり。
600	須恵器	杯蓋	SX24　黒色土	①14.6　②2.0 つまみ径2.4 つまみ高0.45	外面1/2回転ヘラ削り調整、内面は磨滅して調整不明、つまみ貼付。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂をやや多く含む。B不良。C外にぶい黄橙色10YR7/4、内にぶい黄色2.5Y6/4	
601	須恵器	杯身	SX24　黒色土	①(13.4) ②3.9 高台径8.6	底部外面回転ヘラ切り後ナデ調整、内面不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A精良。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好。C外灰色10Y6/1～5Y6/1、内灰色7.5Y6/1～灰オリーブ色5Y6/2	
602	須恵器	杯蓋	SX24　黒色土	①12.6 ②2.65 つまみ径0.95	外面回転ヘラ切り後ナデ調整、内面回転ナデ後不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂を若干含む。B良好。C明青灰色5B7/1～灰白色N7/、暗オリーブ灰色5GY4/1	内面重ね焼き痕あり
603	須恵器	杯蓋	SX24　黒色土	①14.9 ②2.15 つまみ径2.05 つまみ高0.7	外面1/2回転ヘラ切り後回転ナデ調整、他は回転ナデ調整。	A精良。径3.0㎜以下の白色砂礫を少量含む。Bやや不良。C外灰白色5Y7/2～灰オリーブ色5Y6/2、内灰白色5Y7/2	外面重ね焼き痕あり
604	須恵器	杯身	SX24　黒色土	①(12.5) ②3.55 ③7.9	底部内面不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A精良。径1.0㎜以下の白色粗砂を若干含む。B良好。C外灰オリーブ色5Y6/2～灰色5Y5/1、内灰色N6/～5Y6/1	
605	須恵器	杯蓋	SX24　黒色土	①14.4　②1.6 つまみ径2.5 つまみ高0.7	外面2/3回転ヘラ削り調整、内面回転ナデ後不定方向のナデ調整。	A精良。径3.0㎜以下の白色砂礫を少量含む。B良好。C外灰色5Y5/1～灰白色5Y7/2、内灰色5Y5/1	
606	須恵器	杯蓋	SX24　黒色土	①(16.7) ②2.35 つまみ径2.3 つまみ高0.7	外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A精良。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。Bやや不良。C外浅黄色2.5Y8/3～5Y8/3、内灰白色5Y7/2	
607	須恵器	杯身	SX24　黒色土	①(14.0) ②3.7 ③(9.0)	内外面磨滅して調整不明。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B不良。C外灰白色5Y8/1～黄灰色2.5Y5/1、内浅黄色2.5Y8/3～灰黄色2.5Y6/2	
608	須恵器	杯身	SX24　黒色土	①11.7　②3.7 受部径13.6	外面2/3回転ヘラ削り調整、内面一部不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B不良。C外灰黄色2.5Y7/2～灰赤色2.5YR4/2、内にぶい黄橙色10YR7/3～にぶい橙色5YR6/3	口縁部に使用痕。底部外面にヘラ記号？あり。
609	須恵器	高杯蓋	SX24　黒色土	①(14.8)	外面1/2回転ヘラ削り調整、内面2/3回転ナデ後不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A精良。径2.0㎜以下の白色粗砂を若干含む。B不良。C外にぶい黄橙色10YR7/4、内にぶい黄色2.5Y6/4	
610	土師器	甑	SX24　下層黄色土		把手部ナデ整形。内面ヘラ削り調整。	Aやや粗。径2.0㎜以下の白色粗砂を多く含む。B良好。C外明黄褐色10YR7/6～6/8、内明黄褐色10YR6/8	
611	土師器	甑	SX24　下層黄色土		把手部ナデ整形。内面ヘラ削り調整。	A精良。径2.0㎜以下の白色粗砂を多く含む。他に雲母を若干含む。B良好。C外浅黄橙色10YR8/4～黒褐色10YR3/1、内橙色5YR6/6	
612	須恵器	杯蓋	SX24　下層黄色土	①(12.6) ②4.5	外面2/3回転ヘラ切り、内面一部1/2調整不明、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。径2.0㎜以下の白色粗砂や黒色粒子を少量含む。Bやや不良。C外灰白色7.5Y7/1～灰色N7/、内灰色N7/	天井部外面にヘラ記号あり。

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径 ②器高③底径 ④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
613	土師器	甕	ＳＸ24　下層黄色土	①(28.2)	胴部外面タテハケ、内面ヘラ削り調整、口縁部ヨコナデ調整。	A粗。径2.0㎜以下の白色粗砂を多く含む。B良好。C外橙色5YR7/8～黒褐色10YR3/1、内橙色7.5YR7/6	
614	土師器	甕	ＳＸ24　下層黄色土、 〃　黒色土		外面ハケメ、内面ヘラ削り調整。	A粗。径4.0㎜以下の白色粗砂をやや多く含む。B良好。C外橙色5YR7/6～黒褐色7.5YR2/1、内橙色5YR6/8	
615	土師器	甕	ＳＸ24　下層黄色土	①16.8 ②(34.5) ④24.3	体部外面下半不定方向のハケメ、上半タテハケ、内面ヘラ削り調整、口縁部ヨコナデ調整。	A粗。径8.0㎜以下の白色砂礫を多く含む。B良好。C外浅黄橙色10YR8/3～橙色5YR7/6、内橙色5YR7/6	
616	須恵器	杯蓋	ＳＸ26	①13.7　②3.9	天井は比較的高く、なだらかに口縁部に下がり、端部は丸い。外面1/2に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外青灰5BG6/1、内明青灰5BG7/1	3/4欠損
617	須恵器	杯蓋	ＳＸ26	①14.2　②4.1	天井は比較的低く、なだらかに口縁部に下がり、端部は丸い。外面1/3に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。2～3㎜の白色砂粒を含む。B甘く軟質。C外灰白2.5Y7/1、内灰白2.5Y8/1	2/3欠損
618	須恵器	杯身	ＳＸ26	①13.6　②2.5	比較的浅く、たちあがりは短く直線的。全体に回転ナデ調整。	A緻密。B良好。C外灰N6/0、内灰N6/0	
619	須恵器	杯身	ＳＸ26　№1	①12.6　②4.0	比較的浅く、たちあがりは短く内傾する。底部1/2に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外青灰5PB6/1、内青灰5PB6/1	3/5欠損。ヘラ記号「/」あり。
620	須恵器	杯身	ＳＸ26　№2	①10.4　②3.8	比較的深く、たちあがりは短くやや内傾する。端部は丸い。底部2/3に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A粗。2～3㎜の白色砂粒を含む。B堅緻。C外灰10Y4/1、内10Y4/1	ひずみあり
621	須恵器	杯身	ＳＸ26斜面下方	①12.0　②3.8	比較的浅く、たちあがりは短く内傾する。底部2/3に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A緻密。1～5㎜の砂粒をごく少量含む。B良好。C外灰N6/0、内灰白N7/0	ひずみあり
622	須恵器	杯蓋	ＳＸ26	①12.7　②1.3	天井は比較的低く、端部に向かってなだらかに下がる。外面1/2に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰褐7.5YR6/2、内灰褐7.5YR5/2	
623	須恵器	杯蓋	ＳＸ26	②1.5 つまみ径2.0 つまみ高0.6	端部は欠損。宝珠つまみを貼付。外面は回転ヘラ削り調整、内面は回転ナデ調整。	A緻密。B良好。C外灰白N7/0、内灰白N7/0	
624	須恵器	杯蓋	ＳＸ26	①14.9　②1.5	天井は比較的低く、端部に向かってなだらかに下がる。	Aやや粗。B良好。C外灰白N7/0、内灰N5/0	5/6欠損
625	須恵器	杯蓋	ＳＸ26	①15.8　②1.5	天井は比較的低く、端部に向かってなだらかに下がる。外面2/3に回転ヘラ削り調整、他、回転ナデ調整。	A緻密。B良好。C外灰白N7/0、内灰N6/0	5/6欠損
626	須恵器	杯蓋	ＳＸ26	①12.1　②1.6	天井は比較的低く、端部はやや内傾する。つまみはない。外面1/2に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外褐色10YR6/1、内にぶい褐7.5YR5/3	3/4欠損
627	須恵器	杯皿	ＳＸ26	①17.3　②1.9	底部は比較的浅く平ら。口縁部は短く上外方に伸び、端部は丸い。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B甘く軟質。C外灰白5Y8/2、内灰白5Y8/2	細片
628	須恵器	甕	ＳＸ26　斜面下方	②5.6	甕<壺>体部の破片。外面には平行叩き、内面には円弧叩き。	Aやや粗。2～3㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外青灰5PB6/1、内紫灰5P6/1	体部片
629	須恵器	高杯	ＳＸ26	②12.1　④5.1	細く長い高杯の脚。基部から外彎して下がる。端部を欠損内外面回転ナデ調整。	Aやや粗。ザラっとした感あり。B甘く軟質。C外灰白5Y7/2、内灰白5Y7/1	高杯の脚部

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
630	須恵器	高杯	ＳＸ26	②10.6 ④11.4	細く長い高杯の脚。基部から円柱状に下がり、端部で大きく開く。内、外面回転ナデ調整。	Ａやや粗。Ｂやや甘い。Ｃ外灰白7.5Ｙ7/1、内灰白7.5Ｙ7/1	高杯の脚部。1/3欠損。
631	須恵器	甕	ＳＸ26斜面表土剥ぎ中	②13.6	甕<壺>体部の破片。外面には平行叩き、内面には円弧叩き。	Ａやや粗。Ｂ一部甘い。Ｃ外灰Ｎ6/0、内青灰5Ｐ Ｂ6/1	体部破片
632	須恵器	甕	ＳＸ26斜面表土剥ぎ中	②11.9	甕<壺>体部の破片。外面には平行叩き、内面には円弧叩き。	Ａやや粗。2㎜前後の白色砂粒を含む。Ｂ良好。Ｃ外青灰5Ｐ Ｂ5/1、内青灰5Ｐ Ｂ5/1	体部破片
633	須恵器	杯蓋	ＳＸ29－２	①9.7　②2.1	天井は高く平。内側にかえりあり。外面1/2に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Ａやや粗。1～2㎜の白色砂粒を含む。Ｂ良好。Ｃ外青灰5Ｐ Ｂ6/1、内灰Ｎ5/0	1/3欠損。2点接合。ヘラ記号「////」あり。
634	須恵器	杯身	ＳＸ29－２	①9.1　②3.2	かえりを伴う蓋の杯身。底部は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Ａ粗。1～5㎜の白色砂粒を含む。Ｂ良好。Ｃ外青灰5Ｐ Ｂ6/1、内青灰5Ｂ Ｇ5/1	5点接合
635	須恵器	甕	ＳＸ26斜面下方表土剥ぎ中	①17.3　②8.2	口頸部は基部太く、外反し端部付近で段をなす。体部外面には平行叩き、内面には円弧叩き。	Ａやや粗。3㎜前後の白色砂粒を含む。Ｂ良好。Ｃ外青灰5Ｐ Ｂ6/1、内明青灰5Ｐ Ｂ7/1	2/3欠損。4点接合。ヘラ記号「/」あり。
636	須恵器	高杯蓋	ＳＸ36床面直上	①14.3　②5.2	天井は高く丸みを持ち口縁部に下がる。中央の低いつまみを貼付。外面1/2に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Ｃ外灰Ｎ6/0、内青灰5Ｐ Ｂ6/1	口縁部一部欠損。3点接合。
637	須恵器	杯（柱状重ね焼き）	2～5号窯　灰原下－2区黄色土	－－	杯Ｂの重ね焼き。	（全個体とも同じような胎土・焼成・色調） Ａ密。径3.0㎜以下の白色砂礫を少量含む。Ｂ良好Ｃ灰色N5/～N4/	重ねた個数は少なくとも17個
638	須恵器	壺類	2～5号窯　灰原下－2区黒色土層	幅1.5 厚さ0.75～1.3	ヘラで形を整える。	Ａ精良。砂粒をほとんど含まない。Ｂ良好Ｃ褐灰色10ＹＲ5/1 ～4/1	
639	須恵器	瓦塔	2～5号窯　灰原下－3区黒色土	－－	全面磨滅して調整不明。	Ａ密。径2.0㎜以下の白色・灰色粗砂を少量含む。Ｂ不良Ｃ灰白色10ＹＲ7/1	屋蓋部の一部
640	須恵器	硯？	2～5号窯跡　灰原下－3区下の下黒色土	長さ6.5＋α 厚さ1.2	全体手づくね成形。底面ヘラ削り後ナデ調整。	Ａやや粗。白色砂粒を多く含む。Ｂ良好Ｃ灰白色N7/	橋田賢次郎分類のＡ類単面硯？
641	須恵器	壺	2～5号窯灰原下2区黒色土	①6.7　②4.0	基部比較的細い壺。内外面、回転ナデ調整。	Ａ密。Ｂ良好。Ｃ外灰7.5Ｙ5/1、内灰7.5Ｙ6/1	2/3欠損
642	須恵器	壺	2～5号窯灰原下2区黒色土	①8.1　②4.3	基部比較的細い壺。外面中位に沈線1条。内外面、回転ナデ調整。	Ａ密。Ｂやや甘い。Ｃ外灰白5Ｙ8/1、内灰5Ｙ6/1	
643	須恵器	杯蓋	1号窯跡　床面直上	①12.6　②1.5 つまみ径1.9 つまみ高0.6	外面3/5回転ヘラ切り、他は回転ナデ調整。	Ａ精良径2.0㎜以下の白色粗砂を若干含むＢ良好Ｃ外青灰色10ＢＧ5/1、内青灰色10ＢＧ6/1	外面に重ね焼き痕あり
644	須恵器	杯蓋	1号窯跡　窯跡体内埋土	①(21.0) ②2.4 つまみ径2.2 つまみ高0.8	外面回転ヘラ切り後ナデ調整、内面は磨滅して調整不明、他は回転ナデ調整。	Ａ密。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。Ｂ不良Ｃ内外面灰白色10ＹＲ7/1～浅黄橙色10ＹＲ8/4	内外面に重ね焼き痕あり
645	須恵器	杯蓋	1号窯跡　窯跡体内埋土	①(13.0)	外面1/2回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	Ａ密。径3.0㎜以下の白色砂礫、黒色粒子、褐色土粒を少量含むＢやや不良Ｃ緑灰色10ＧＹ6/1～明オリーブ灰色2.5ＧＹ7/1	
646	須恵器	短頸壺	1号窯跡　1区黄色土	①7.1　②7.85 ③.6　④12.8	外面上半1/2カキメ調整、下半1/3回転ヘラ削り調整、内面回転ナデ調整。	Ａ密。径3.0㎜以下の白色砂礫を少量含む。Ｂやや不良Ｃ明緑灰色7.5ＧＹ7/1～灰黄褐色10ＹＲ5/2～暗緑灰色7.5ＧＹ3/1	底部外面にヘラ記号あり。短頸壺の頸部を打ち欠く

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
647	須恵器	杯蓋	8・9号窯跡　B-2区焚口部埋土	①(10.0) かえり径(7.7)	内外面回転ナデ調整。	A密。径3.0㎜以下の白色砂礫を少量含む。B不良C外褐灰色10YR4/1、内にぶい黄橙色10YR7/2	
648	須恵器	杯身	8・9号窯跡　B-1・2間ベルト17層	①(9.0)	全面磨滅して調整不明。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B不良C明黄褐色10YR6/6	
649	須恵器	杯蓋	8・9号窯跡　B-2区赤褐色土 (8号窯跡焚口埋土)	つまみ径1.9 つまみ高0.8	外面回転ヘラ削り調整、内面不定方向のナデ調整。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B良好C外灰色N4/～灰白色10YR7/1、内灰色N5/	
650	須恵器	杯蓋	8・9号窯跡　B-1・2間ベルト37層	①(10.8) かえり径(8.4)	内外面回転ナデ調整。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B不良C外灰白色5Y7/2、内にぶい黄橙色10YR7/2	
651	須恵器	杯身	8・9号窯跡　B-1・2間ベルト37層	①(10.0)	全面磨滅して調整不明。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B不良C外にぶい黄橙色10YR6/3、内浅黄橙色10YR8/4	
652	須恵器	杯蓋	8・9号窯跡　B-1窯体内埋土上層 (8号窯跡焚口部)	①13.3　②1.6 つまみ径1.95 つまみ高0.5	外面1/2回転ヘラ切り後ナデ、内面1/2回転ナデ調整後一部不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径1.0㎜以下の白色粗砂を若干含む。B良好C灰白色N7/	
653	須恵器	蓋類つまみ	8・9号窯跡　B-1窯体内埋土上層	つまみ径1.4 つまみ高0.75	外面はつまみ貼付時の回転ナデ調整、内はナデ調整。	A精良。砂粒はほとんど含まない。B良好C灰色N6/	壺類の蓋？
654	須恵器	杯身	8・9号窯跡　B-2・C-2間ベルト17層	①(10.2) ②3.7	全面磨滅して調整不明。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B不良C外明黄褐色10YR6/6、内にぶい黄橙色10YR7/4	底部外面にヘラ記号あり。
655	須恵器	杯身	8号窯跡　窯体内焚口右側壁面	①(10.4)	内外面磨滅調整不明。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B不良Cにぶい黄橙色10YR7/4	底部外面に焼成前穿孔あり。
656	須恵器	杯身	8号窯跡　窯尻右窯跡壁下59層、 〃　〃　〃　56層、 〃　〃　焼成部56層	①13.0　②3.5	底部外面ナデ、底部内面回転ナデ後不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂をやや多く含む。B不良C(重ね焼きの焼きムラ)にぶい赤褐色5YR5/4、褐灰色5YR4/1	底部外面にヘラ記号あり。
657	須恵器	杯蓋	8・9号窯跡　B-1・2間ベルト17層	①(12.0) かえり径(10.3)	外面2/3不定方向のナデ調整、他は回転ナデ調整。	A密。径3.0㎜以下の白色砂礫を少量含む。B良好C灰色N6/～明オリーブ灰色5GY7/1、暗緑灰色5G3/1～緑灰色5G6/1	天井部外面にヘラ記号あり。
658	須恵器	杯蓋	8・9号窯跡　B-2・C-2間ベルト17層最下層	①(11.4) ②1.75 かえり径(9.1)	内外面調整不明。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B不良C明黄褐色10YR7/6～灰白色10YR8/2	
659	須恵器	杯蓋	8・9号窯跡　B-1窯体内埋土上層	①(12.2) かえり径(9.2)	外面一部回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ調整。	A密。径2.0㎜以下の白色粗砂を少量含む。B不良C灰白色10YR7/1～褐灰色10YR6/1	
660	須恵器	甕	SX03下－2	①23.9　②3.1	甕の口縁部の破片。	Aやや粗。B甘く軟質。C外にぶい黄橙10YR7/4、内にぶい黄橙10YR7/4	細片
661	須恵器	高杯	SX03下－2	①6.2　②8.3	高杯長脚の破片。外面中位に沈線2条を巡らす。回転ナデ調整。	A緻密。B甘く軟質。C外明黄褐10YR7/6、内明黄褐10YR7/6	3点接合
662	土師器	甕	SX03下－2	②11.0	体部外面不定方向のハケメ、上半タテハケ、内面ナデ調整。	A粗。B甘く軟質。C外褐灰10YR4/1、内にぶい黄褐10YR7/4	細片
663	須恵器	杯蓋	SX05　No1	①12.2　②3.5	つまみなし。天井はやや高く、天井端部は丸い。外面1/2には回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや密。B良好。C外灰白N6/0、内灰白10Y7/1	5点接合

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
664	須恵器	杯蓋	SX05－2	①13.3　②4.1	つまみなし。天井は比較的高くほぼ平ら。端部は丸い外面1/2に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B甘く軟質。C外灰白5Y8/1、内灰白5Y8/2	3/5欠損。2点接合。
665	須恵器	壺	SX08	①10.0　②6.2	壺の口縁部の破片。外面中位にヘラ描き斜線文。	Aやや粗。B良好。C外灰N6/0、内明オリーブ灰2.5GY7/1	
666	須恵器	高杯	SX05－2	②6.2　③9.0	高杯の脚部。端部は内面に曲げられる。全面に回転ナデ調整。	A粗。2～4㎜の白色砂粒を多く含む。B良好。C外灰N6/0、内灰10Y6/1	2/5欠損
667	須恵器	杯身	SX08	①12.4　②3.3	たちあがりは短く端部は丸い。底部1/2に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰N6/0、内灰白N7/0	4/5欠損
668	須恵器	甕	SX08	①15.8　②5.4	口頸部は基部太く外反して上方に伸び、端部で肥厚させる。内外面回転ナデ調整。	Aやや粗。B甘く軟質。C外灰白7.5Y7/2、内明オリーブ灰5GY7/1	2/3欠損
669	須恵器	高杯	SX09　埋土中	②9.8	高杯の脚部。上位から中位にかけてカキ目調整。中位に沈線2条を認める。下位にしぼり痕あり。他回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外暗青灰5PB4/1、内青灰5PB5/1	1/3欠損
670	須恵器	甕	SX08	①14.0　②4.1	全面に回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰N4/0、内灰N5/0	4/5欠損
671	須恵器	杯蓋	SX08	①15.6　②3.0	天井は比較的低く、天井端部でZ字状に曲げられる。外面1/2に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや密。B良好。C外明オリーブ灰2.5GY7/1、内灰N7/0	1/2欠損。2点接合。
672	須恵器	杯蓋	SX09－2　埋土中	①13.6　②4.4	天井は比較的高く端部に向けなだらかに下がる。端部は丸い。外面1/2に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや密。B良好。C外明青灰5PB7/1、内青灰5PB6/1	1/2欠損
673	須恵器	杯身	SX09　ベルト4層	①10.8　②3.1	底部は比較的浅く、たちあがりは短く内傾する。底部外面1/2に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A粗。1～5㎜の白色砂粒を少量含む。B良好。C外青灰5B6/1、内青灰5B6/1	4/5欠損。ヘラ記号「///」あり。
674	須恵器	高杯	SX19－2　褐色土	①12.3　②4.8	高杯の脚部。端部は外側に曲げられる。全面に回転ナデ調整。	A緻密。B良好。C外にぶい橙7.5YR7/4、内にぶい赤褐5YR5/3	高杯底部
675	須恵器	高杯	SX19　カマド	②7.7	高杯の脚部。全面に回転ナデ調整。	Aやや粗。白色砂粒を含む。B甘い。C外浅黄橙10YR8/4、内黄橙10YR8/6	高杯脚部
676	須恵器	杯蓋	SX20	①14.2　②2.8	天井は比較的低くなだらかに口縁部に下がり、端部は丸い。外面2/3に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A緻密。B良好。C外青灰5B5/1、内灰N6/0	9/10欠損。ヘラ記号「∧」あり。2点接合。
677	須恵器	杯蓋	SX22　No4	①12.5　②3.6	底部は比較的深く、たちあがりはわずかに内傾する。底部1/2に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。2～3㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外灰白N7/0、内灰7.5Y6/1	ひずみあり。完形。
678	須恵器	杯蓋	SX20	①15.2　②2.0	端部は丸く仕上げられている。全体に回転ナデ調整。	Aやや粗。2㎜前後の白色砂粒を含む。B良好。C外黄灰2.5Y5/1、内灰褐7.5Y5/2	
679	須恵器	杯蓋	SX20ベルト中	①14.2　②2.2	天井は比較的低く、扁平で中央の高いつまみを貼付。外面1/2に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。5㎜の白色砂粒を含む。B甘く軟質。C外灰白5Y7/1、内灰白5Y7/1	2点接合。ひずみ・亀裂あり。
680	須恵器	杯蓋	SX20ベルト中	①14.0　②0.3	天井は比較的低く、扁平で中央の高いつまみを貼付。外面1/2に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B甘く軟質。C外灰オリーブ5Y6/2、内灰白5Y7/1	1/3欠損

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
681	須恵器	丸瓦	ＳＸ23上方表採	残存長9.2	丸瓦の破片。外面には平行叩き、内面ナデ調整。	A緻密。B良好。C外灰7.5Y6/1、内暗灰黄2.5Y5/2	
682	須恵器	杯蓋	2区ＳＸ23上方表採	①15.7	天井は比較的低く、端部付近で曲げられている。外面3/4に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰N6/0、内灰N6/0	9/10欠損
683	須恵器	杯蓋	ＳＸ25	①14.1　②3.2 つまみ径1.6 つまみ高1.5	天井は比較的高く、口縁部に向かいなだらかに下がる。外面1/2に回転ヘラ削り調整。他回転ナデ調整。	A緻密。B良好。C外灰白N7/0、内灰白N7/0	2/3欠損。内面に重ね焼痕あり。
684	須恵器	杯蓋	ＳＸ25　ベルト中	①13.6　②2.8	天井は比較的高く、端部は丸い。つまみなし。外面2/3に回転ヘラ削り調整、内面2/3ナデ調整、他回転ナデ調整。	A緻密。B良好。C外灰白N7/0、内灰白N7/0	2/3欠損
685	須恵器	杯蓋	ＳＸ25　ベルト中	①10.3　②2.2 つまみ径1.6 つまみ高0.5	天井は比較的高い。中央の高いつまみを貼付。外面1/2に回転ヘラ削り調整、内面一部ナデ調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。1㎜の白色砂粒を含む。B良好。C外灰白N7/0、内面灰白N7/0	1/9欠損。内面中央に重ね焼痕あり。
686	須恵器	杯身	ＳＸ25　ベルト中	①12.5　②4.1	比較的浅く底部は平ら。高台は内端で接地。底部外面は回転ヘラ削り調整、底部内面はナデ調整、他回転ナデ調整。	A緻密。B甘い。C外灰白7.5Y7/1、内明青灰5PB7/1	1/5欠損
687	須恵器	杯蓋	ＳＸ26	①12.9　②3.1 つまみ径1.8 つまみ高0.8	天井は比較的高く、中央が平らで高いつまみを貼付する。外面1/2は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A緻密。B良好。C外青灰5PB6/1、内灰N6/0	2/3欠損
688	須恵器	杯蓋	7号窯跡前庭部左側－1	①15.9　②1.7	天井はやや低く端部は丸い。扁平で中央の高いつまみを貼付する。外面2/3に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰白5Y7/1、内灰白5Y8/1	2/3欠損
689	須恵器	杯蓋	7号窯跡前庭部左側－1	①15.5　②2.2	天井はやや低く端部は丸い。扁平で中央の高いつまみを貼付する。外面2/3に回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B堅緻良好。C外灰N6/0、内灰N6/0	1/2欠損
690	須恵器	杯身	7号窯跡前庭部左側－1	①8.8　②4.2	底部は比較的浅く平らである。高台は内端部で接地する。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰白5Y7/1、内灰7.5Y6/1	1/3欠損
691	須恵器	杯身	7号窯跡前庭部右	①14.2　②4.6	底部は比較的浅く平らである。高台は内端部で接地する。底部外面は回転ヘラ削り調整、他回転ナデ調整。	A密。B良好。C外灰5Y5/1、内灰N6/0	1/2欠損
692	須恵器	杯	7号窯跡前庭部左側－1	①7.7・②3.2	底部はやや浅く平らである。体部外面に回転ヘラ削り調整、底部内面にナデ調整、他回転ナデ調整。	A密。B良好。C外青5B5/1、内青灰5B6/1	2点接合
693	須恵器	杯蓋	灰原採集	－－	蓋2個の重ね焼。	Aやや粗。B良好。C外灰N6/0、内青灰5PB5/1	蓋に杯の口縁部痕跡。
694	須恵器	杯蓋	灰原D区黒色灰層	－－	蓋2個の重ね焼。	Aやや粗。B良好。C外青灰5PB6/1、内青灰5PB5/1	蓋に杯の口縁部痕跡。
695	須恵器	杯身	灰原D区上層灰層	－－	蓋・杯Aの重ね焼。	Aやや粗。B良好。C外灰N6/0、内青灰5PB6/1	杯内面に蓋の痕跡
696	須恵器	杯身・蓋	A・B間縦断セクション黒灰層	－－	杯A・蓋・杯Aの重ね焼。	Aやや粗。B良好。C外明青灰5PB7/1、内明紫灰5P7/1	杯内面に蓋の痕跡
697	須恵器	杯身	灰原D区上層灰層	－－	杯A5個の重ね焼。	Aやや粗。B良好。C外青灰5PB6/1、内明紫灰5P7/1	

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径 ②器高③底径 ④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
698	須恵器	杯	灰原D区黒色灰層	－－	杯B３個の重ね焼。	Aやや粗。B良好。C外明青灰5PB7/1、内青灰5PB6/1	
699	須恵器	杯	灰原Ⅰ区灰層	－－	杯B２個の重ね焼。	Aやや粗。B良好。C外青灰5PB6/1、内青灰5PB6/1	
700	須恵器	杯	灰原F区黒色灰層	－－	杯B６個の重ね焼。	Aやや粗。B良好。C外・内青灰5PB5/1	
701	須恵器	杯	灰原灰層	－－	杯Bの３個の重ね焼。	Aやや粗。B良好。C外・内青灰5PB5/1	
702	須恵器	皿	灰原D区上層灰層	－－	皿４枚の重ね焼。	Aやや粗。B良好。C外明青灰5PB7/1、内青灰5PB6/1	
703	土師器	甕	SX20　ベルト中５層遺物集中点	①17.7　②8.9	口頸部は短く外反し、端部は丸い。外面刷毛目調整。	A粗。B甘い。C外橙7.5YR7/6、内橙7.5YR7/6	
704	須恵器	短頸壺	SX35　№7	①13.3 ②21.1 ④26.8	外面下半格子目タタキ後カキメ、内面同心円文当て具痕、他は回転ナデ。	Aやや粗。径2.0㎜以下の白色粗砂や黒色粒子をやや多く含む。B良好C外灰白色N7/～明青灰色5PB7/1、灰色N4/、胴部内面青灰色5PB5/1、頸部内面灰白色N7/～暗灰色N3/	頸部外面にヘラ記号あり。
705	須恵器	高杯	８・９号窯D－２最下層SX35埋土	①7.8　②8.6	鉢部口縁部は内彎して上方に伸び、端部は丸い。外面中位に沈線２条、底部に回転ヘラ削り、他は回転ナデ調整。	Aやや粗。B良好。C外灰N6/0、内灰N6/0	1/2欠損。
縄文土器							
706	撚糸文土器	深鉢	３・４区谷部　青灰色砂質土最下層 〃　〃　青灰色砂質土下層 〃　〃　青灰色土最下層 ２～５号窯下谷部　青灰色最下層２区	①28.0 ②20.0＋α 器厚0.9～1.1	外：口縁部～頸部ナデ、胴部撚糸文（横・斜） 内：無文、ナデ、指頭圧痕あり	A粗。径6.0㎜以下の石英が多く、白色砂粒・雲母・長石を少量含む。B良好だが脆い。C黄橙色10YR8/6～明褐色7.5YR5/6	口縁部外面に煤付着
707	撚糸文土器	深鉢	２～５号窯下谷部　青灰色最下層、 ３・４区谷奥部	②6.8＋α 器厚1.0～1.4	外：撚糸文(横) 内：無文、ナデ	A粗。径3.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石・長石を含む。B良好だが脆い。C外灰褐色7.5YR4/2、内褐灰色7.5YR5/1	２～５は同一個体
708	撚糸文土器	深鉢	２～５号窯下谷部　青灰色最下層、 ３・４区谷部　青灰色砂質土	②12.6＋α 器厚1.15～1.5	外：上半に撚糸文(横)、下半にタテナデ 内：無文、上半にヨコナデ、下半にタテナデ	A粗。径3.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石・長石を含む。B良好だが脆い。C外にぶい黄橙色10YR6/3～7/4、内褐灰色10YR5/1～にぶい黄橙色10YR6/3	２～５は同一個体。煤付着 下部二次被熱
709	撚糸文土器	深鉢	２～５号窯下谷部　青灰色最下層	②8.5＋α 器厚1.3～1.45	外：上端に撚糸文(横)、下半にタテナデ 内：無文、タテナデ	A粗。径4.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石・長石を含む。B良好だが脆い。C明黄褐色10YR6/6～灰黄褐色10YR5/2、内にぶい黄橙色10YR7/4～6/3	２～５は同一個体 下半二次被熱
710	撚糸文土器	深鉢	２～５号窯下谷部　青灰色最下層、 ３・４区谷奥部　青灰色砂質土	②8.9＋α 器厚1.35～1.55	外：上端に撚糸文(横)、下半にタテナデ 内：無文、タテナデ	A粗。径4.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石・長石を含む。B良好だが脆い。C灰黄褐色10YR6/2～5/2	２～５は同一個体 下半二次被熱
711	無文土器	深鉢	SX31	②7.9＋α 器厚0.4～1.35	外：無文、ナデ 内：無文、ナデ	A粗。径3.0㎜以下の石英、白色砂粒・雲母を含む。B良好だが脆い。C褐色7.5YR4/4	
712	条痕文土器	深鉢	３・４区谷部　青灰色砂質土最下層	②6.4＋α 器厚0.65～0.8	外：条痕文(斜) 内：条痕文(横)	A粗。径4.0㎜以下の石英、白色砂粒・金雲母・長石を含む。B良好だが脆い。C外にぶい黄橙色10YR6/4、内にぶい黄褐色10YR5/4	
713	押型文土器	深鉢	３・４区谷部　青灰色砂質土最下層	②5.0＋α 器厚0.5～0.8	外：山形文(横) 内：原体条痕、山形文(横)	A粗。径5.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石・長石を少量含む。B良好だが脆い。C明黄褐色10YR7/6～にぶい黄褐色10YR5/3	
714	押型文土器	深鉢	３・４区谷部　青灰色砂質土最下層	②3.8＋α 器厚0.8～1.4	外：楕円文(横) 内：原体条痕、楕円文(横) 口唇部：刻み	A粗。径3.0㎜以下の石英、白色砂粒・長石・角閃石を含む。B良好だが脆い。C外にぶい橙色7.5YR7/4～灰褐色7.5YR4/2、内にぶい橙色7.5YR7/4～にぶい褐色7.5YR5/3	

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
715	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	②4.4＋α 器厚0.9～1.3	外：楕円文(横) 内：原体条痕、楕円文 口唇部：刻み	A粗。径6.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石・長石を含む。B良好だが脆い。C外浅黄橙色10YR8/3～にぶい黄橙色10YR7/2、内にぶい黄褐色10YR5/3～黒褐色10YR3/1	
716	押型文土器	深鉢	SX31	②3.2＋α 器厚0.95～1.1	外：楕円文(横) 内：原体条痕、山形文(横) 口唇部：刻み	A粗。径4.0㎜以下の石英、白色砂粒・長石・角閃石を含む。B良好だが脆い。Cにぶい黄橙色10YR6/4～明黄褐色10YR7/6	
717	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	②4.6＋α 器厚0.5～0.65	外：楕円文(横) 内：無文、ナデ	A粗。径5.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石・長石を含む。B良好だが脆い。C外橙色7.5YR7/6～にぶい褐色7.5YR5/4、内明黄褐色10YR7/6	
718	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	②2.7＋α 器厚0.5～0.55	外：山形文(横) 内：無文、ナデ	A粗。径3.0㎜以下の石英、白色砂粒・長石・角閃石を含む。B良好だが脆い。C外明褐色7.5YR5/6、内浅黄橙色10YR8/3	
719	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	②2.9＋α 器厚0.55～0.6	外：上部に楕円文(横)、下部に山形文(横) 内：無文、ナデ	A粗。径4.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石・長石を含む。B良好だが脆い。C外浅黄橙色10YR8/3、内明黄褐色10YR6/6	16と同一個体か
720	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層、 3・4区谷部　青灰色土最下層	②2.3＋α 器厚0.6～0.7	外：上部に楕円文(横)、下部に山形文(横) 内：無文、ナデ	A粗。径5.0㎜以下の石英、白色砂粒・長石・角閃石を含む。B良好だが脆い。C外明赤褐色5YR5/6、内黄褐色10YR5/6	15と同一個体か
721	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	②3.0＋α 器厚0.5～0.6	外：山形文(横) 内：無文、ナデ	A粗。径2.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石を少量含む。B良好だが脆い。C外にぶい橙色7.5YR7/4、内にぶい黄褐色10YR5/3～黄褐色10YR5/6	
722	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色砂質土	②4.0＋α 器厚0.8～1.15	外：磨滅 内：原体条痕、山形文(横)	A粗。径3.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石・長石を含む。B良好だが脆い。C外灰褐色7.5YR5/2～黒褐色7.5YR3/1、内浅黄橙色10YR8/4	
723	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	②2.9＋α 器厚0.6～0.85	外：楕円文(斜) 内：原体条痕、楕円文(横)	A粗。径2.0㎜以下の石英が多く、他に細かい黒色砂粒を少量含む。B良好だが脆い。Cにぶい褐色7.5YR5/4～橙色7.5YR6/6	
724	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	②4.5＋α 器厚1.0～1.1	外：楕円文(斜) 内：原体条痕、山形文(横)	A粗。径3.0㎜以下の石英、白色粒・角閃石・長石を少量含む。B良好だが脆い。C外にぶい黄橙色10YR6/3～にぶい黄褐色10YR5/3、内橙色7.5YR6/6～にぶい褐色7.5YR5/4	
725	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	②5.2＋α 器厚0.75～1.15	外：楕円文(斜)、磨滅 内：原体条痕、下半は磨滅	A粗。径3.0㎜以下の石英、白色砂粒・長石・角閃石を含む。B良好だが脆い。C外明黄褐色10YR7/6、内黄橙色10YR8/6～明黄褐色10YR6/6	
726	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色土最下層	②6.0＋α 器厚0.6～1.4	外：楕円文(斜)、刺突文 内：原体条痕(3段)、ナデ 口唇部：刻み	A粗。径4.0㎜以下の石英、白色砂粒・雲母・角閃石を含む。B良好だが脆い。C外橙色7.5YR7/6～6/6、内灰褐色7.5YR4/2～にぶい褐色7.5YR5/3	
727	押型文土器	深鉢	2～5号窯下谷部　青灰色最下層2区	②6.0＋α 器厚0.6～1.25	外：楕円文(斜)、刺突文 内：原体条痕(2～3段)ナデ 口唇部：刻み	A粗。径4.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石・雲母・長石を含む。B良好だが脆い。C外にぶい褐色7.5YR5/4、内黄橙色7.5YR7/8～灰褐色7.5YR4/2	
728	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	②4.2＋α 器厚0.9～1.2	外：楕円文(斜)、刺突文 内：原体条痕(2段) 口唇部：刻み	A粗。径4.0㎜以下の石英、白色砂粒・雲母をを少量含む。B良好だが脆い。C灰褐色7.5YR4/2	
729	押型文土器	深鉢	3・4区谷奥部　青灰色砂質土 3・4区谷部　最下層	②5.5＋α 器厚0.75～1.5	外：楕円文(斜)、刺突文 内：原体条痕(2段)、ナデ 口唇部：刻み	A粗。径4.0㎜以下の石英、白色砂粒・雲母・角閃石を含む。B良好だが脆い。C橙色7.5YR7/6、灰褐色7.5YR5/2	
730	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層、SX31－16	②7.5＋α 器厚0.9～1.25	外：楕円文(斜)、一部に粗いナデ 内：原体条痕(1段)、ナデ 口唇部：刻み	A粗。径5.0㎜以下の石英が多く、他に白色砂粒や細かい角閃石を少量含む。B良好だが脆い。C外橙色7.5YR6/6～にぶい褐色7.5YR5/4、内灰褐色7.5YR4/2～明褐色7.5YR5/6	
731	押型文土器	深鉢	SX31	②2.5＋α 器厚0.85～1.0	外：楕円文(斜)、刺突文 内：原体条痕 口唇部：刻み	A粗。径4.0㎜以下の石英、白色砂粒・長石・角閃石を含む。B良好だが脆い。C灰褐色7.5YR4/2	

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
732	押型文土器	深鉢	S X31	②5.6＋α 器厚1.25～1.45	外：楕円文(斜)、刺突文あるいは圧痕 内：無文、ナデ	A粗。径4.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石を含む。B良好だが脆い。C外にぶい褐色7.5YR5/4～橙色7.5YR6/6、内にぶい褐色7.5YR5/4	
733	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	②4.2＋α 器厚1.0～1.2	外：楕円文(横) 内：無文、磨滅	A粗。径4.0㎜以下の石英、白色砂粒・雲母・角閃石を含む。B良好だが脆い。Cにぶい黄橙色10YR6/4～灰黄褐色10YR5/2	
734	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	②3.5＋α 器厚0.9～1.05	外：楕円文(斜) 内：無文、磨滅	A粗。径3.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石を含む。B良好だが脆い。C外橙色7.5YR6/6、内明褐色7.5YR5/6	
735	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	②8.6＋α 器厚0.9～1.1	外：楕円文(斜) 内：無文、ナデ	A粗。径8.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石、さらにサヌカイトらしき砕片を含む。B良好だが脆い。C橙色7.5YR6/6～6/8	
736	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	①(26.0) ②4.6＋α 器厚1.0～1.1	外：楕円文(斜) 内：無文、ナデ	A粗。径4.0㎜以下の石英、白色砂粒・雲母・角閃石を含む。B良好だが脆い。Cにぶい橙色7.5YR6/4～橙色7.5YR6/6	
737	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色土最下層	①(23.5) ②10.3＋α 器厚0.7～1.0	外：楕円文(斜) 内：山形文（横)、ナデ 口唇部：山形文(横)	A粗。径3.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石・長石を含む。B良好だが脆い。C外浅黄橙色7.5YR8/6～橙色7.5YR6/8、内にぶい褐色7.5YR5/4～橙色7.5YR6/8	
738	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色土最下層	②11.5＋α 器厚0.7～1.3	外：楕円文(縦) 内：山形文(横)、ヨコナデ 口唇部：楕円文(横)	A粗。径4.0㎜以下の石英、角閃石・長石・白色砂粒を少量含む。B良好だが脆い。C外橙色7.5YR7/6～にぶい橙色7.5YR6/4、内にぶい褐色7.5YR5/4	補修孔らしき穿孔あり
739	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色土最下層	②8.9＋α 器厚0.8～1.3	外：楕円文(縦) 内：楕円文(横)、ナデ	A粗。径3.0㎜以下の石英、角閃石・長石・白色砂粒を含む。B良好だが脆い。C橙色7.5YR7/6～6/6	
740	押型文土器	深鉢	S X31	②4.1＋α 器厚0.55～0.95	外：楕円文(斜) 内：山形文(横)、ナデ	A粗。径3.0㎜以下の石英、白色砂粒・長石・角閃石を少量含む。B良好だが脆い。C外橙色7.5YR6/6、内にぶい褐色7.5YR5/4	
741	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色砂質土下層	②4.1＋α 器厚0.6～0.95	外：楕円文(斜) 内：山形文(横)、ナデ	A粗。径4.0㎜以下の石英、白色砂粒・長石・角閃石を含む。B良好だが脆い。C外橙色7.5YR7/6、内浅黄橙色10YR8/3、黒褐色10YR3/1～3/2	
742	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	②2.3＋α 器厚0.85～0.95	外：楕円文(斜) 内：楕円文(横)、ナデ	A粗。径6.0㎜以下の石英、白色砂粒・長石・角閃石を含む。B良好だが脆い。C外にぶい黄橙色10YR7/4～6/4、内明黄褐色10YR7/6～にぶい黄褐色10YR5/3	
743	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色砂質土下層	②3.7＋α 器厚0.8～1.0	外：楕円文(斜) 内：楕円文(横)、ナデ	A粗。径3.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石・長石を含む。B良好だが脆い。C橙色7.5YR7/6	
744	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	②4.7＋α 器厚1.05～1.1	外：楕円文(斜)摩滅 内：山形文(横)、ナデ	A粗。径5.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石・長石・雲母を含む。B良好だが脆い。C外にぶい黄橙色10YR7/3、明黄褐色10YR7/6	
745	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	②5.7＋α 器厚0.95～1.15	外：楕円文(斜) 内：無文、ナデ	A粗。径2.0㎜以下の石英、角閃石・長石を含む。B良好だが脆い。C外浅黄橙色7.5YR8/4～橙色7.5YR6/6、内灰褐色7.5YR6/2～4/2	
746	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	②2.8＋α 器厚1.0～1.1	外：楕円文(斜)、 内：無文、ナデ	A粗。径3.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石を含む。B良好だが脆い。C外橙色7.5YR7/6～明赤褐色5YR5/8、内にぶい黄橙色10YR6/3～6/4	
747	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色土最下層、 3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	②3.8＋α 器厚1.3～1.55	外：楕円文(斜) 内：無文、ナデ	A粗。径3.0㎜以下の石英、白色砂粒・雲母・長石を含む。B良好だが脆い。C外橙色7.5YR6/6、内にぶい黄橙色10YR6/4	
748	押型文土器	深鉢	S X31	②5.0＋α 器厚0.8～1.1	外：楕円文(斜) 内：無文、ヨコナデ	A粗。径5.0㎜以下の石英、白色砂粒・長石・角閃石を少量含む。B良好だが脆い。C外にぶい褐色7.5YR5/3～5/4、内にぶい橙色7.5YR6/4	

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
749	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	②4.6＋α 器厚1.0～1.2	外：楕円文(斜) 内：無文、ナデ	A粗。径3.0㎜以下の石英、白色砂粒・雲母・角閃石・長石を含む。B良好だが脆い。C橙色7.5YR7/6	
750	押型文土器	深鉢	SX31	②4.1＋α 器厚1.0～1.15	外：楕円文(斜) 内：無文、ヨコナデ	A粗。径3.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石・長石を含む。B良好だが脆い。Cにぶい橙色7.5YR6/4	
751	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	②4.6＋α 器厚0.85～1.3	外：楕円文(斜)、一部ナデ 内：無文、ナデ	A粗。径4.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石・長石・雲母を含む。B良好だが脆い。C外橙色7.5YR6/6～褐灰色7.5YR4/1、内にぶい橙色7.5YR7/4～橙色7.5YR7/6	
752	押型文土器	深鉢	3・4区谷奥部　青灰色砂質土	②4.7＋α 器厚0.95～1.0	外：楕円文(斜) 内：無文、磨滅	A粗。径4.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石・長石・雲母を含む。B良好だが脆い。C外にぶい橙色7.5YR6/4～明褐色7.5YR5/6、内褐色7.5YR4/4	
753	押型文土器	深鉢	SX31	②6.3＋α 器厚0.9～1.0	外：楕円文(斜) 内：無文、ナデ	A粗。径4.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石・長石を含む。B良好だが脆い。C外橙色7.5YR6/6、内にぶい橙色7.5YR7/4	
754	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	②7.5＋α 器厚1.15～1.35	外：楕円文(斜) 内：無文、ナデ	A粗。径4.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石・長石を含む。B良好だが脆い。C明黄褐色10YR6/6～にぶい黄褐色10YR5/4	
755	押型文土器	深鉢	2～5号窯下谷部　青灰色最下層2区	②7.5＋α 器厚0.9～1.15	外：楕円文(斜) 内：無文、ナデ	A粗。径6.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石・長石・雲母を含む。B良好だが脆い。C明褐色7.5YR5/6	
756	押型文土器	深鉢	SX31	②7.9＋α 器厚0.85～1.25	外：楕円文(斜) 内：無文、ナデ	A粗。径3.0㎜以下の石英、白色砂粒・長石を少量含む。B良好だが脆い。Cにぶい褐色7.5YR5/3、内にぶい橙色7.5YR6/4	
757	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色土最下層	②5.9＋α 器厚1.15～1.25	外：楕円文(斜) 内：無文、ナデ	A粗。径4.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石・長石を含む。B良好だが脆い。C外橙色7.5YR6/6、内にぶい黄橙色10YR6/3	
758	押型文土器	深鉢	SX31	②7.2＋α 器厚0.9～1.05	外：楕円文(斜) 内：無文、ヨコナデ	A粗。径2.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石・長石を含む。B良好だが脆い。C外明赤褐色5YR5/6、内にぶい褐色7.5YR6/3～橙色7.5YR7/6	
759	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	①(24.0) ②7.2＋α 器厚1.0～1.2	外：楕円文(斜) 内：無文、ナデ	A粗。径4.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石・長石を含む。B良好だが脆い。C外橙色7.5YR7/6～にぶい褐色7.5YR5/3、内にぶい橙色7.5YR6/4～褐色7.5YR4/3	
760	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	②8.7＋α 器厚0.95～1.5	外：楕円文(斜) 内：無文、ナデ	A粗。径5.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石・長石を含む。B良好だが脆い。C外にぶい黄橙色10YR7/3～明黄褐色10YR6/6、内にぶい黄橙色10YR6/4～にぶい黄褐色10YR5/3	
761	押型文土器	深鉢	3・4区谷部　青灰色土層最下層	②11.6＋α 器厚0.85～1.05	外：楕円文(斜)、摩滅 内：無文、ナデ、摩滅	A粗。径5.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石・長石を含む。B良好だが脆い。C外明褐色7.5YR5/6～にぶい橙色7.5YR7/4、内橙色7.5YR7/6～灰白色7.5YR8/2	
762	押型文土器	深鉢	3・4区谷奥部　青灰色砂質土、3・4区谷部　青灰色砂質土最下層、2～5号窯下谷部　青灰色最下層	②9.3＋α 器厚1.35～1.6	外：楕円文(斜) 内：無文、ナデ	A粗。径3.0㎜以下の石英、白色砂粒・長石・雲母を含む。B良好だが脆い。C外橙色7.5YR6/6、内にぶい褐色7.5YR5/4	
763	押型文土器？	深鉢	2～5号窯下谷部　青灰色最下層2区	②5.2＋α 器厚0.8～1.05	外：磨滅 内：無文、ナデ、指頭圧痕あり	A粗。径6.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石・長石・雲母を少量含む。B良好だが脆い。C外橙色5YR6/8、内褐色7.5YR4/3	
764	押型文土器	深鉢	SX31	②8.1＋α 器厚1.0～1.35	外：楕円文(斜) 内：無文、磨滅	A粗。径4.0㎜以下の石英、角閃石を含む。B良好だが脆い。C外橙色5YR6/6、内橙色7.5YR7/6	
765	押型文土器？	深鉢	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	②3.0＋α 器厚0.95～1.2	外：磨滅 内：無文、ナデ	A粗。径3.0㎜以下の石英、白色砂粒・角閃石・長石を含む。B良好だが脆い。C外橙色7.5YR6/6、内浅黄橙色10YR8/3	

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径	文様・調整	A胎土　B焼成　C色調	備考
766	縄文土器？	深鉢	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	②2.2＋α 器厚0.7～1.35	外：磨滅 内：磨滅	A粗。径4.0㎜以下の石英、白色砂粒・雲母・角閃石・長石を含む。B良好だが脆い。C外橙色7.5YR6/6～にぶい橙色7.5YR7/4、内浅黄橙色7.5YR8/3～にぶい褐色7.5YR6/3	
石器							
767	石器	石鏃	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	長さ1.45、幅1.4、厚さ0.35			サヌカイト製 重さ0.5g
768	石器	石鏃	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	長さ1.7、幅1.6、厚さ0.35			サヌカイト製 重さ0.5g
769	石器	石鏃	2～5号窯谷底清掃中	長さ1.8＋α、幅1.25＋α、厚さ0.25			西北九州産黒曜石製 重さ0.55g
770	石器	石鏃	3・4区谷部　青灰色土最下層	長さ1.95、幅(1.9)、厚さ0.25			サヌカイト製 重さ0.45g
771	石器	石鏃	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	長さ2.2、幅2.2、厚さ0.3			サヌカイト製 重さ0.8g
772	石器	石鏃	3・4区谷部　青灰色砂質土下層	長さ2.15、幅2.0、厚さ0.35			サヌカイト製 重さ0.90g
773	石器	石鏃	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	長さ2.4、幅(2.0)、厚さ0.6			西北九州産黒曜石製 重さ0.85g
774	石器	石鏃	3・4区谷部　青灰色砂質土下層	長さ2.75、幅1.9、厚さ0.35			サヌカイト製 重さ1.30g
775	石器	石鏃	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	長さ2.1、幅1.9、厚さ0.55			サヌカイト製 重さ1.42g
776	石器	スクレイパー	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	長さ3.3、幅1.9、厚さ0.6			西北九州産黒曜石製 重さ3.6g
777	石器	スクレイパー	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	長さ3.0、幅2.8、厚さ0.9			サヌカイト製 重さ13.2g
778	石器	スクレイパー	3・4区谷部　青灰色砂質土最下層	長さ3.05、幅2.8、厚さ1.15			サヌカイト製 重さ8.8g
779	石器	剥片	2～5号窯灰原下方谷部砂質土(灰層下)	長さ5.5、幅2.75、厚さ1.1			サヌカイト製 重さ14.4g
780	石器	磨石	3・4区谷部　青灰色砂質土	長さ6.8＋α、幅8.6＋α、厚さ4.6			凝灰岩製 重さ320.0g

Ⅲ．まとめ

1．遺構の変遷

ここでは調査地内の遺構について、特に古墳時代以降の遺構の変遷を概観してみたい。

まずⅣA期には1～3区の丘陵斜面上に、竪穴住居跡・土坑などが形成される。竪穴住居跡と考えられる遺構にはSX01・09・20のように明確に竪穴住居跡と判断されるものと、SX03・04・19のように極めて不整形なプランや掘り方をもつものがある。今回、竪穴住居跡と明確に判断される掘り方等をもたない遺構についてもカマドの存在から竪穴住居跡ではないかと考えたが、実態についてはよく分からない。

ⅣA期の遺構の性格について、SX02上からは粘土が出土しており、あるいは須恵器工人の集落（工房）かとも考えられるが、調査地内では該期の窯跡は確認できない。現時点で調査地周辺のⅣA期の窯跡のうち最も近いのは梅頭遺跡1次1号窯跡であるが、丘陵2つほど西方にあり直線距離で約200mほどとやや離れているように感じる。調査地は緑地造成により大きく削平を受けることから、既に消滅した可能性もあることと、出土遺物中に多くの焼成不良土器が含まれていることや粘土を貯蔵した遺構（SX02上）の存在から、ⅣA期の集落遺構については一応須恵器工人の集落の可能性が強いと考えておきたい。

Ⅴ期以降になると、調査地内では盛んに窯の操業がおこなわれ、集落遺構については明確ではなくなる。調査地内で最も古い窯跡は8号窯跡で、消極的ながらⅤ期にあたると考えられる。以下、9号→3・7号→5－Ⅱ号・5号・4号・1号→2号→6号窯跡への変遷が考えられる。これからすると、奈良時代を通じて操業がおこなわれたことが分かり、特に8世紀中頃から後半にかけて窯跡の数が増加するようである。

2．窯群の立地と時期的推移

調査区内で確認された窯跡は、大きく3つの群に分けることができる。それはⅠ群（1号窯跡）、Ⅱ群（2～5号窯跡）、Ⅲ群（6～9号窯跡）である。調査地内は大きく削平を受けているため単純な比較はできないが、Ⅱ群は窯が重なり合うように密集してつくられるのに対し、Ⅲ群は等間隔に配置され、前庭部さえ重複することはない。

またそれぞれの窯群は、Ⅰ群は1区に位置し、Ⅱ・Ⅲ群は3区斜面上に所在するが、Ⅱ群は標高53m付近、Ⅲ群は46m付近と大幅に異なる占地を示している。出土遺物から見ると、Ⅱ群は近接した時期に相次いで操業がおこなわれたのに対し、Ⅲ群は断続的に窯がつくられているが、全体的にみるとⅡ・Ⅲ群が相互に操業をおこない、奈良時代を通じて操業がおこなわれている。先述した窯跡の時期的変遷にあてはめると、Ⅲ群→Ⅱ群→Ⅲ群の群の変遷が考えられ、Ⅱ・Ⅲ群間にみる窯の在り方の違いは時期的なものと解釈することができる。したがって、密集して窯を操業するⅡ群は、同一の場所に占地することで採薪や窯の掘削・操業の効率化をはかった結果と考えられ、8世紀中頃から後半にかけて社会的な需要増により須恵器生産が拡大されたものと考えられよう。

3．窯体構造について

今回の調査で、確認された窯跡の窯体構造について気がついた点をまとめておきたい。

9号窯跡は8世紀前半と考えられる。窯跡の平面プランは細長く、直立煙道窯となる。焼成部の傾斜は比較的ゆるやかで、焼成部奥には半月状のくぼみが図示されているが、このくぼみの中は還元しておらず、掘り上げると還元面に穴があり、下層で酸化焼成された赤い層が見える状態であった。焚口部からは粘土塊焼台が出土しており、先年調査した野添2次2号窯跡においても同様の状況が認められることから、このくぼみは焼成前に掘り込まれ、くぼみ上に粘土塊を貼り付け焼成をおこなったものと考えられる。

一方7号窯跡は、平面プランはずん胴で短くなる。焼成部奥側の傾斜が急となり、弓なりに上がっていくようにみえる。焼成部奥には粘土塊焼台が残されており、これをとったが床面はくぼむことはなく平らであった。したがって、窯の床面に直接粘土塊を貼り付け焼成をおこなったと考えられ、9号窯跡と粘土塊焼台の設置方法に違いが認められる。

6号窯跡は天井部に特徴がある。通常天井部はアーチ形を呈するのが普通であるが、6号窯跡は水平な天井部をもつ。また床面は焚口部から焼成部まで平板化したようになり、焼成部の傾斜角度は7号窯跡に比べて緩やかとなり、煙道部は細長いものとなる。水平な天井部をもつ窯跡は後田59-Ⅲ号窯跡など牛頸窯跡群内で散見される。

また、6・7・9号窯跡は焚口部の還元範囲においても違いが認められる。9号窯跡の焚口部還元範囲は前庭部まではのびないのに対し、7号窯跡は前庭部に扇形に還元範囲が認められる。7号窯跡の前庭部還元範囲は天井がかかっていない場所であり、焼成時においては燃料のロスが相当出るのではないかと思われるが、6号窯跡においても同様の還元範囲を確認している。こうした焚口部還元範囲の違いや粘土塊焼台の設置方法の違いが表すものについて現時点では不明であるが、焚口部還元範囲の違いは窯詰めや窯焚き技術の違いを表す可能性もある。この変化を本堂遺跡5次調査では8世紀前半から中頃にかけての時期に確認することができ、この時期に窯体構造や焼成技術の変化がおこなわれている可能性を指摘しておきたい。

4．6号窯跡出土須恵器について

6号窯跡焚口部からは、焼台とともにたくさんの遺物が集積された状態で出土した。窯の廃棄時に掻き集められたものと考えられ、多くが細片となっていたが、6号窯跡の下限を知る重要な一括資料である。出土した遺物は須恵器杯蓋・杯身・杯、土師器杯がある。遺物の特徴としては、須恵器杯蓋はほぼ天井部は水平でヘラ削りはおこなわれず、口縁部形態は全く折り曲げなどをおこなわないもの、細い沈線を口縁部内面に巡らすもの、口縁部内面をわずかにナデるものがある。口径は13㎝代の小型のものと15㎝代の大型のものの2種がある。杯身は口径11～12㎝の小型のものしか確認できなかったが、高台は底部と体部の境につけられ、高台の整形は非常に粗雑である。また杯身と杯は、杯部は高台の有無以外ほぼ同じ特徴をもっており、一見するとどちらか分からない。

こうした須恵器とともに、6号窯跡からは土師器杯・黒色土器椀が出土した。いずれも深めの体部をもつもので、10世紀中頃から11世紀代に位置付けられよう（註1）。なぜ須恵器以外の遺物が須恵器窯跡から出土するのか理由は分からない。特に土師器椀は完形に近く、出土した理由について判断が難しいが、土師器・黒色土器椀に関しては、窯内の最下層より上の層（7層）から出土したものであり、層位的に焚口部集積遺物とは明確に分けられる。

一方土師器杯についても、焼成部右奥側にあり、床面よりやや浮いた状態であった。したがって土師器・黒色土器椀と同様に流れ込んだものと思われ、土師器の年代を直接須恵器に結び付けることはできない。したがって、ここでは須恵器の特徴から位置付けについて概観したい。

須恵器杯蓋・杯身に最もよく似た特徴を持つものとして、まず大宰府史跡18次ＳＥ400が挙げられよう。井戸内は上下２層に分かれ、下層出土遺物には６号窯跡出土杯蓋・杯身と同じ特徴を持つものが出土している（註２）。しかし、杯身の口径は16～17㎝と６号窯跡出土杯蓋よりも大きなものである点は注意が必要である。

次に、大野城市日ノ浦遺跡廃棄土坑（ＳＫ）出土遺物が挙げられる。日ノ浦遺跡は大野城市大字牛頸に所在する遺跡で、古墳時代から奈良時代にかけて集落が営まれている。この中でも廃棄土坑からは奈良時代の須恵器・土師器が多量に出土しており、舟山良一氏により須恵器の変遷観が明らかにされている。それによると、６号窯跡と同じ特徴をもつ須恵器はＳＫ13・16・19が挙げられる。これらについて氏は、器高指数を基にさらにＳＫ19（大宰府史跡18次ＳＥ400並行）→13・16への変遷を考えられている。６号窯跡からは杯身は少なく、いずれも焼け歪んでいるため単純に比較ができないが、ＳＫ13出土杯身は口径13～16㎝の小型のものと18～19㎝と大型のものがあり、法量的には６号窯跡より大きく、単純な比較は難しいが杯部はＳＫ13のものが深いように感じる。法量的・形態的にはＳＫ19に近いと考えるが、今後位置付けについてはさらに検討を進めたい。

さて、これまで牛頸窯跡群における８世紀末～９世紀にかけての窯跡としては、井手24号窯跡・石坂Ｅ－３号窯跡が挙げられる（註４）。井手24号窯跡は、窯内から杯蓋・杯身・杯・皿・高杯・鉢が出土している。杯身は形態的に６号窯跡出土のものと同じ特徴をもつが、杯蓋はいずれもつまみを持つものである。６号窯跡出土の杯蓋は圧倒的につまみのつかないものが多い点で異なっており、新しい傾向を示すものと判断できる。石坂Ｅ－３号窯跡は須恵器杯蓋・杯身・鉢・壺・大甕、土師器、黒色土器などが出土しており、須恵器大甕を焼成したと考えている。杯蓋・杯身は小片・少量のため、この窯跡での焼成を確実とすることができないが、形態・技法上の特徴は６号窯跡のものと同じである。須恵器大甕の時期は９世紀中頃と考えている。

また６号窯跡出土遺物の特徴として、杯身に対して杯が圧倒的に多いことが挙げられる。井手24号窯跡からも杯が比較的多く出土している。元々奈良時代の牛頸窯跡群では、須恵器では高台のつく杯身（杯Ｂ）が高台のつかない杯（杯Ａ）より多い傾向にあることが舟山氏より指摘されている（註５）。窯跡出土の杯の多寡は操業する工人や発注する側の問題もあろうが、杯と同じ杯部を持つ杯身の存在と高台の粗雑な仕上げを考えると、使用の場において杯身も杯も同じような機能を果たしていた可能性もある。

以上から考えると、本堂５次６号窯跡は井手24号窯跡よりさらに新しい段階のものと考えることができよう。形態的には日ノ浦遺跡ＳＫ19出土資料に近いと考えており、舟山氏の見解にしたがって大宰府史跡18次ＳＥ400と同じ時期とし、９世紀第１四半期頃と考えておく。なお、土師器・黒色土器については、床面より浮いており焚口部集積遺物より上層からの出土であることから、須恵器窯跡とは全く関係ないもので、年代としても参考にならない。土師器・黒色土器の流入した理由について明確な解答は持ち合わせていないが、本堂遺跡５次調査地の北側に位置する本堂遺跡７次

調査地で10～11世紀代の遺物が大量に出土していることから、削平された５次調査地の丘陵頂部に何らかの遺構が存在していた可能性を示すものと考えておきたい。

５．瓦塔について

本堂遺跡５次調査２～５号窯跡灰原からは、瓦塔屋蓋の破片が出土した。しかし瓦塔を構成する軸部や水煙などの破片を灰原中からは見出すことができず、ここで層塔をなす瓦塔全体を焼成したかどうかは確認できない状態にある。また出土位置が灰原であったことと、上方には５基の窯跡が存在することから、どの窯跡で焼成されたかは明らかにできない。したがって、瓦塔の生産された時期に関しては８世紀中頃から後半の広い時期幅を考えておく必要がある。

とはいえ、これが牛頸窯跡群で初めて瓦塔の生産を確認したものであり、筑前における生産が確認された初例でもある。しかも、奈良時代の牛頸窯跡群は杯蓋・杯身を中心とする供膳具の生産を盛んにおこなっており、主に大宰府へむけて出荷されたものと理解され、須恵器生産の指導・管理に関しては大宰府の関与が大きかったものと考えている（註５）。また、瓦塔は明治時代以来の長い研究があり、その性格についても墳墓標識説・塔婆代用説などが挙げられており、用途・場所については不明な部分もある。したがって、瓦塔の生産は牛頸窯跡群の生産体制や発注者・造立目的・供給先など、孕む問題は極めて大きいものと考えられる。

これらの問題についてここで充分な検討をおこなう時間的余裕はなく、今後の検討課題としておきたいが、その基礎作業として九州内における瓦塔の集成を試みたので文末に一覧表を掲げておく。これは亀田修一氏の集成（註６）や小田富士雄氏、太宰府市教育委員会井上信正氏などから教示を頂いたものであり、記して謝意を申し上げたい。

註１　遺物整理中に太宰府市教育委員会中島恒次郎氏より教示をいただいた。

註２　横田賢次郎1979「大宰府出土の土師器に関する覚え書き（３）」『九州歴史資料館研究論集』５

註３　舟山良一1994「Ⅳ２　廃棄土坑（ＳＫ）出土土器について」『日ノ浦遺跡群』大野城市文化財調査報告書第42集

註４　池辺元明ほか1988『牛頸窯跡群Ⅰ』福岡県文化財調査報告書第80集
石木秀啓1997『牛頸石坂窯跡－Ｅ地点－』大野城市文化財調査報告書第49集

註５　石木秀啓2004「九州の須恵器生産」『第7回西海道古代官衙研究会資料集』において作成した資料の中で「第１表牛頸窯跡群窯跡遺物出土数量表」に表した。これは報告されている遺物に関してその傾向を追ったもので、全量を点検したものではない。

註６　亀田修一2002「吉備の瓦塔」『環瀬戸内海の考古学－平井　勝氏追悼論文集』古代吉備研究会

（石木）

第１表　九州の瓦塔出土地名表

No.	遺跡名	所在地	出土遺構・番号	出土部分	焼成	類型		共伴遺物	遺構の時期	遺跡の性格	文献	備考
						屋蓋形状	丸瓦表現					
1	本堂遺跡5次調査	福岡県大野城市大字上大利	2～5-Ⅱ号窯跡灰原	屋蓋	須恵質	方形	棒状粘土貼付	須恵器	8世紀後半？	須恵器窯跡	中村浩ほか2004『牛頸本堂遺跡群Ⅱ』大野城市文化財調査報告書第64集	
2	宝満山遺跡	福岡県筑紫野市									亀田2002文献より	
3	般若寺跡	福岡県太宰府市									亀田2002文献より	
4	大宰府条坊跡157次	福岡県太宰府市五条二丁目	SK005黒灰色砂	屋蓋	緑釉		半裁竹管	土師器・滑石製品・石鍋	12世紀中後半～13世紀後半	条坊街区	井上信正2002『大宰府条坊跡21』太宰府市の文化財第61集	
5	トギバ３号窯跡	福岡県北九州市小倉南区	３号窯内上層	屋蓋	須恵質	円形・方形	棒状粘土貼付	須恵器	9世紀初頭？	須恵器窯跡	小田富士雄ほか1977『天観寺山窯跡群』北九州市埋蔵文化財調査会	
6	籾ノ粉池窯跡群	福岡県北九州市小倉南区	A地区灰原採集	屋蓋	須恵質		棒状粘土貼付	須恵器	8世紀後半	須恵器窯跡	小田富士雄ほか1977『天観寺山窯跡群』北九州市埋蔵文化財調査会	
7	御祖窯跡群	福岡県北九州市小倉南区	表採	屋蓋	須恵質	方形	棒状粘土貼付	須恵器	8世紀後半	須恵器窯跡	小田富士雄ほか1977『天観寺山窯跡群』北九州市埋蔵文化財調査会	
8	山方里窯跡群	福岡県北九州市小倉南区	表採	屋蓋・水煙・刹	須恵質	方形	棒状粘土貼付		8世紀後半	須恵器窯跡	小田富士雄ほか1977『天観寺山窯跡群』北九州市埋蔵文化財調査会	
9	洗子窯跡	福岡県北九州市小倉南区	窯跡灰原	屋蓋・水煙・九輪・風鐸	須恵質	方形・五角形	棒状粘土貼付	須恵器	8世紀後半～末	須恵器窯跡	田村和裕2003『洗子窯跡』北九州市埋蔵文化財調査報告書第299集	
10	上和泉遺跡９区B地区	佐賀県佐賀市久保泉町大字上和泉	SK9281	初重軸部	土師質			須恵器	8世紀後半～9世紀前半	集落	楠本正士ほか2002『上和泉遺跡９区』佐賀市文化財調査報告書第135集	赤彩
11	上和泉遺跡６区	佐賀県佐賀市久保泉町大字上和泉	DQ-187 グリット検出面、SK6703	屋蓋	土師質		半裁竹管			集落	木島慎治ほか1999『上和泉遺跡６区』佐賀市文化財調査報告書第107集	
12	上和泉遺跡７区	佐賀県佐賀市久保泉町大字上和泉	SK7008	屋蓋	土師質		半裁竹管	須恵器・土師器	8世紀後半	群集土坑	楠本正士2004『上和泉遺跡７区』佐賀市文化財調査報告書第146集	
13	徳永遺跡15区	佐賀県佐賀市久保泉町大字上和泉	SD15067	屋蓋	土師質		半裁竹管	須恵器・土師器	8世紀後半	集落	楠本正士2004『徳永遺跡15・18区』佐賀市文化財調査報告書第145集	
14	陳内廃寺3次調査	熊本県城南町陳内	北回廊Ｉｔ	屋蓋	瓦質		棒状粘土貼付	瓦・土師器	奈良時代中期以前？	寺院	松本雅明編1965『城南町史』城南町史編纂会	
15	植場遺跡	熊本県八代市					半裁竹管	須恵器・土師器・瓦器・石器	平安時代？	寺院？	江上敏勝1990「熊本県八代市妙見中宮跡出土の瓦等及び塔心礎等について」『九州上代文化論集』	
16		熊本県上益城郡甲佐町									亀田2002文献より	
17	瓦塚遺跡2次調査	大分県宇佐市大字石田	SD-2	屋蓋		方形	棒状粘土貼付	須恵器・土師器・瓦	8世紀後半	郡衙かその関連遺跡	佐藤良二郎1995「Ｖ瓦塚遺跡2次調査」『宇佐地区遺跡群発掘調査概要Ⅶ』	
18	塔ノ熊廃寺	大分県下毛郡三光村									亀田2002文献より	

6．重ね焼きについて（第37図・図版第82、83）

通常窯体内には、単一の個体を床面に配置して焼成するということはほとんどない。すなわち大型の甕や壺というような製品の場合は単一の状態で配置され、焼成されるが、蓋杯や高杯、あるいは皿や杯などの小型の製品については、そのほとんどが二段以上に重ねるいわゆる重ね焼きという方法をとっている。これは床面が限られており、その限られた空間を有効に利用し、より大量の製品を生産したいという切実な願望から出ていることは言うまでもない。この重ね焼きという方法は、須恵器生産が我国で開始された段階からすでに見られるものであるが、時期によって、あるいは生産される器種によっても微妙に異なっていることが多い。

牛頸窯跡群においても過去の調査例でもいくつかの重ね焼きの例は確認されており、その一部は報告されている。今回本堂第５次調査の対象となった窯跡からは、当該例の確認が比較的多く見られたので、ここにその事例の報告を行いたい。

重ね焼きの種類は、杯身の場合セット関係を図示（図37）した例のように重ねたものが確認されている。また杯や皿についても、同一の形状のものを重複させたものが多く見られ、異なる形状のもの、とくに大きさの異なる器種の重ね焼きはほとんど見られない。各重ね焼きの量的な分布は次の表２－１を参照されたい。

第２表－１　重ね焼き出土状況一覧

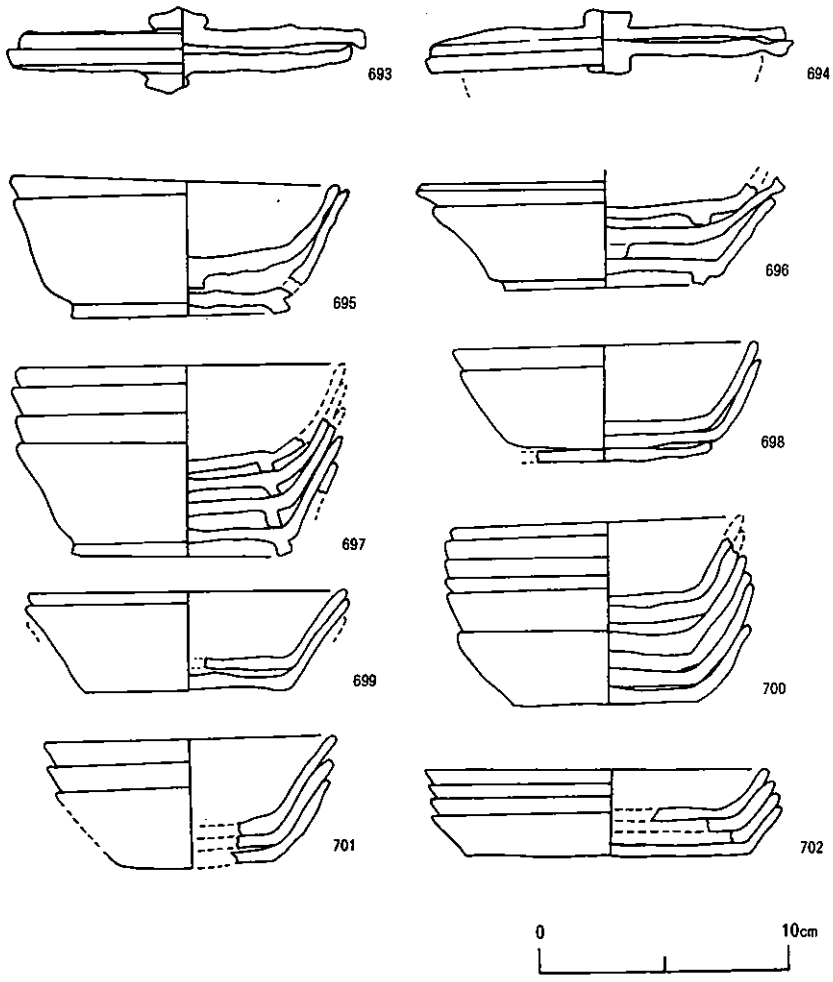
出土地	２個	３個	４個	５個	６個	７個	８個	８以上
灰原Ｂ	7	8	2			1		
灰原Ｄ	3	5	2	1				
灰原Ｅ	3	5	1					
灰原Ｆ	3	2						
灰原Ｇ	4	5	1				1	
灰原Ｉ	1	1						
２号窯	1							
５号窯		2						

＊　この数値は、本堂Ⅴ－１で調査した２～５号窯跡の灰原からの出土遺物『本堂遺跡群Ⅱ』で調査・報告したものを集計したものである。

＊　灰原Ｂ区出土遺物については、２号窯に伴うもの、５号窯に伴うものが含まれており、いずれの遺物かの判別は難しいものが多い。

＊　大野城市の調査で出土した２－５号窯下方灰原出土例では、杯を15個以上重ねたものが確認されている。

第２表－１に示したのは，重ね焼きの個数がいくつ重なっているかを見たものである。これはたまたま溶着して残っていた数量ということにもなるが、最大数は８個であった。３個というのが最も多いが、これは、明らかに他の重ねられた部分が剥落した可能性を示すものがあり、これ以上の数であることは間違いないであろう。とくに蓋と蓋の重なりについては、その上下に杯身の口縁部の破片が溶着、あるいは痕跡が明瞭に残されており、少なくとも杯蓋・杯身・杯蓋・杯身という順に蓋杯が２セット以上重ねられていたことが明らかである。この場合、杯蓋と杯身の重ね合わせは、必ずしも杯蓋と杯身が通常の合口の状態でないものが多く見られた。これは天井の曲線から見て、



第37図　本堂Ⅴ－１（２－５号窯）調査時出土重ね焼遺物実測図（1／3）

当該重ね合わせのほうが、より安定した重複状況が可能であることから考えられたものと見られる。

第２表－２　器種別重ね焼き出土状況

種類／出土地	杯蓋のみ	杯蓋・杯身	杯・杯	Ⅲ・蓋	Ⅲ・Ⅲ	杯身・杯蓋・Ⅲ	その他
灰原Ｂ		１１	１？			2	
灰原Ｄ	1	8	1				
灰原Ｅ	1	3	2				
灰原Ｆ	1	5					
灰原Ｇ	1	6	2				1
灰原Ｉ		1			1		
２号窯		3	2				
５号窯		1	1				

＊ここでⅢとしたのは口径に比較して器高が著しく低いものを示す。杯Ｂは高台を伴わず、Ⅲに分類されないものを示す。蓋杯の場合の杯Ａは高台を伴っている。

第２表－２に示したのは，如何なる器種に重ね焼きの痕跡が見られるのかを見たものである。これも前者の数値と同様、たまたま溶着していた、あるいは残存していたに過ぎないと見ることも可能であるが、それらがすべて同じ焼成窯の同一段階に属するとは考えられないものであり、時期的にもわずかな差を認めることが出来るものが多い。このことは、各生産段階にあって日常的に当該重ね焼きの方法がとられていたことを示すものといえるだろう。

第２表－３　重ね焼き出土地点別数量

出土地	数量
灰原Ｂ	１８
灰原Ｄ	１１
灰原Ｅ	6
灰原Ｆ	5
灰原Ｇ	１１
灰原Ｉ	2
２号窯	4
５号窯	2

第２表－３に示したのは、重ね焼きの出土地点別の一覧である。ここに示した出土量が多いのかどうかについては比較資料が手元にないので如何ともし難い。しかし少なくとも表に見る限りは一定の部分に集中している状況が看取できる。このことは当該出土遺構の生産段階に重ね焼きが多く見られたということではなく、この段階で重ね焼きが溶着してしまったという状態のものが多く見られるということである。

なお重ね焼きの出土例が少ないことは、それらが溶着しない工夫が、少なくとも行われていたということを想定せざるを得ないと考える。

７．蓋のつまみの貼付位置の検討

牛頸窯出土の蓋杯のうち、とくに天井部につまみを伴う形状の蓋について、つまみの位置が中心部からいかほどずれているかについて検討した。すなわち、この貼付位置の検討は、本来天井の中心部に貼付されているはずのつまみが、中心から大きくずれているということは、当該時期の蓋に設定されていた規格が統一されてたという判断材料にもなる。無論、製品の規格性については、他の器種の検討も実施しなければならないが、今回は比較的容易にそれが可能な蓋杯の蓋に限定して行ってきた。

まず本堂５次調査の既報告書で出土した蓋について、つまみの位置の計測を行った。すなわちつまみの中心は蓋の中心から縦方向（Ｙ軸）横方向（Ｘ軸）にどれほど離れているかを計測した。この場合、中心を求める際には円弧に設定した任意の等しい弦の垂直二等分線の交点を中心とした。

第３表は、この方法によって、つまみの位置、とくにその中心部の位置を計測し、先に求めた本来の中心からのずれの数値を示したものである。

第３表　つまみ位置の中心からのずれ（いずれも平均値）

（単位はcm）

出土遺構	X軸方向	Y軸方向	直径
２号窯跡	０．２５	０．３８	１３．５８
３号窯跡	－０．９３	－０．６	１４．４４
５号窯跡	１，０	０．６３	１４．９９
５－Ⅱ号窯跡	０．３６	０．１８	１４．１７
灰原Ａ区	１．８３	０．３３	１４．４３
灰原Ｂ区	０．９	１．２	１３．６３
灰原Ｃ区	０．０９	１．３１	１４．８
灰原Ｄ区	－０．２９	１．４８	１４．１６
灰原Ｅ区	０．８７	－０．１９	１４．４７
灰原Ｆ区	１．１	０．４１	１４．８８
灰原Ｇ区	－０．７３	０．５１	１４．４
灰原Ｈ区	－０．２６	－１．３７	１５．０９
灰原Ｉ区	－０．０３	０．０３	１４．５５

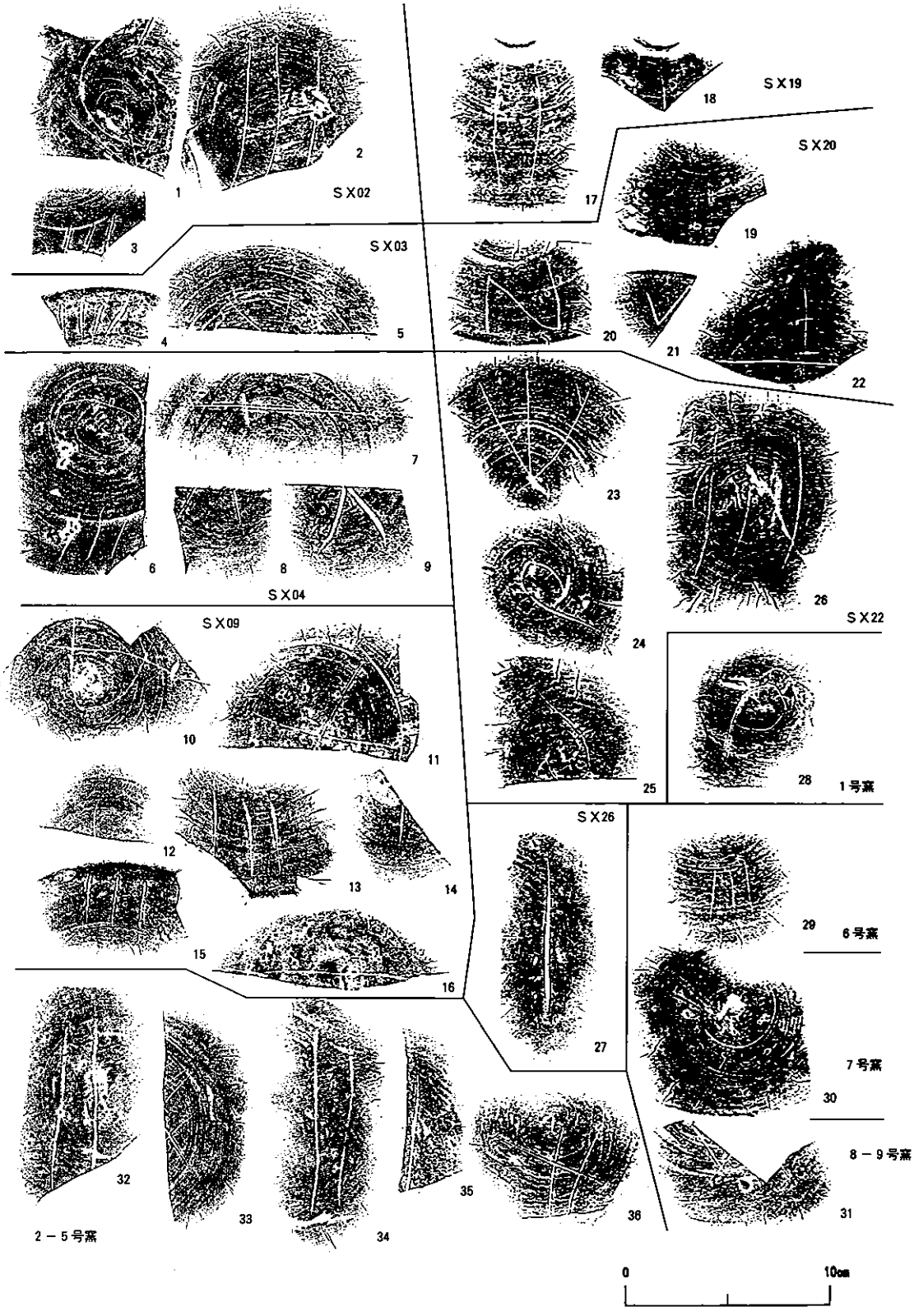
Ｘ軸、Ｙ軸ともに０が最もずれていない数値ということになり、数値が大きくなればなるほど中心からずれているということになる。またマイナス表示が見られるのはＸ軸では左方向、Ｙ軸では下方にずれていることを示す。これらの数値は平均値であり、大きくずれているものでは中心からＸ軸では1.83センチ、Ｙ軸では1.48センチが最大である。なお中心からずれていないことを示す０も、いくつか見られたが、Ｘ,Ｙ軸のいずれかで若干のずれを観察している場合が多い。しかしその数値は0.5前後以内であり、ほぼ中心につまみが貼付されていることを示している。５－Ⅱ号窯や２、３号窯、さらに灰原Ｅ，Ｇ，Ｆ区の場合にはそのずれが少ないということを示している。逆に大きい数値を示しているのは灰原Ｂ区、Ｆ区などがある。なおずれている例の数値は口径の10－15％前後であり、他の生産地での検討例が見られないこともあって、当該窯跡群での生産が杜撰であるとは断言できない。

８．ヘラ記号について

今回報告の対象となった各遺構からは、いくつかのヘラ記号を刻んだ須恵器が出土している。それらを示したものが図38である。これらのうち25，28についてはヘラ削りの痕跡と見られなくもないが、他の記号はすべて意識的に刻まれたものである。

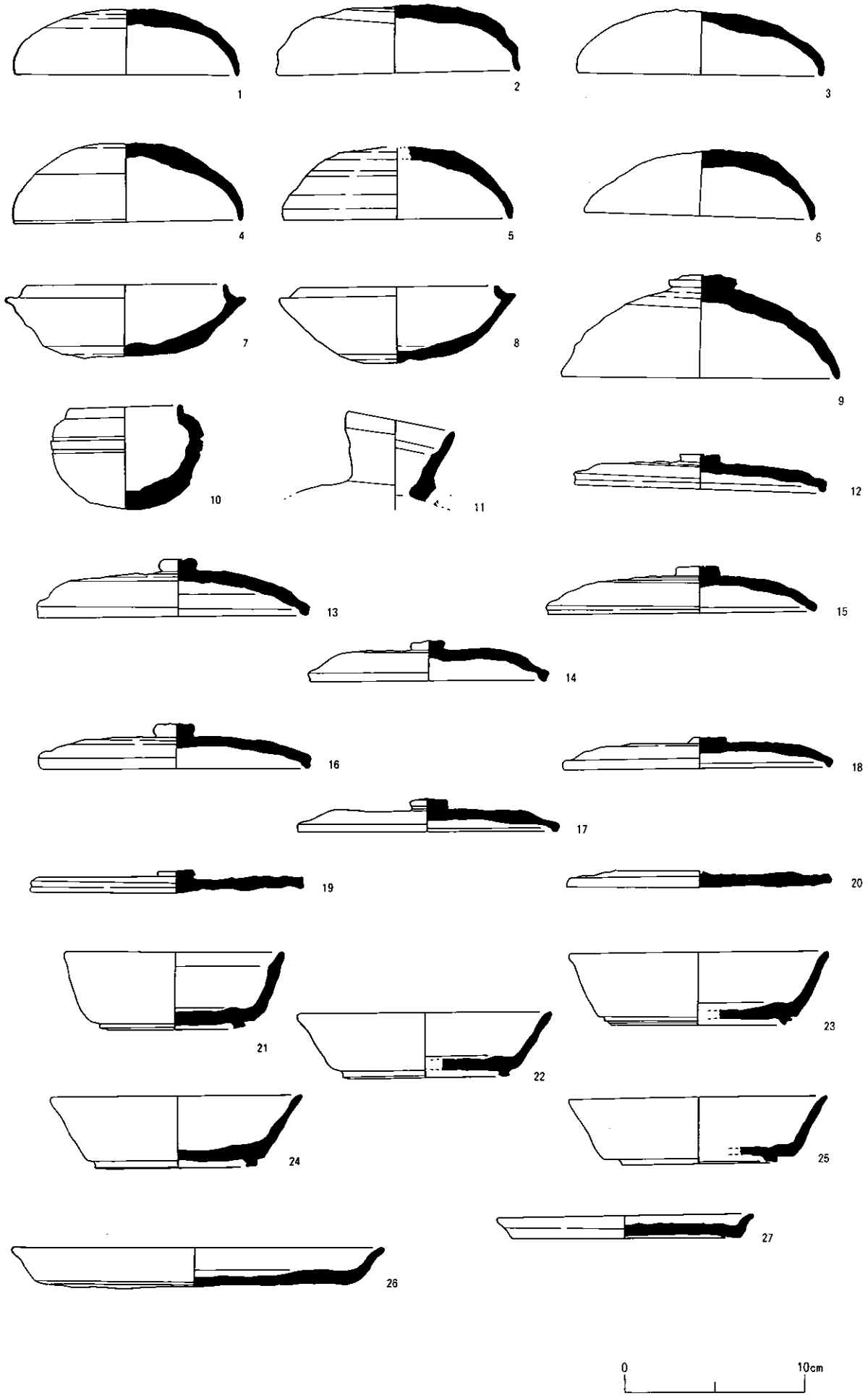
３，６，15，19，29と２，26、また32，34の各々は、同じ記号と見てよいだろう。同じ記号間の遺構の共通性は見られないが、須恵器の器種および時期には限定が見られる。すなわち記号を認める多くのものが、蓋杯の蓋に集中していることであり、時期的には７世紀前半に多く見られる。また杯に伴う蓋の内面に刻まれたものも見られるが量的にはきわめて少ない。

以上の点から、少なくとも今回の整理対象のものからの判断では、ヘラ記号の刻まれた須恵器は量的に少なく、時期的にも７世紀前半に多いと見て大過ない。　（中村）

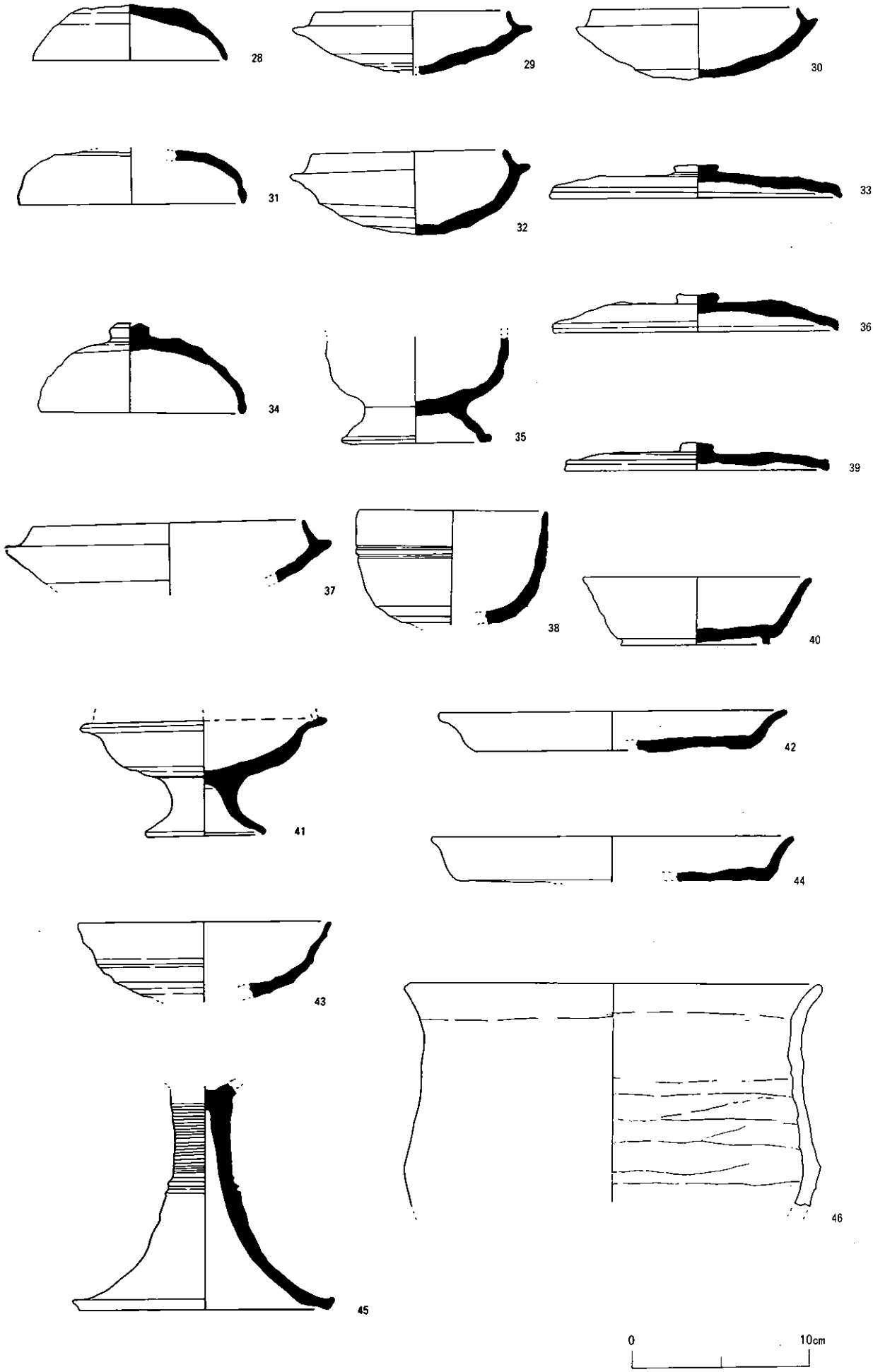

SX02
SX03
SX04
SX09
SX19
SX20
SX22
SX26
1号窯
2－5号窯
6号窯
7号窯
8－9号窯
0
10cm

第38図　ヘラ記号拓影

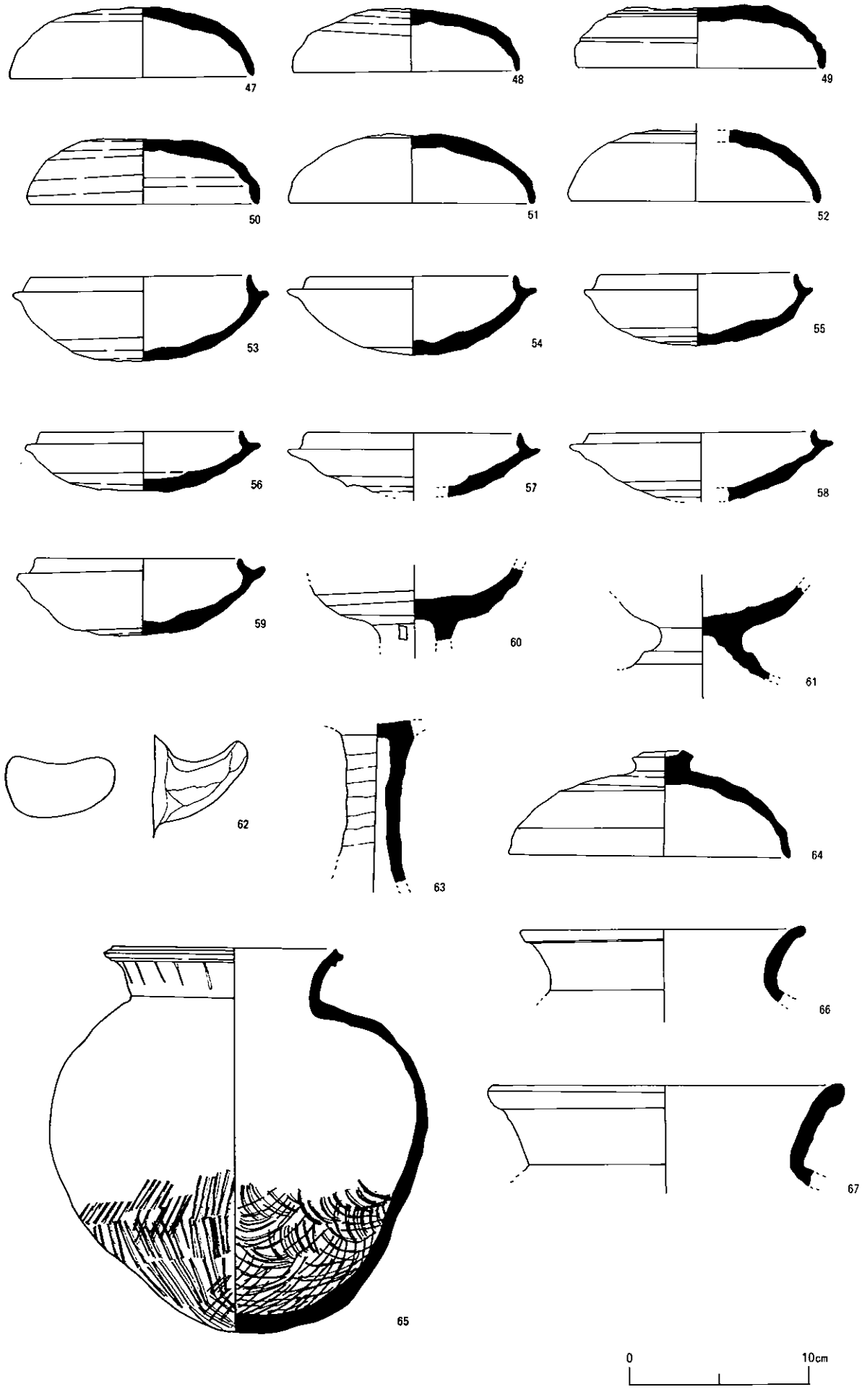
図　　版



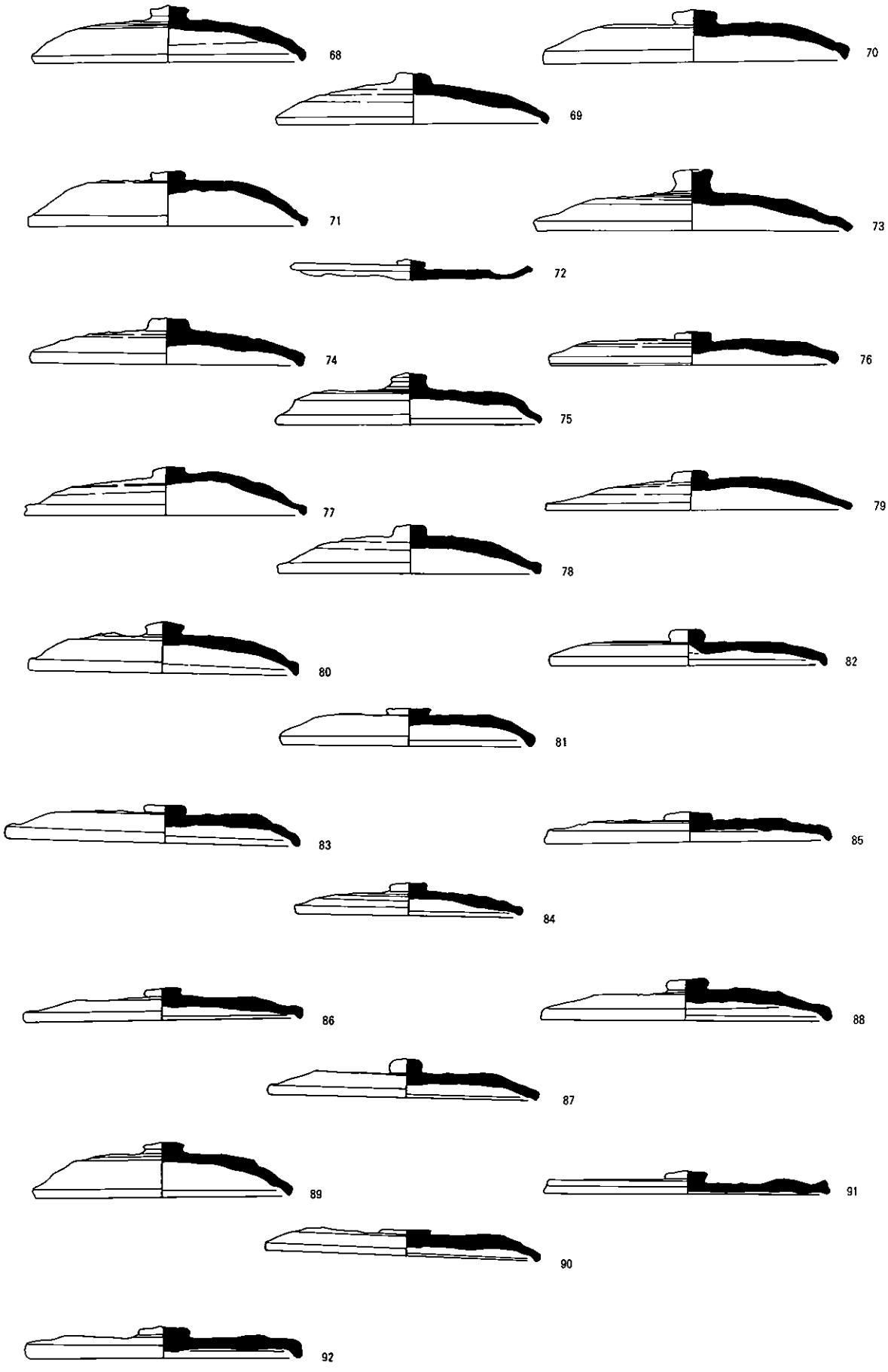
1号窯跡・1号窯跡周辺・1号窯跡灰原下遺構出土遺物実測図（1／3）



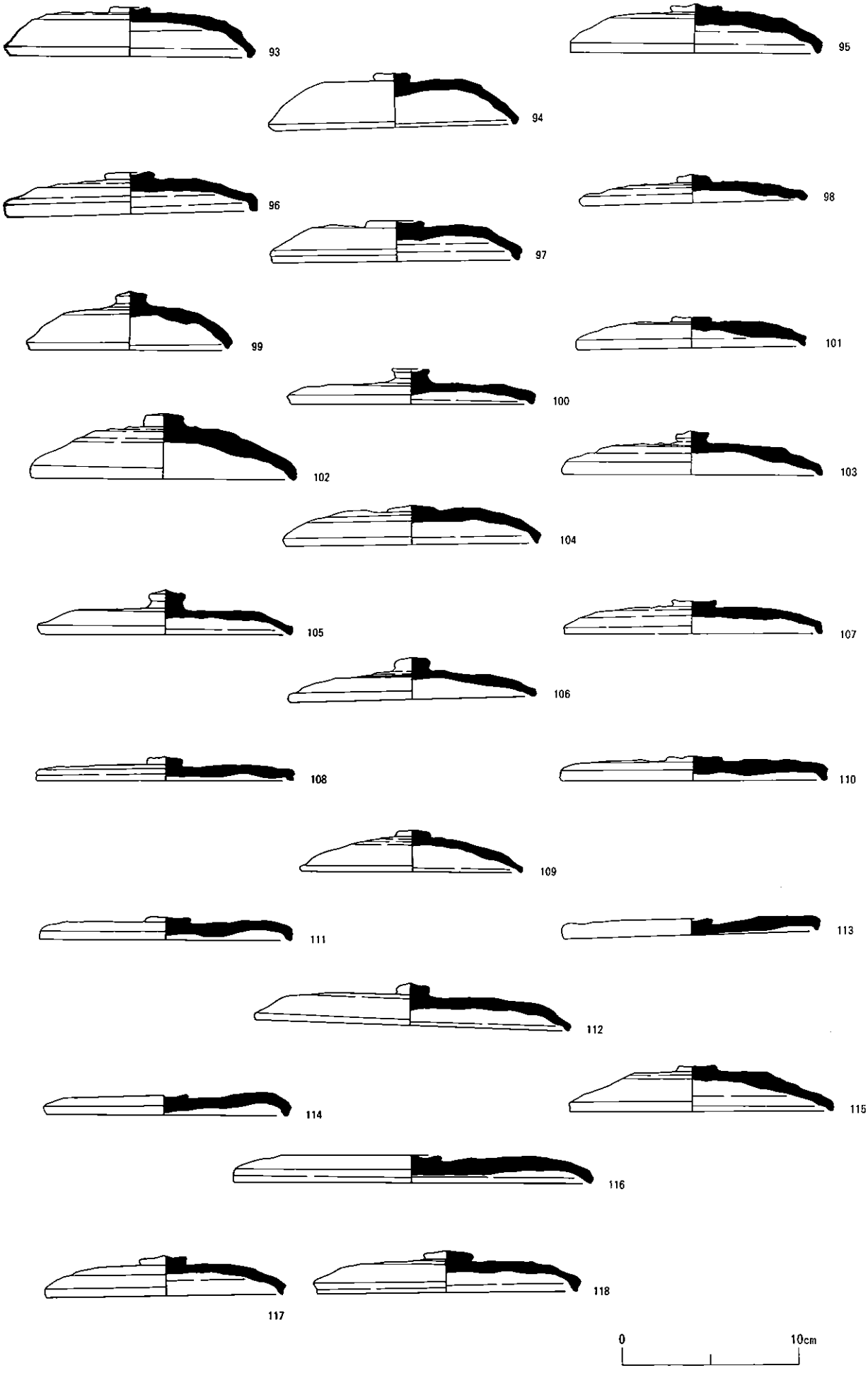
1号窯跡・1号窯跡周辺・1号窯跡灰原下遺構出土遺物実測図（1／3）



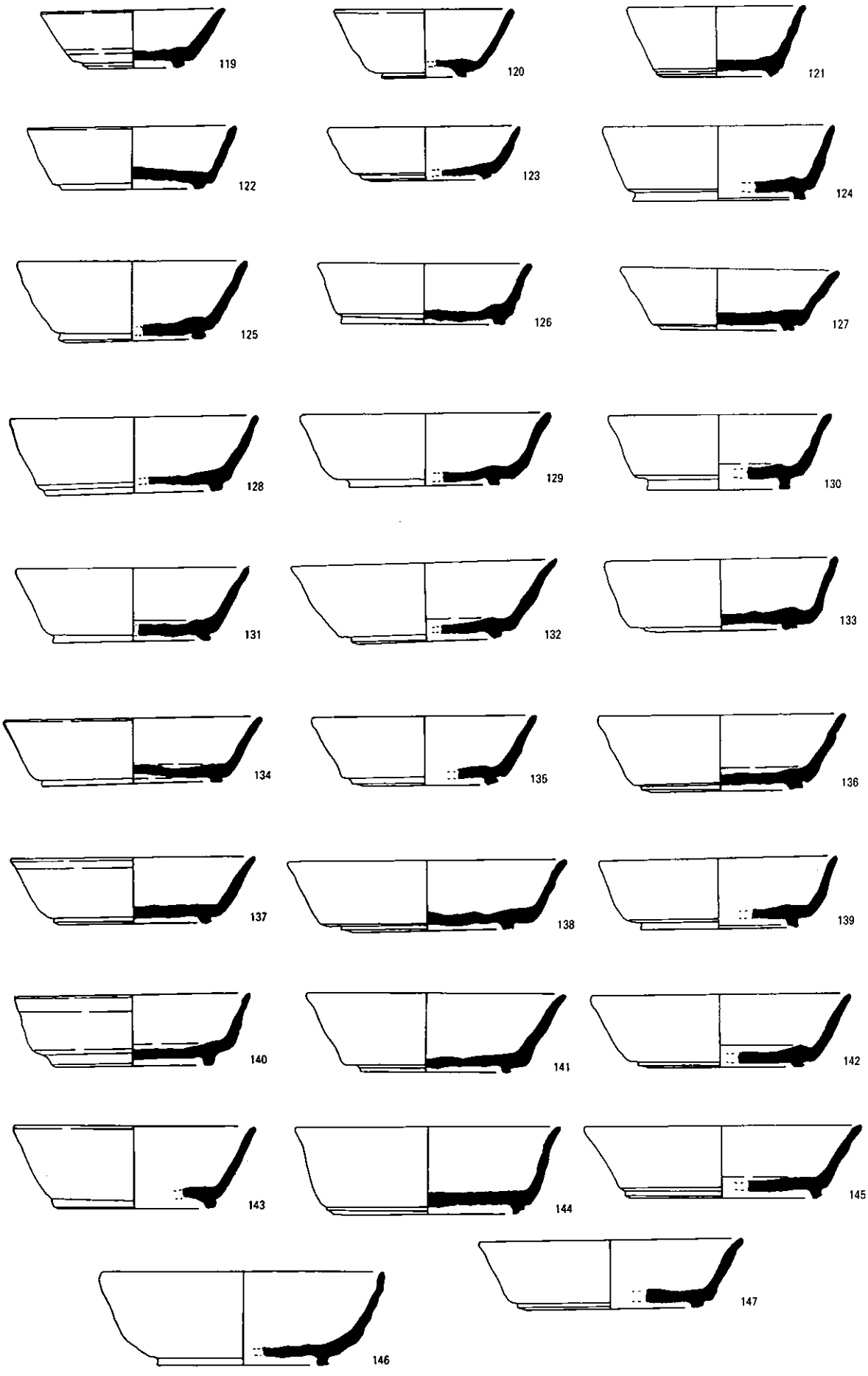
2～5号窯跡灰原下出土遺物実測図（1／3）



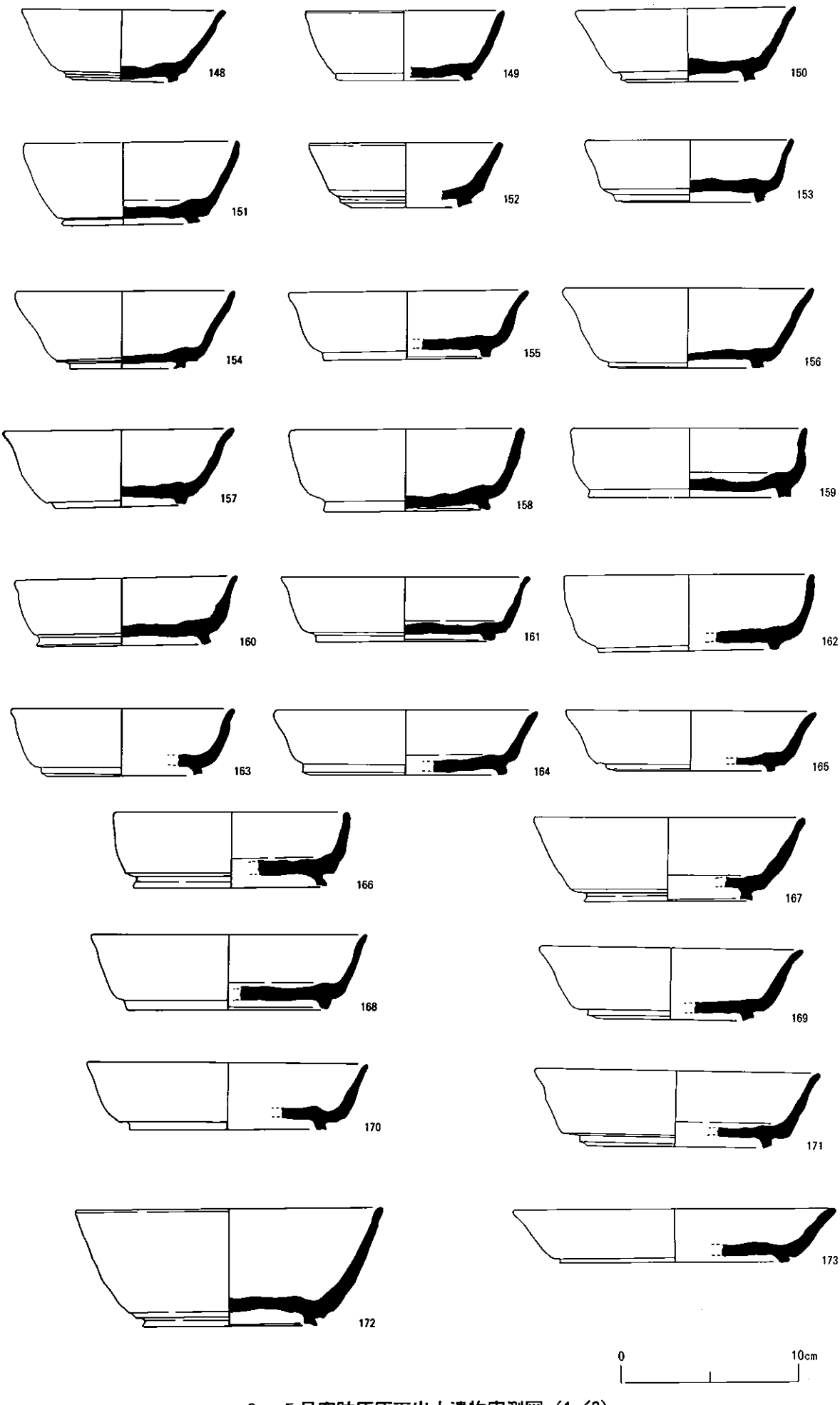
2～5号窯跡灰原下出土遺物実測図（1／3）



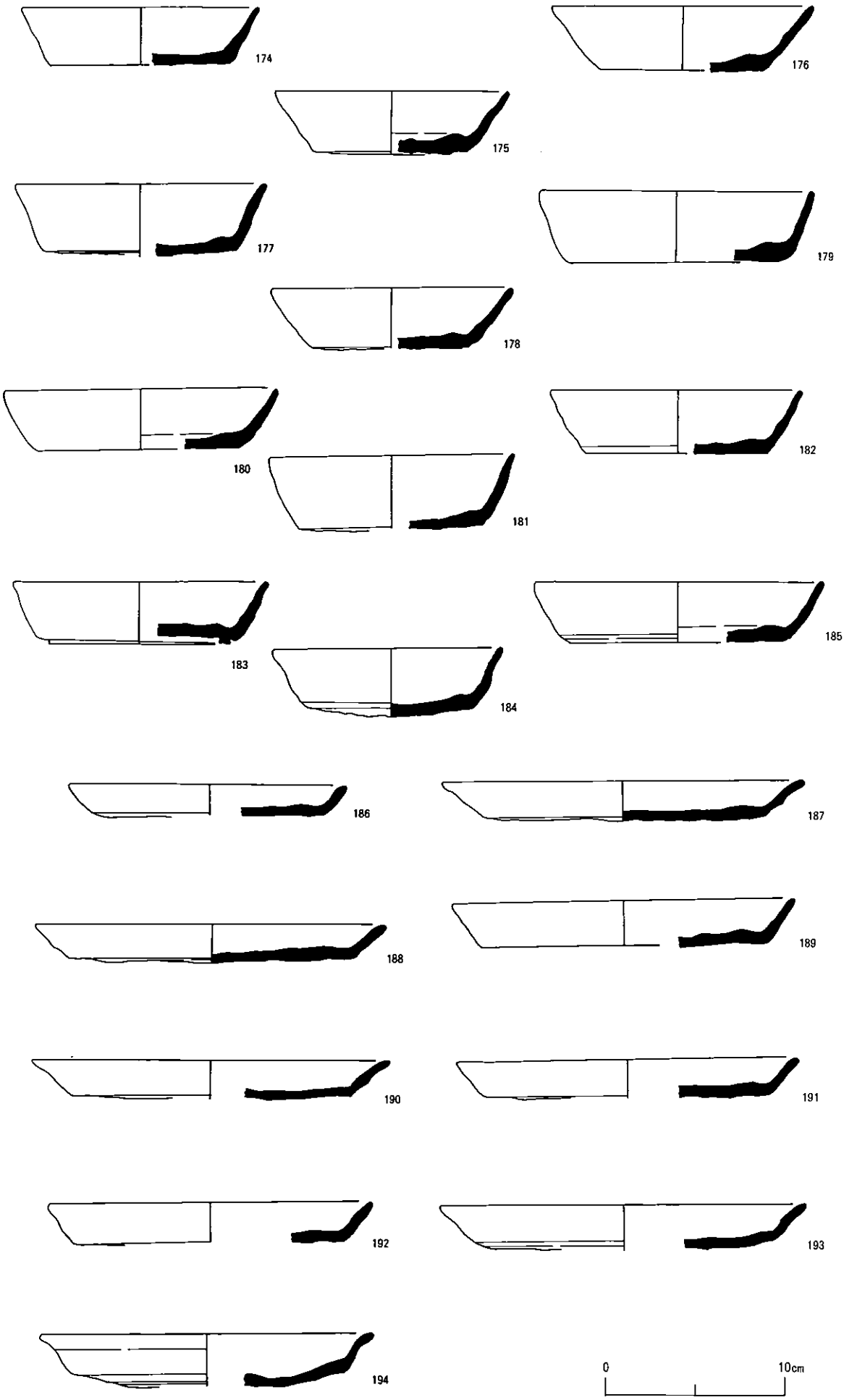
1号窯跡・2～5号窯跡灰原下出土遺物実測図（1／3）



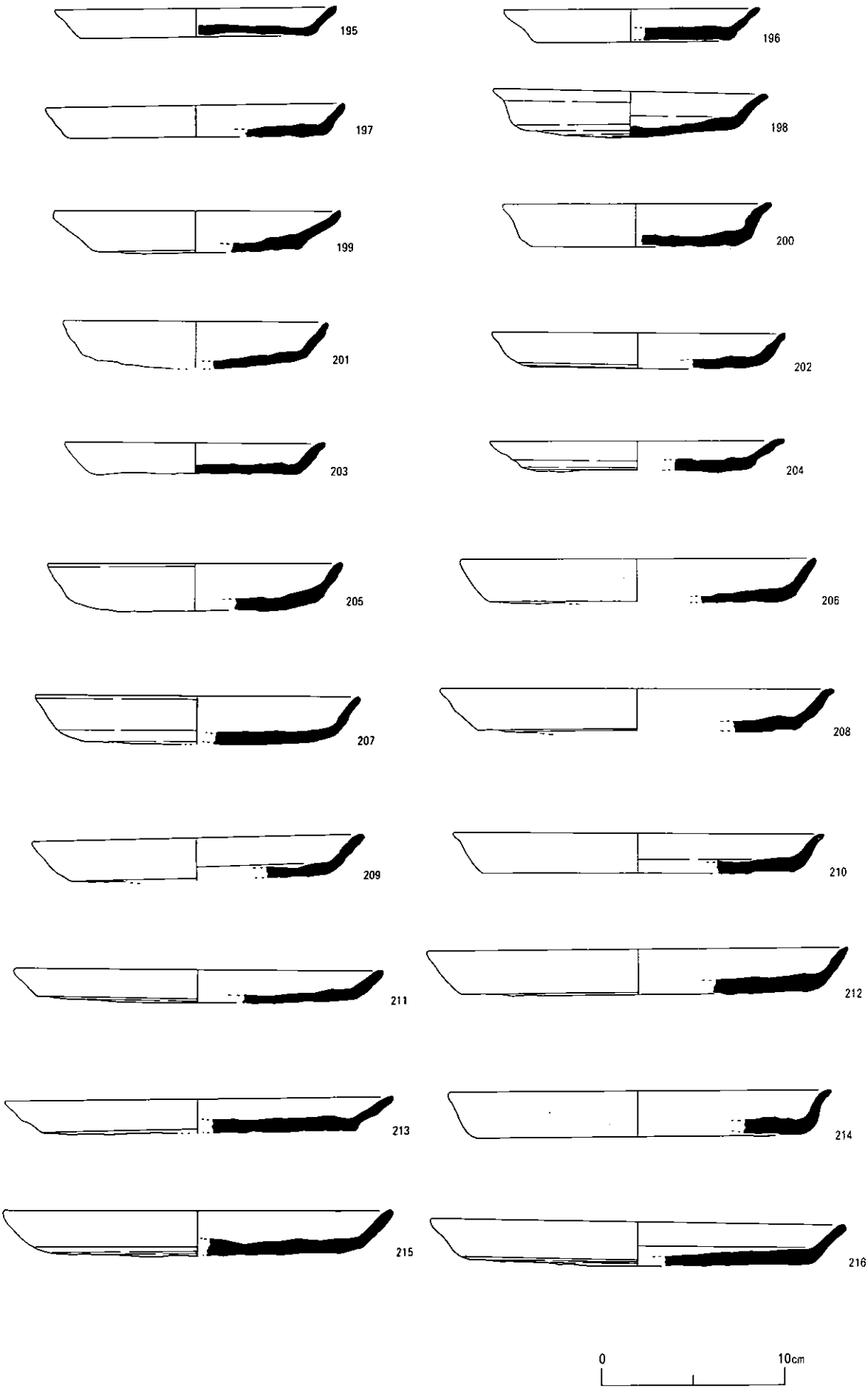
2～5号窯跡灰原下出土遺物実測図（1／3）



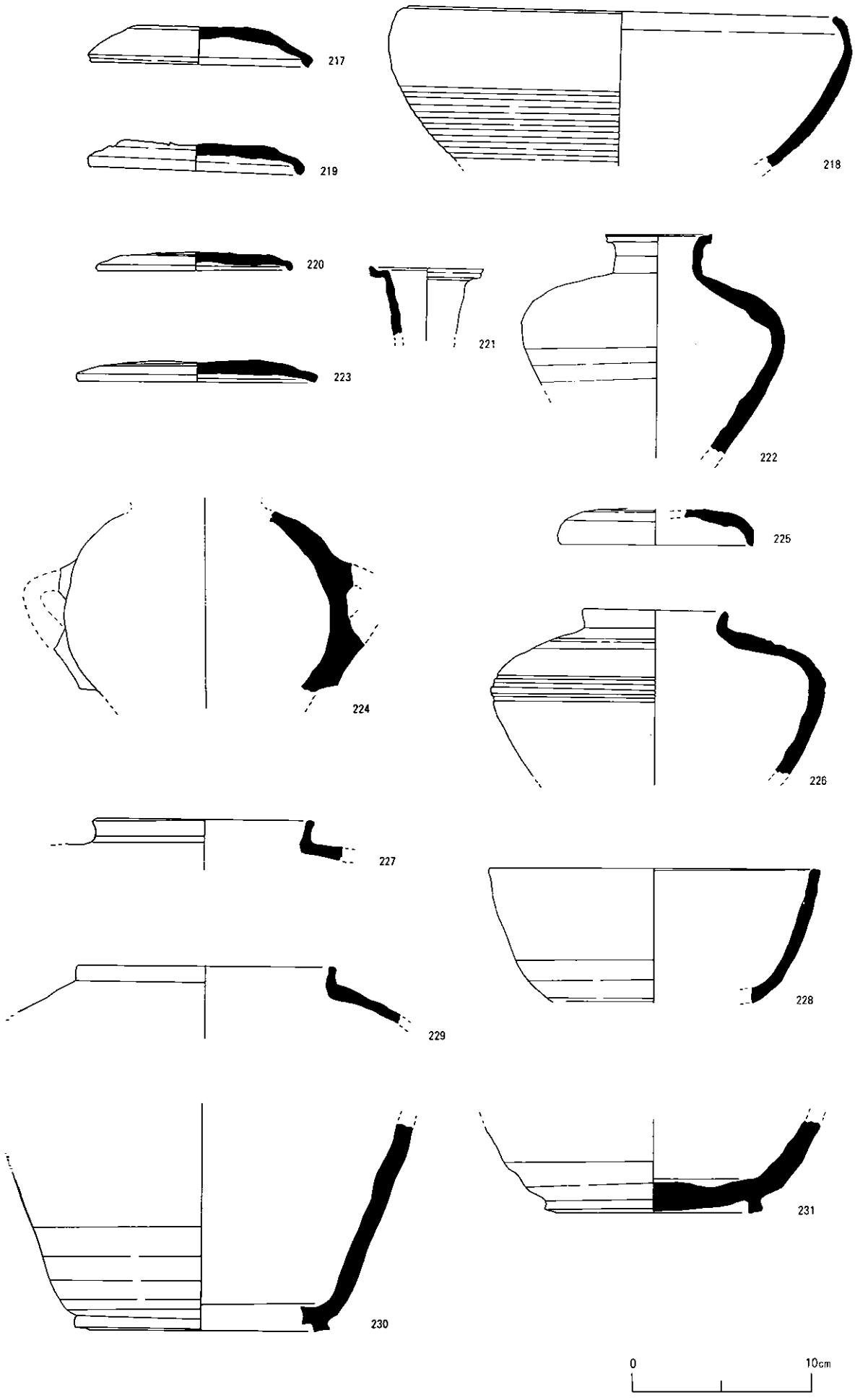
2～5号窯跡灰原下出土遺物実測図（1／3）



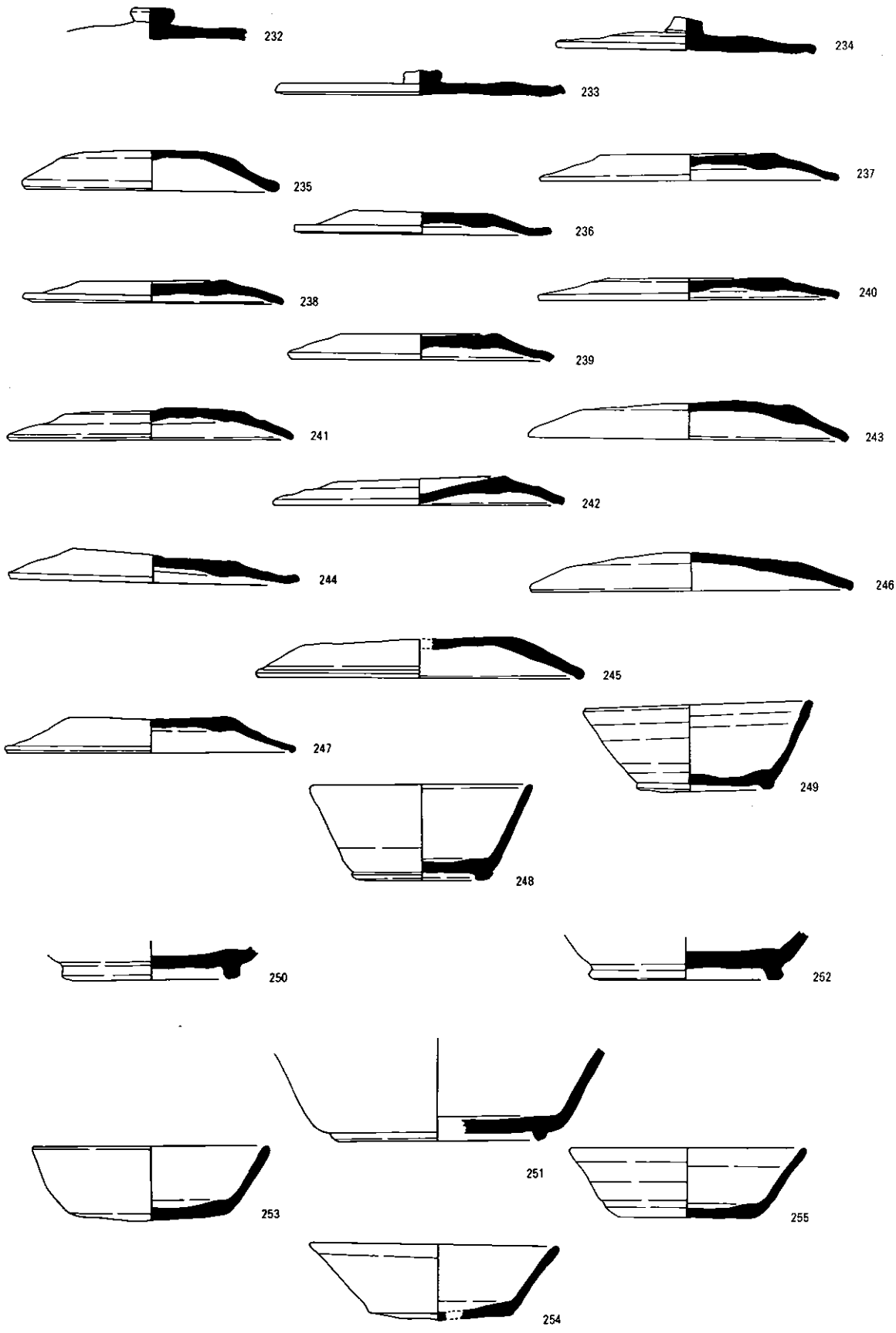
2～5号窯跡灰原下出土遺物実測図（1／3）



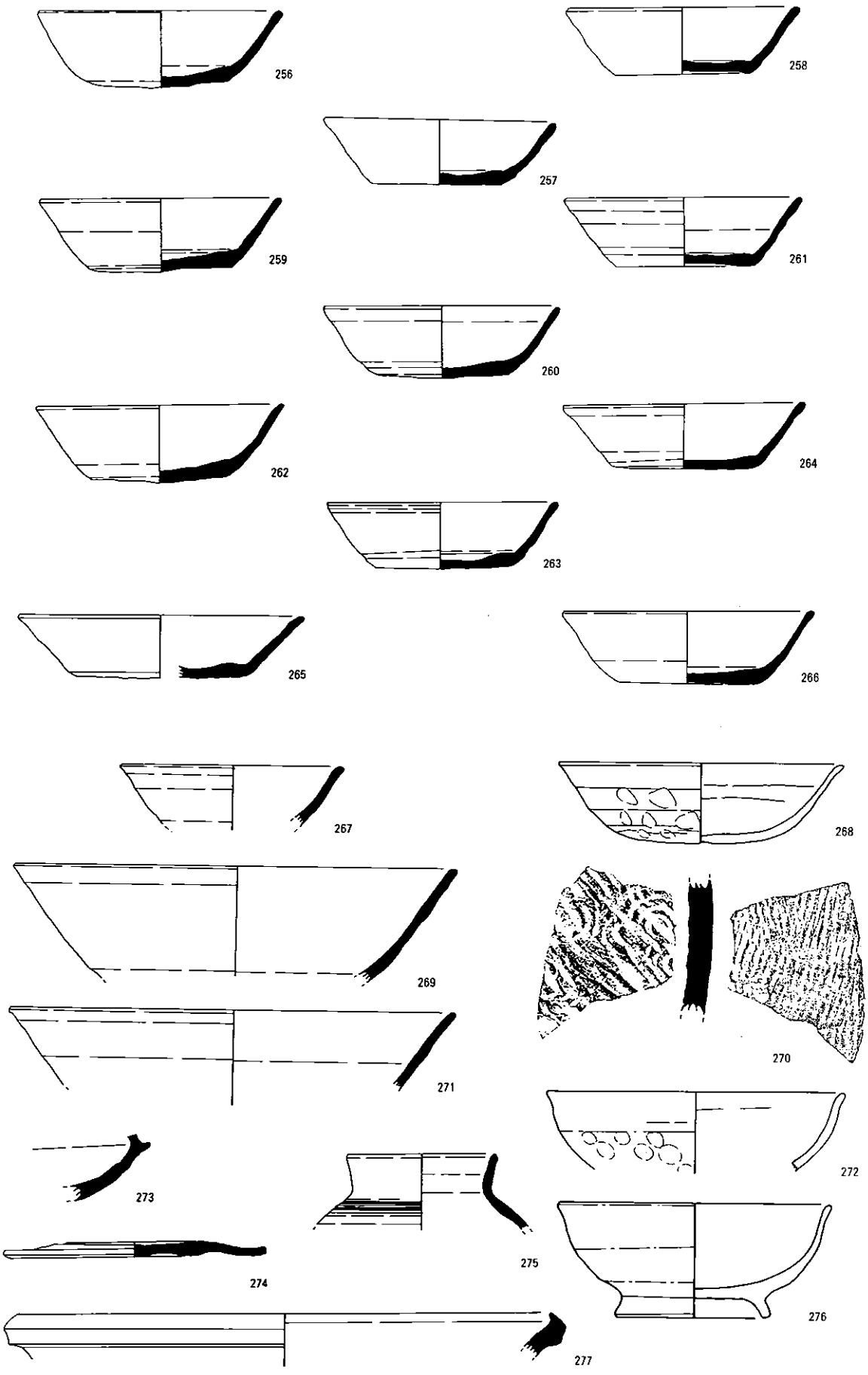
2～5号窯跡灰原下出土遺物実測図（1／3）



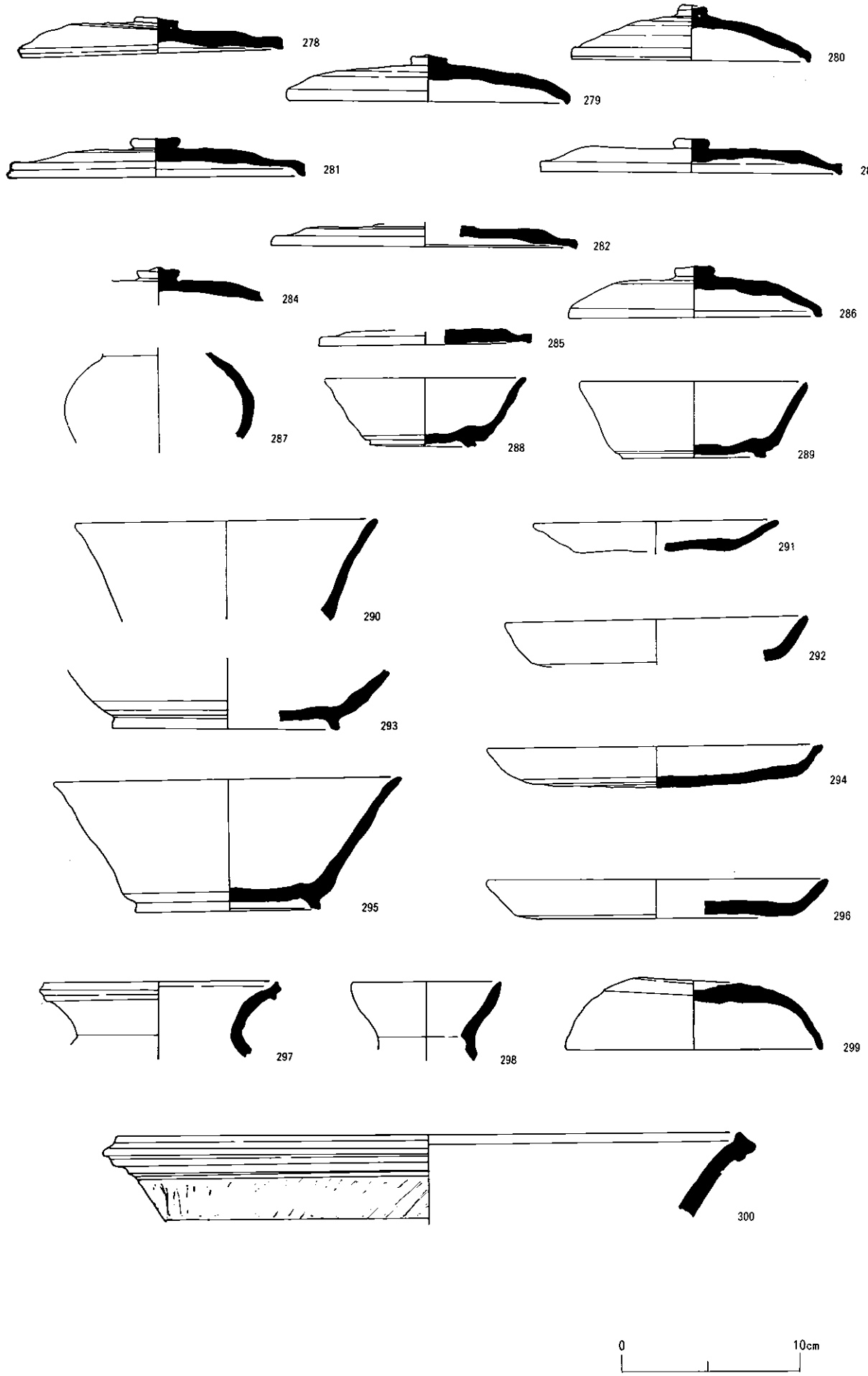
2～5号窯跡灰原下出土遺物実測図（1／3）



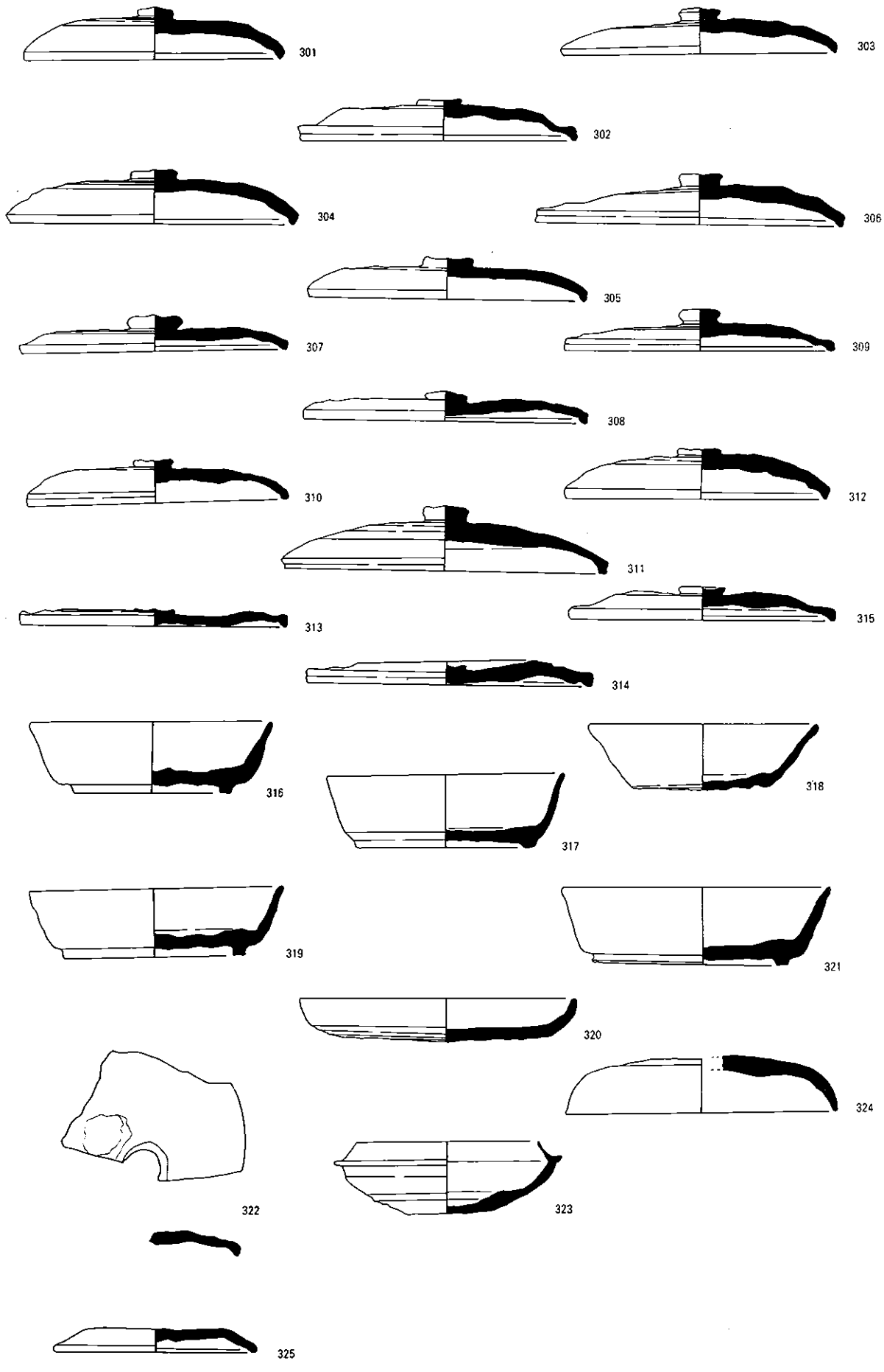
6号窯跡出土遺物実測図（1／3）



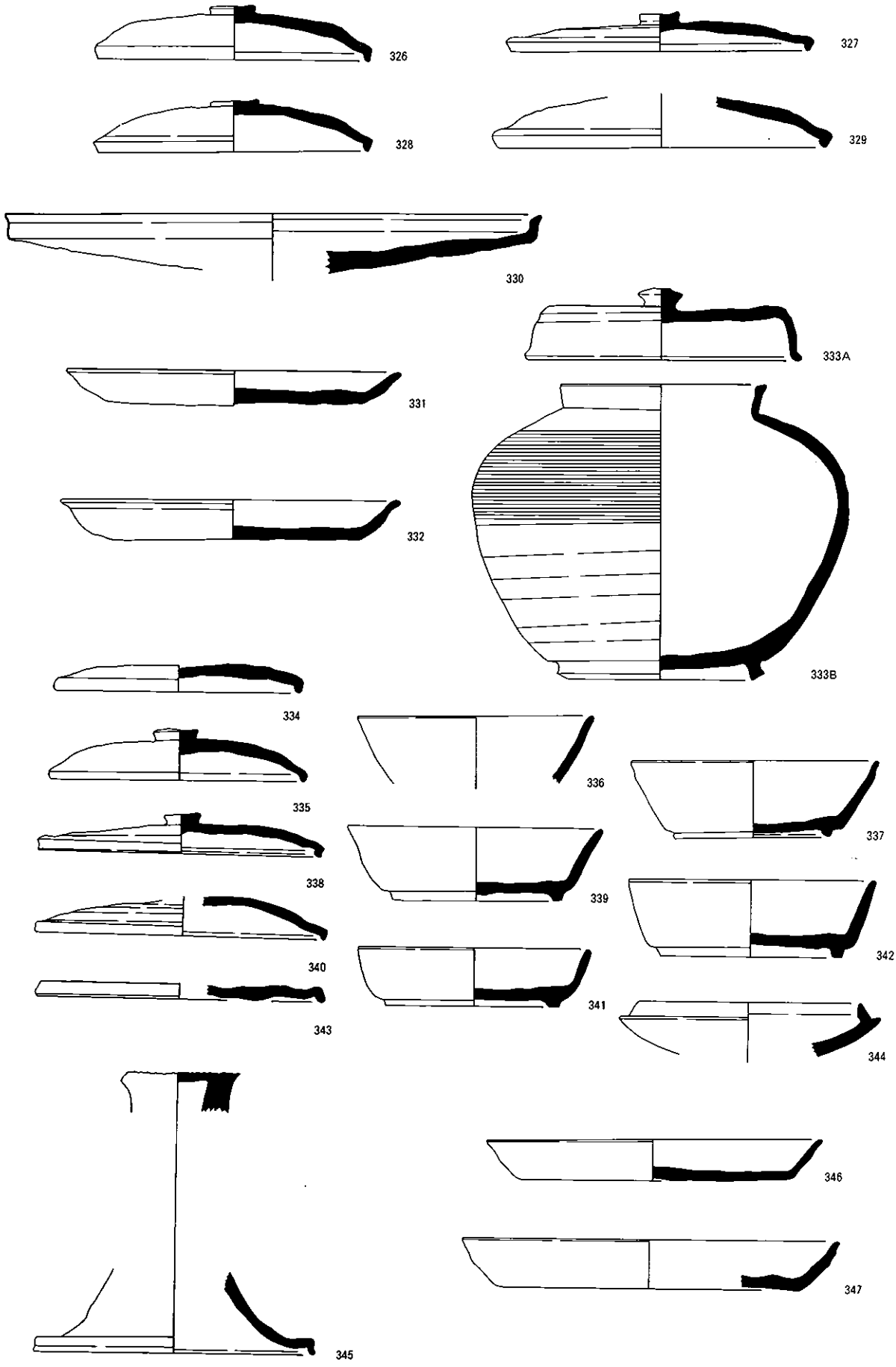
6号窯跡出土遺物実測図（1／3）



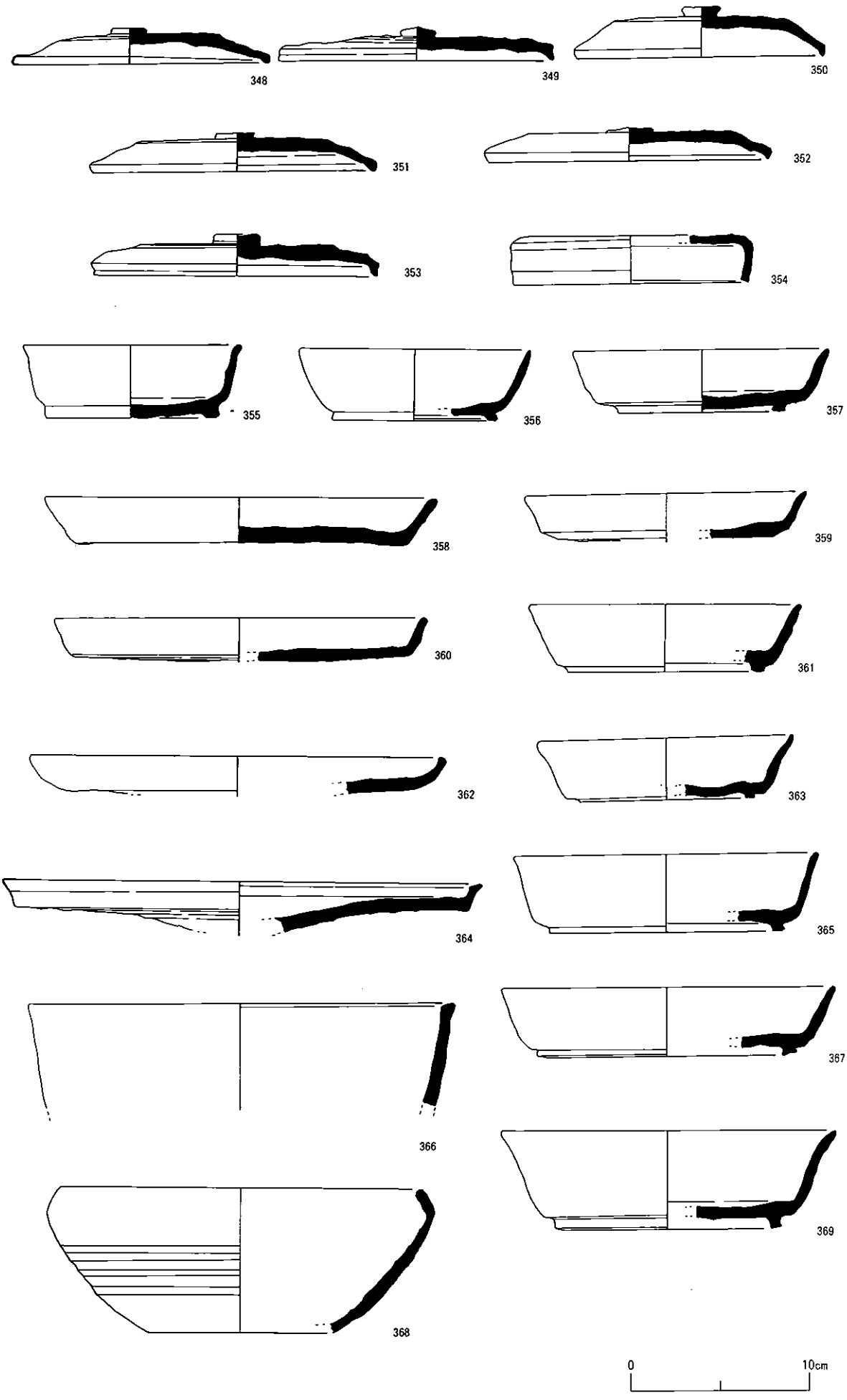
6・7号窯跡灰原・谷部出土遺物（1／3）



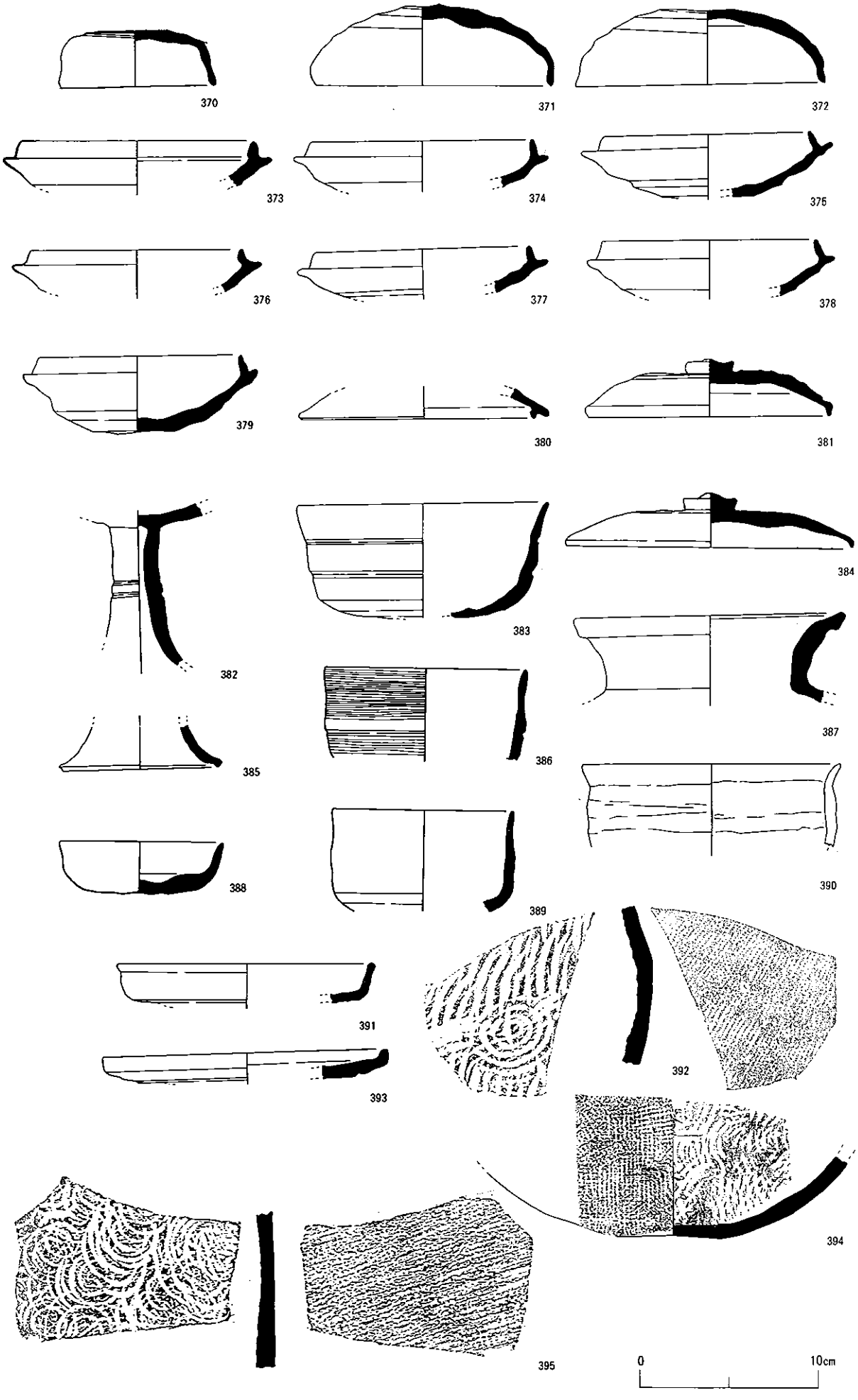
7号窯跡前庭部・灰原出土遺物実測図（1／3）


326
327
328
329
330
331
332
333A
333B
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
0
10cm

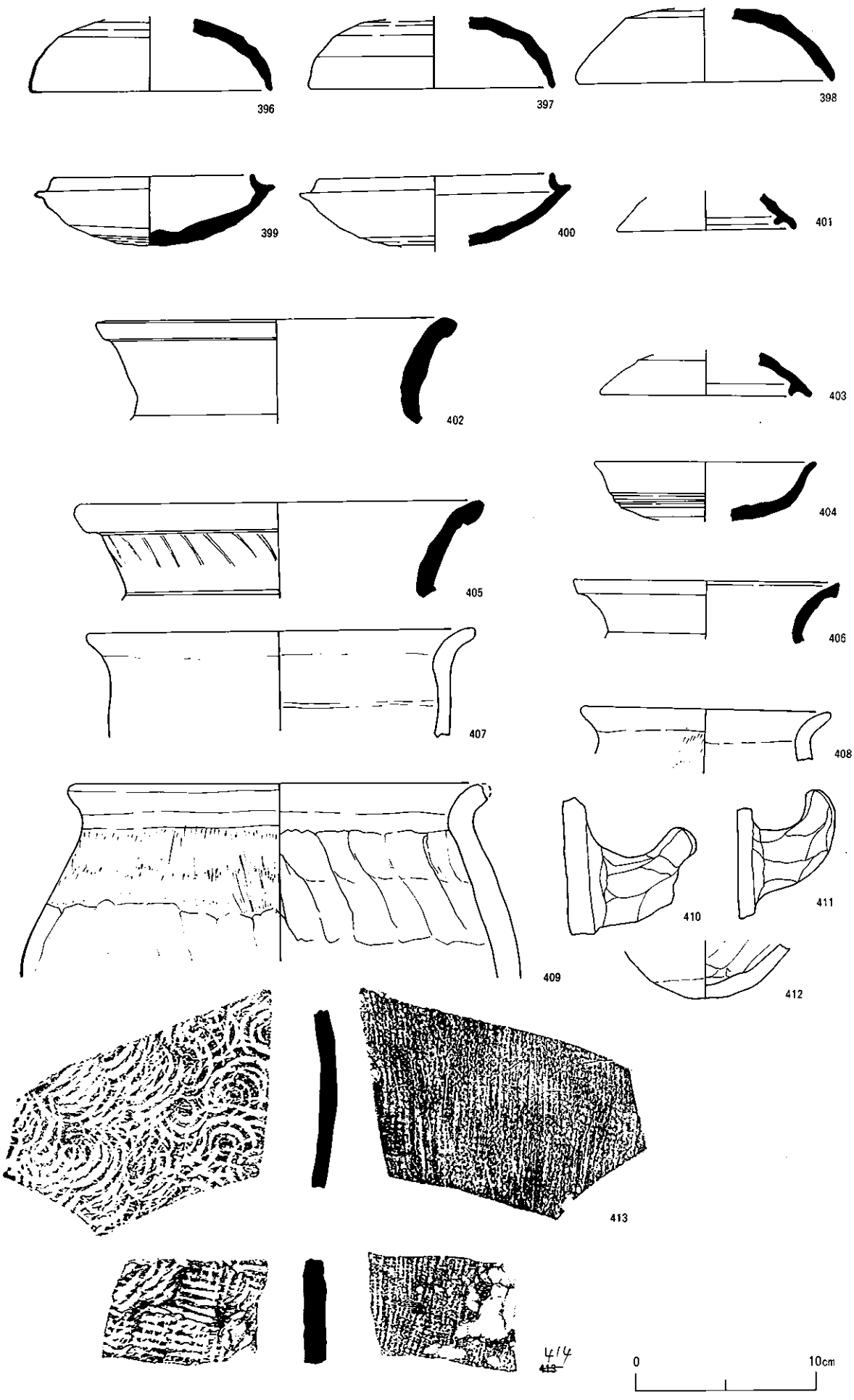
7号窯跡出土遺物（1／3）



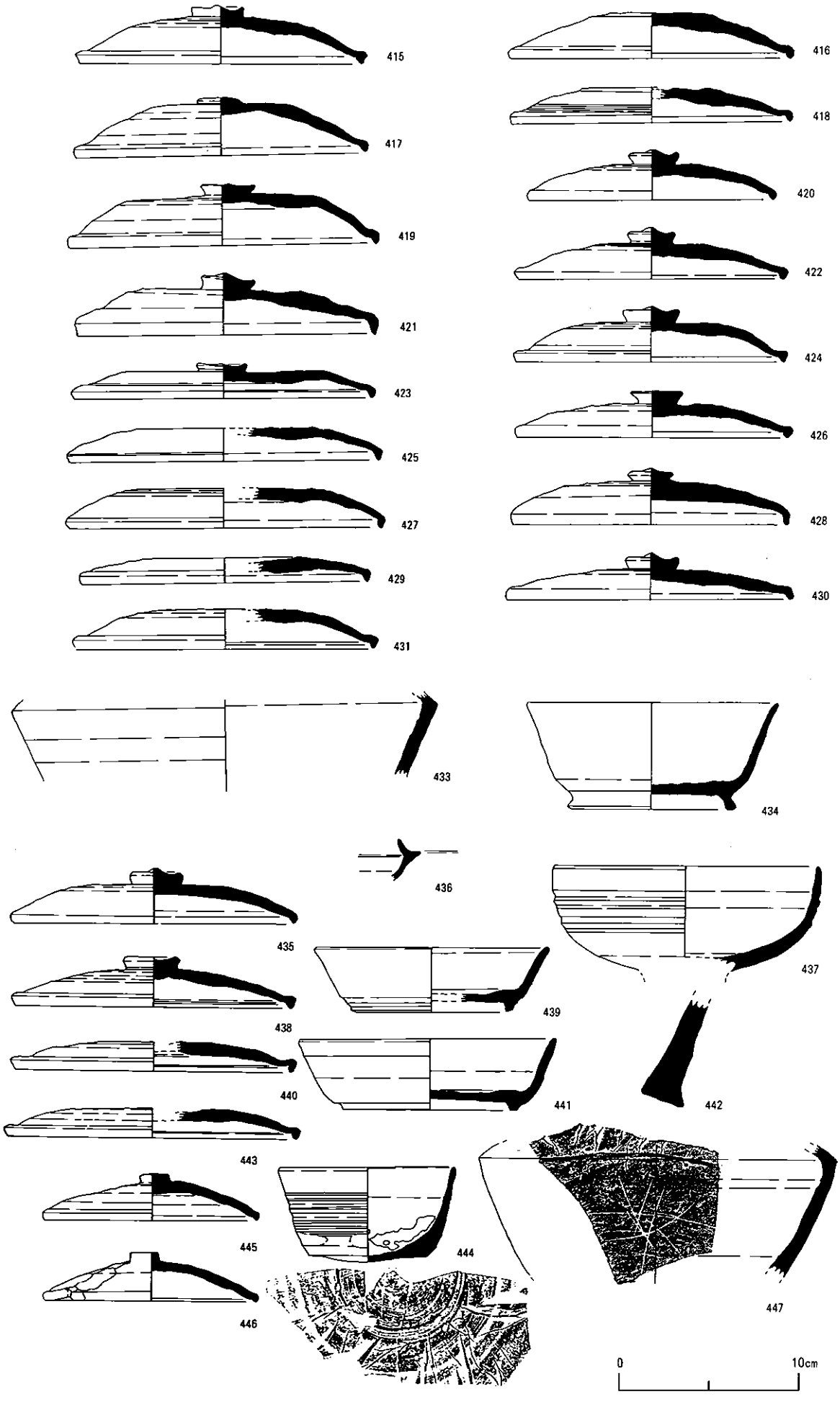
7号窯跡前庭部・灰原出土遺物（1／3）



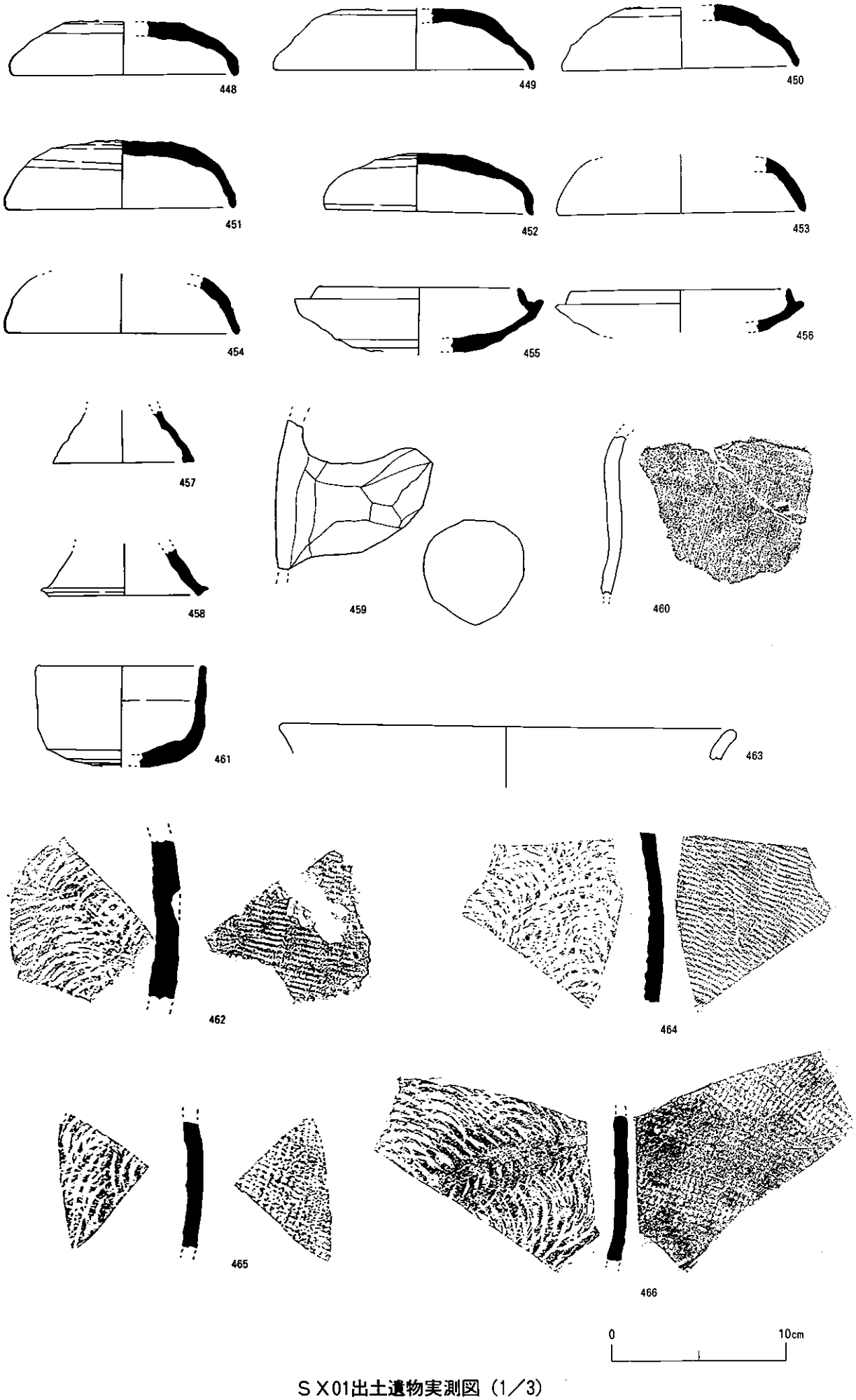
8・9号窯跡出土遺物実測図（1／3）



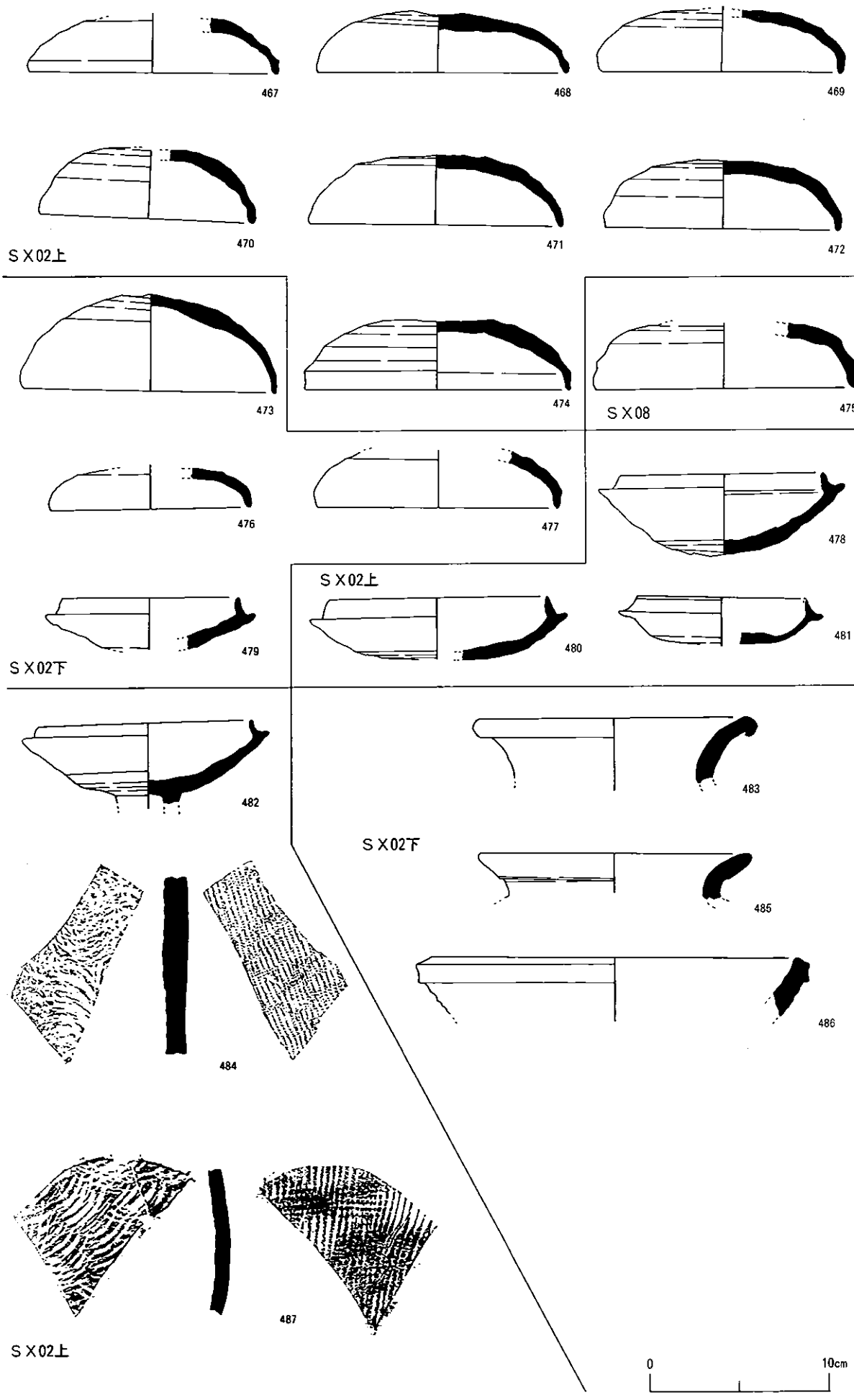
8・9号窯跡出土遺物実測図（1／3）



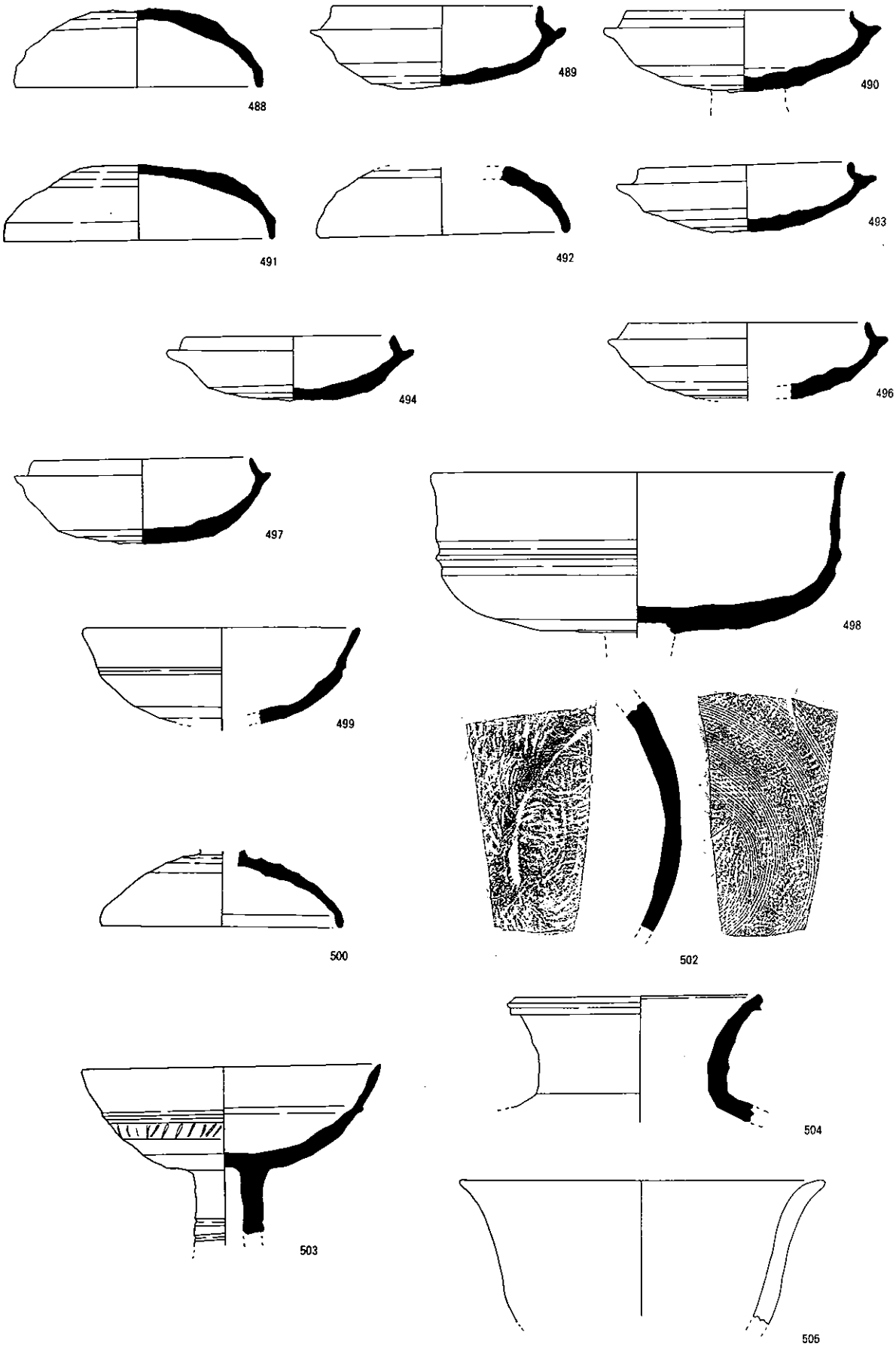
9号窯跡出土遺物実測図（1／3）



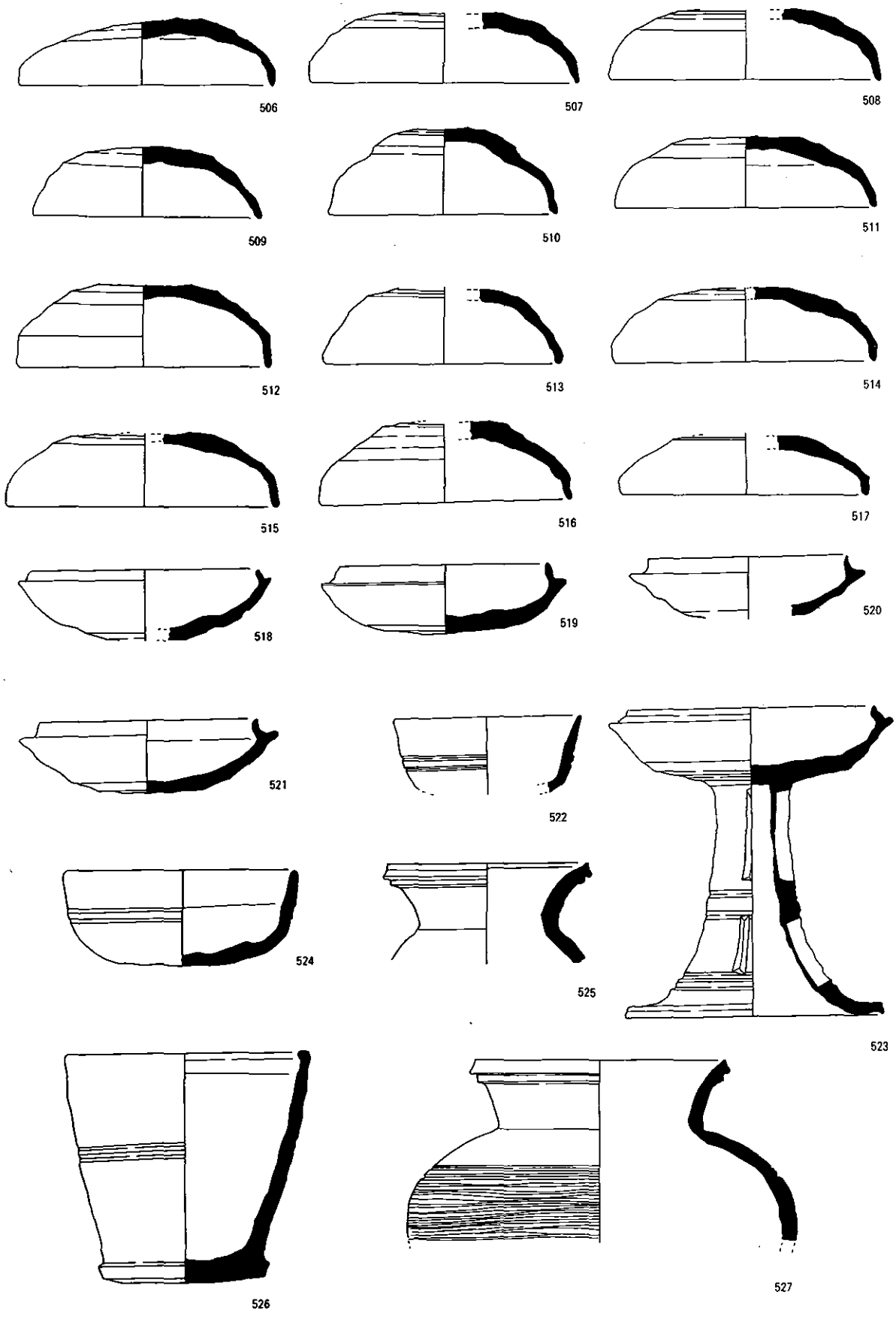
ＳＸ01出土遺物実測図（1／3）



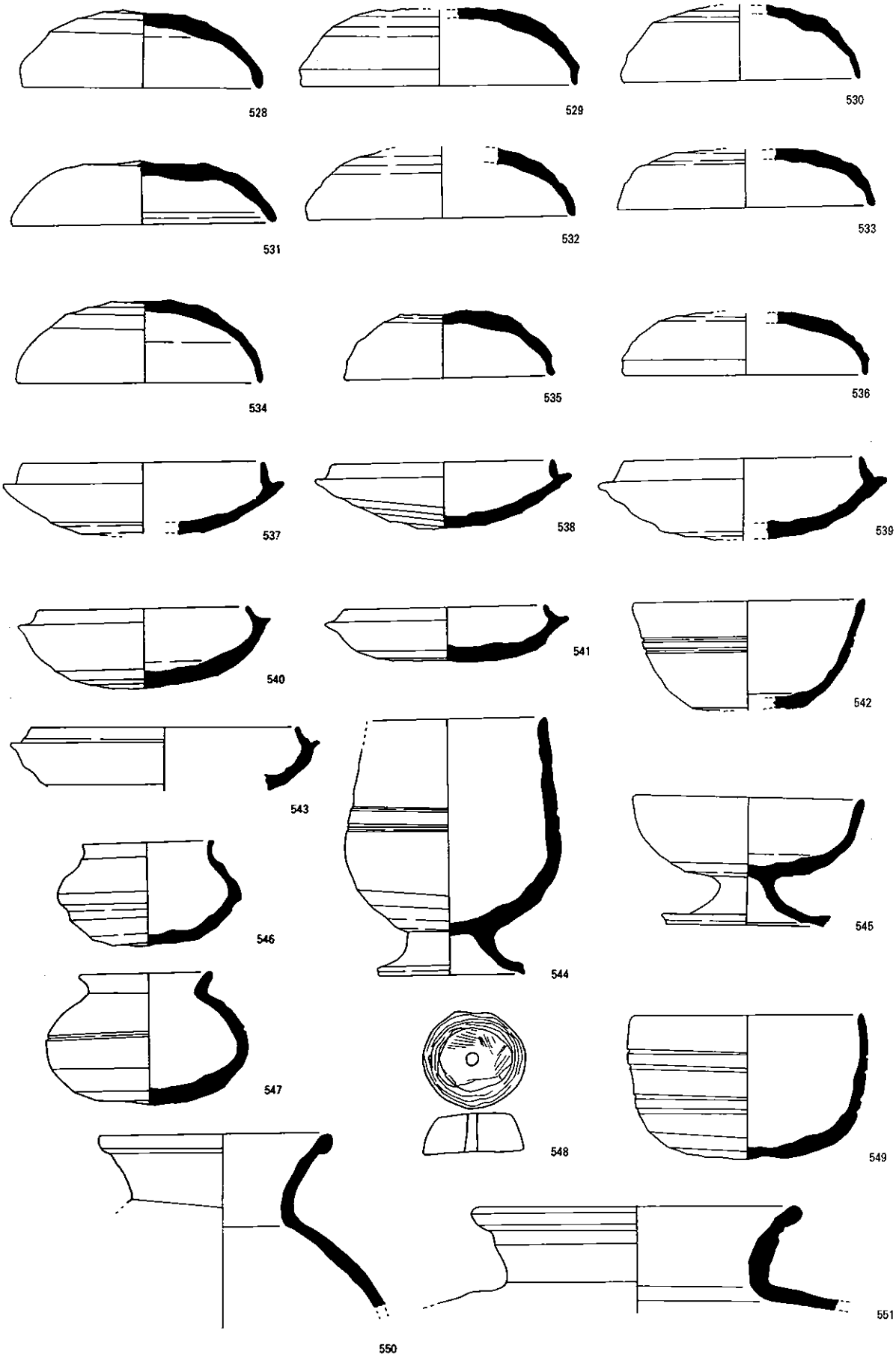
ＳＸ02上・下出土遺物実測図（1／3）



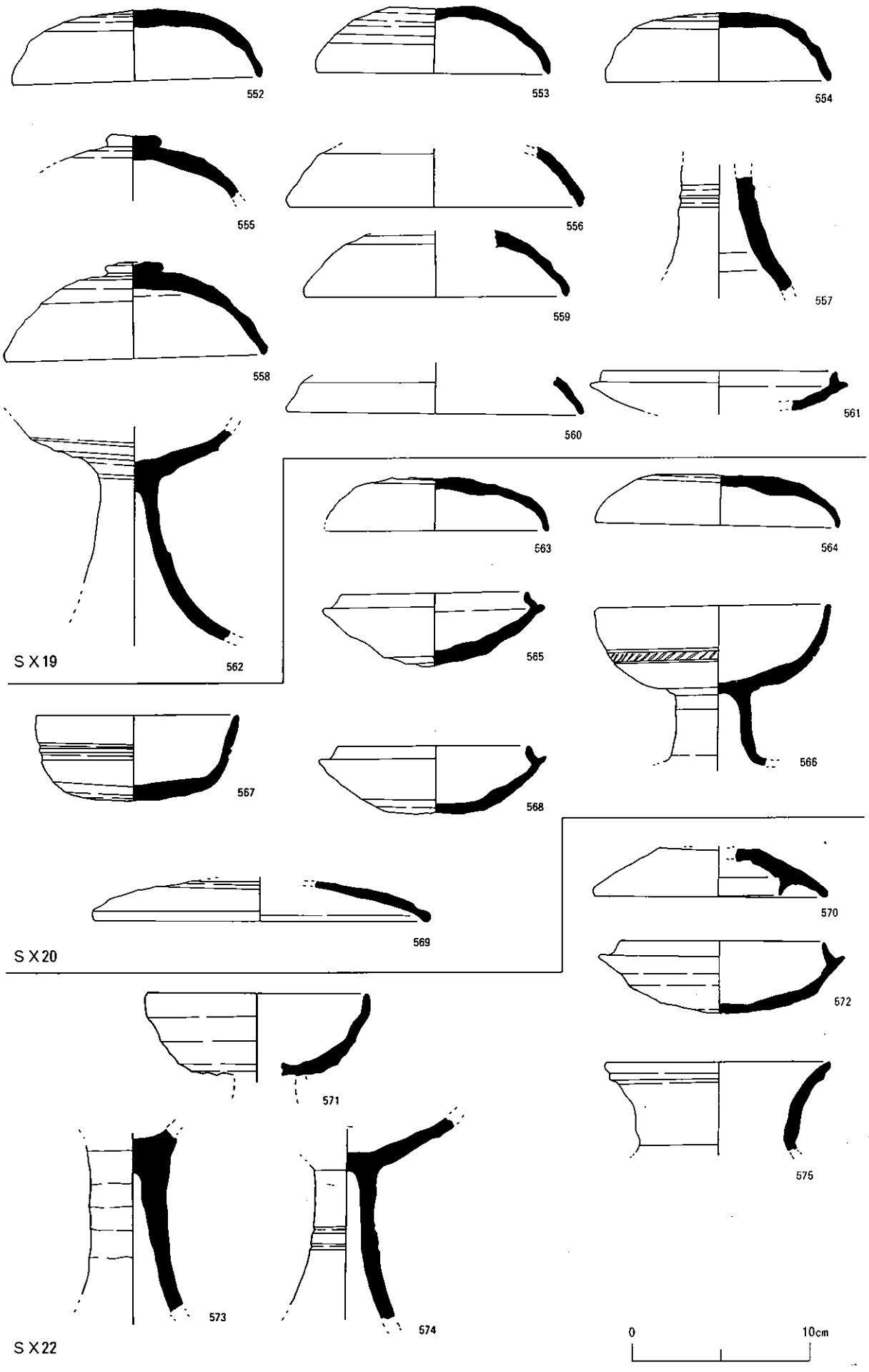
ＳＸ03出土遺物実測図（1／3）



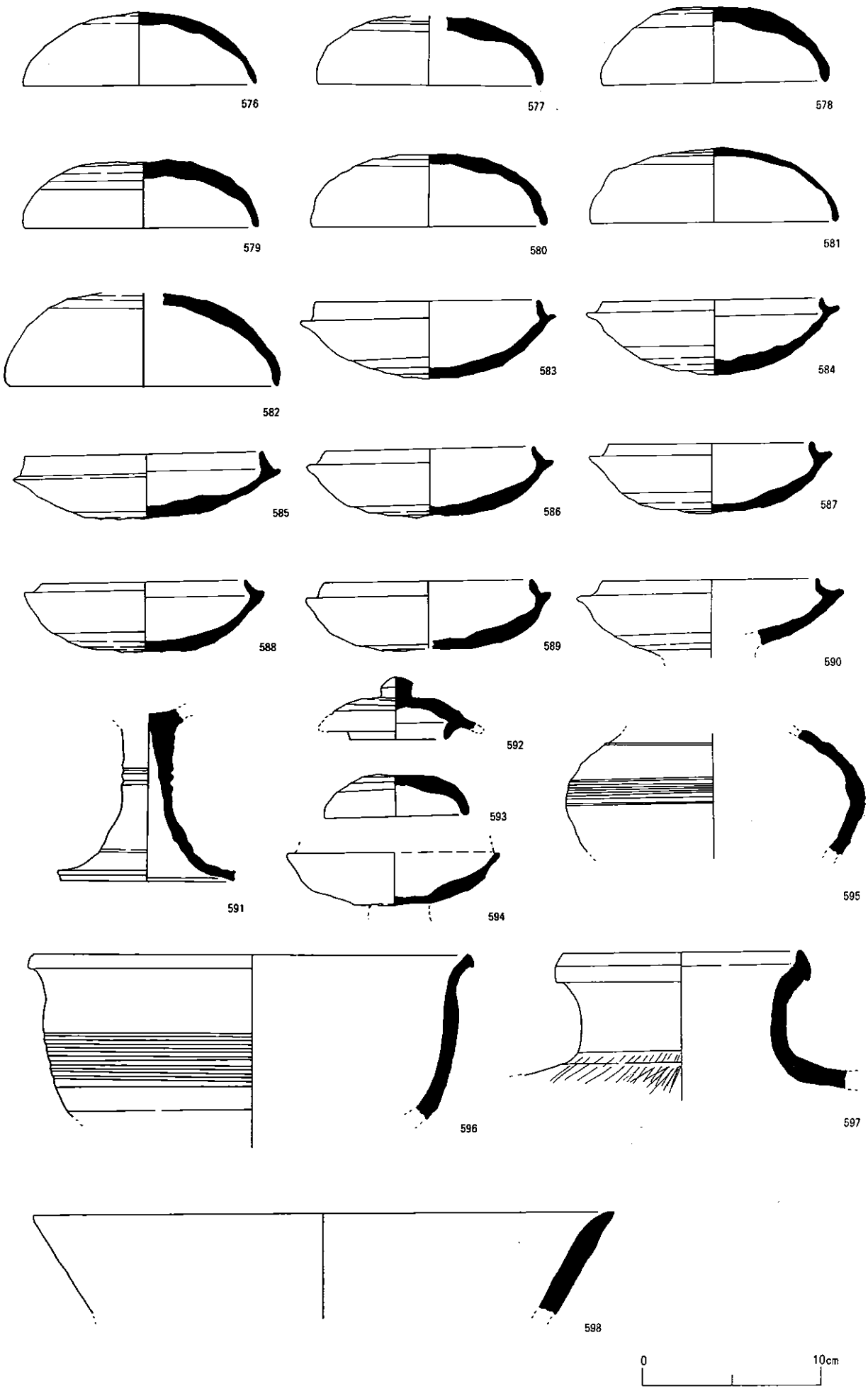
SX04・09出土遺物実測図（1／3）



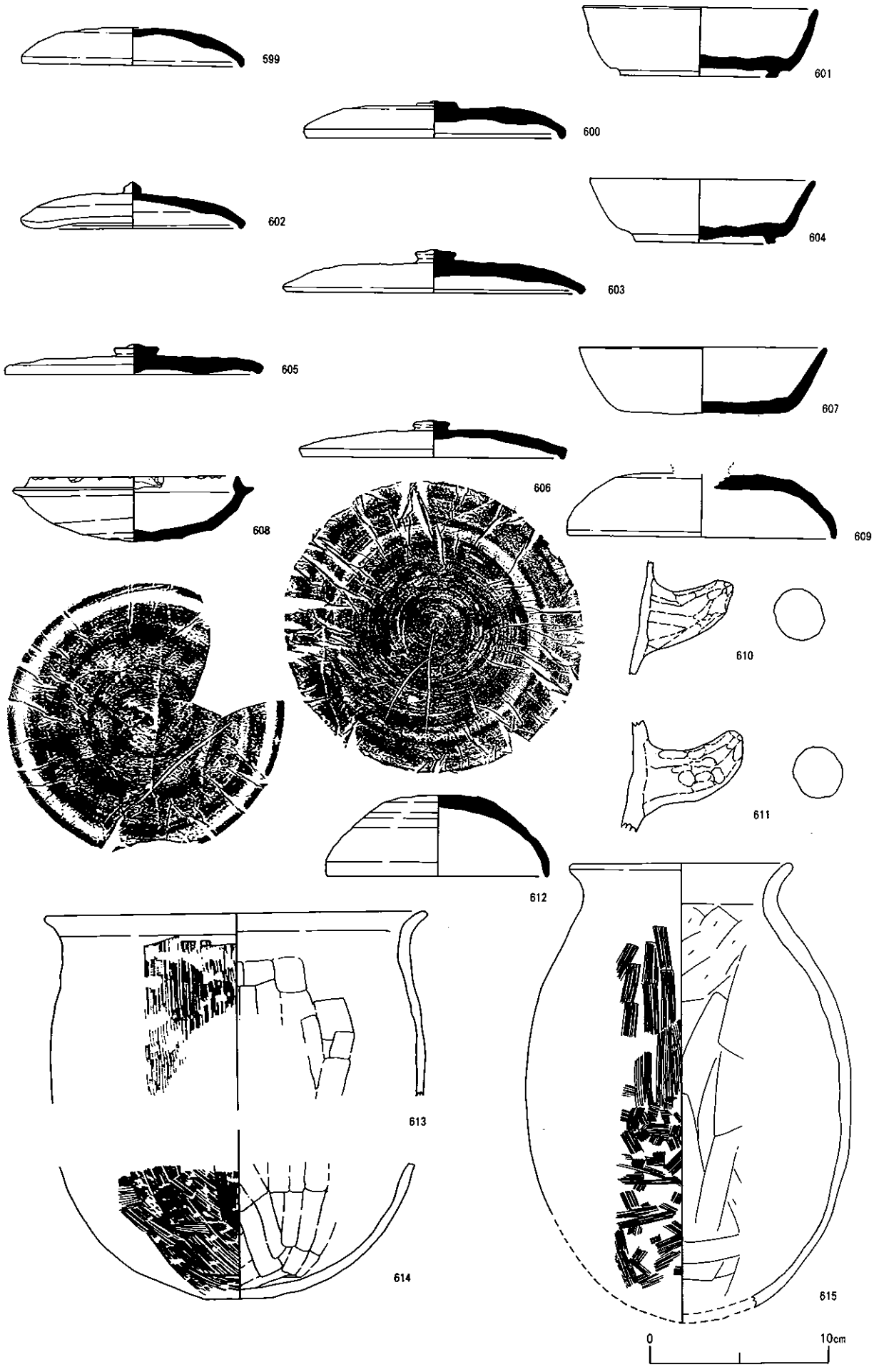
ＳＸ09出土遺物実測図（1／3）



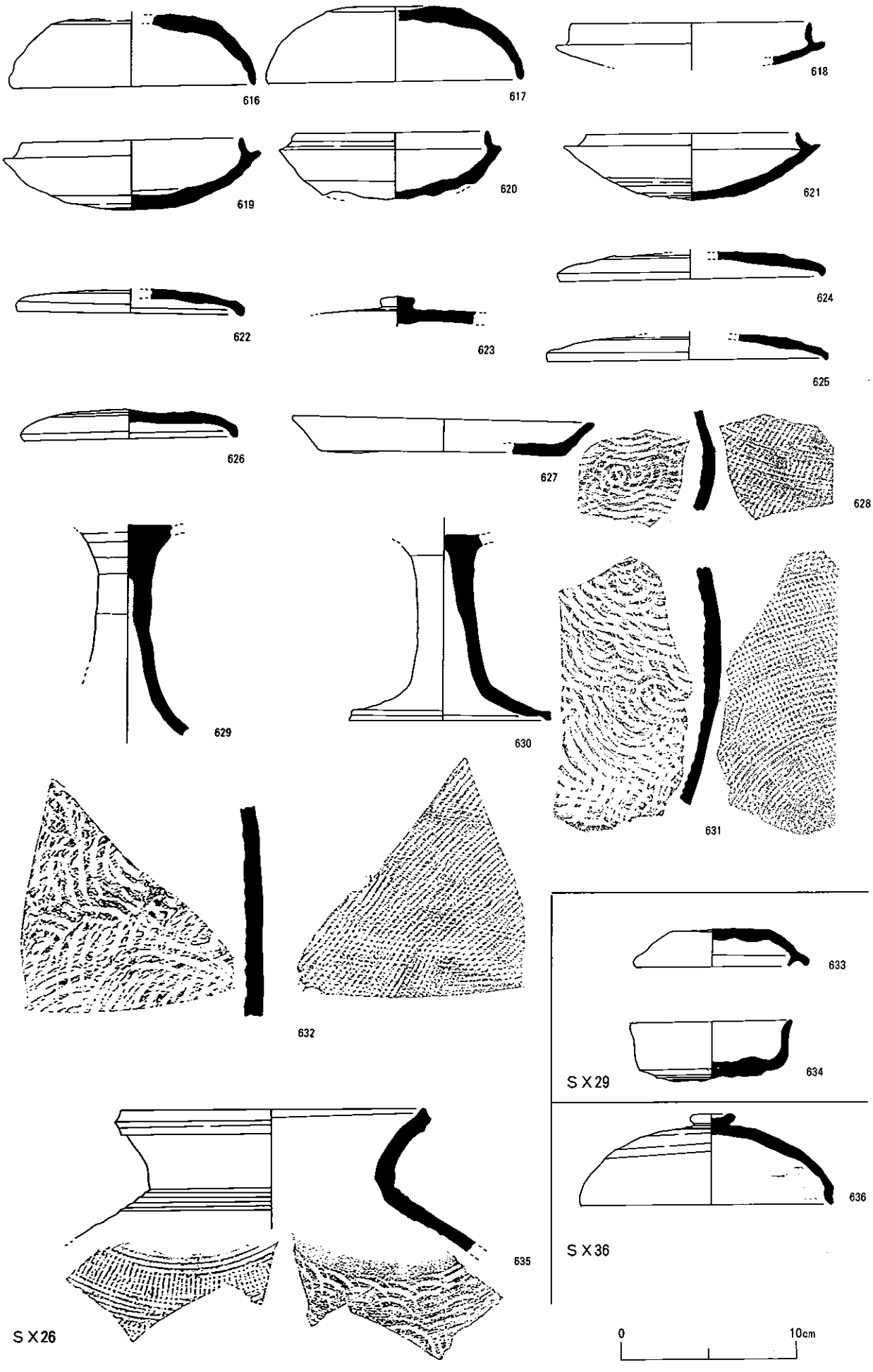
SX19・20・22出土遺物実測図（1／3）



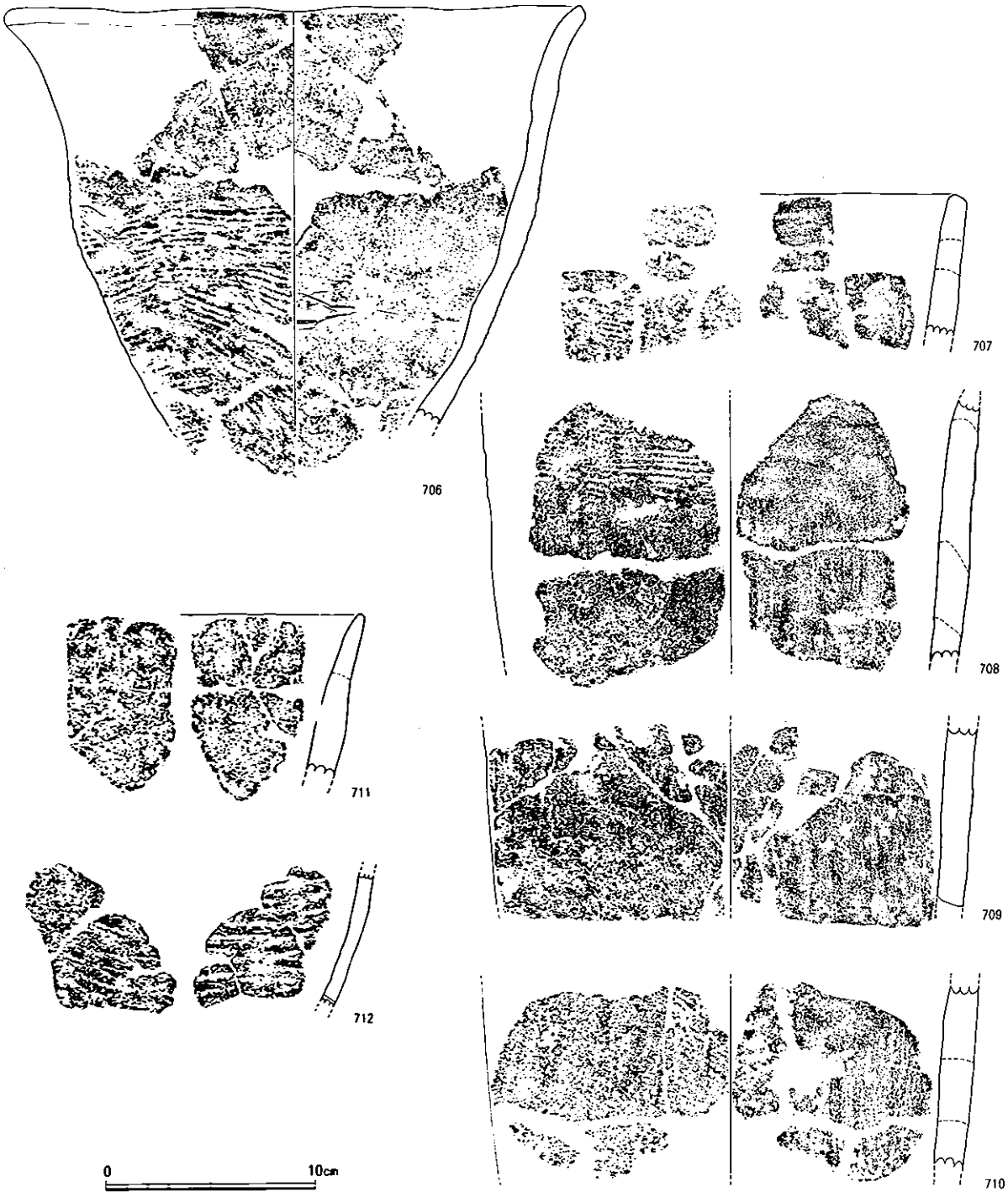
ＳＸ22出土遺物実測図（1／3）



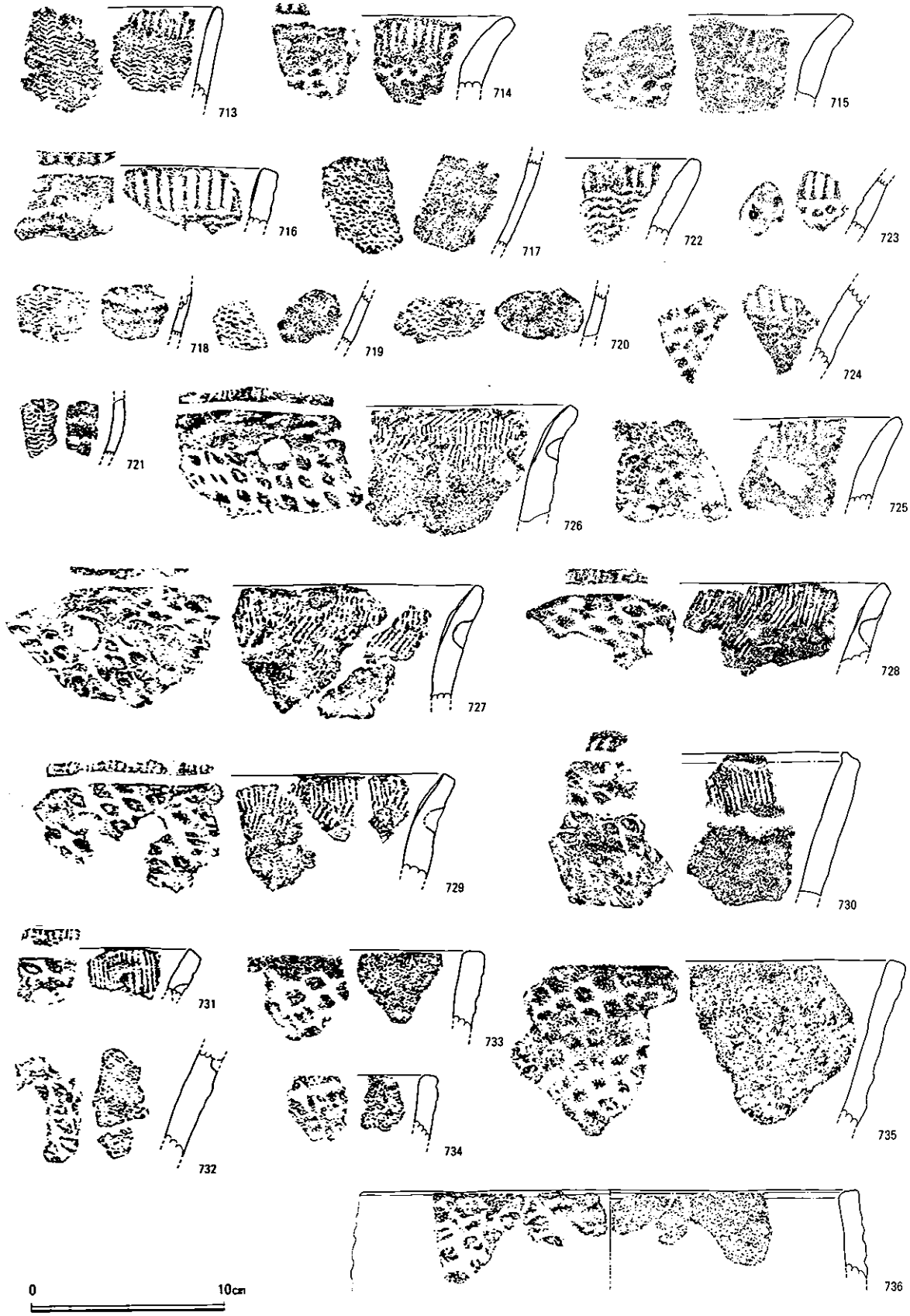
ＳＸ24出土遺物実測図（1／3）



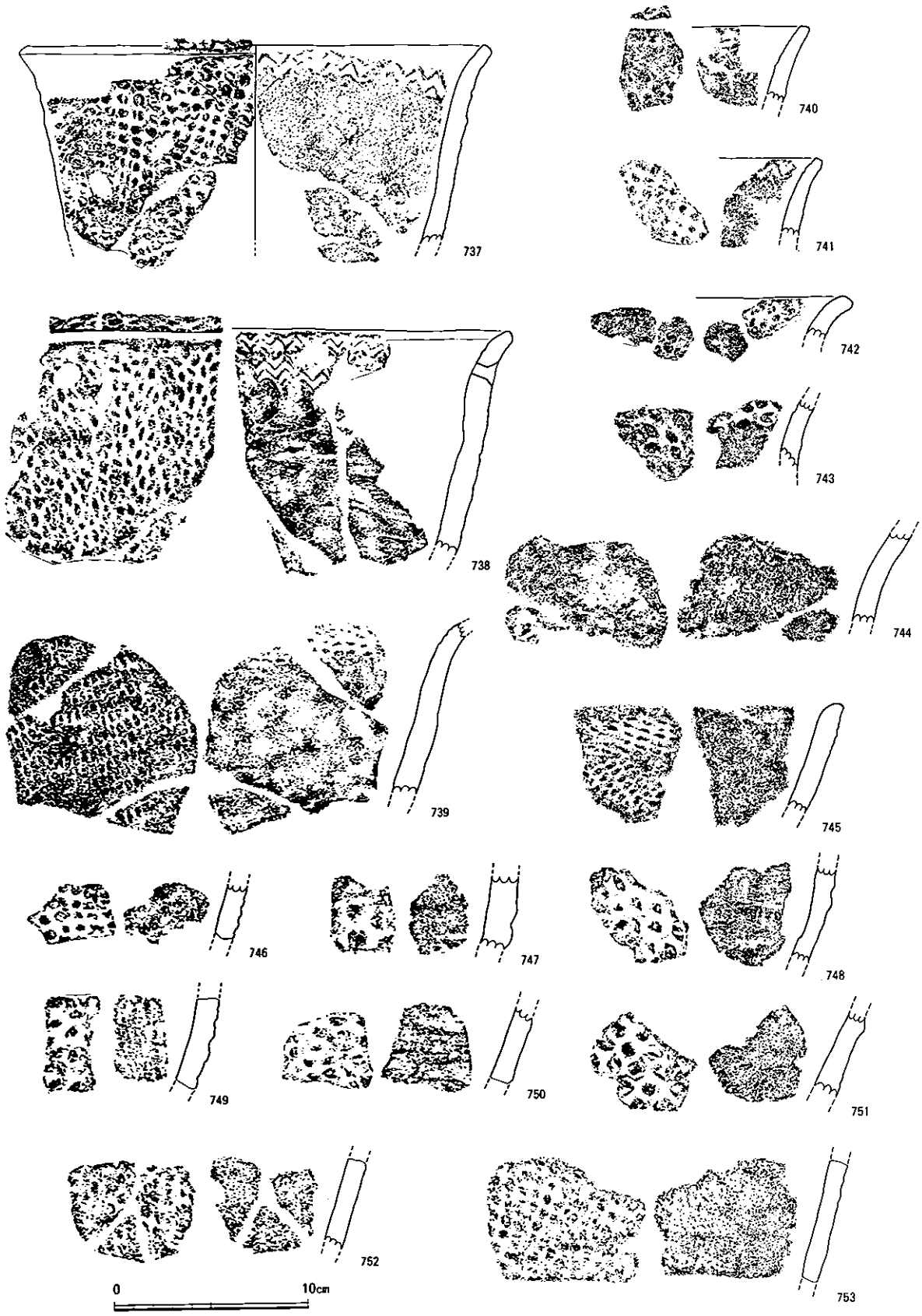
SX26・29・36出土遺物実測図（1／3）



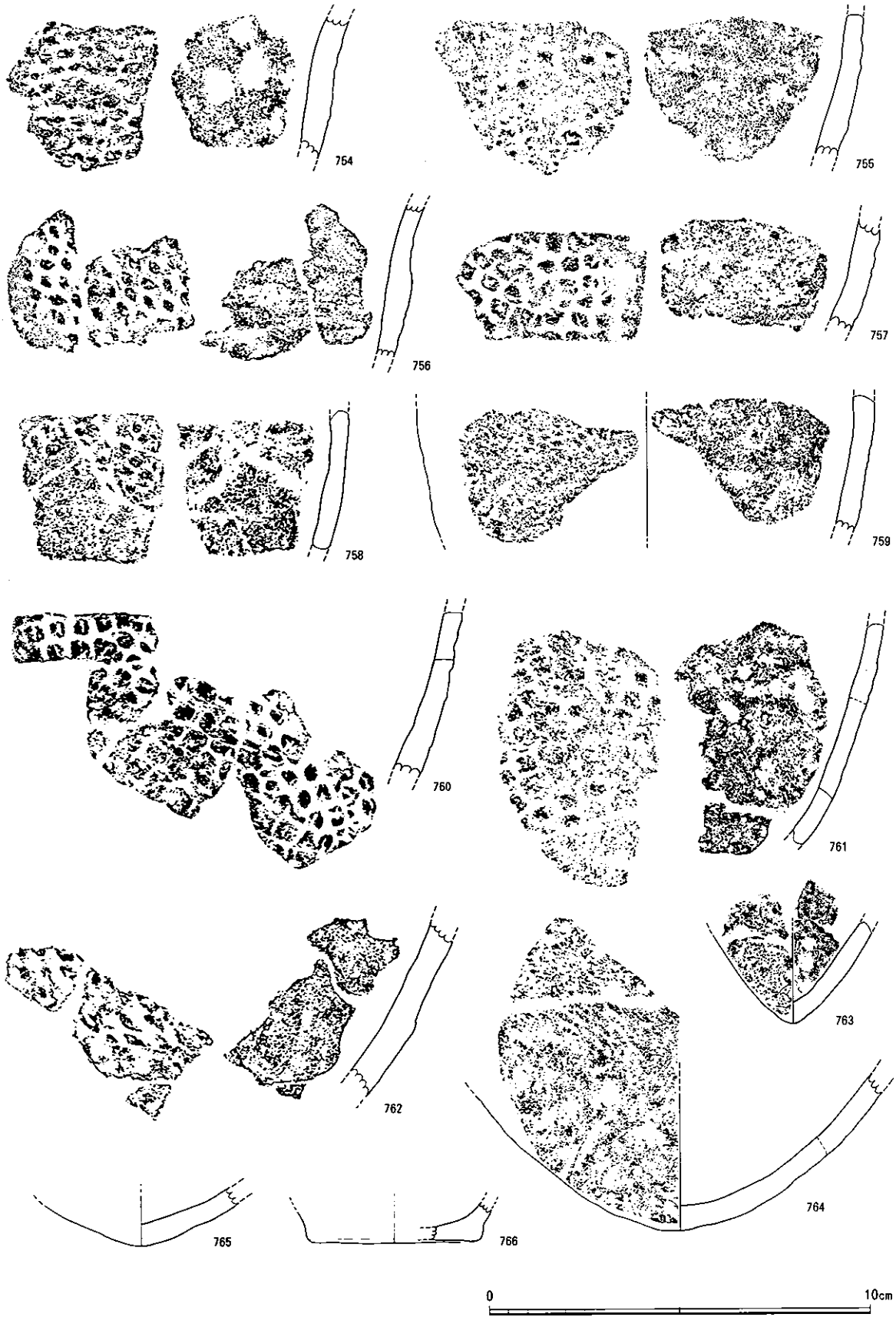
縄文土器実測図１（1／3）


713
714
715
716
717
722
723
718
719
720
724
721
726
725
727
728
729
730
731
733
732
734
735
736
0
10cm

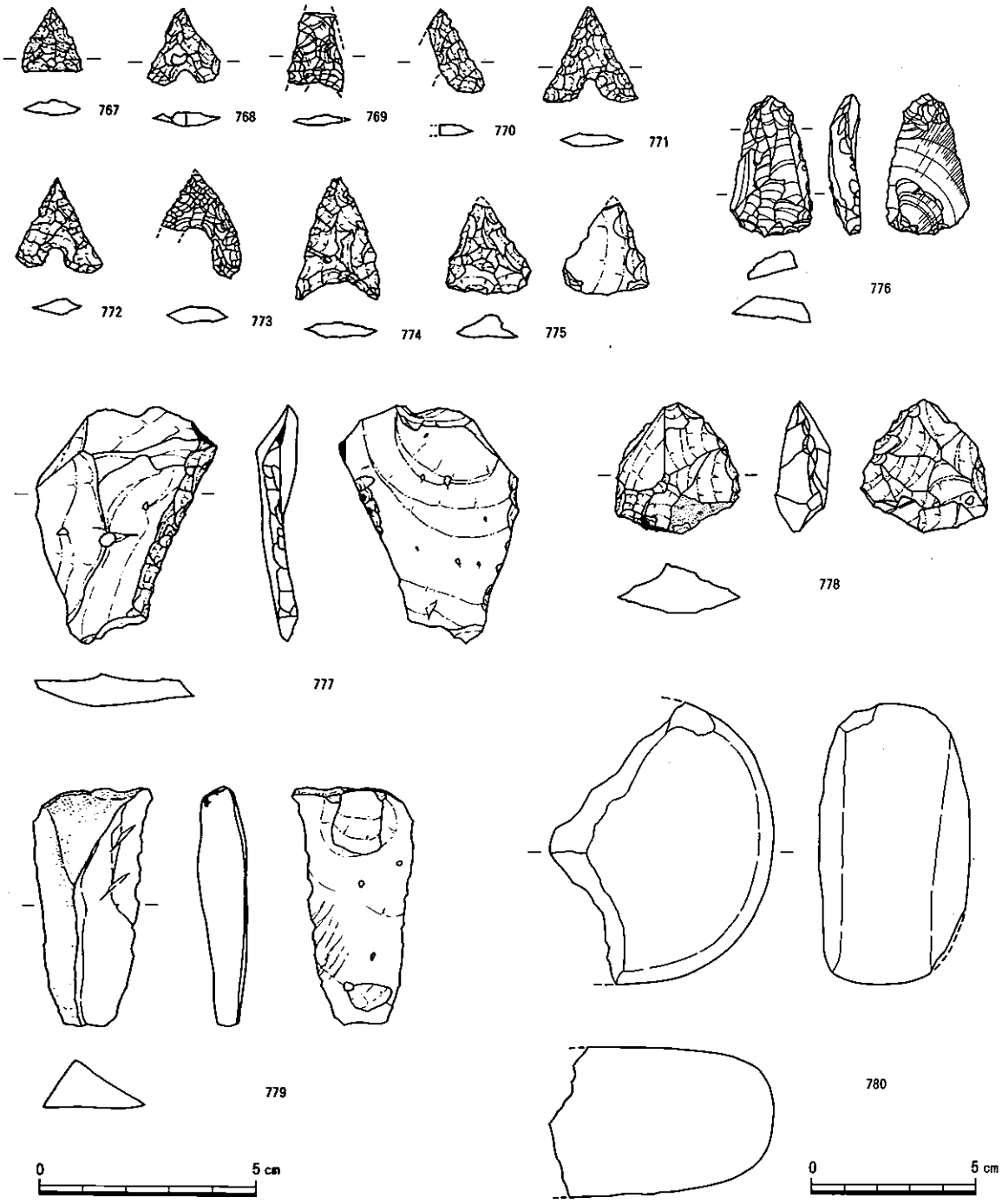
縄文土器実測図２（1／3）


737
740
741
738
742
743
744
739
745
746
747
748
749
750
751
752
753
0
10cm

縄文土器実測図３（1／3）



縄文土器実測図４（1／3）



石器実測図（780：1／2，その他：2／3）



1号窯跡周辺全景（南から）



1号窯跡前庭部全景（北西から）



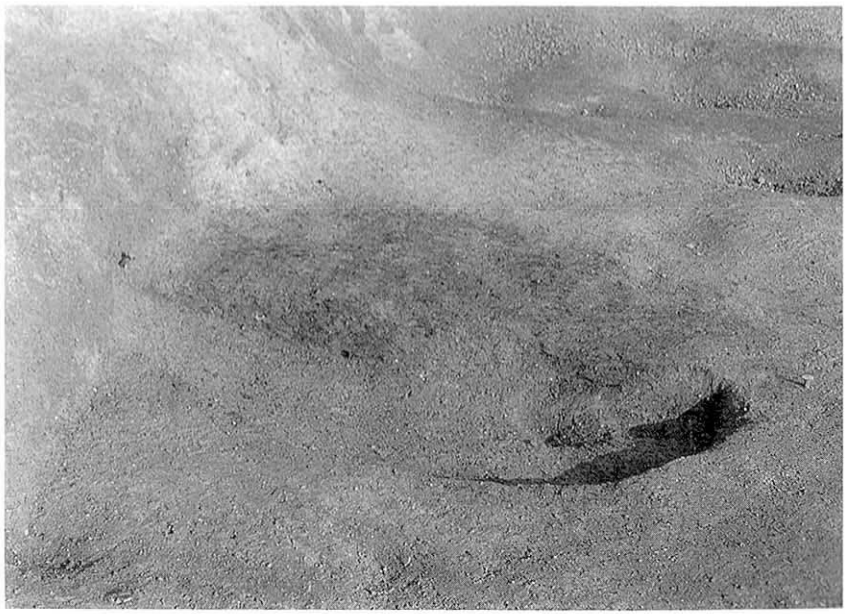
1号窯跡縦断面断割（東から）



1号窯跡灰原Ｅ－Ｅ′面土層（南東から）



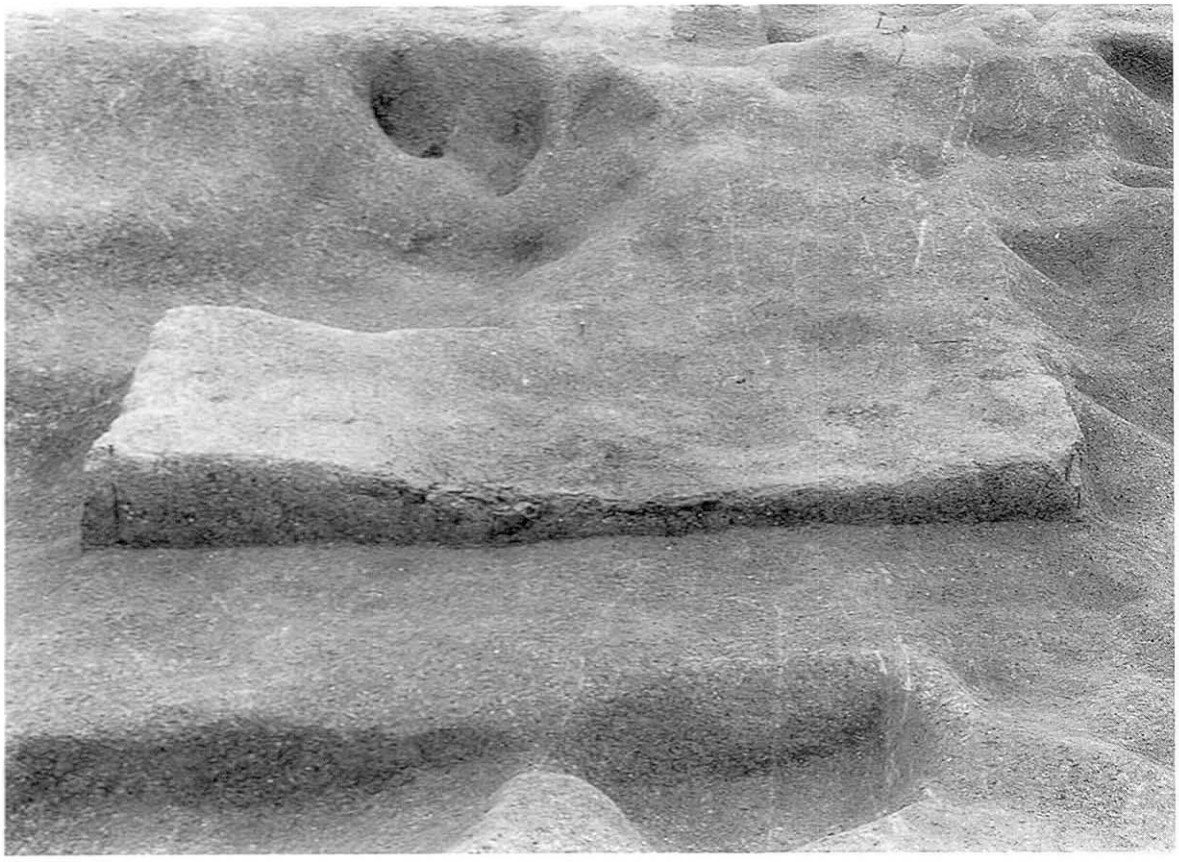
1号窯跡灰原Ｃ－Ｃ′面土層（北東から）



1号窯跡灰原下遺構焼土断割（南東から）



ＳＸ01全景（南から）



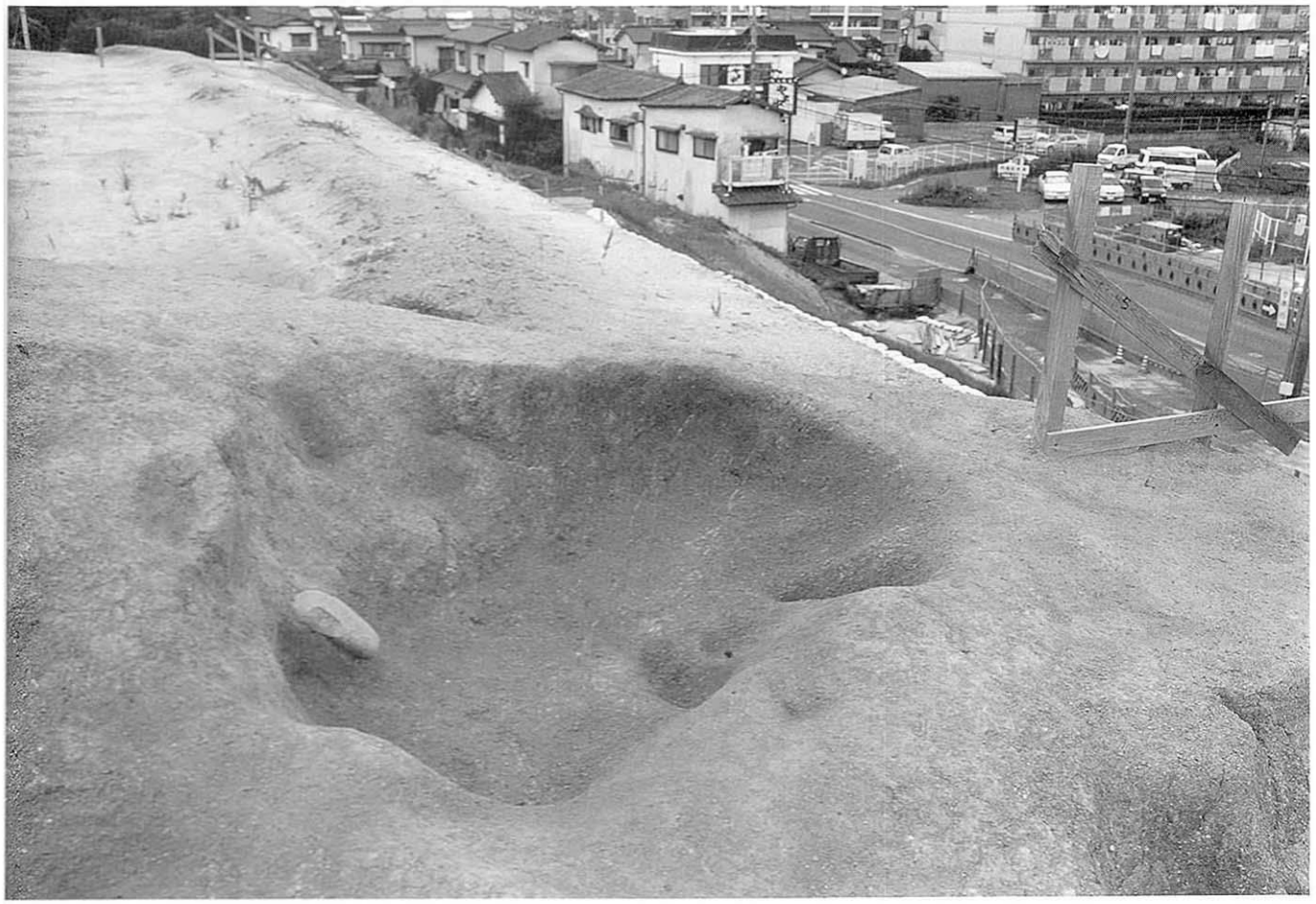
ＳＸ01カマド横断面④土層（南から）



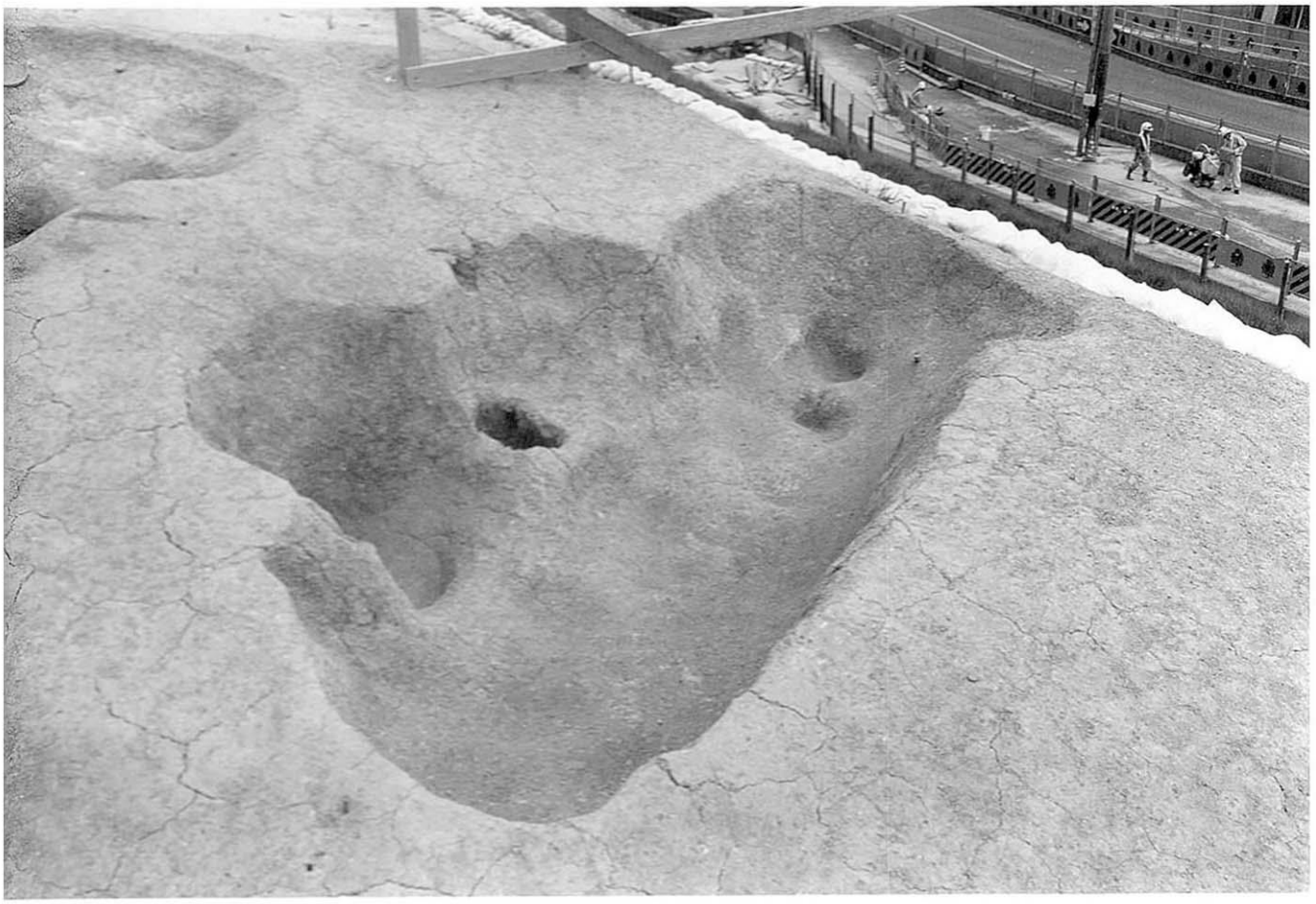
ＳＸ02上・下全景（南西から）



ＳＸ02上遺物出土状況（南西から）



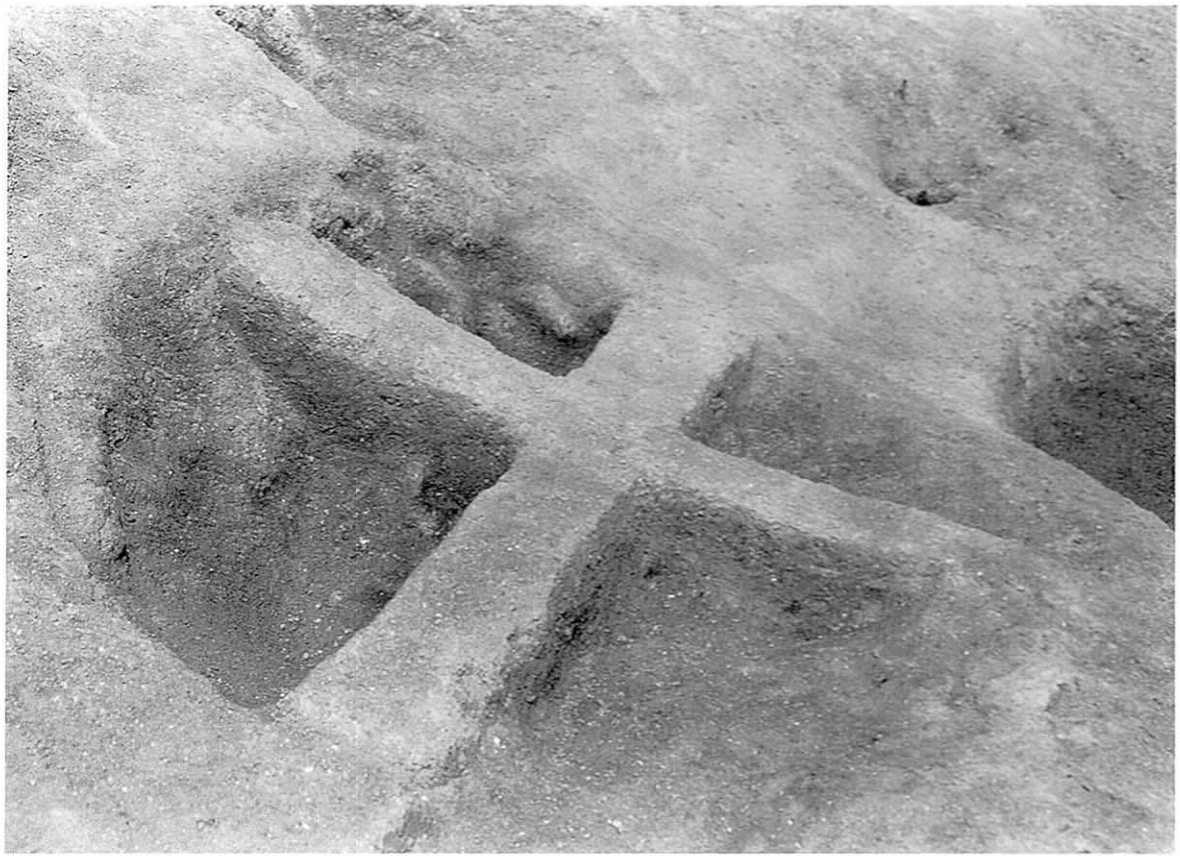
ＳＸ02上全景（南西から）



ＳＸ02下全景（南西から）



ＳＸ03カマド（南西から）



ＳＸ03カマドＢ－Ｂ′面土層（西から）



ＳＸ04カマド（東から）



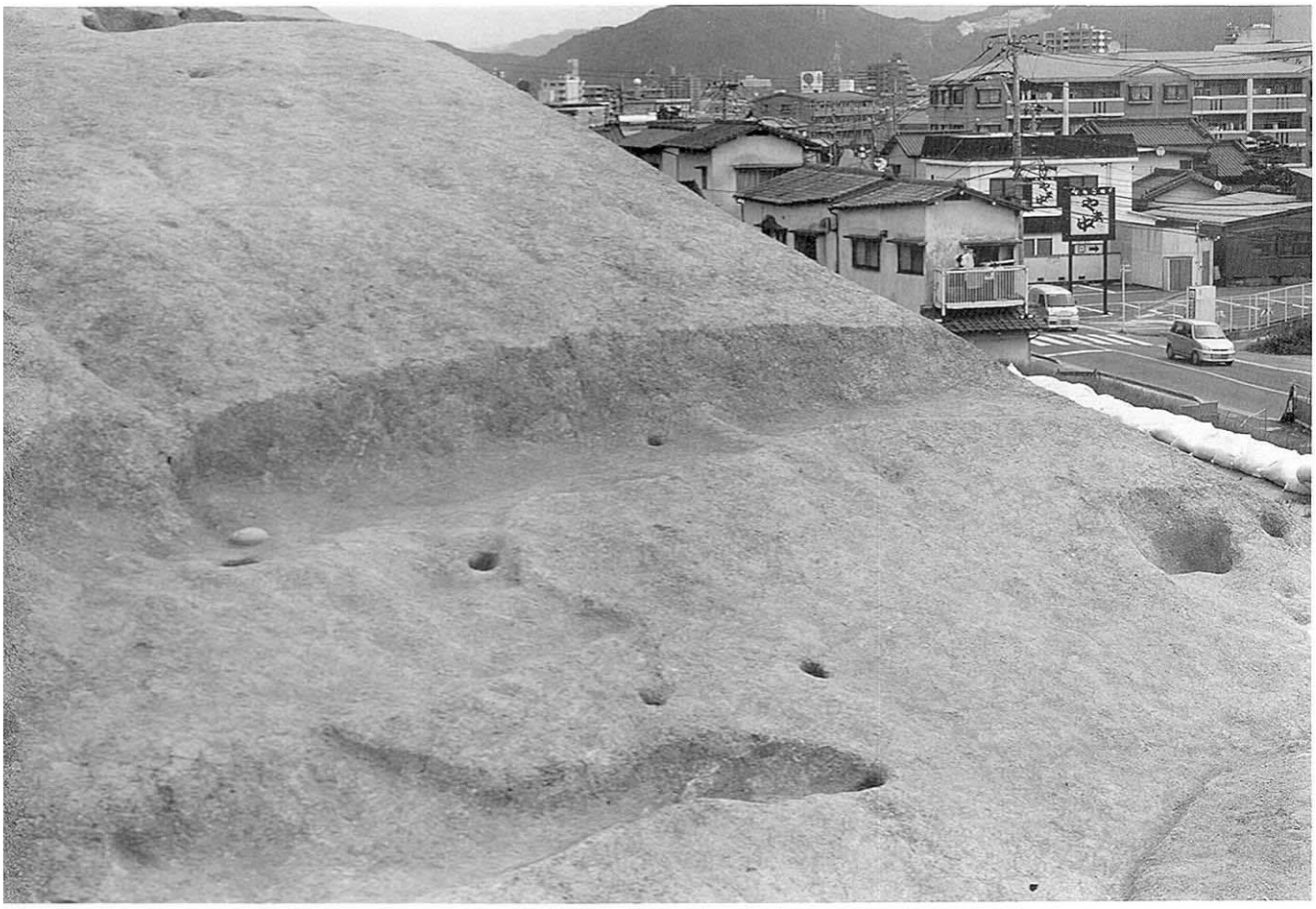
ＳＸ04カマドＪ－Ｊ′面土層（南東から）



ＳＸ04－１全景（南から）



ＳＸ03・04全景（南東から）



ＳＸ05全景（南西から）



ＳＸ06全景（南西から）



ＳＸ07全景（西から）



ＳＸ08全景（北から）



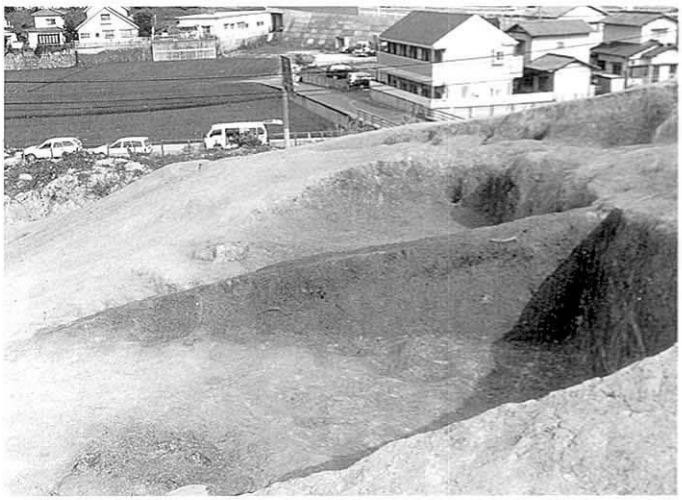
ＳＸ09全景（北東から）



ＳＸ09カマド検出状況（北から）



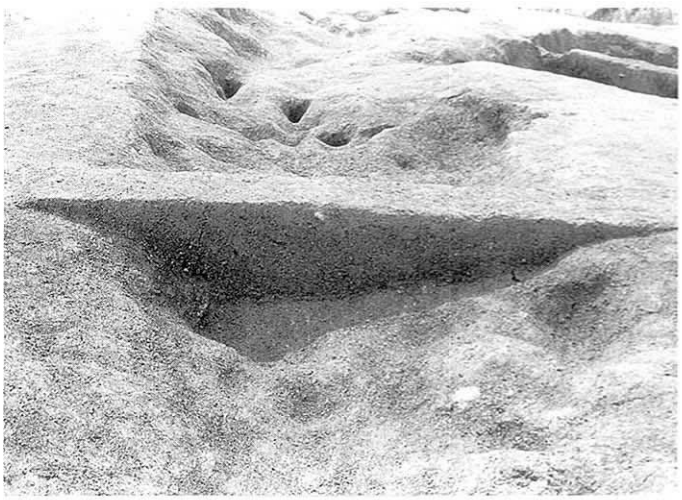
ＳＸ09カマド支脚出土状況（南から）



ＳＸ09Ｃ′′－Ｃ′面土層（北西から）



ＳＸ09カマドＡ－Ａ′面土層（南東から）



ＳＸ10Ｆ－Ｆ′面土層（東から）



１・２区間谷部調査風景（北から）



ＳＸ11全景（北から）



ＳＸ21周辺全景（北東から）



ＳＸ21全景（東から）



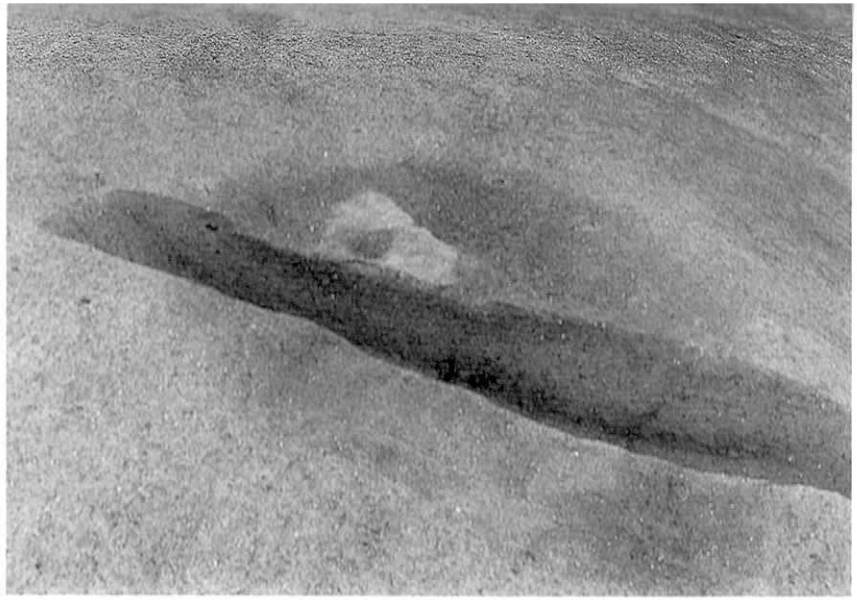
ＳＸ21全景（南東から）



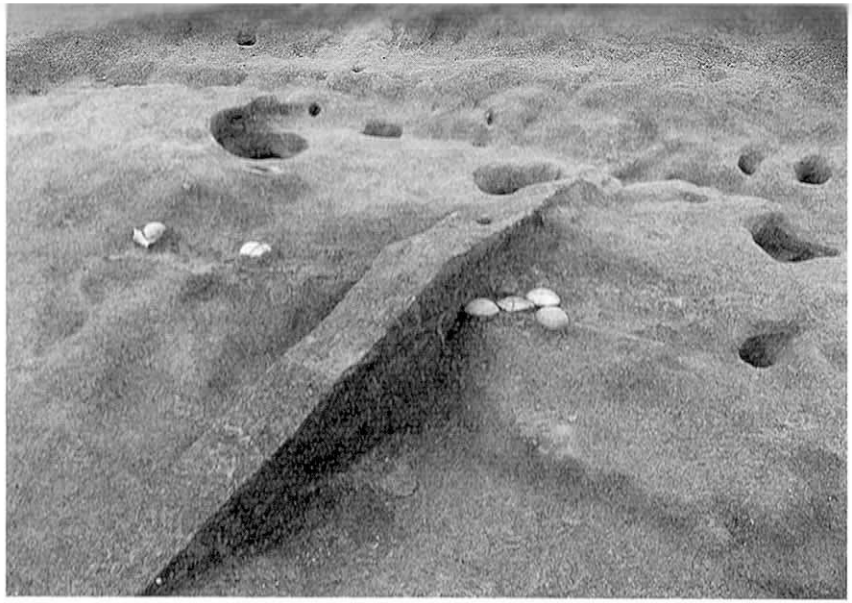
ＳＸ22周辺全景（南西から）



ＳＸ22全景（西から）



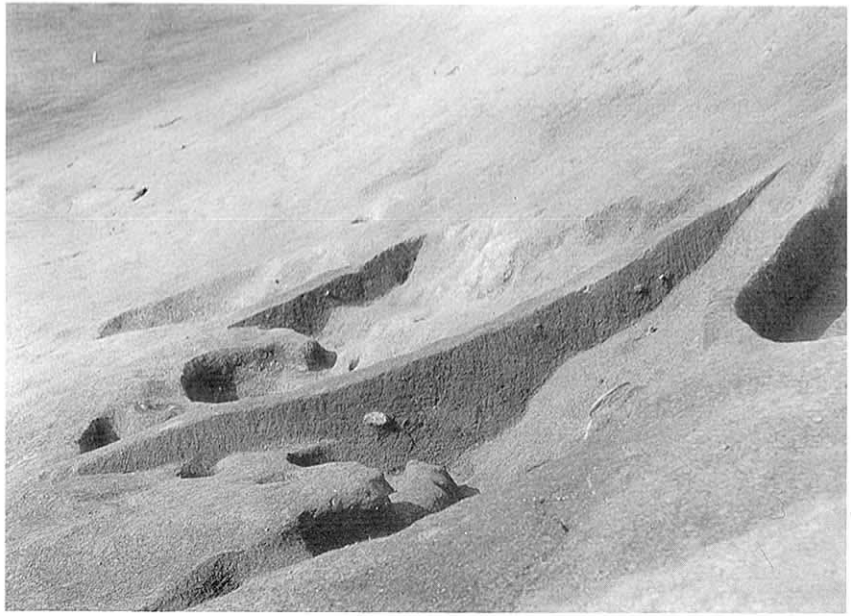
ＳＸ21断割（東から）



ＳＸ22遺物出土状況（南から）



ＳＸ22焼土検出状況（北西から）



ＳＸ22Ｃ－Ｃ′面土層（南東から）



2～5号窯跡灰原検出状況（南から）



2～5号窯跡灰原2・3区間土層（南東から）



2～5号窯跡灰原1・2区間土層（南東から）



6号窯跡焚口部遺物出土状況（南西から）



6号窯跡A－A′面土層（南西から）



6号窯跡煙道部縦断面土層（南東から）



6号窯跡焚口部縦断面土層（西から）



6号窯跡C－C'面土層（南西から）



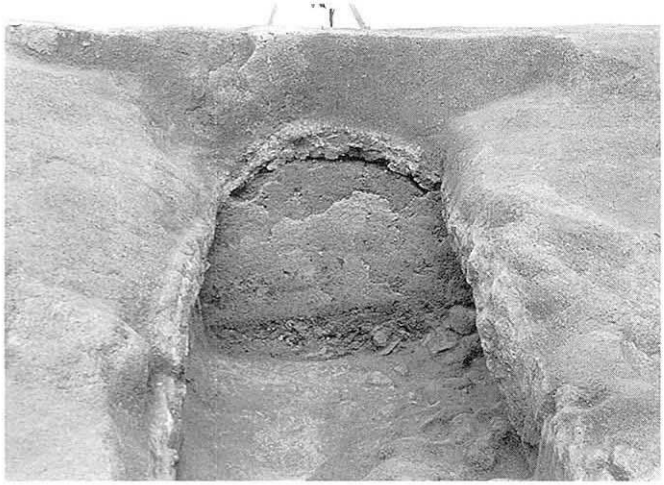
6号窯跡灰原縦断面土層（南東から）



6号窯跡灰原横断面土層（南西から）



7号窯跡焼成部～煙道部土層（西から）



7号窯跡Ｂ－Ｂ′面土層（南西から）



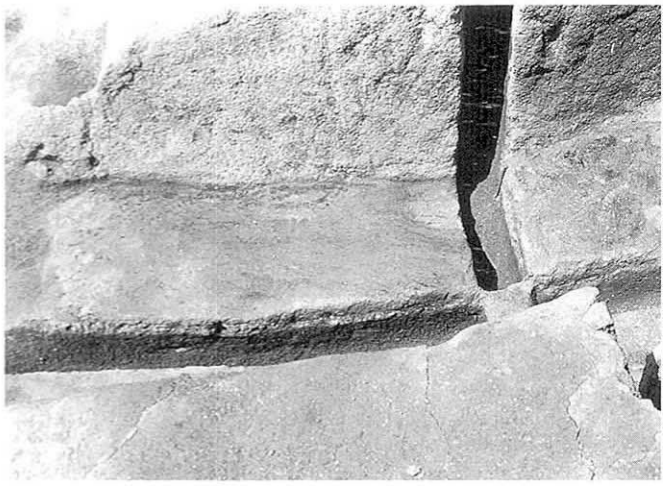
7号窯跡焼成部縦断面土層（西から）



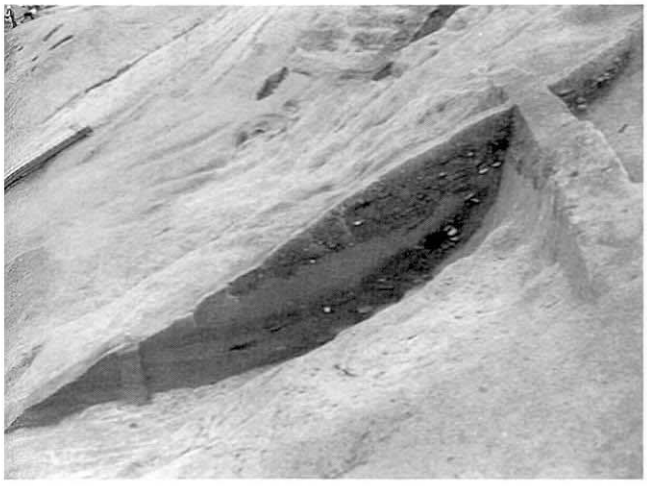
7号窯跡Ｄ－Ｄ′面土層（南西から）



7号窯跡焚口部縦断面土層（北西から）



7号窯跡焚口部縦断面断割（南東から）



7号窯跡灰原縦断面土層①（南東から）



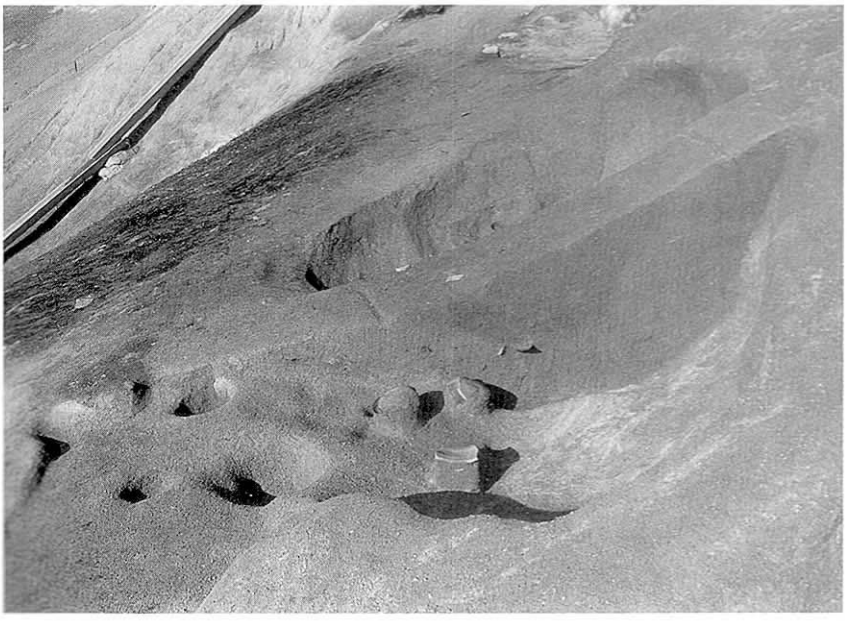
7号窯跡灰原縦断面土層②（南東から）



7号窯跡灰原横断面土層（南西から）



7号窯跡前庭部左土層（南東から）



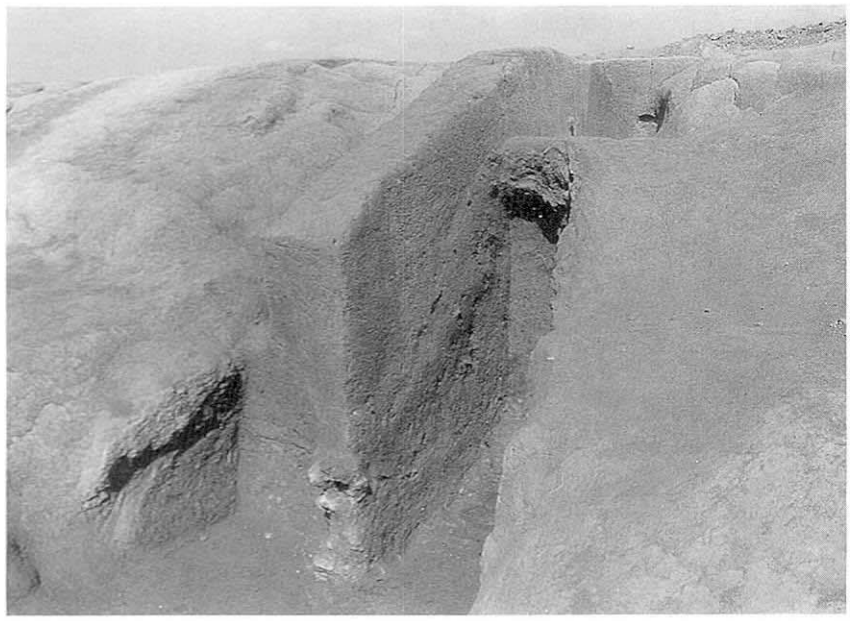
7号窯跡前庭部右土層（南東から）



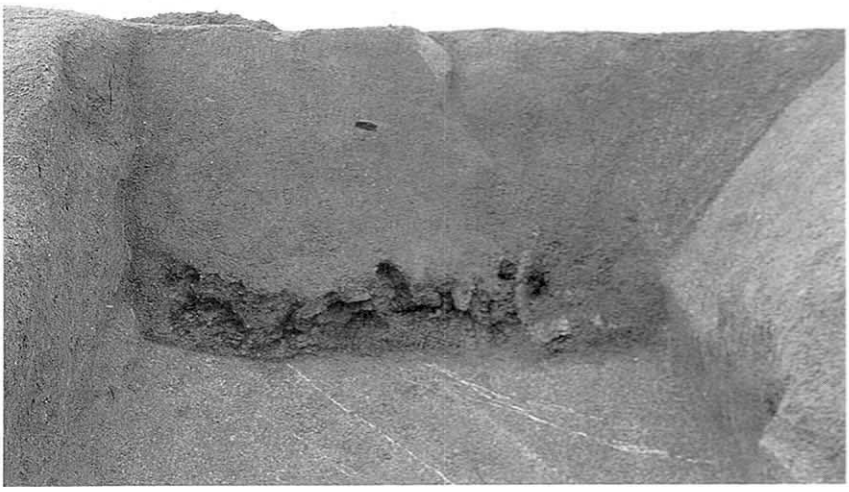
8号窯跡焼成部縦断面土層（南東から）



8号窯跡焼成部縦断面土層（南東から）



8号窯跡焚口部縦断面土層（南東から）



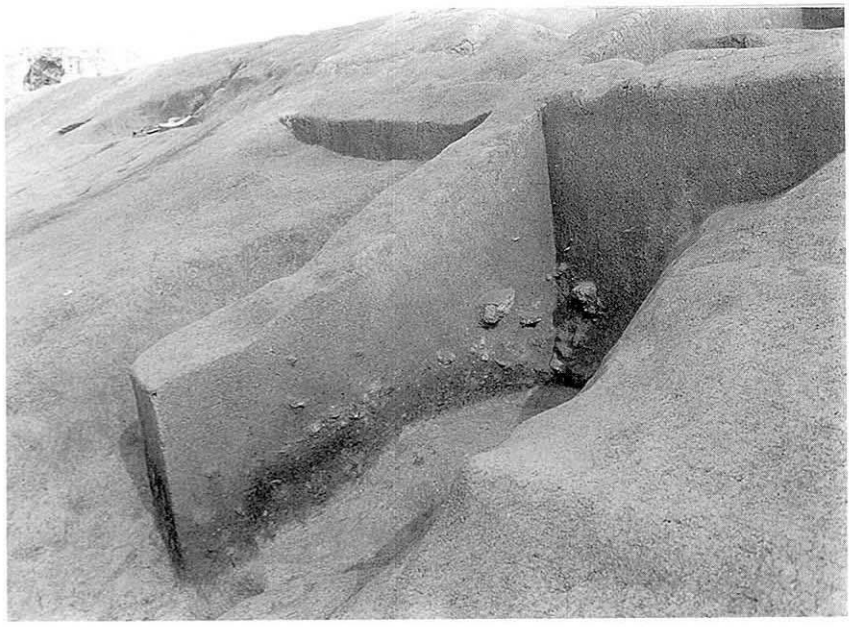
8号窯跡C－C´面土層（南西から）



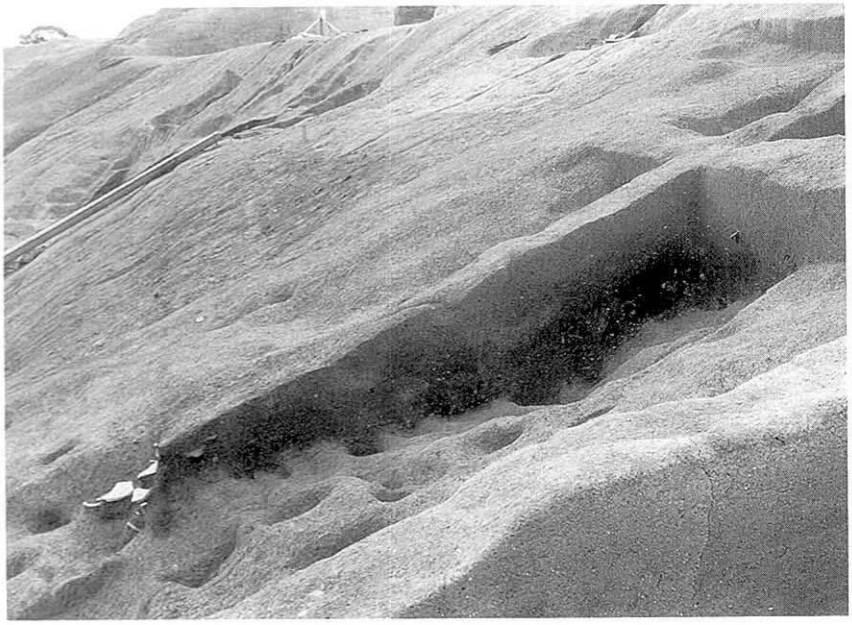
8号窯跡B－B´面土層（南西から）



8号窯跡横断面土層（南西から）



8号窯跡焚口部縦断面土層（南東から）



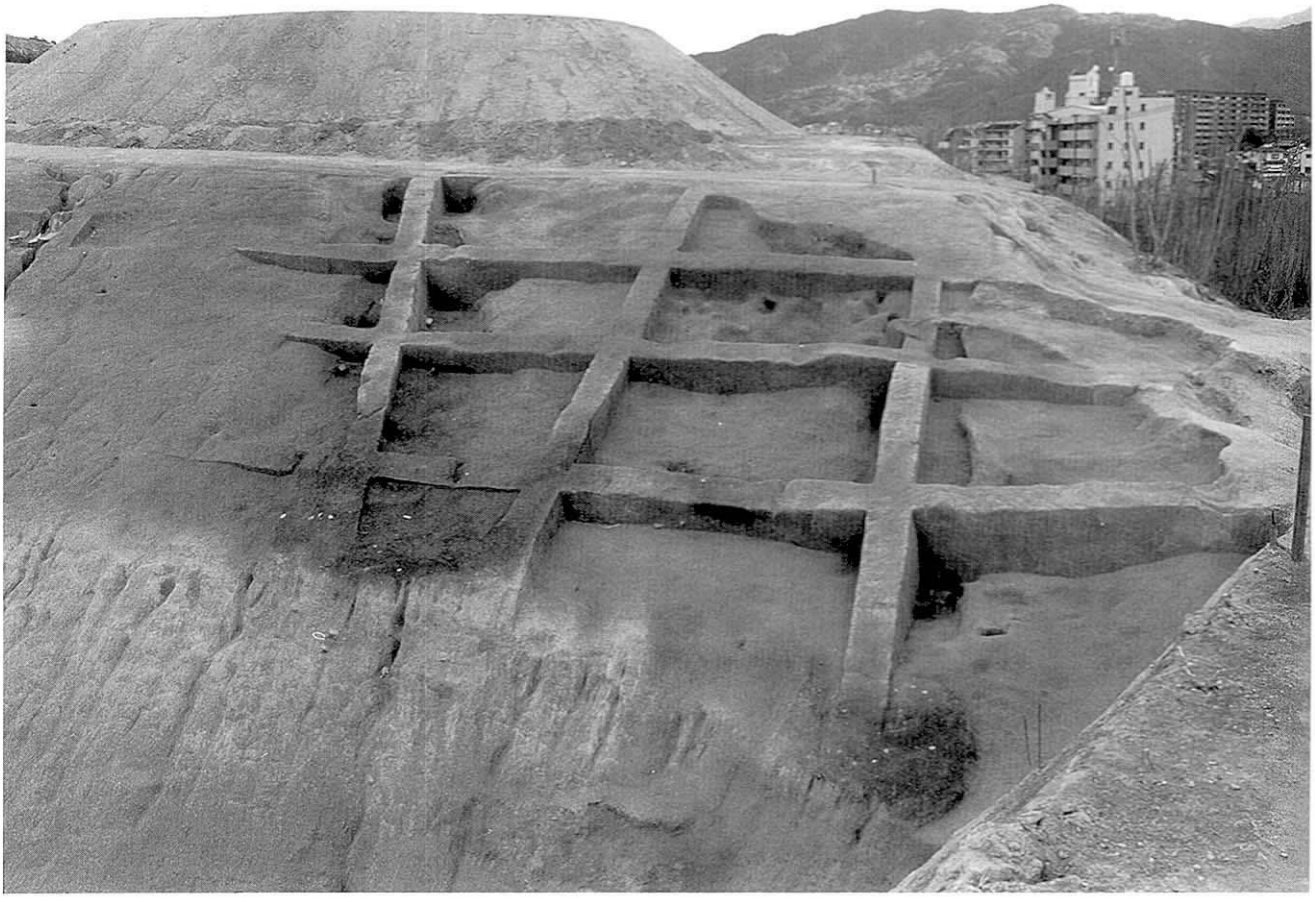
8号窯跡灰原縦断面土層（南東から）



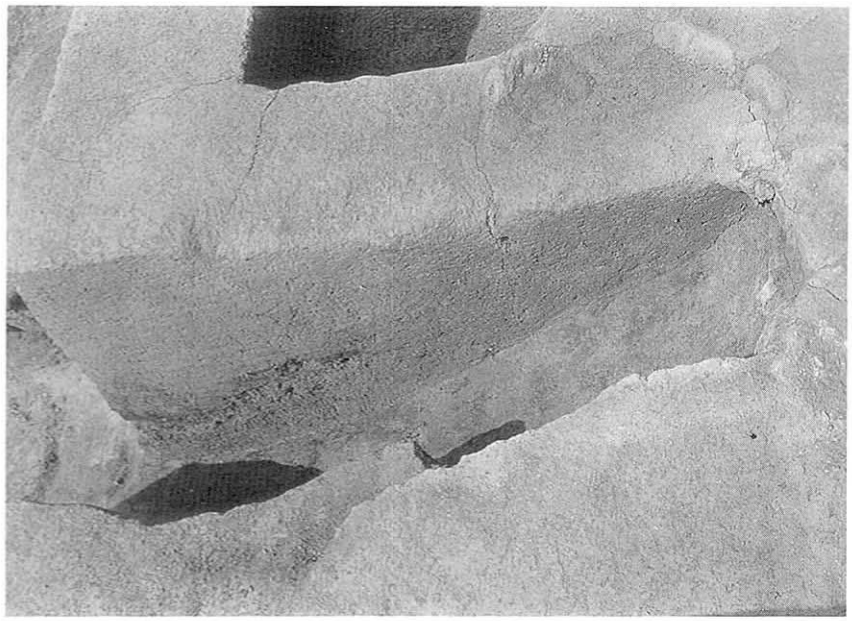
8号窯跡灰原横断面土層①（南西から）



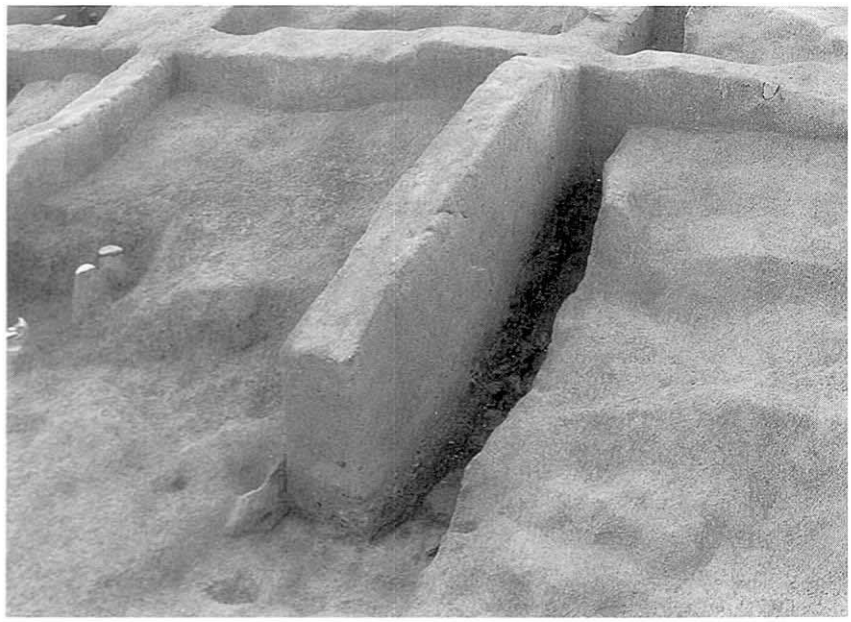
8号窯跡灰原横断面土層②（南西から）



8・9号窯跡検出状況（南西から）



9号窯跡焼成部～煙道部土層（南東から）



9号窯跡焚口～焼成部土層（南西から）



9号窯跡焚口部縦断面土層（南東から）



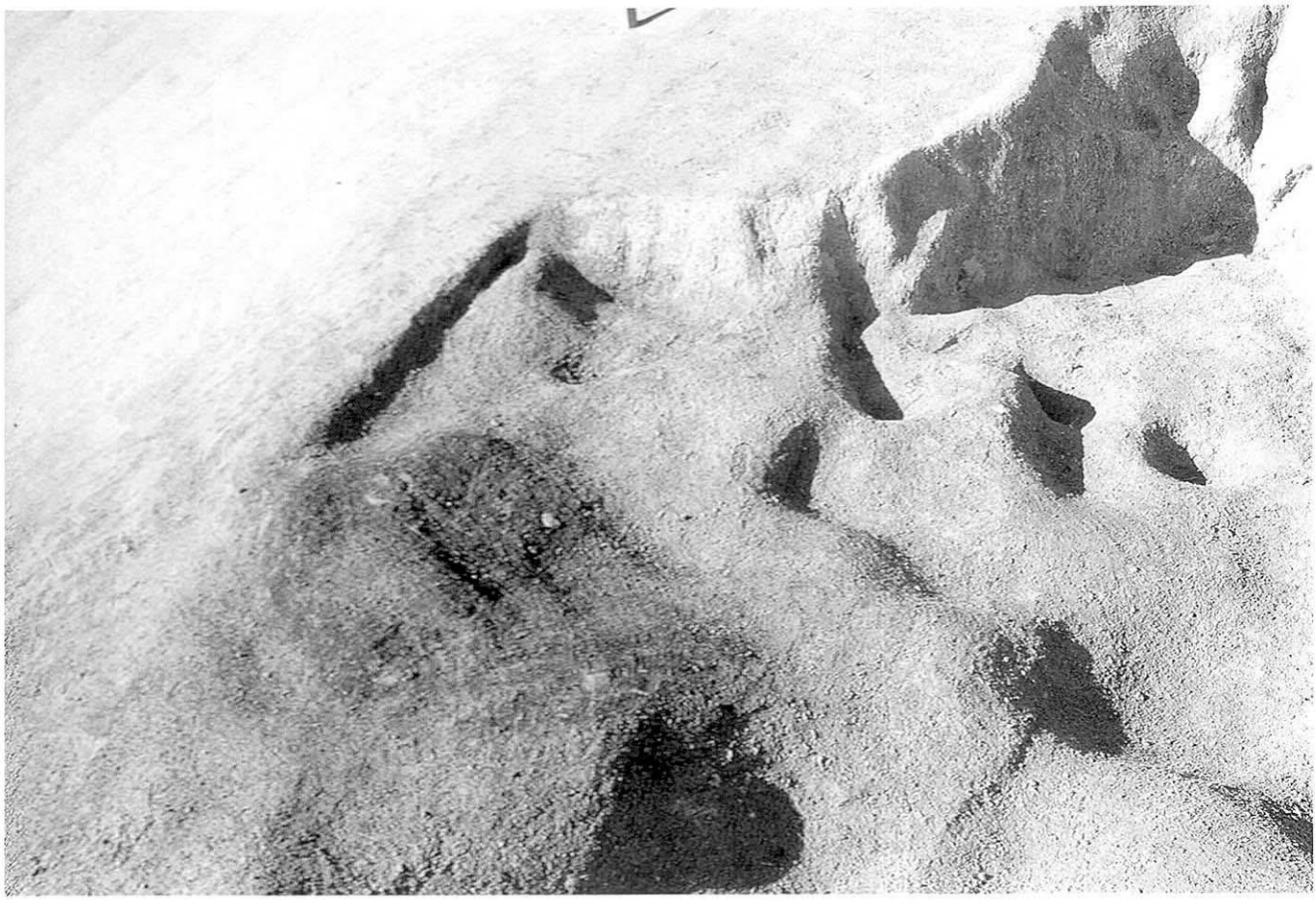
9 号窯跡横断面土層（南西から）



9 号窯跡焚口部横断面土層（南西から）



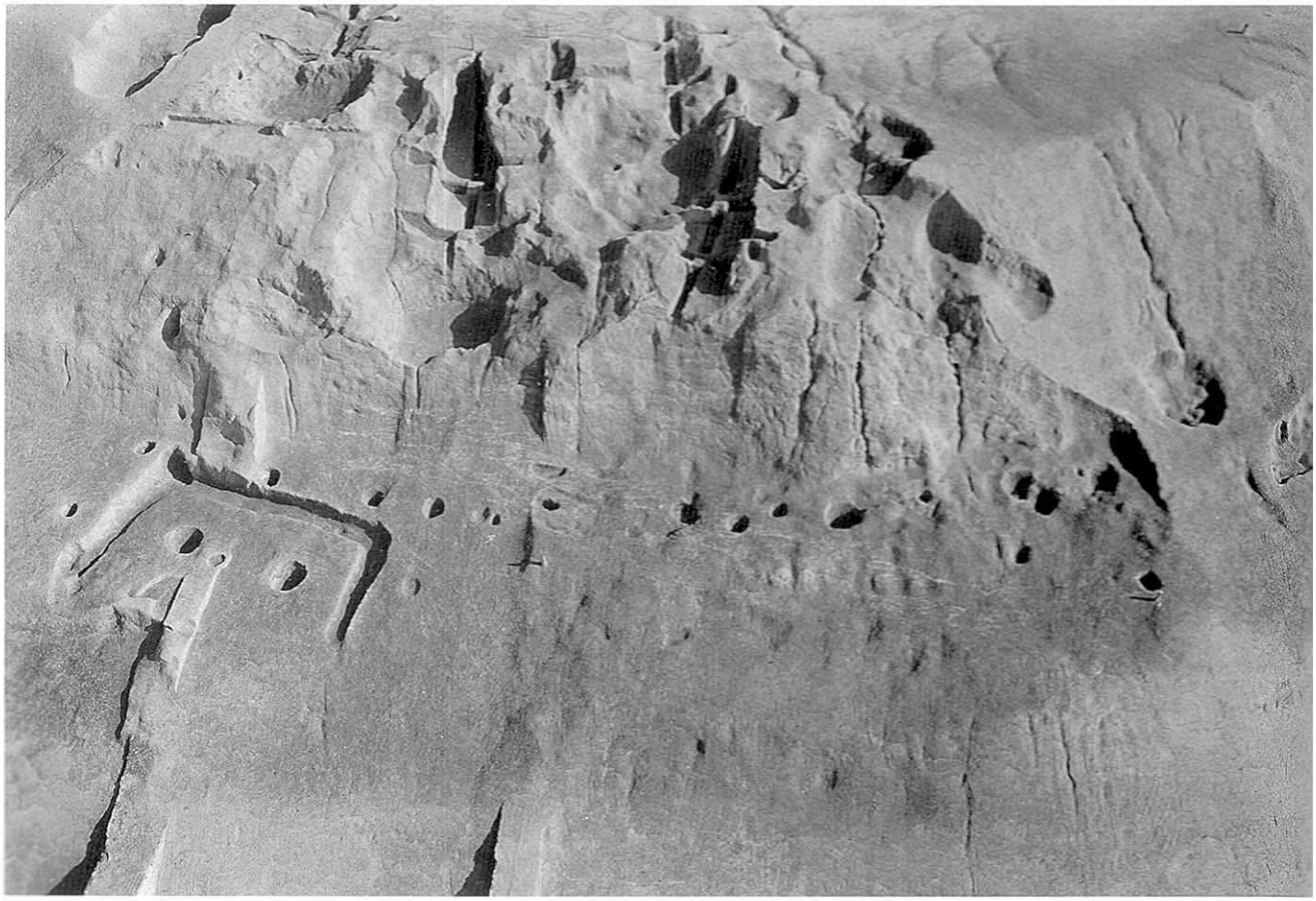
ＳＸ19全景（南西から）



ＳＸ19カマド（東から）



ＳＸ19Ａ－Ａ′面土層（西から）



ＳＸ20周辺全景（南西から）



ＳＸ20全景（南から）



ＳＸ20カマド（南東から）



ＳＸ20遺物出土状況（南西から）



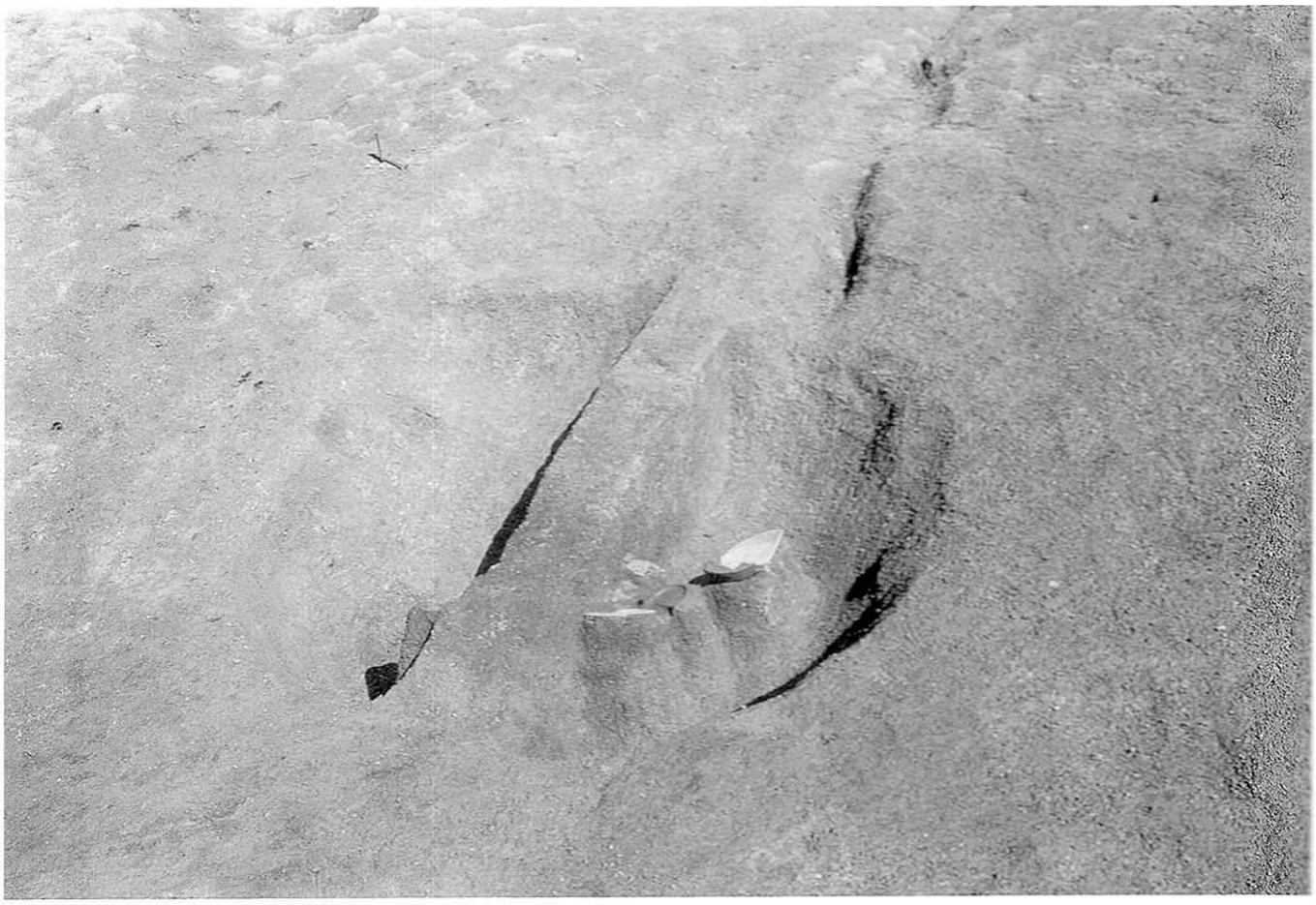
ＳＸ20Ｂ－Ｂ′面土層（南東から）



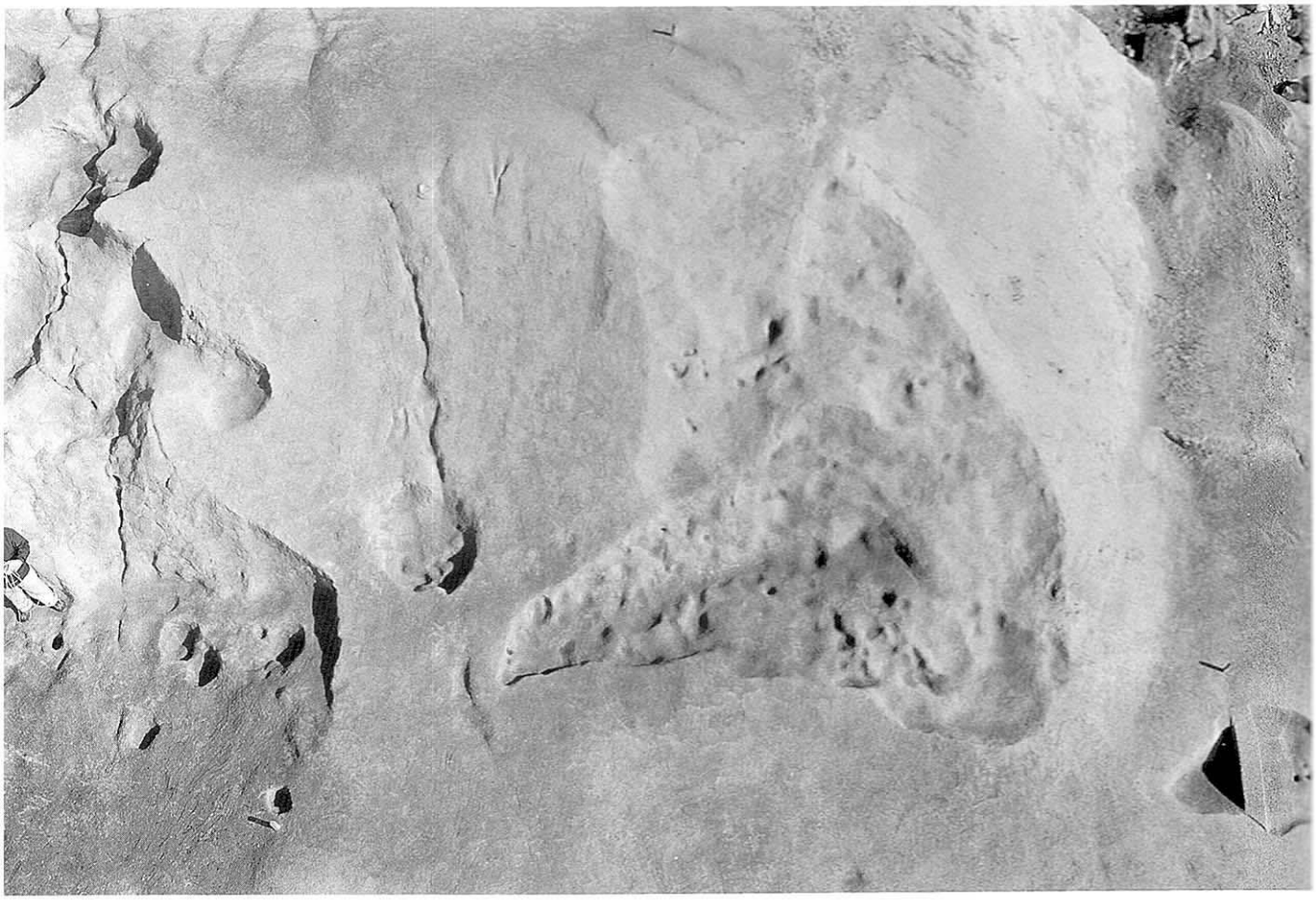
ＳＸ24遺物出土状況（南東から）



ＳＸ25全景（南東から）



ＳＸ25遺物出土状況（南から）



ＳＸ26全景（南西から）



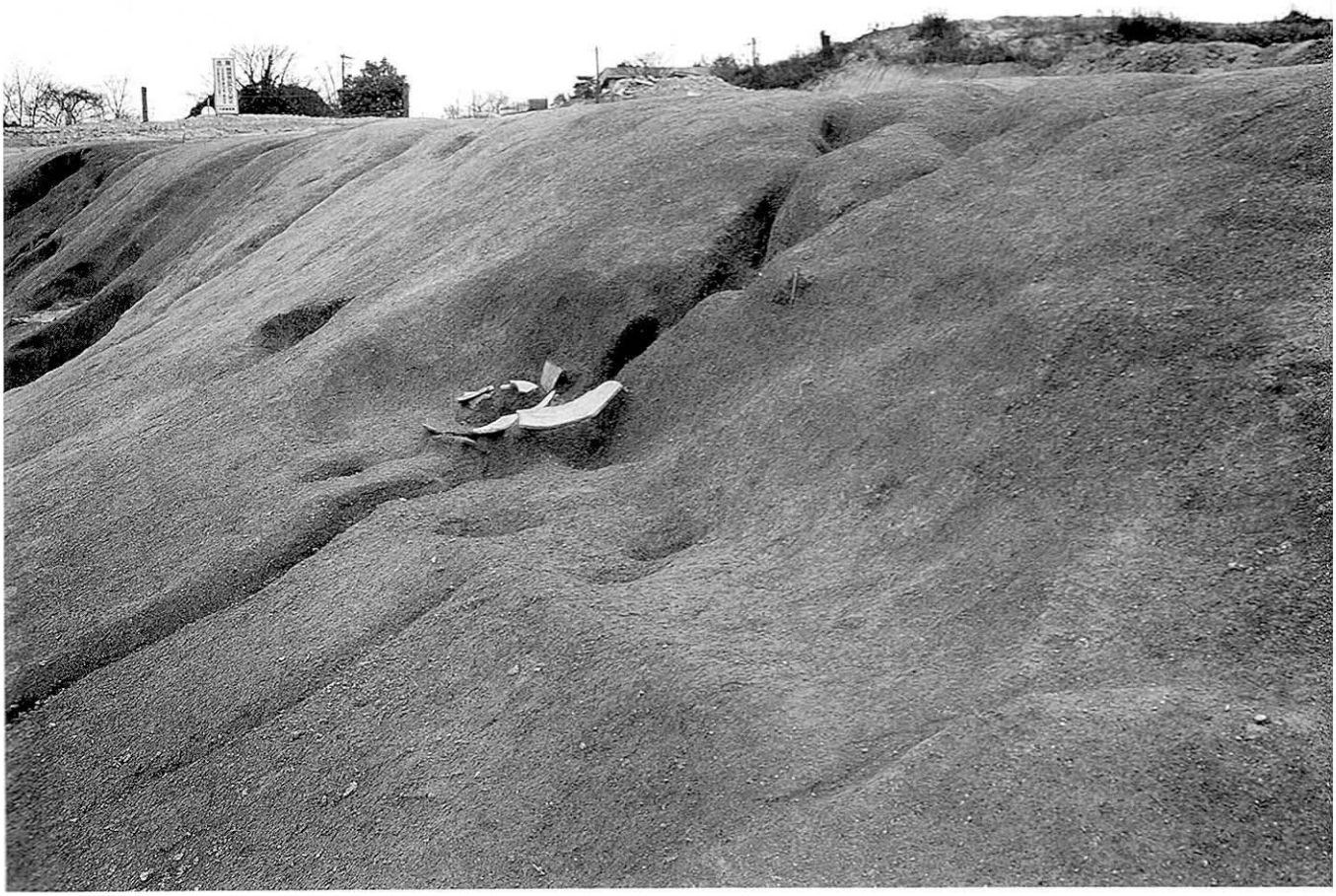
ＳＸ26全景（南東から）



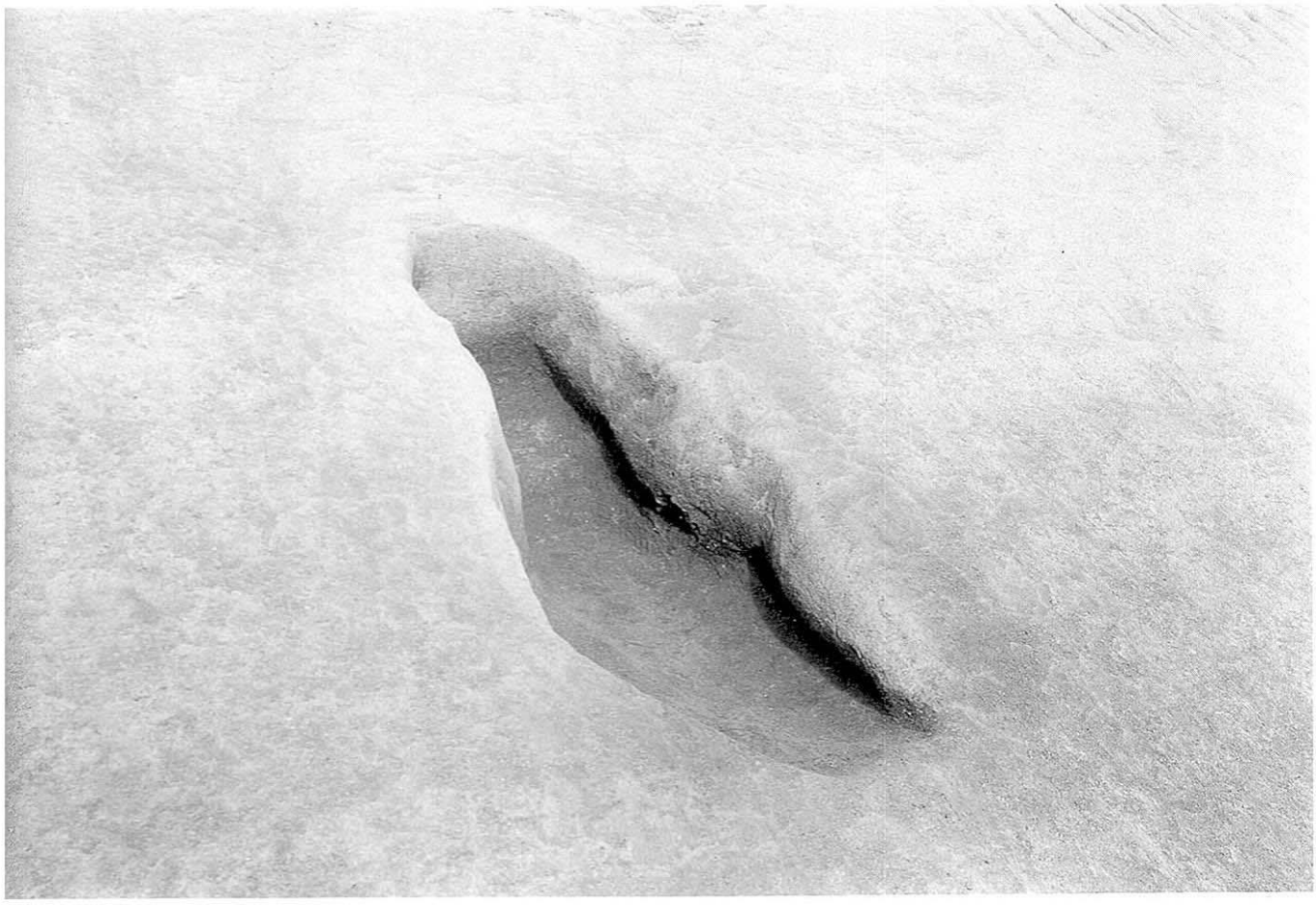
ＳＸ26Ｃ－Ｃ′面土層（南東から）



ＳＸ29全景（南東から）



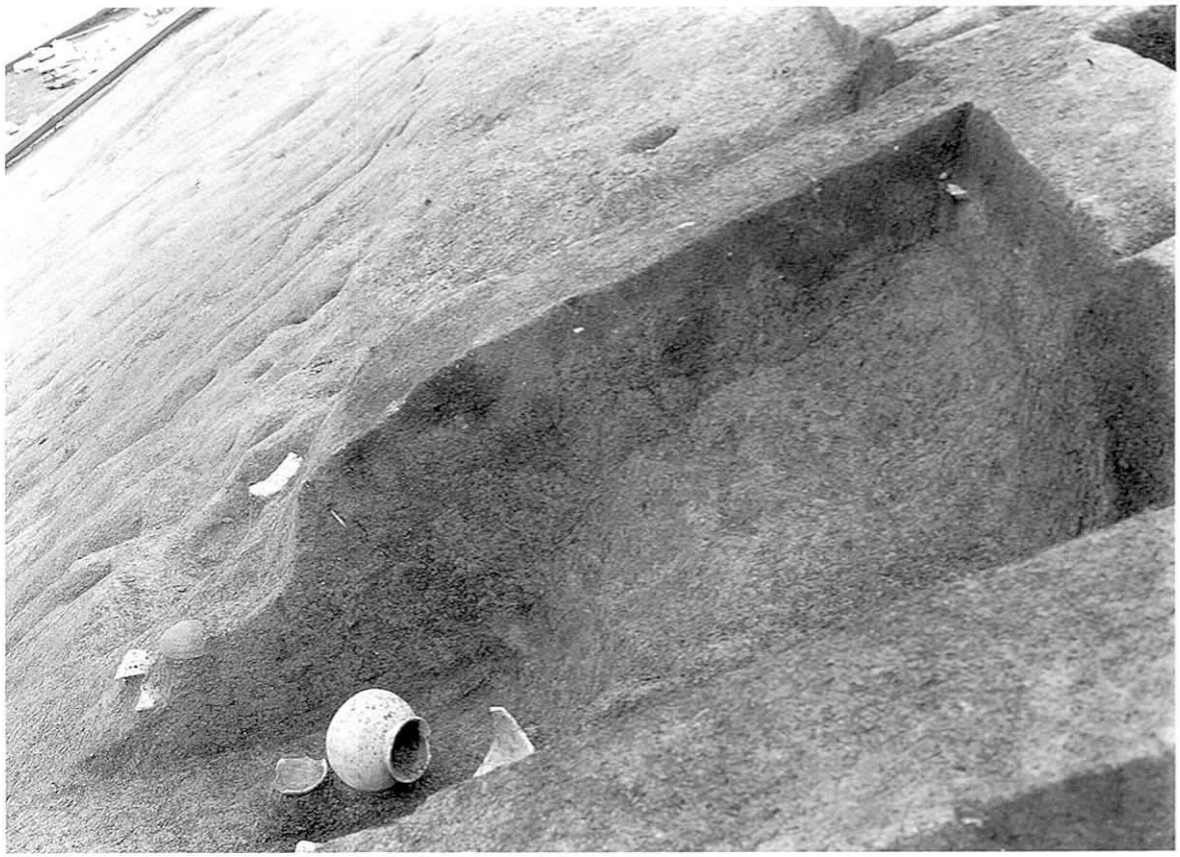
ＳＸ30全景（南東から）



ＳＸ34全景（南から）



ＳＸ35全景（南西から）



ＳＸ35土層①（南東から）



ＳＸ35土層②（南東から）



ＳＸ35遺物出土状況（南東から）



ＳＸ36全景（南東から）


001


003


004

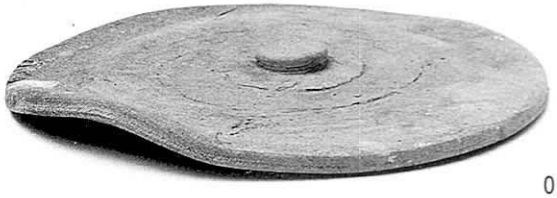

006


007


009


011


013


019


020


021


030



032



047



045



049



050



056



059



065



062



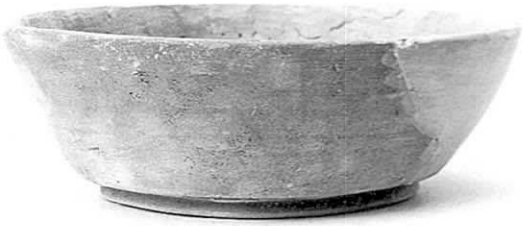
068



077



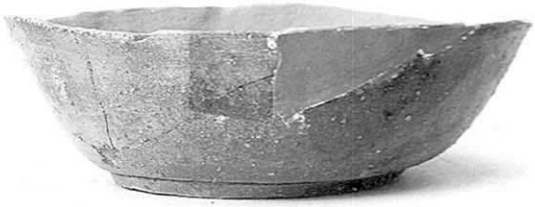
078



150



151



157



184



198



217



222



234



236



237



238



239



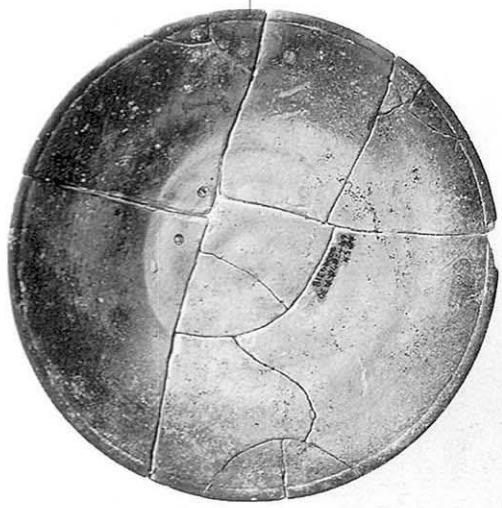
241



243



242



243



244



245



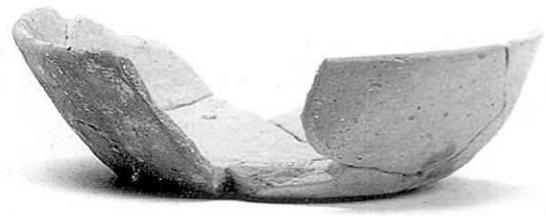
244



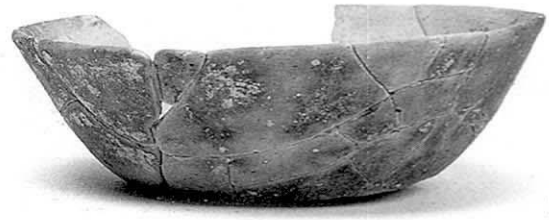
245



249

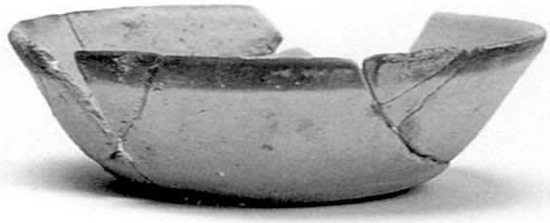

253

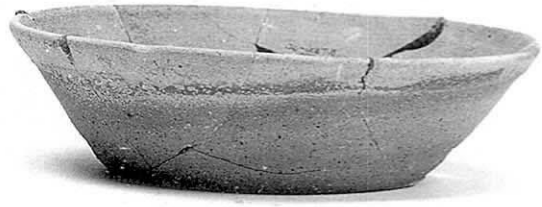

254


255

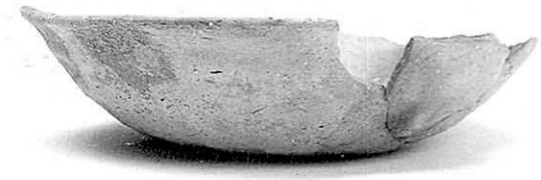

258


259


260

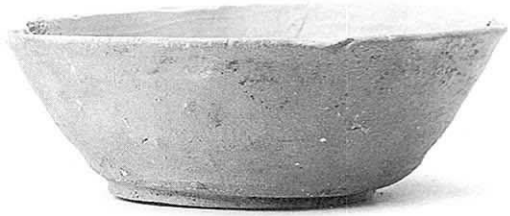

261


264


268


276


278


288


295



302



319



320



321



323



322



330



333



326



333



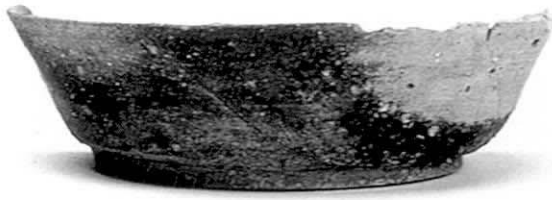
327



337



338



339



340



341



345



371



379



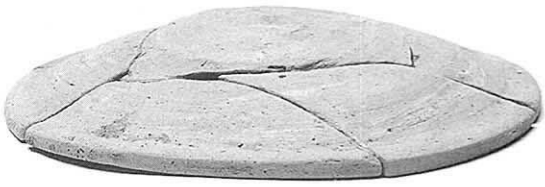
382



388



399



416



421



422



426



434



441



445



446



459



460



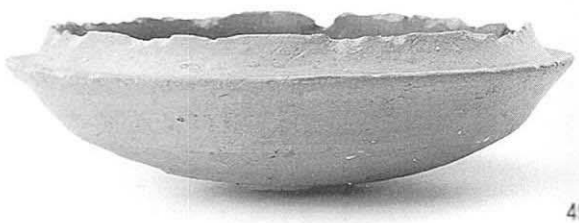
468



488



489



490



493



498



503



505



523



526



528



527


538


543


544

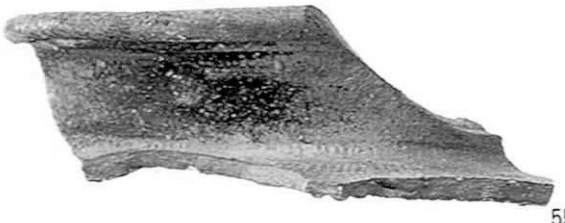

545


547


546


549


548


551


550


552


553


554


564


566

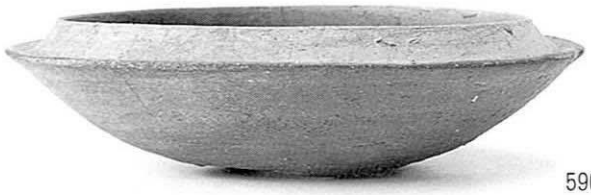

562


574


567


579


581



590



591



592



593



600



602



603



605



608



610



611



612



615



613



620



630



633



634



636



656



663


666


677


679


680


685


686


697


695

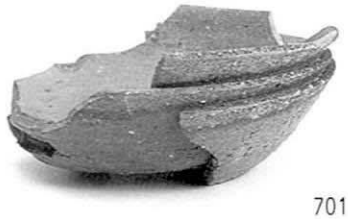

696


699


700


694


698


701


702



637



640



639



644



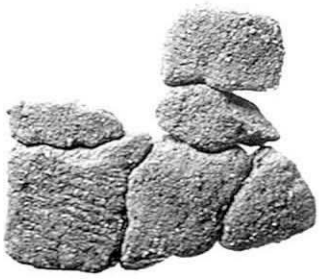
646



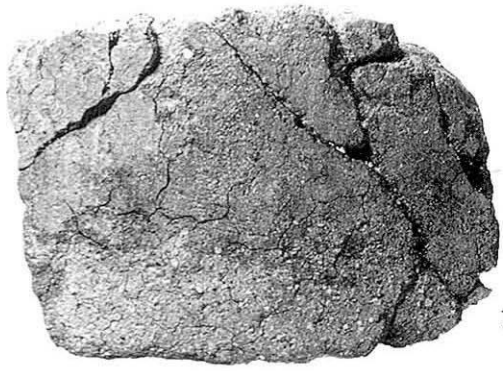
704

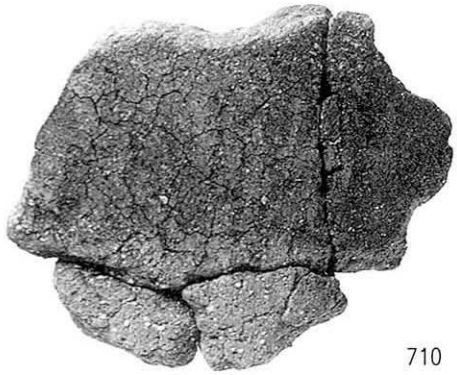


706


707

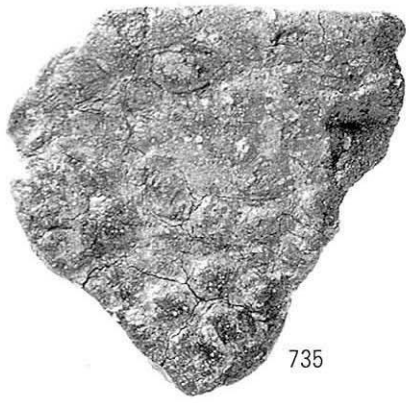

708


709


710


733


734


735


736

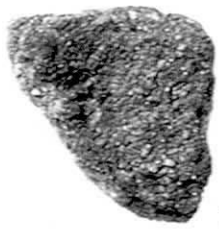

713


714

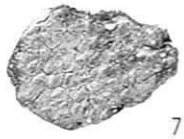

715

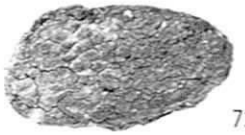

716


717


722


718


719


720


721


713


714


715


716


717

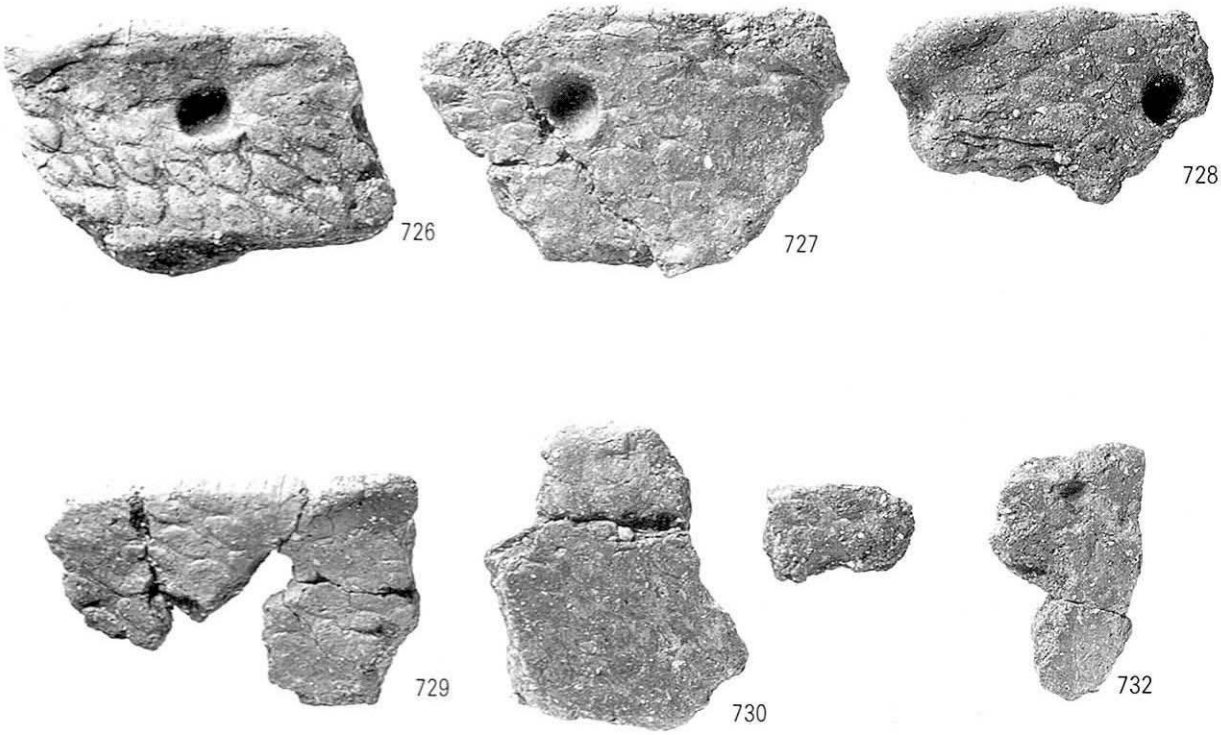

722

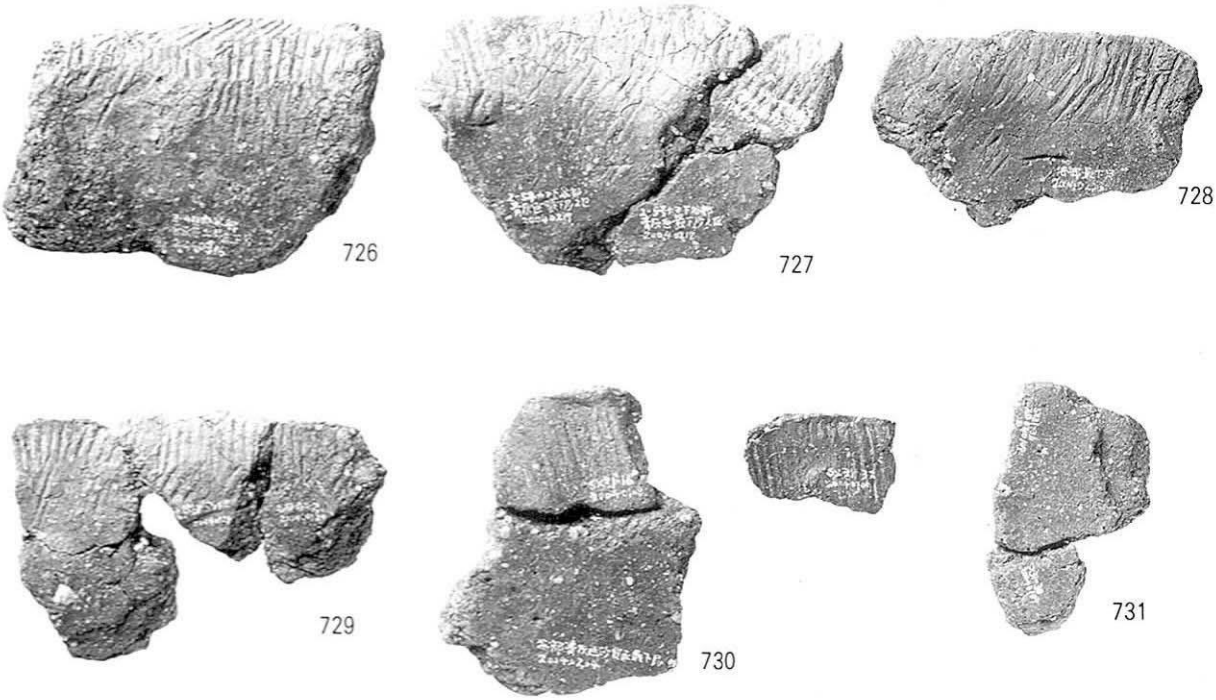

718

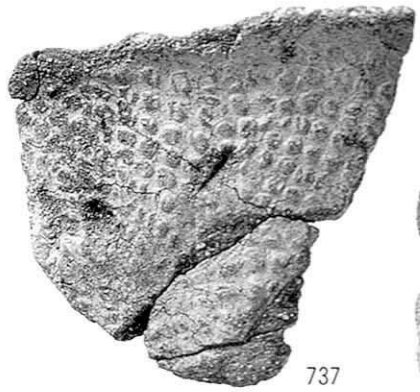

719


720


721


726
727
728
729
730
732


726
727
728
729
730
731


737


738


739


737


738

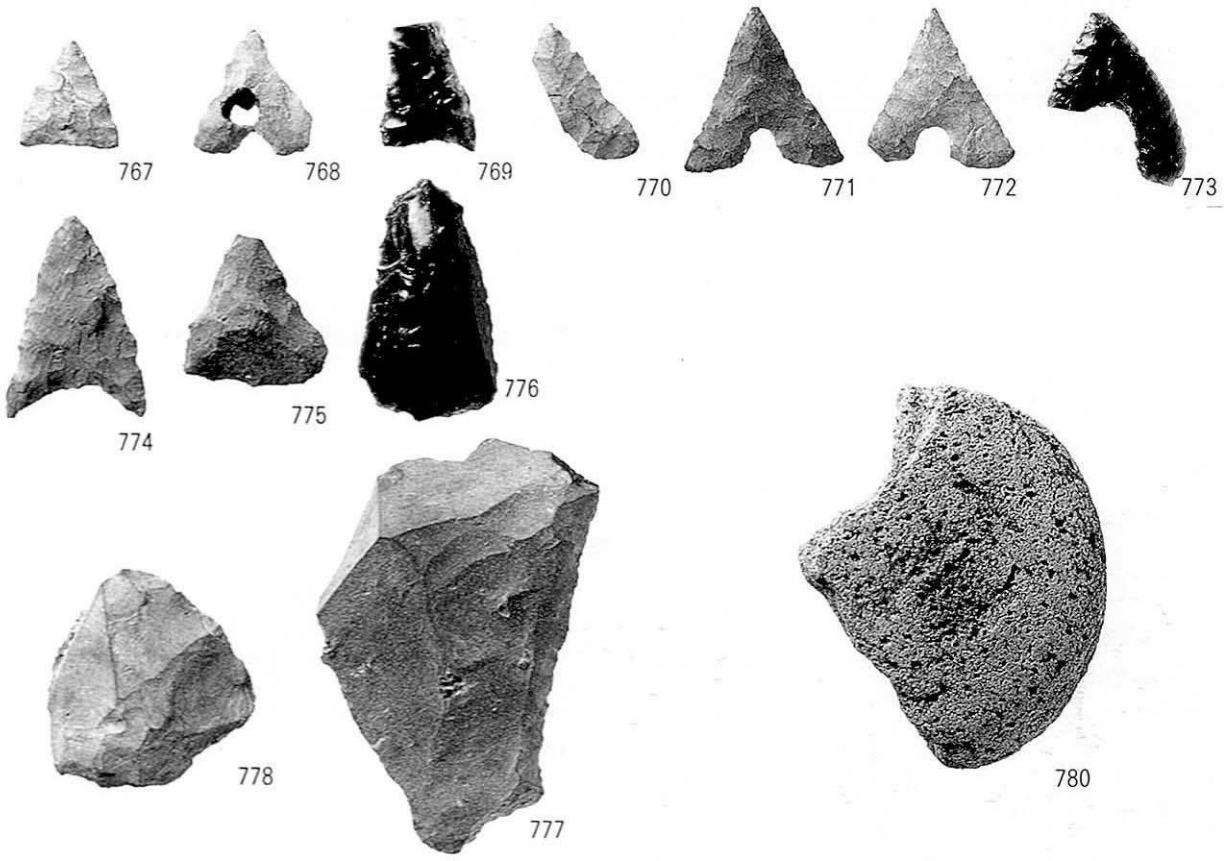

738


762


762


766


764





6号窯跡出土置台

報 告 書 抄 録

ふりがな	うしくびほんどういせきぐん
書名	牛頸本堂遺跡群Ⅲ～第５次調査（第２冊）～
副書名	上大利北土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	Ⅳ
シリーズ名	大野城市文化財調査報告書
シリーズ番号	第68集
編著者名	中村　浩・石木　秀啓
編集機関	大野城市教育委員会
所在地	〒816－8510　福岡県大野城市曙町２丁目２番１号　☎092(501)2211
発行年月日	2005年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
本堂遺跡 第５次調査	福岡県 大野城市 上大利			33°30′35″	130°29′00″	2003.7.10 ～ 2004.3.31	15000㎡	区画整理

所収遺跡名	種名	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
本堂遺跡 第５次調査	窯跡 集落	縄文・古墳・奈良	窯跡　10基 竪穴住居跡８軒 土拡　14基 焼土拡　１基	須恵器 土師器 縄文土器　石鏃 紡錘車　瓦塔	

大野城市文化財調査報告書
第68集

平成17年3月

発　行　　大野城市教育委員会
福岡県大野城市曙町2丁目2番1号

印　刷　　サンキ印刷株式会社